鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（54）

国道10号姶良バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

NAKA HARA

中 原 遺 跡

姶良郡姶良町脇元

― 第２分冊 ―

２００３年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

第２分冊　目次

第Ⅲ章　発掘調査の概要
　第３節　発掘調査の成果
　　２　縄文時代後期の調査
　　⑵　遺物　　③石器 …… 1
　　３　弥生・古墳時代の調査 ……103
　　４　古代～近世の調査 ……108
　　５　遺跡の残存状況 ……161

挿図目次

第１～84図　石器（１）～（84） ……7～90
第85図　古墳時代の遺構配置図 ……104
第86図　溝状遺構（古墳時代） ……105
第87図　弥生時代の土器 ……106
第88図　弥生～古墳時代の土器 ……107
第89，90図　古代～近世の遺構配置図（１），（２） ……111，112
第91図　土坑 ……113
第92図　柱穴状ピット群 ……114
第93図　道跡１～６および溝状遺構２～４ ……115
第94図　道跡７ ……116
第95図　大型道路遺構 ……117
第96図　溝状遺構１，２ ……118
第97図　畠跡 ……119
第98図　石組遺構 ……120
第99～101図　遺構内出土遺物（１）～（３） ……122～124
第102図　土師器……125
第103，104図　須恵器（１），（２） ……129，130
第105図　羽釜形土器……131
第106～115図　陶磁器（１）～（10）……139～148
第116～118図　土錘（１）～（３）……150～152
第119図　鞴の羽口……153
第120図　円盤形加工品……154
第121図　動物形土製品……155
第122図　石塔……157
第123図　紡錘車ほか・銭貨……158
第124図　青銅製品ほか……159
第125図　鉄製品……160
第126図　遺跡の残存状況図……161

表目次

第１～12表　出土遺物観察表（１）～（12）：縄文時代後期石器 ……91～102
第13～31表　出土遺物観察表（13）～（31）：弥生時代～近世の遺物……162～172

③石器（第１～84図　1441～1975）

ａ．石鏃（第１図　1441～1448）

石鏃は，第Ⅷ層の石器と同様に先端部・側辺部・基部の形状で分類した。16点出土しているが，うち８点を図示した。石材は1442・1446・1448が黒曜石で，1441・1445・1447はメノウ，1443・1444は頁岩である。16点全体では，黒曜石が５点，メノウが７点，頁岩が４点である。1442・1446・1448は抉りが浅く，ずんぐりした形状である。1447は長身で，薄い剥片を利用し，片面の二次加工は側縁と基部に僅かに施されただけである。1443は脚部の幅が広く正三角形に近い形状である。1444は基部と先端部の間に角張った部分があり，五角形状を呈している。

ｂ．スクレイパー（第１図　1449～1451）

スクレイパーは３点出土している。1449・1451はメノウ製，1450は黒曜石製である。３点ともに片面のみに主な加工を施している。

ｃ．打製石斧（第２，３図　1452～1456）

打製石斧は５点出土し，全てを図化した。５点共に扁平な安山岩製である。1452～1454・1456は刃部のみ，1455は基部のみで全て欠損している。刃部のある４点は使用による摩滅部分が観察できる。1452は５点のうちで最も残りがよく完形に近いものと考えられる。1453は側縁部の二次加工が少なく，長方形の形状を呈している。1454は刃部のみであるが，使用による摩滅が顕著にみられる。1456は基部の片方に抉りを入れるように調整している。

ｄ．磨製石斧（第４～９図　1457～1476）

磨製石斧は欠損品まで合わせて52点出土している。このうち20点を図化した。全体の形状と刃部の形状により以下のように分類した。

◎全体の形状

Ａ．乳房状　　Ｂ．先端凸・断面隅丸方形　　Ｃ．定角形　　Ｄ．片刃

◎刃部の形状

ａ．円刃　　ｂ．直刃　　ｃ．偏刃

Ａ９点・Ｂ２点・Ｃ23点・Ｄ３点で，小片のため分類不可能なものが15点あった。18～24は頁岩製である。1457は完形品で，基部付近に敲打痕がみられる。1458は基部付近で切断されている。刃部付近のみに研磨痕が観察でき，全体に敲打痕が残っている。全体を敲打後，刃部のみ研磨したものと考えられる。また刃部には使用痕と考えられる潰れがみられる。1459も1458と同様に全体に敲打痕が残り，刃部のみ研磨している。また刃部の潰れが著しい。1460は敲打されたように磨り減っている。1461は研磨痕があまり残らず，刃部の潰れは若干みられる程度である。1462は側辺部に敲打痕がみられ，中央部はかなり研磨されている。刃部の潰れが著しく，潰れ方に偏りがみられる。1463は側辺部に敲打痕が残るが，基部側にも敲打痕が残っている。基部側の敲打痕は使用時によるものだと考えられる。また刃部は使用による剥離が著しい。1464は蛇紋岩製の小型の磨製石斧で，全体に光沢があり，研磨痕が観察できる。基部は破損し，刃部は数か所の剥離痕がみられる。1465は安山岩製で，中央部付近で切断されている。側辺部及び基部に敲打痕があり，切断面にも観察で

きる。1466は完形で砂岩製である。全体的によく研磨されている。1467は小型の磨製石斧で，刃部付近の擦痕が著しい。1468は粘板岩製の磨製石斧で，風化が進行しており，細かい調整や痕跡等は観察できない。1469は小型の磨製石斧で，刃部は剥離が著しい。基部付近は抉りを入れるように調整が施されている。1470は剥離が激しく，研磨痕が残っているのは刃部付近の一部のみである。1471は敲打痕が著しい。特に刃部の敲打は激しく，敲石として転用されたことも考えられる。1472は頁岩製で刃部の一部が欠損しているが，全体的によく研磨されている。1473は基部付近で切断されているが，切断面と刃部に敲打痕が観察できる。敲石としての転用が考えられる。1474は基部及び刃部の一部が欠損しているが，刃部付近はよく研磨されている。1475は刃部の潰れが観察できる。基部付近で切断されているようであるが，角を打ち欠いて調整している。また表側ほぼ中央部分に敲打痕がみられる。切断された後，再度使用したのではないかと考えられる。1476は全体に研磨痕が観察できる。刃部は曲線的で一部に剥離がみられる。

ｅ．小型磨製石器（第９図　1477）

小型の磨製石器が２点出土しているが，１点は小破片のため１点のみを図化した。1477は側辺部が研磨され，小型の磨製石斧の未製品とも考えられるが，刃部形成がなされておらず，用途は不明である。

ｆ．擦切石器（第10図　1478～1485）

1478～1485は擦切石器である。石材はすべて砂岩製である。1485のみが完形でほかは破片で，部分的に擦痕が残るものがあるが，擦痕等の使用痕が残るものは少ない。1485は横方向に擦痕が観察できる。

ｇ．石錘（第11～23図　1486～1565）

石錘は102点出土し，80点を図化した。扁平な小型の礫を打ち欠いただけの単純なもので，打ち欠き部分の数で以下のように細分した。

Ａ～１か所　　Ｂ～２か所　　Ｃ～３か所　　Ｄ～４か所

1486～1511はＡタイプ，1512～1546・1549はＢタイプ，1553・1555・1564はＣタイプ，1547・1548・1550～1552・1554・1556～1563・1565はＤタイプである。

Ａタイプは打ち欠いた箇所が１か所しか観察できないものであるが，対になる部分（反対側）には自然による窪みが認められる。また1506～1511は，剥離の反対側は自然によるものと考えられる切断が認められる。これらの遺物は，１か所しか剥離が認められないが，これらのことから石錘に分類した。

Ｂタイプは２か所の打ち欠きが確認できるものである。対になる部分に剥離が認められる。扁平礫を縦にし，その両端を打ち欠いたものが多くみられる。1517・1532・1535・1536は扁平礫を横にし，その上下を打ち欠いたもので，そのほかは全て扁平礫を縦に使用したものである。

Ｃタイプ・Ｄタイプは，打ち欠きの違いはあるがほぼ同様の特徴をもっているものである。

これらの石錘は，全てにおいて打ち欠きの数が少なく，１か所に認められる剥離痕は１～４回分である。1519はほかのものと違い，２か所の打ち欠きの箇所を削りだしている。1536は厚みのある

細長の礫を使用している。

ｈ．剥片石器（第24～28図　1566～1616）

1566～1616は，薄手の縦長剥片を利用した石器で，大量に出土したが，52点を図化した。硬質の砂岩を素材とした剥片で，そのほとんどが側縁部に使用痕が観察できる。

ｉ．砥石状石器（第29図　1617～1623）

1617～1623は砥石状石器である。1617は破片であるが，明確な擦痕が確認でき，表面は使用による摩滅のため曲線的に窪んでいる。シルト岩質の砥石である。1618～1623は砂岩製で，1618・1619・1621は擦痕が確認できるが，ほかは中央が曲線的に窪み，摩耗が確認できる程度である。形状は長方形のものが多く，扁平な礫を使用している。

ｊ．磨石（第30～46図　1624～1725）

磨石は形状と石材により以下の８つに分類した。

Ａ～定型的。円形または楕円形で，断面形が楕円形若しくは隅丸方形
Ｂ～断面形が肉厚
Ｃ～小型
Ｄ～平面形または断面形が三角形状
Ｅ～平面形または断面形が四角形状
Ｆ～不定形
Ｇ～素材が球果岩（球果岩の項で図化）
Ｈ～球状

1624～1671はＡタイプ，1672～1676はＢタイプ，1677～1695はＤタイプ，1696～1698はＥタイプ，1699～1706はＦタイプ，1707～1720はＨタイプ，1721～1725はＣタイプである。

Ａタイプの磨石は，典型的な磨石で，使用痕が著しいものが多く，使用頻度が高かったものと考えられる。側辺部の敲打痕が著しいものに，1627・1628・1632・1639・1645・1646・1648・1651・1657・1659・1662・1663・1666・1668がある。使用頻度が高かったためか破損品も多い。また，表面または裏面の一部に著しい摩滅痕がみられ，闊達の進んだものがある。1626・1636・1640・1641・1642・1647～1649・1651・1663・1665・1666・1669・1671のスクリーントーン部分がそれにあたる。

Ｂタイプの磨石は５点を図化しているが，平面形が円形のものと楕円形のものがあり，大きさにもはらつきがある。

Ｄタイプの磨石は，平面形が円形に近いものと菱形に近いものがある。1678・1679・1684～1687・1693～1695は裏面の摩滅が著しく，若干内湾している。平面形が菱形のものに多く，通常の磨石とは違う用途も考えられる。

Ｅタイプは３点であるが，1698は裏面に擦痕がみられる。

Ｆタイプは不定形なものであるが，大きさにかなりのばらつきがある。1703は中央部が若干窪んでいる。1704～1706は敲打痕が観察できる。特に1706の敲打痕は著しい。

Ｈタイプにはかり使用頻度が高かったものがある。1707・1708は敲打により破損したものと考え

られる。1707はほぼ球状で，特に敲打痕が著しい。大きさは小型ものが多い。

Ｃタイプは小型のものであるが摩耗が進んでいるものが多い。ほかの磨石とは用途に違いのある可能性が考えられる。

ｋ．扁平磨石（第47～59図　1726～1834）

1726～1834は扁平な礫を利用した磨石に分類した。断面形が薄く，側面に敲打痕のあるものや剥離がみられるものもある。平面形は円形・楕円形・方形のものもあるが，不定形なものが多く，一定していない。断面が若干内湾するものもある。石材はほとんどが安山岩である。形状，磨面・敲打の有無，面の凹凸の３点から以下のように細分した。

◎形状

Ⅰ～円・楕円　　Ⅱ～方形　　Ⅲ～不定形　　Ⅳ～断面三角形　　Ⅴ～大型

◎磨面・敲打の有無

Ａ～磨面のみ　　Ｂ～磨面＋敲打　　Ｃ～磨面＋敲打（打ち欠き）　　Ｄ～磨面＋敲打＋凹面

◎面の凹凸

ａ～両面平面　　ｂ～平坦＋凹面　　ｃ～両面凹面　　ｄ～凹面＋凸面

ｅ～両面凸面　　ｆ～平面＋凸面

1726～1739はⅠタイプ，1740～1754はⅡタイプ，1755～1787・1794・1796・1798～1815・1818～1834はⅢタイプ，1797・1816・1817・1819はⅣタイプ，1788～1793はⅤタイプである。

Ⅰタイプのものは，磨面が明確で，敲打痕や剥離が残るものがある。1732・1734は中央部および側縁部に敲打痕が明確に観察できる。

Ⅱタイプのものは，両面または片面が内湾しているものが多い。1749・1752は片面の内湾が大きい。磨石と分類しているが，ほかの使用目的も考えられる。

Ⅲタイプのものは不定形なグループであるが，1768・1771・1778・1779など敲打痕の明確なものもある。

Ⅳタイプは少ないが，いずれも三面に磨面が認められるという特徴を有している。

Ⅴタイプの大型のものも出土数は少なく，内湾している状況や磨面などほかのものとほぼ同じ形状を呈している。

ｌ．凹石（第60，61図　1835～1848）

1835～1848は凹石である。大きさや形状は様々で，ほとんどが中央部に窪みが観察できる資料である。1836・1843は両面に窪みがあり，比較的扁平な礫である。1841・1845・1838・1842は表面中央に敲打痕状の窪みがある。1838は側辺部にも著しい敲打痕がある。1844・1846・1848は大型で，1844・1846は扁平な礫を使用し，表裏両面に凹面を有している。1848は平面形が不定形な形状であるが，縦断面形は長方形の形状をなしている。また表裏両面に凹部を有している。

ｍ．敲石（第62，64図　1849～1864）

1849～1864は敲石である。1849～1860は棒状の礫を使用している。1849は頁岩製で，断面が三角形状である。片面に磨面が観察できる。棒状の両先端部に敲打痕が確認できるため敲石として取り

扱った。1850は1849と同様に断面形が三角形状をなす。1851は断面形がほぼ円形で，全体を調整してあり，両先端部に著しい敲打痕が確認できる。平面形が湾曲しており，握りやすい適当な大きさである。1852は断面形が三角形状で，２か所の側辺部に敲打痕が確認できる。三面それぞれに磨面が確認できるが，形状や敲打痕から敲石に分類した。1853は断面形が楕円形状で，全体に敲打痕が残る。風化が激しいため明確な使用痕は確認できない。1854は断面形が変形した長方形状で，２か所に敲打痕が確認でき，片面に磨面が確認できる。1855は断面形が三角形状である。1856は断面形がやや扁平に近い楕円形状で破損しているが，先端部に敲打痕がみられる。1857は断面形が長方形状で，安山岩の扁平な礫を使用している。先端部のみに明確な剥離痕が確認できる。1858は楕円形の先端部に明確な剥離痕がみられ，片面に磨面も観察できる。1859は断面が三角形状で，先端部の１か所に剥離痕がみられる。1860は不定形な礫であるが，先端部および表裏面に敲打痕が確認できる。1861は磨石状の礫であるが，磨面は確認できない。ただし，楕円形状の敲打痕が１か所確認できる。1862は不定形な礫であるが，側辺部の１か所に著しい敲打痕が確認できる。1863は小型の礫を使用している。側辺部および両先端部に敲打痕が確認できる。1864は不定形な礫を使用した敲石である。先端部の敲打痕が顕著である。

ｐ．礫器（第65，66図　1865～1872）

1865～1872は礫器として分類した。全て扁平な礫を使用しているが，1866のみ平面形が円形を呈し，ほかは不定形である。1866は側縁部の１か所に数回の剥離痕がみられる。1868・1870は上下に剥離痕がみられる。大型であるがクサビとしての用途も考えられる。その他のものは左右に剥離痕が観察できる。いずれも使用のための剥離と考えられる。大きさとしては，比較的大型の礫が多い。

ｑ．石皿（第67～72図　1873～1895）

1873～1895は石皿である。中央部が著しく磨り減ったものは少なく，1885～1887は中央部の窪みが明確なものである。ほかのものは表面の摩滅が発達したものが多く，湾曲が緩やかである。形状としては不定形のものが多く，大型のものが多い。出土地点はほとんどがＡ地点の低地部で，自然礫と混在して発見されたものである。

ｒ．石製品（第73図　1896～1898）

1896は頁岩製の垂飾品である。1897・1998は石製品として分類した。形状や加工痕によって明確な石器に分類できなかったものである。1897・1898ともに１か所を削りだしており，突起部がみられる。

ｎ．軽石製加工品（第74～81図　1899～1952）

1899～1952は軽石製加工品である。形状により以下の５タイプに分類した。

Ａ～舟状　　Ｂ～線刻　　Ｃ～穿孔　　Ｄ～面取り　　Ｅ～円または楕円状

1899～1903はＡタイプである。大きさは様々であるが，中央部が抉られ舟状の形状を呈している。1900・1901は完形品で，1899もほぼ完全に近いものである。扁平楕円状に整形した後，片面を抉りだしている。1900はその後表面の凹凸を削り取り，丁寧な整形を施している。

1904～1908はＢタイプである。1906のみ三角形状で，ほかは楕円形状である。1904は長楕円形状

に粗い整形を施した後，縦方向に線刻が施されている。1905・1907は楕円形状に整形した後，面を整えている。その後斜め方向に線刻を施している。1906は７本の線刻によって形状を整えている。大きさや形状から垂飾品とも考えられる。1908は中央を巡るような抉りがあり，ほかの線刻に比べて加工部分が多い。石棒形を意識している可能性もあるが，加工部分が紐状のものを縛り付ける部分とも考えられる。軽石製品に分類したが，比較的重量があるため錘とも考えられる。

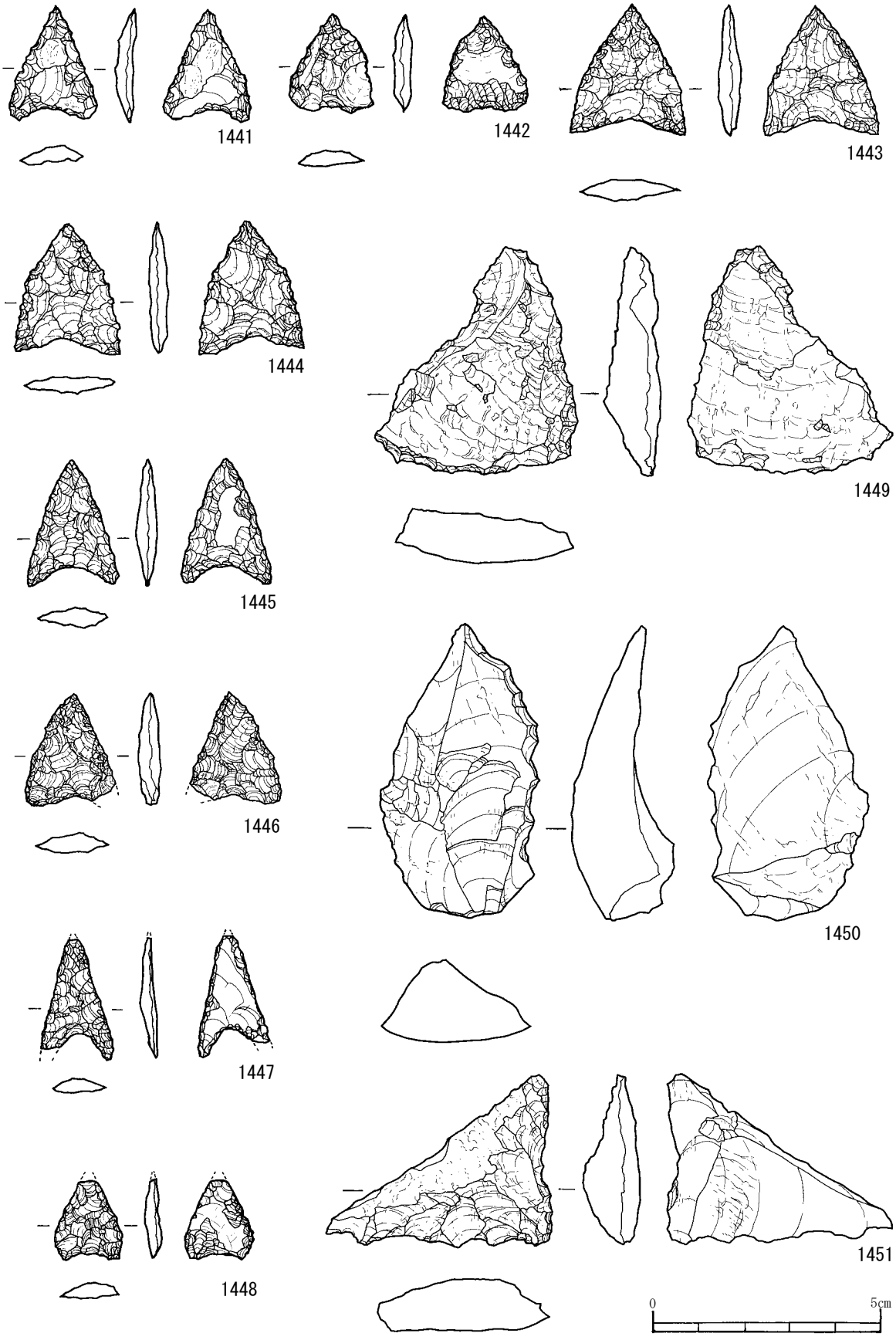
1909～1921はＣタイプである。1909・1910・1912～1914は貫通しているが，その他のものは未貫通である。1909は平面形が円形に近く整形した後，椀状に内部を抉り，底部に孔を穿っている。1910・1914は扁平円形の形状で，両面に平坦面を作り出している。中央部の孔は両方向から穿たれている。1912・1913は小型のもので，1912は破損しているため全体の形状はつかめないが丁寧な仕上げをしている。1913は楕円形の中央部よりやや外れた箇所に孔を穿っている。紐ずれが側縁方向に走っている。1911・1915・1916・1921は穿孔途中であるが，明確な窪みがみられる。1911・1915は両側から穿孔を施し，1916は片方だけの穿孔である。孔が貫通しているものと比較すると断面が厚く，形状も不定形である。穿孔した後，形を整えている可能性もある。1917・1918～1920は凹石状の敲打による窪みである。平面形はほとんどが円形および楕円形である。

1922～1946はＤタイプである。形状・大きさは様々であるが，１面～数面に擦痕がみられ，湾曲ないし直線状を呈している。球状に膨らんだものを研磨することによって生じた研磨痕とも考えられる。1922・1926は１辺が内湾し，ほかのものは１辺または数辺が直線状である。1930・1931は小型であるが，平坦面を形成し，平面形も意識的である。

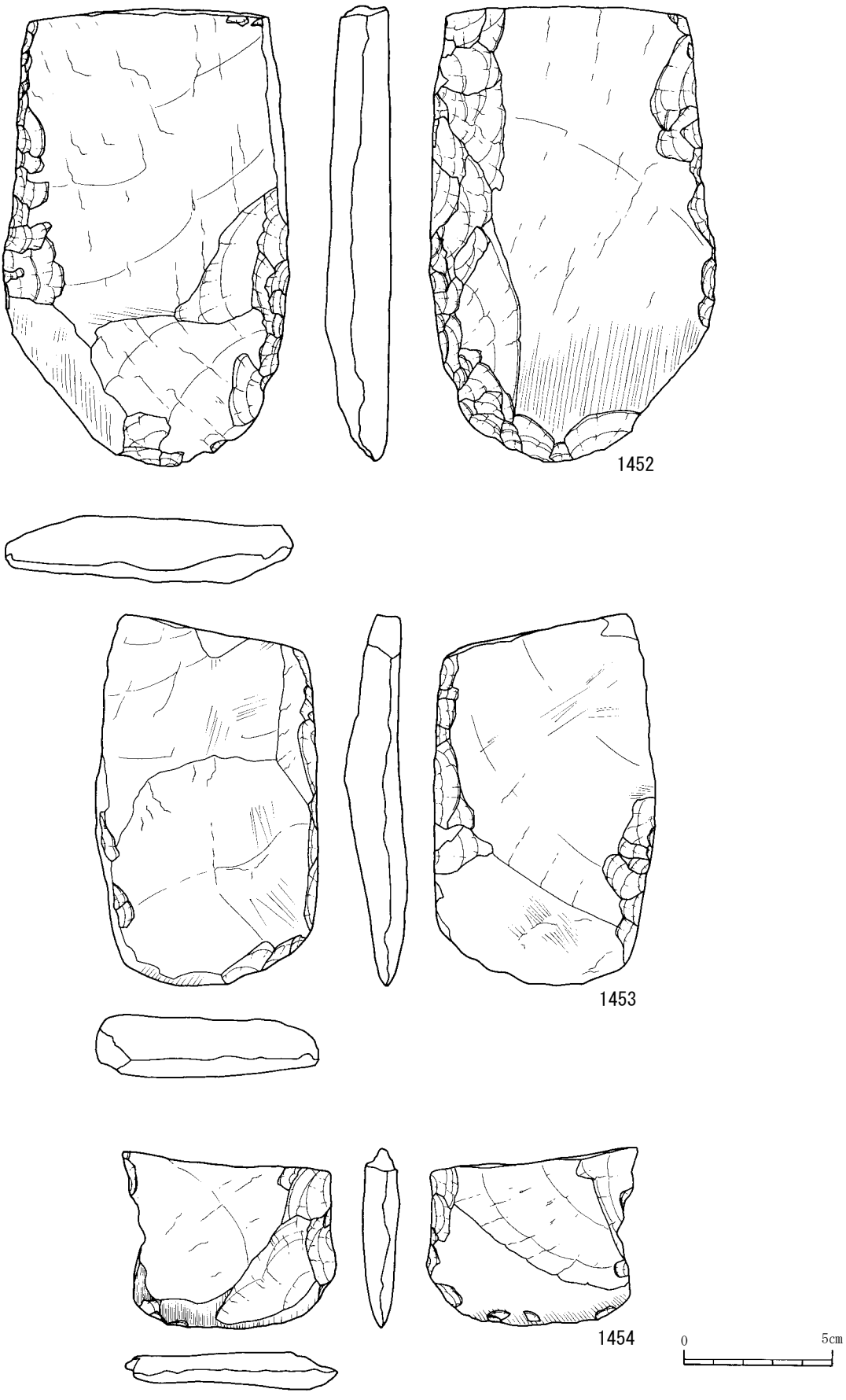
1947～1962はＥタイプである。1954・1957・1958・1960～1962は断面形に厚みがある。特に1961・1962は球状である。その他については扁平である。1947は平坦面を丁寧に磨っている。

ｏ．球顆状を呈する礫（第82～84図　1963～1975）

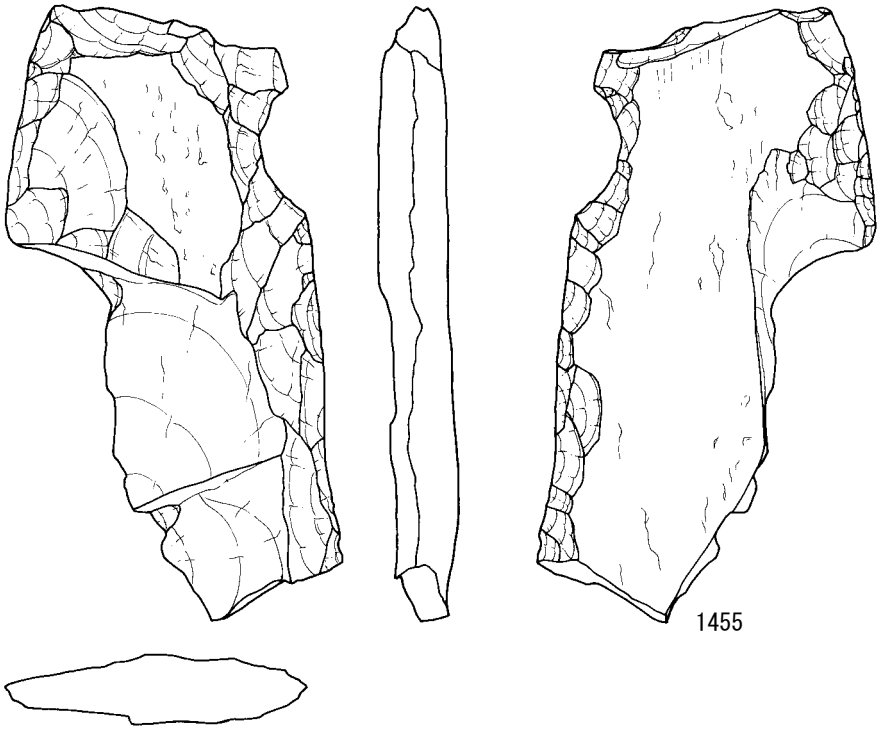
1963～1975は球顆状を呈する礫を利用した石器である。出土量が多かったため，特に項を設定した。形状は楕円形のものが多く，磨石・敲石状のものがほとんどである。1966・1967・1972・1973は敲打痕が観察される。ほとんどが黒色であるが，1974は全体的に白色が主となり，窪んだ部分に敲打痕がみられる。

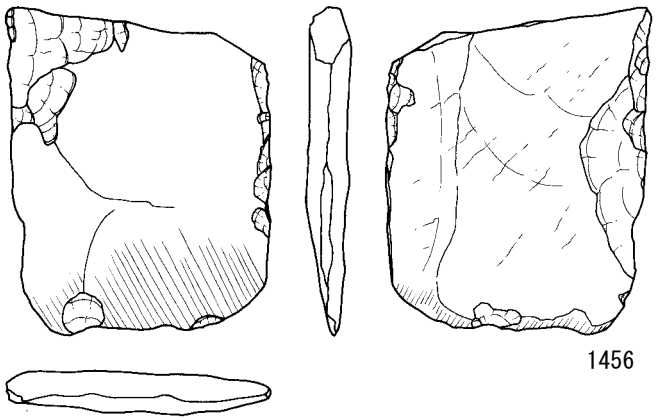


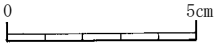
第１図　石器(1)



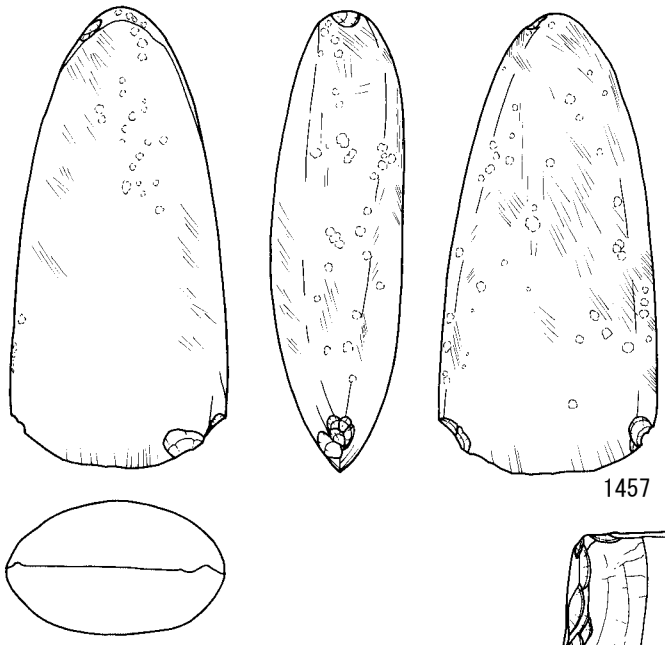
第２図　石器(2)

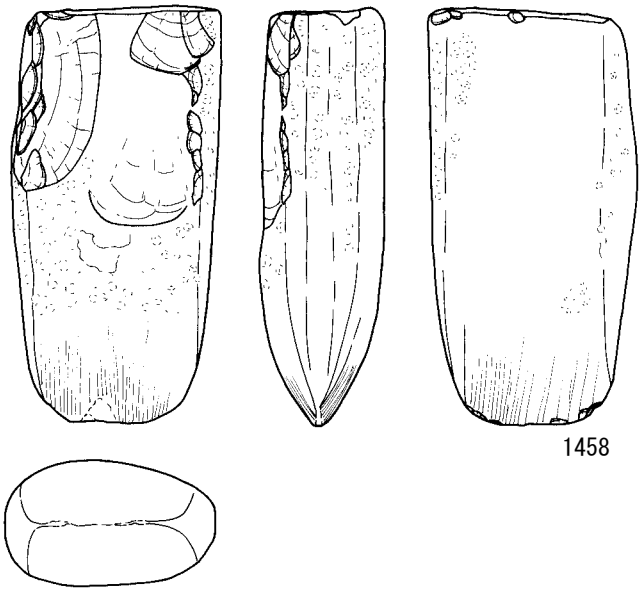


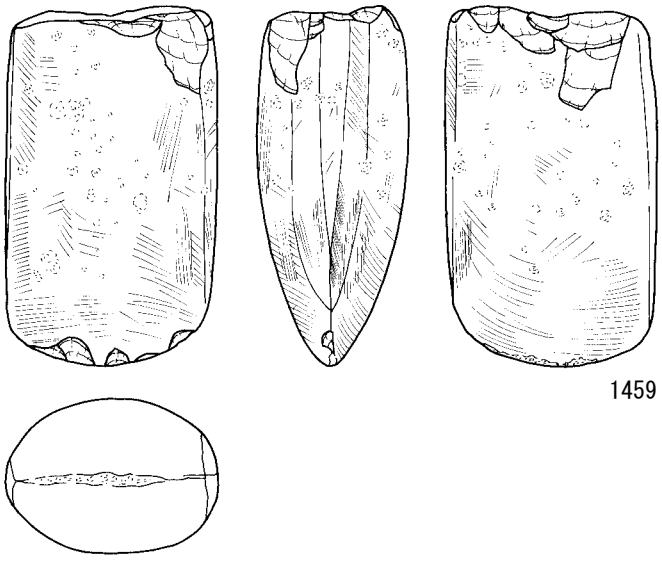




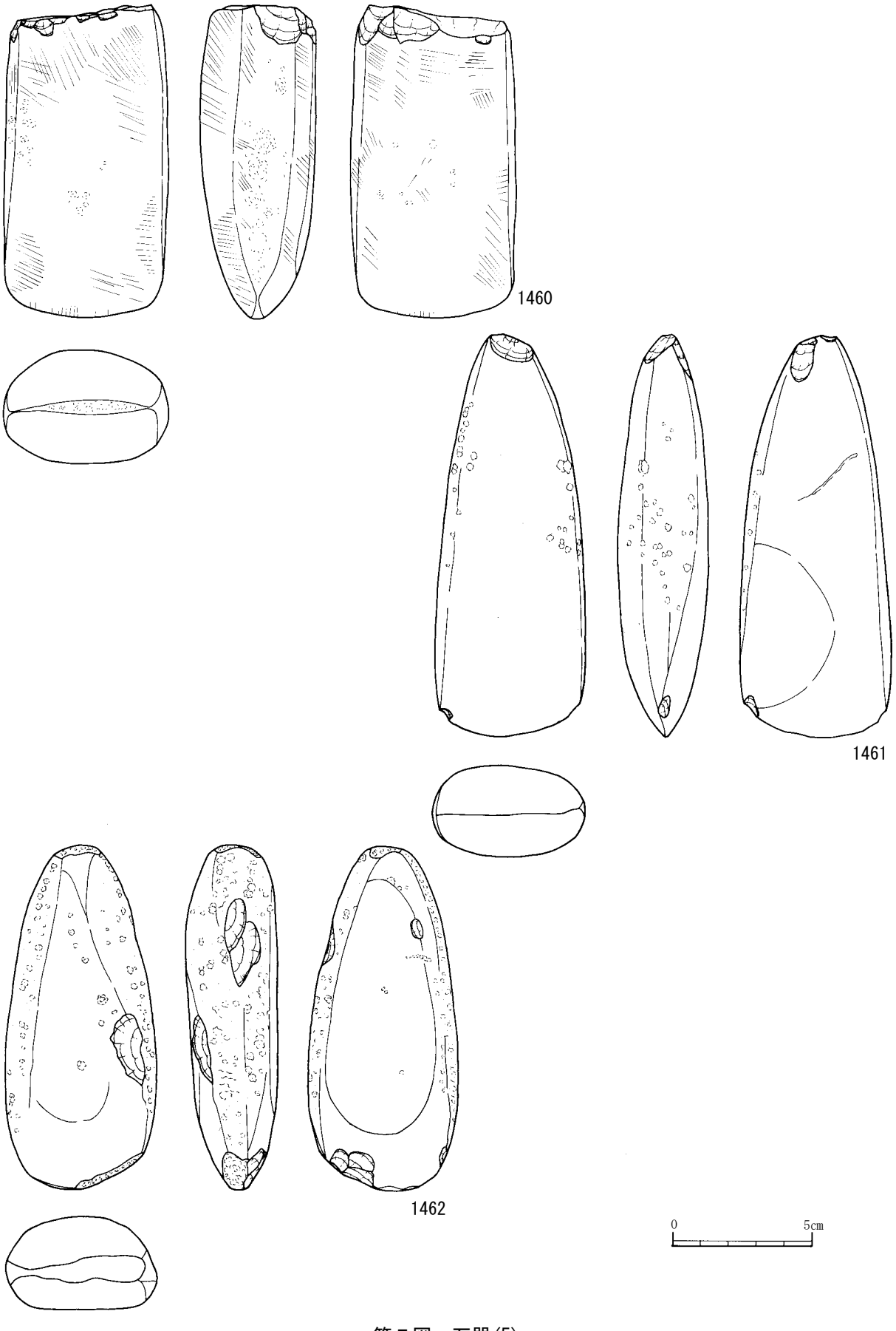
第３図　石器(3)



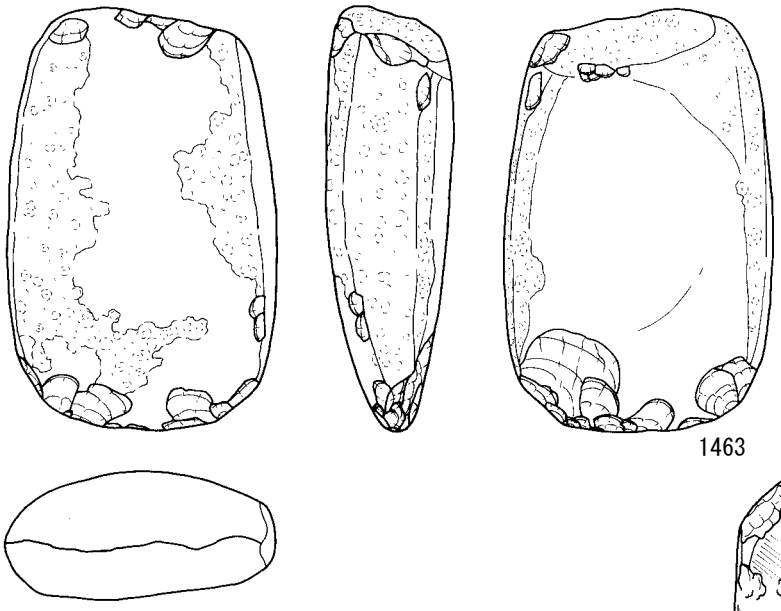


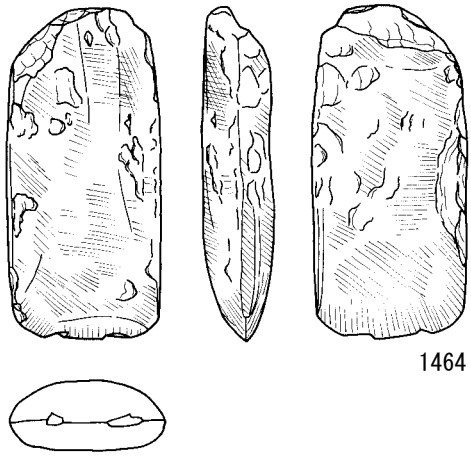


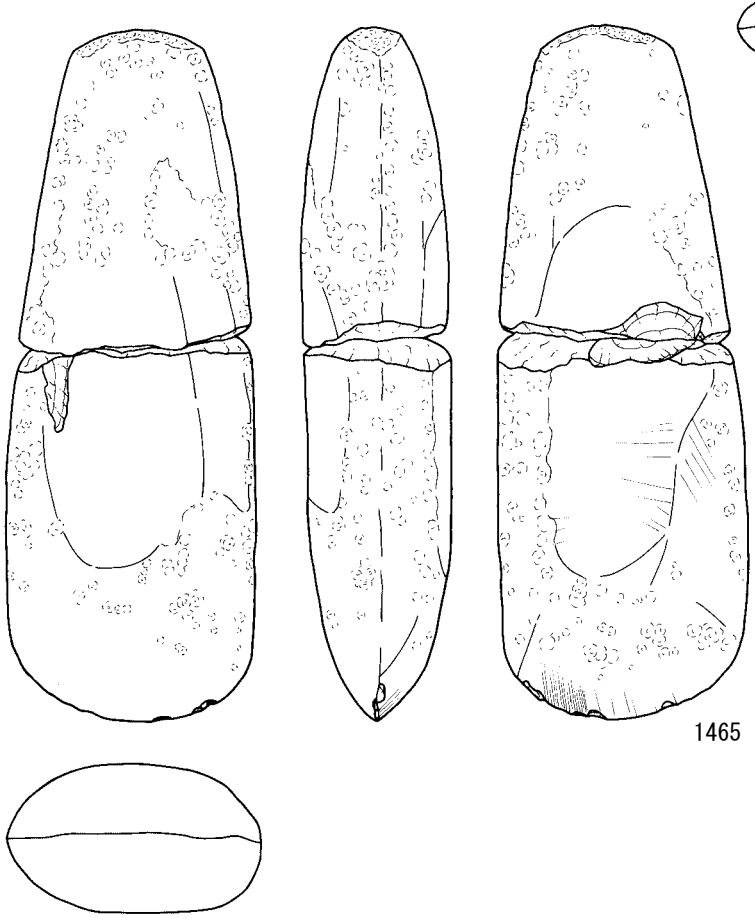
第４図　石器(4)

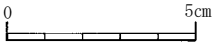


第５図　石器(5)

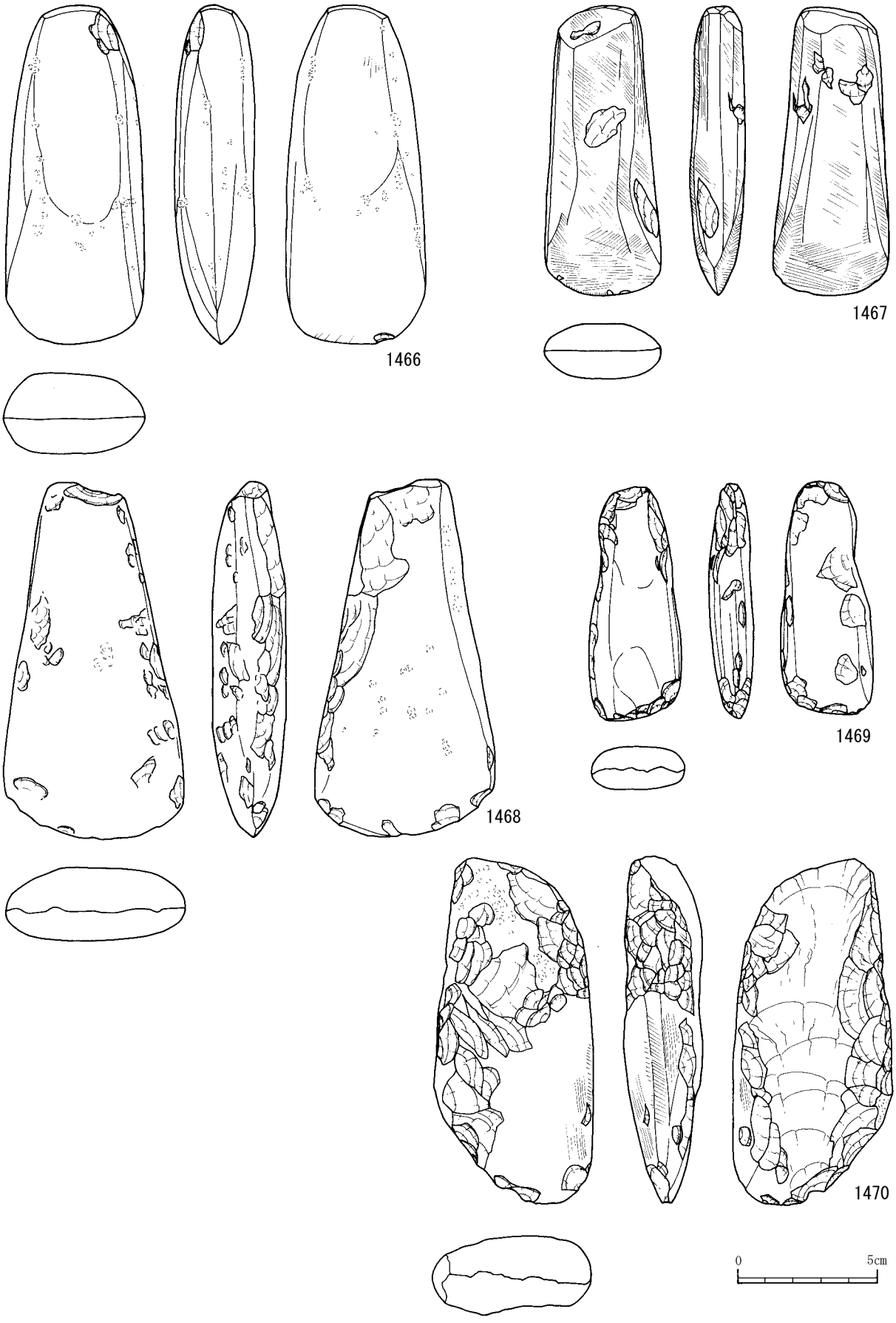






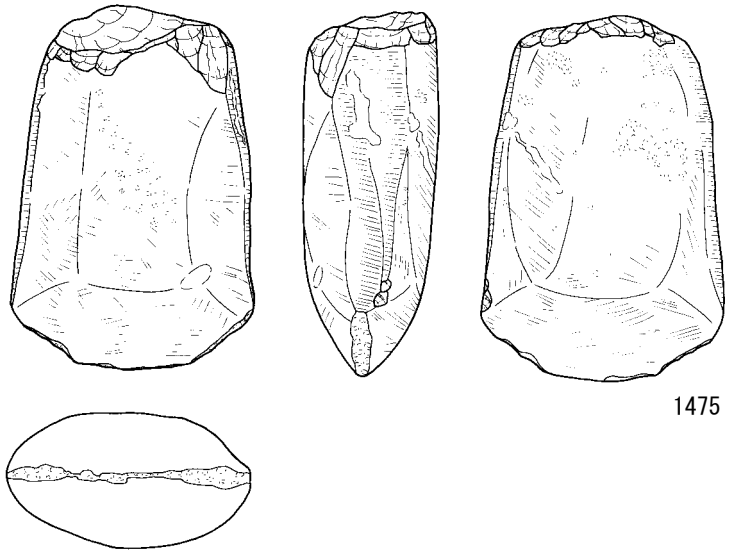


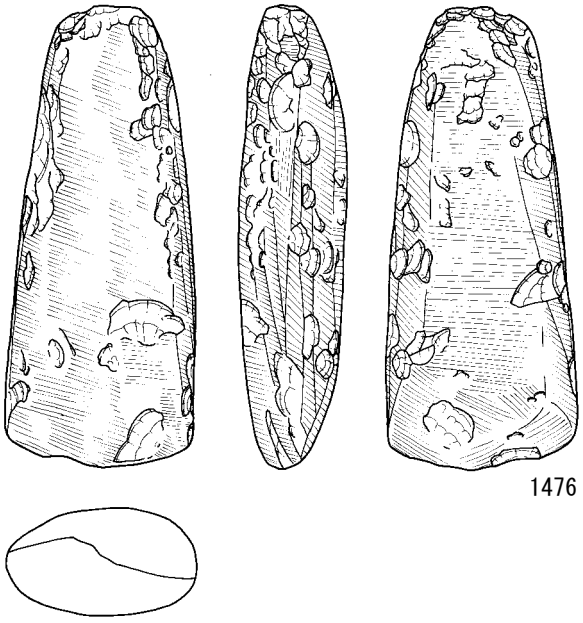
第６図　石器(6)

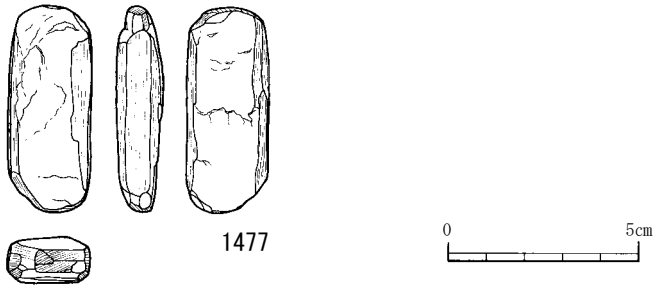


第７図　石器(7)

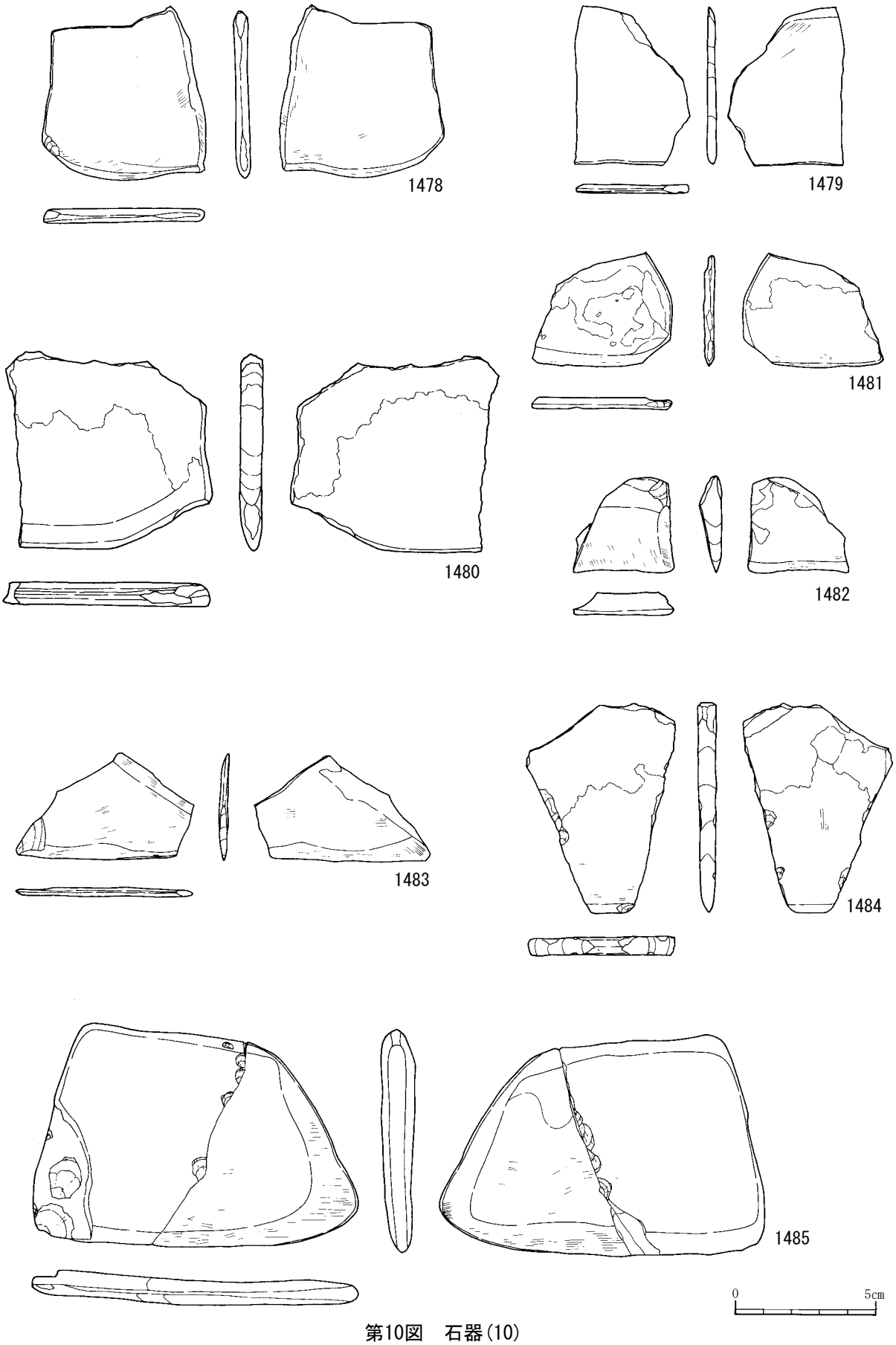
第８図　石器(8)



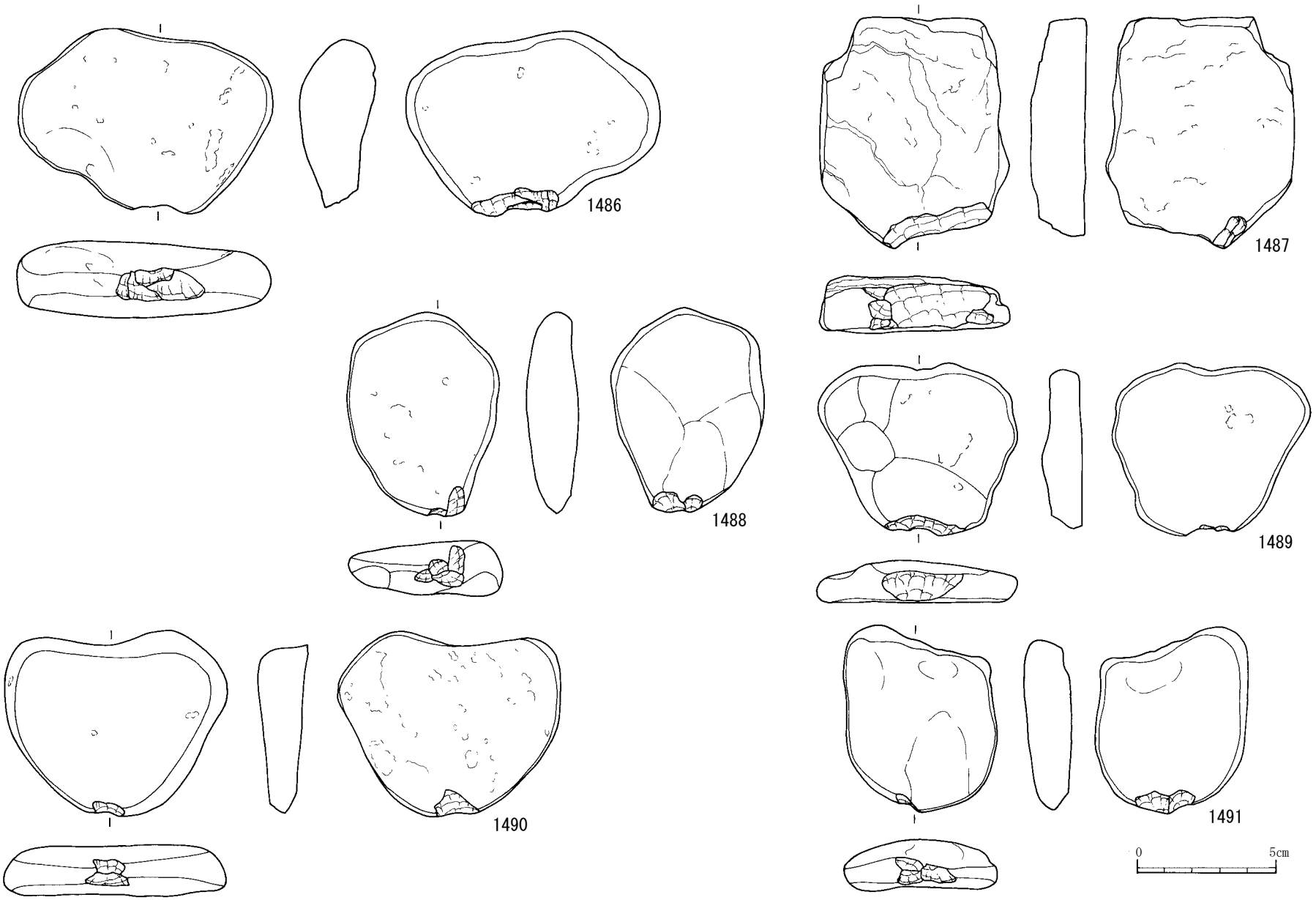




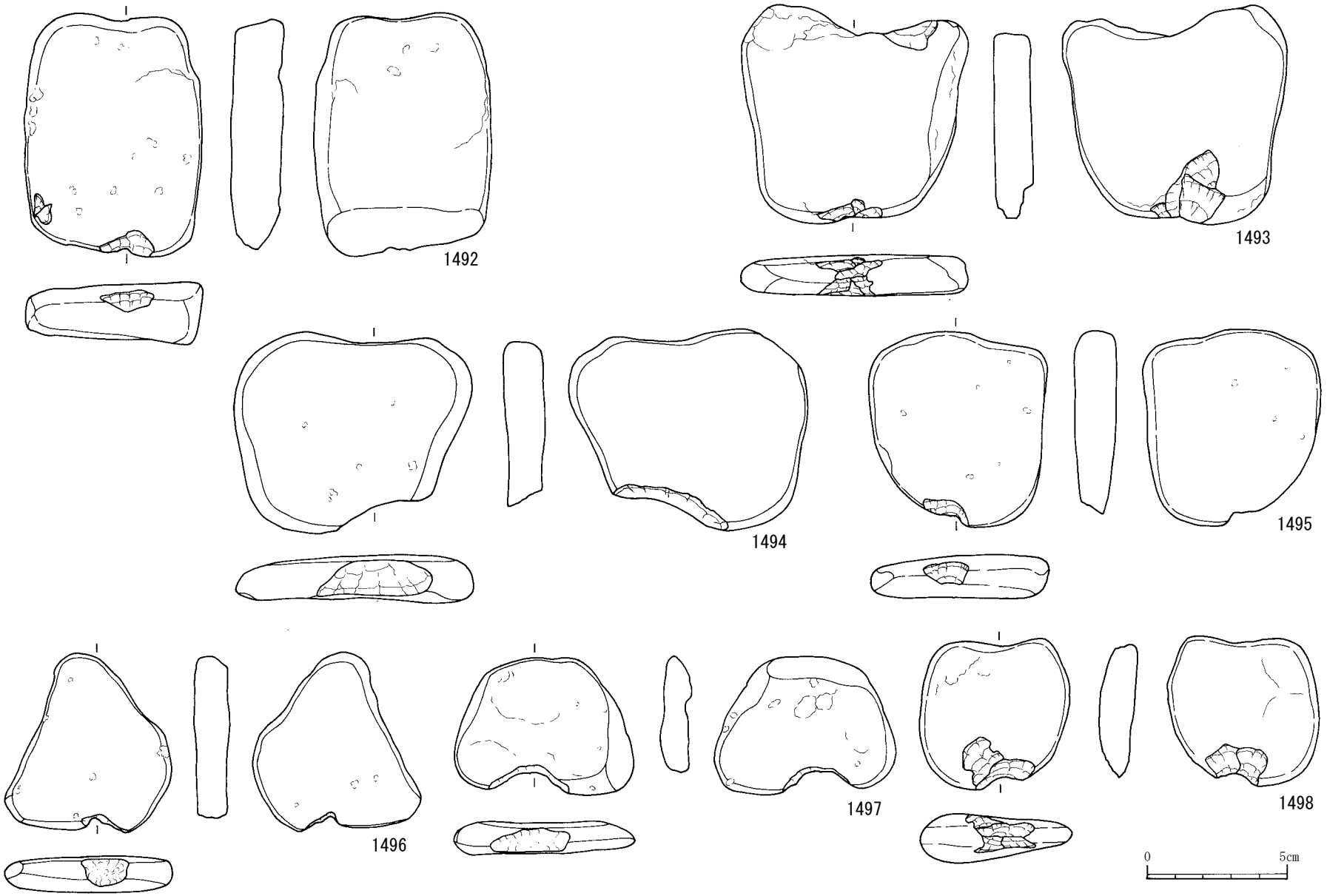
第９図　石器(9)



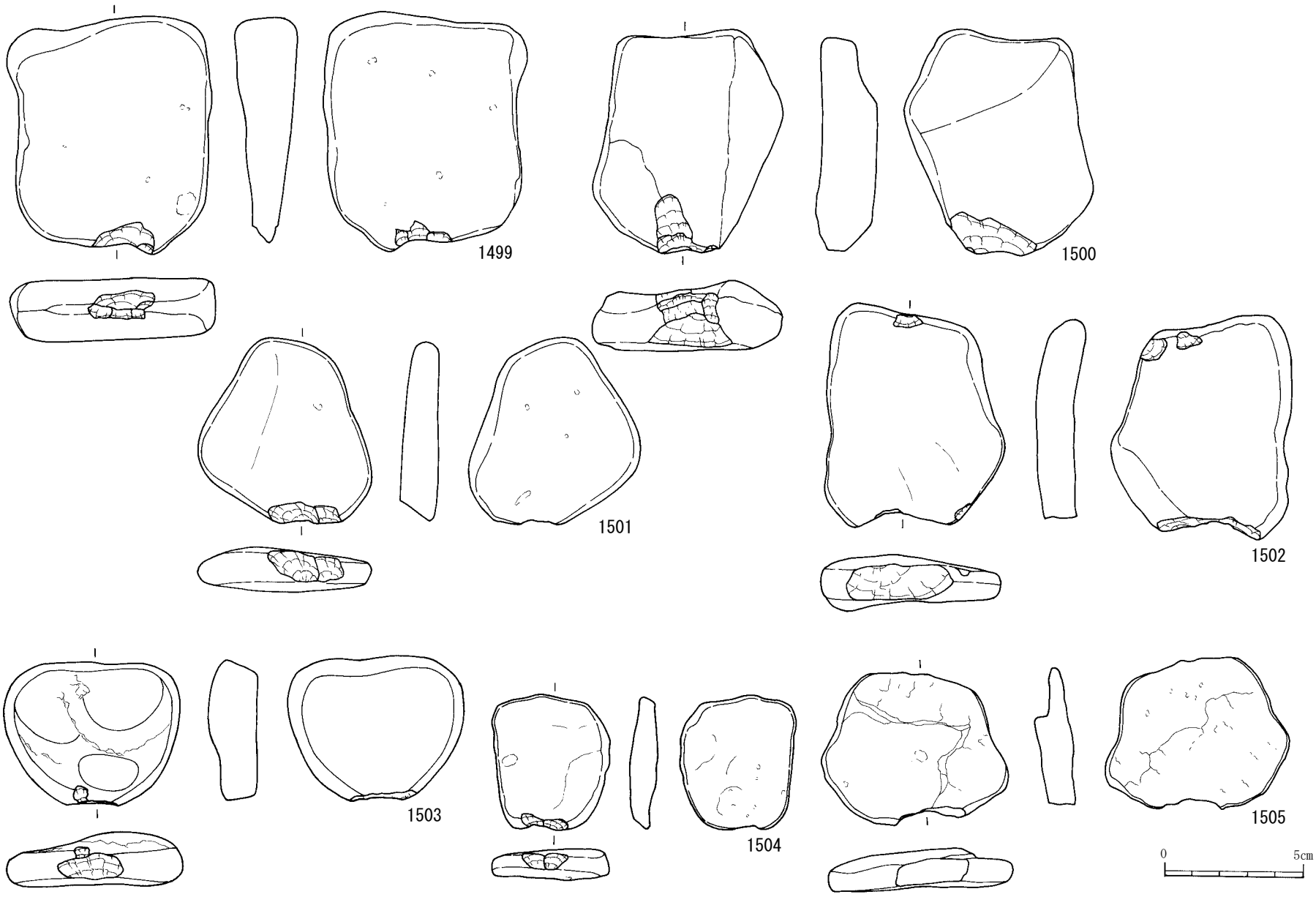
第10図　石器(10)



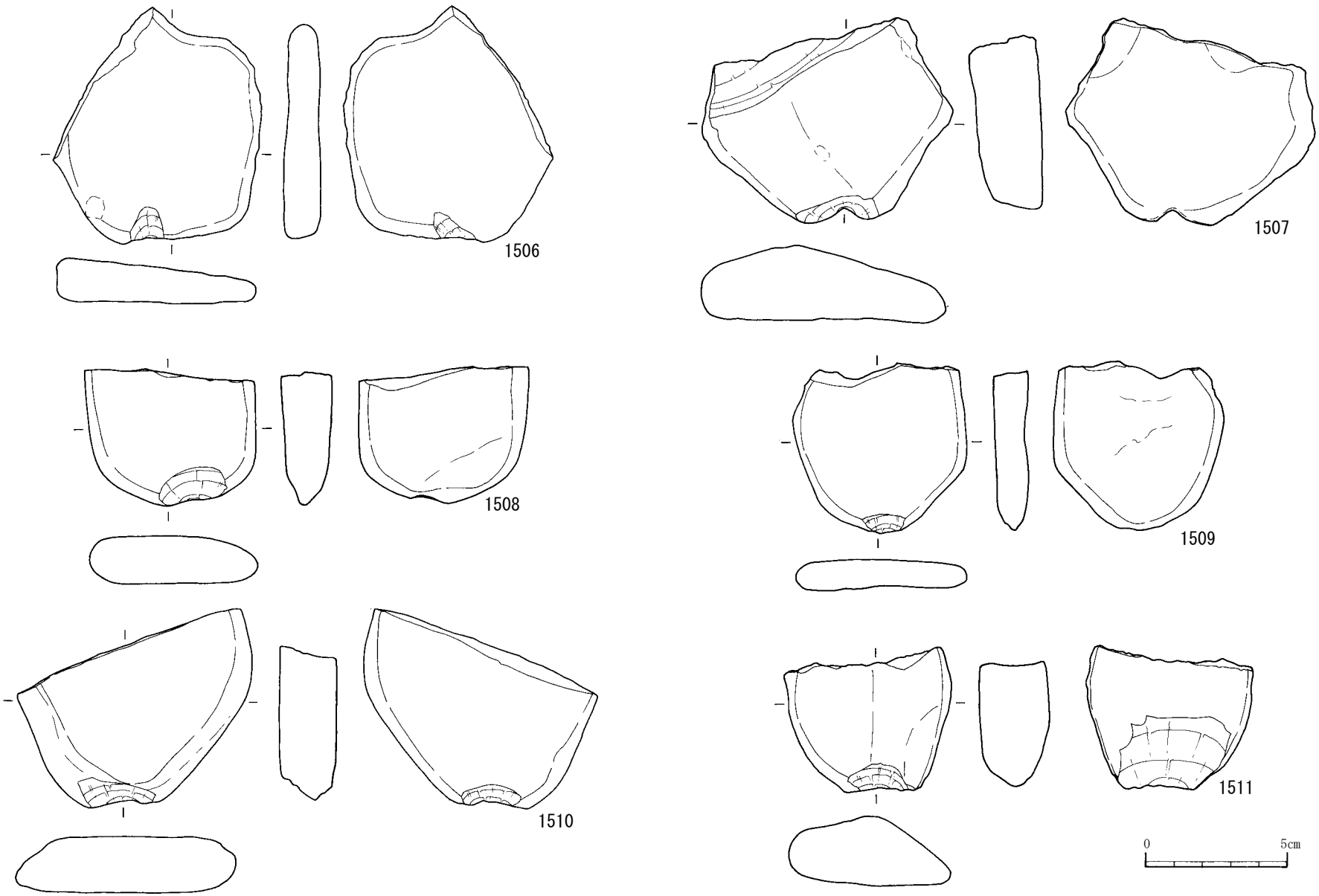
第11図　石器(11)



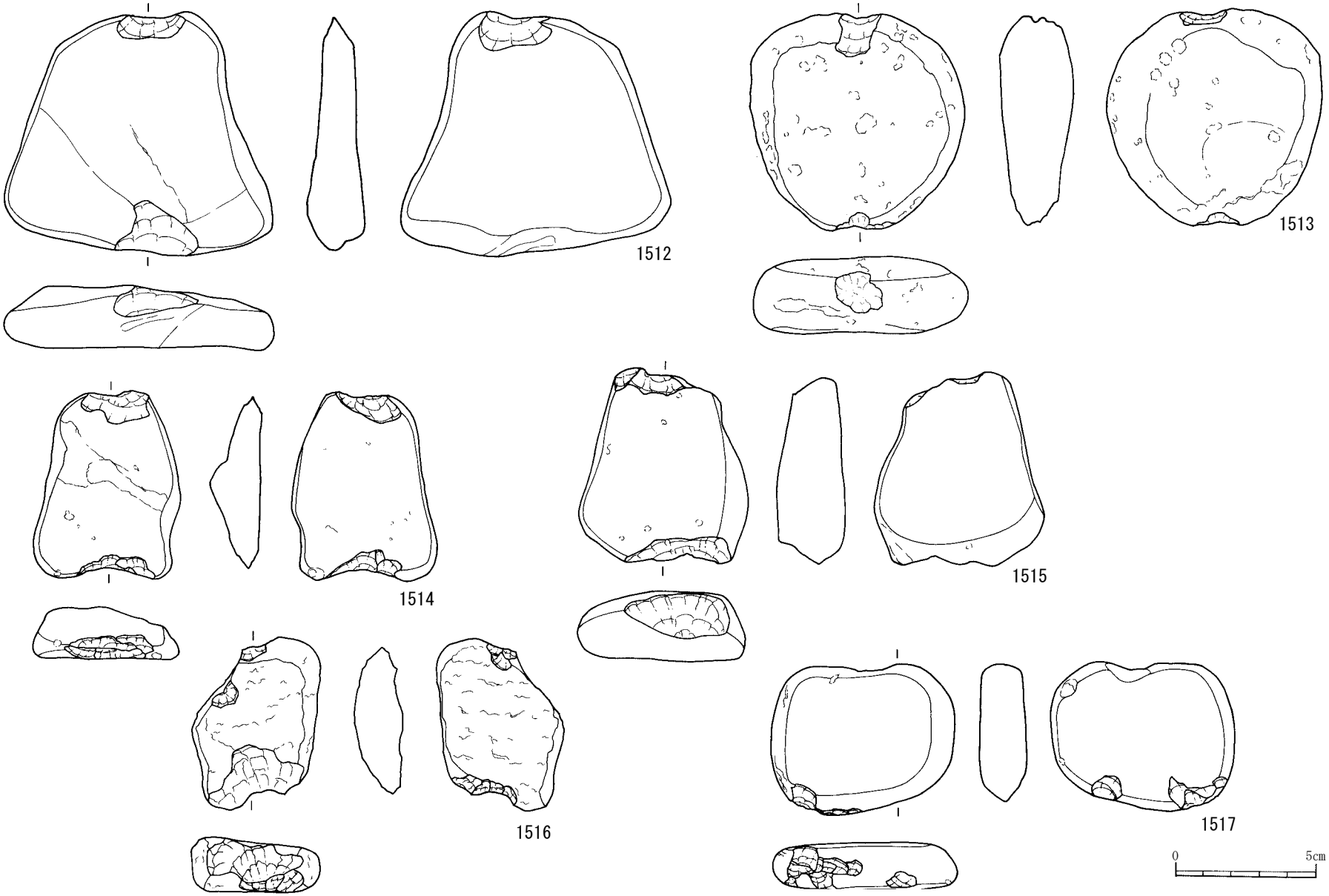
第12図　石器(12)



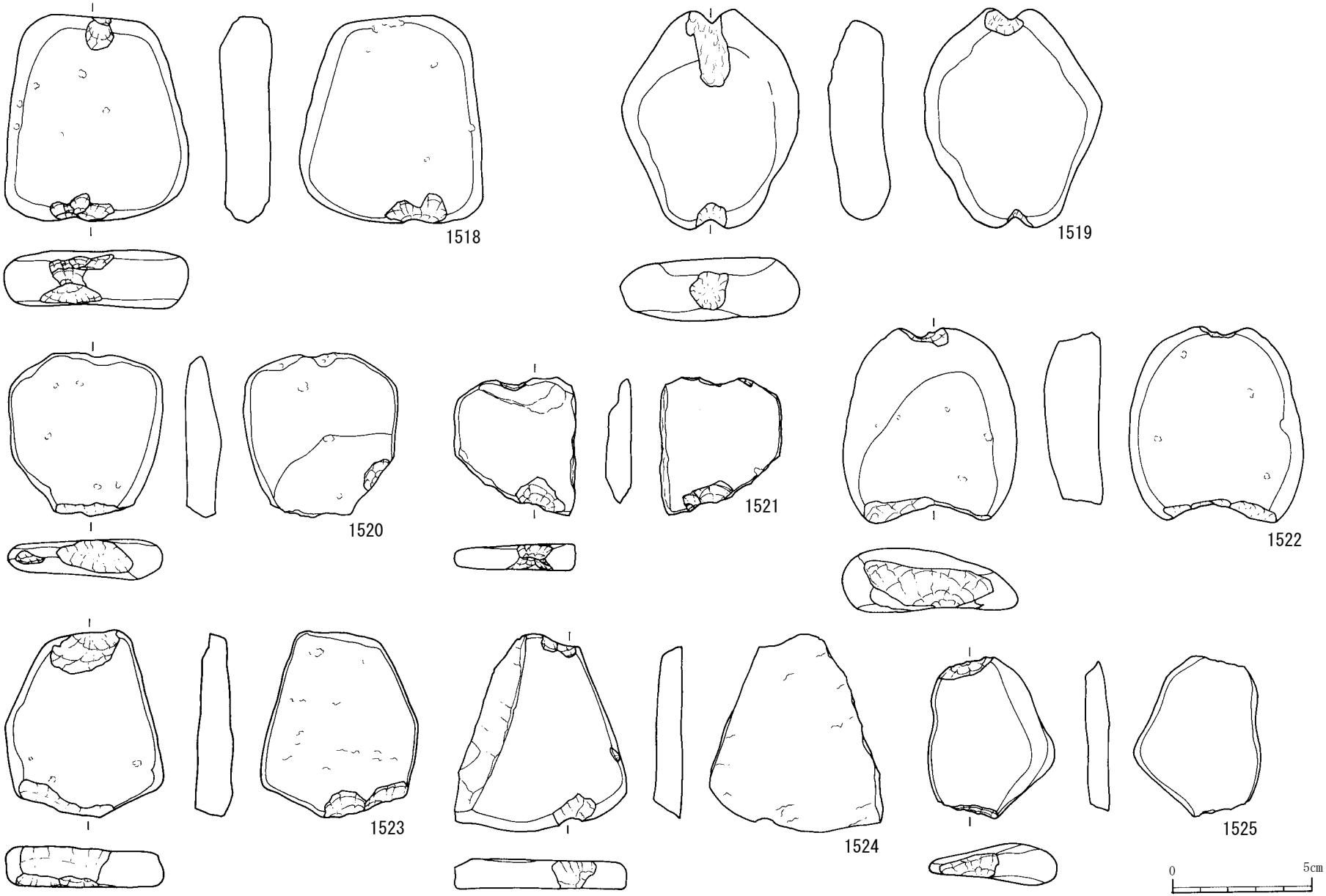
第13図　石器(13)



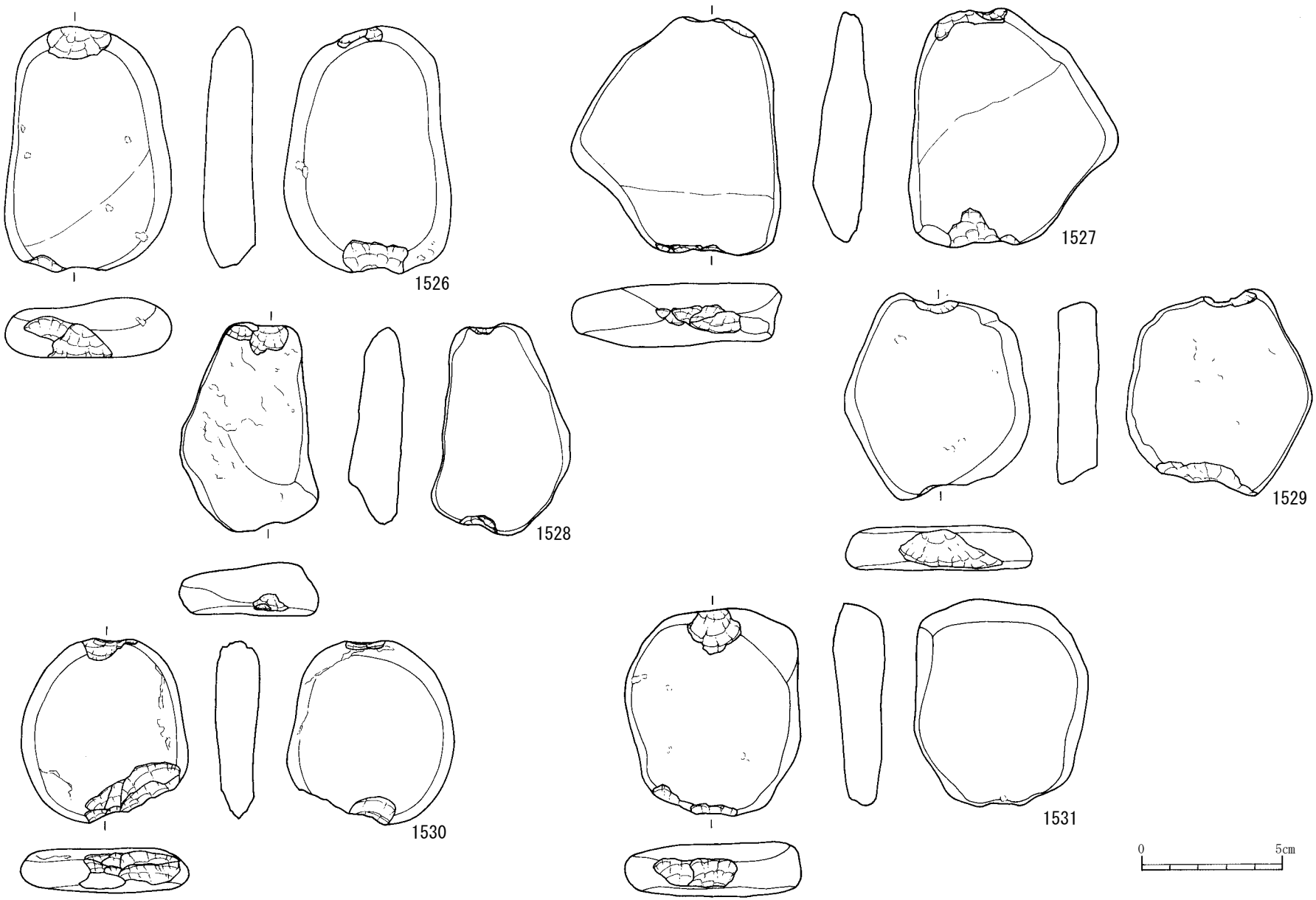
第14図　石器(14)



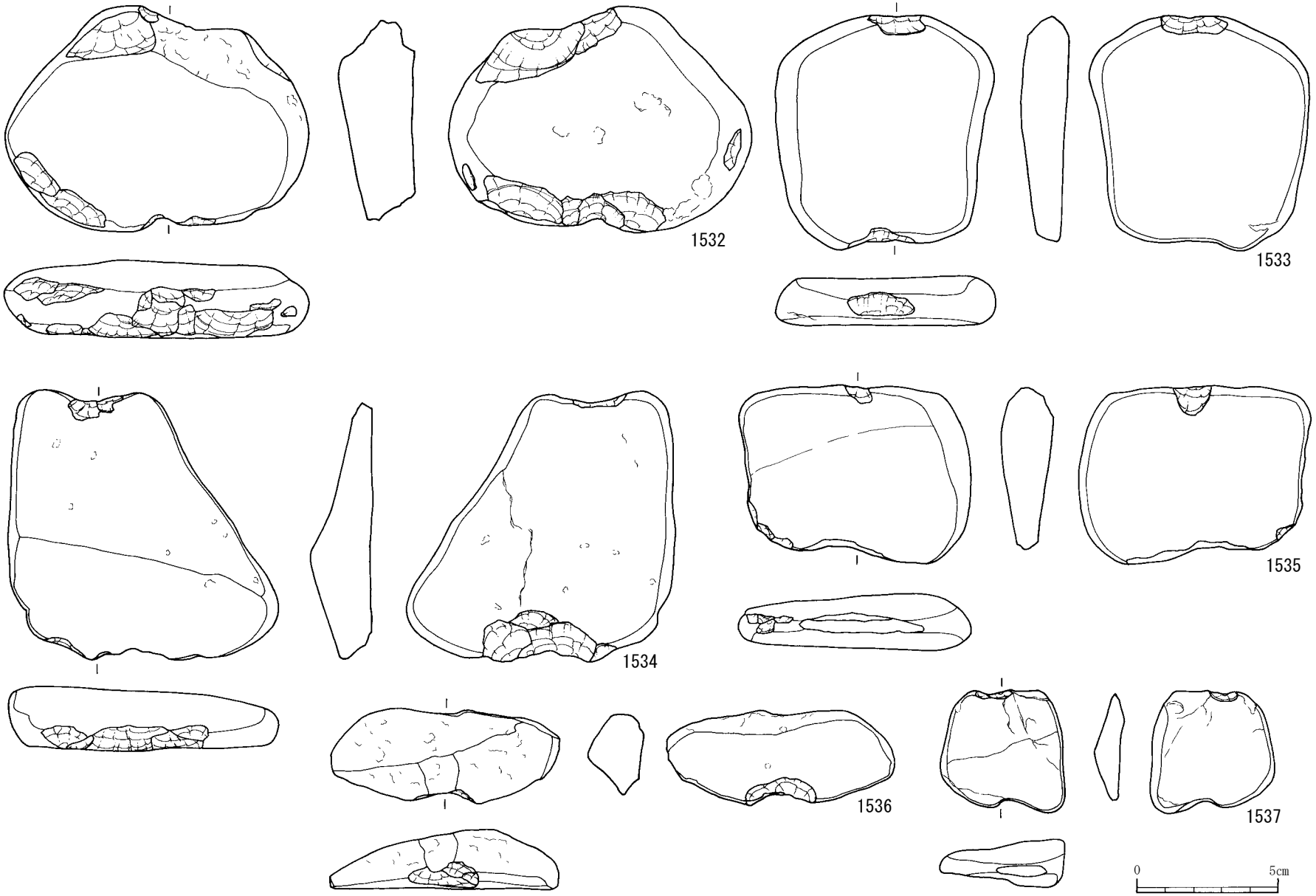
第15図　石器(15)



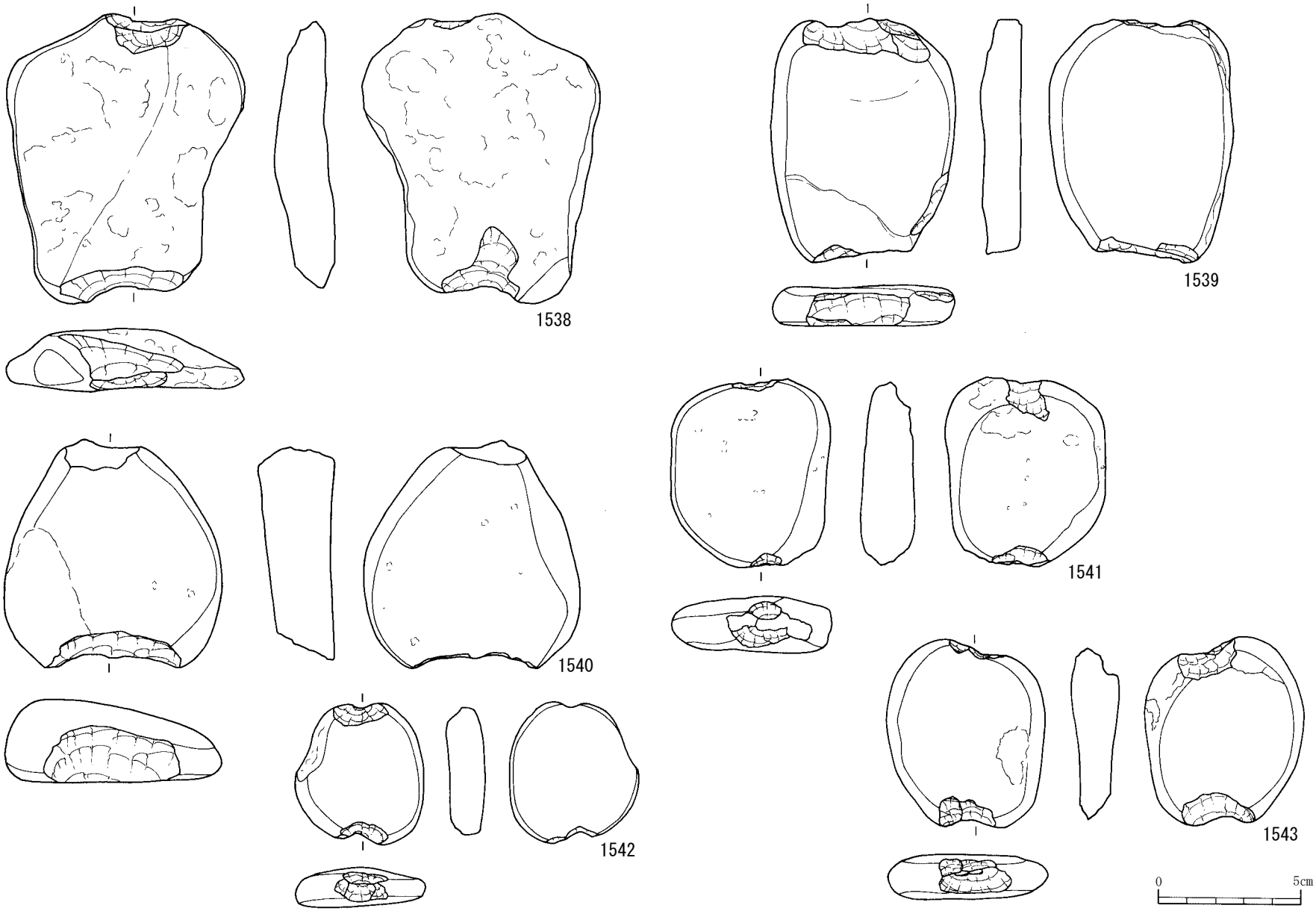
第16図　石器(16)



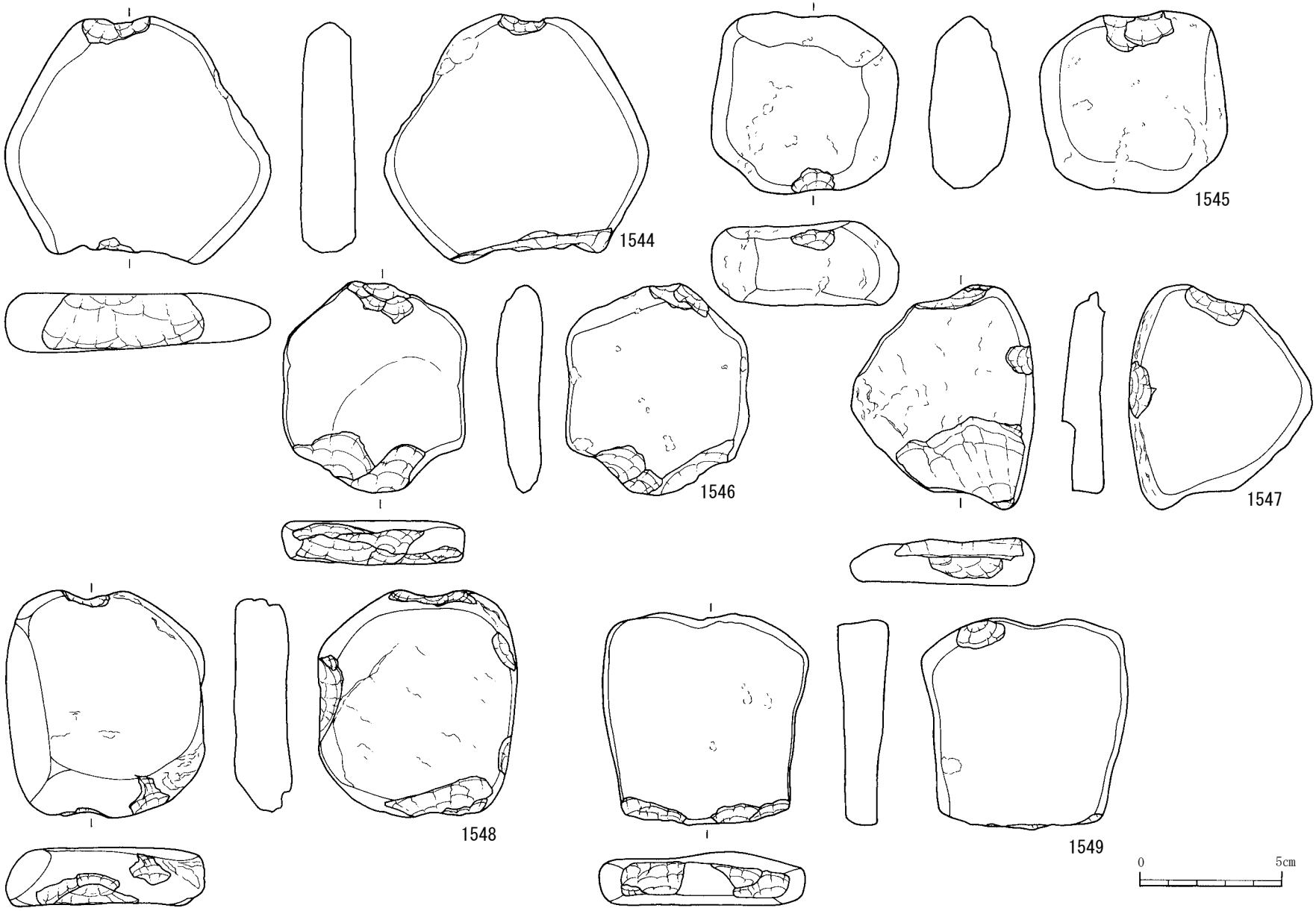
第17図　石器(17)



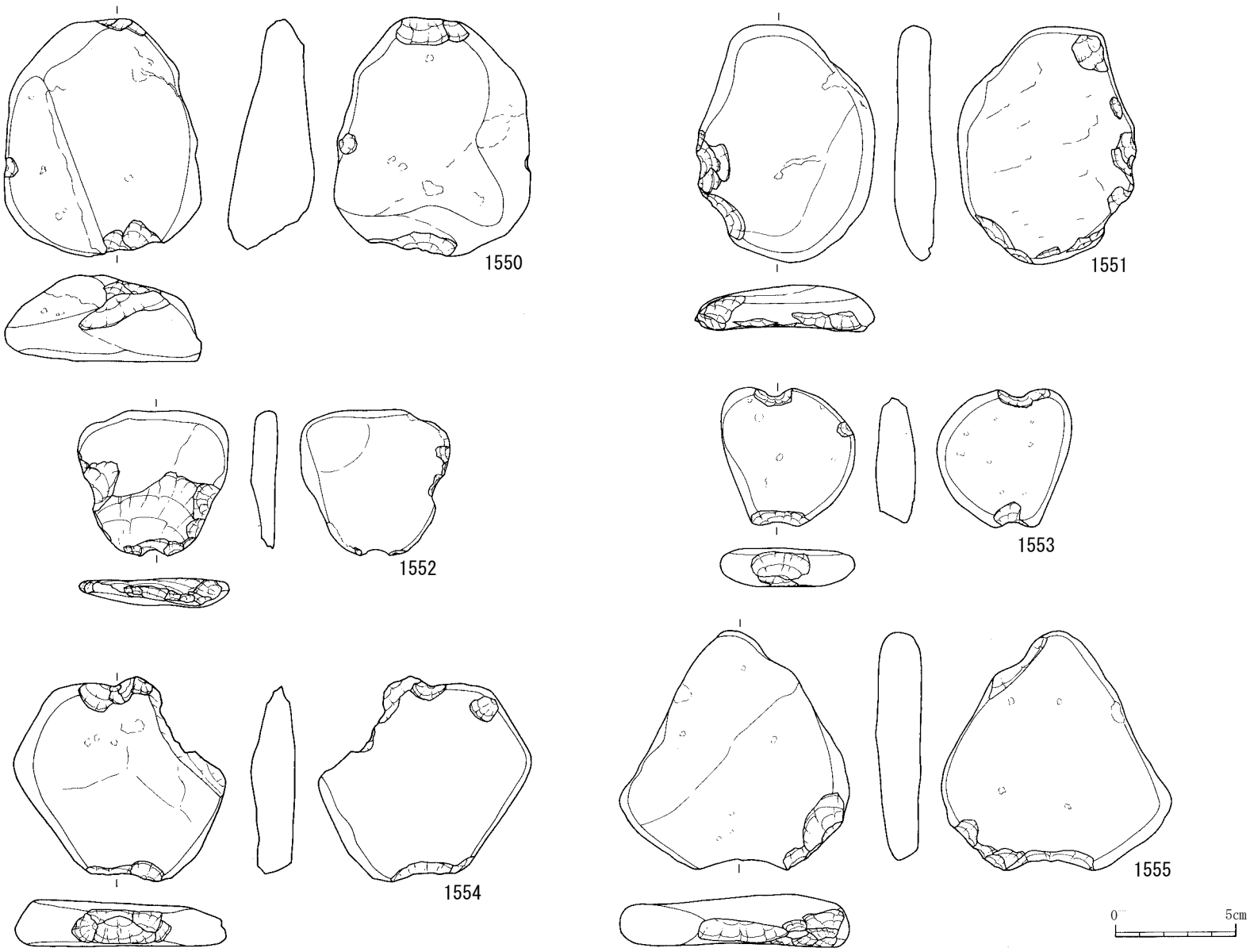
第18図　石器(18)



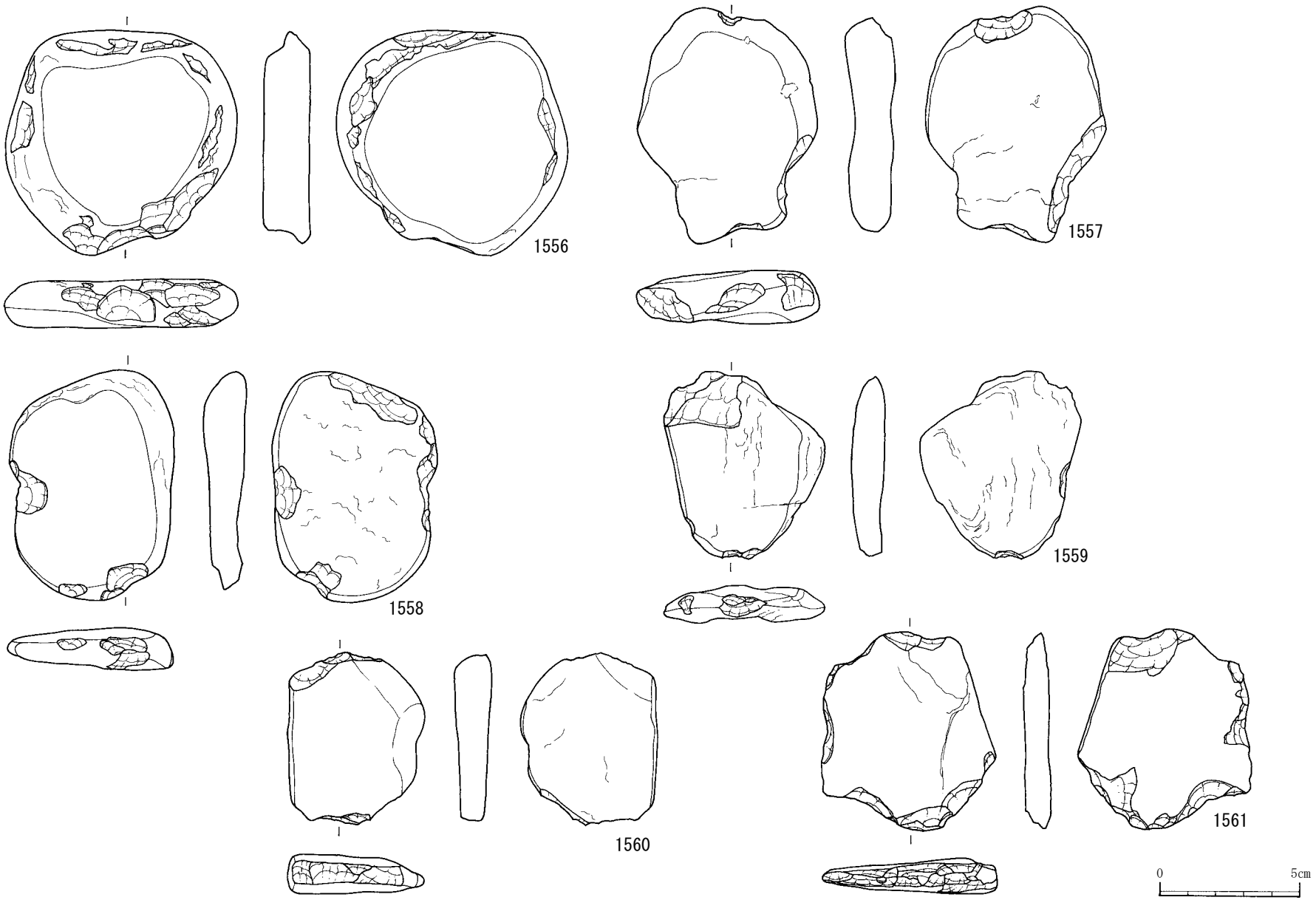
第19図　石器(19)



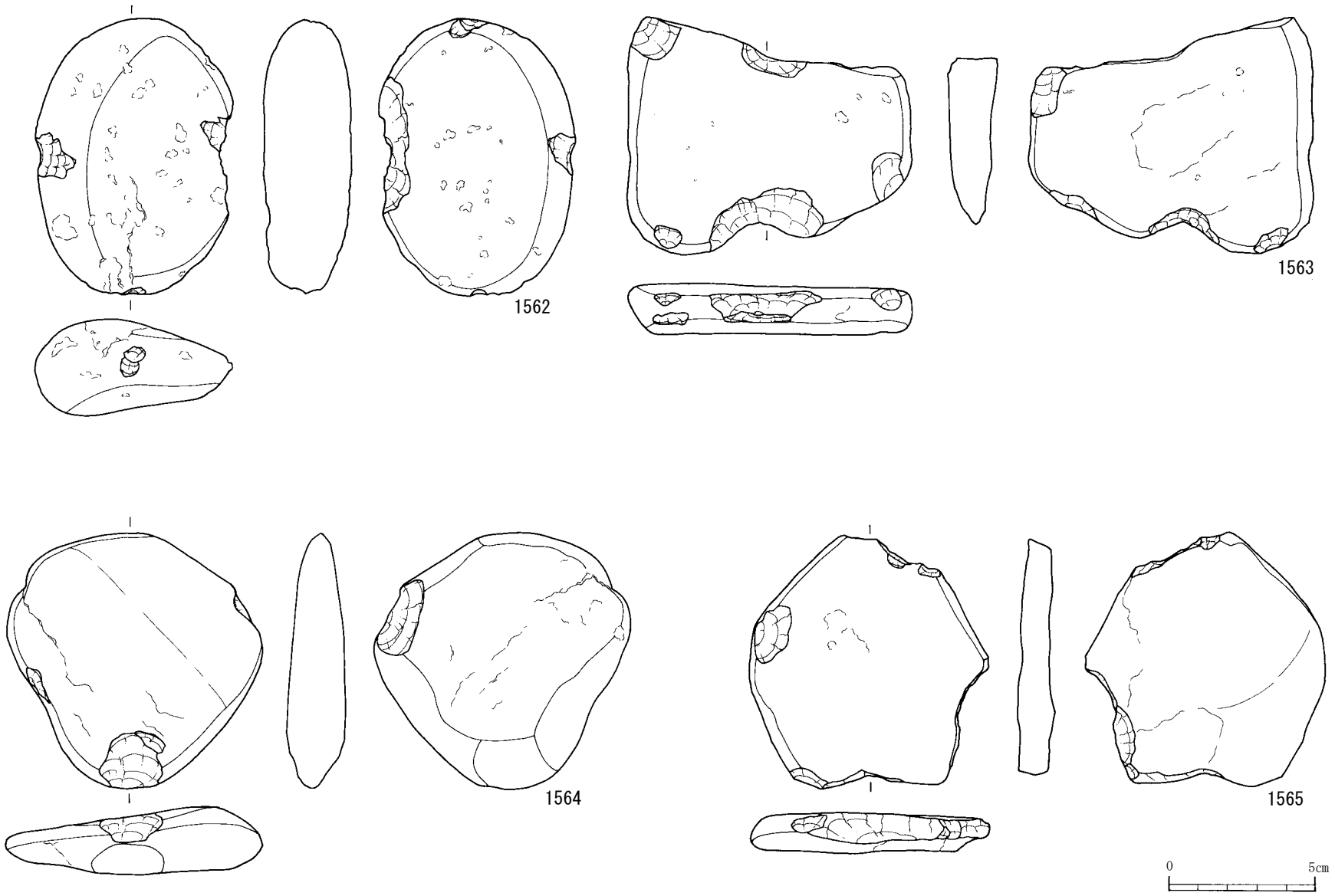
第20図　石器(20)



第21図　石器(21)



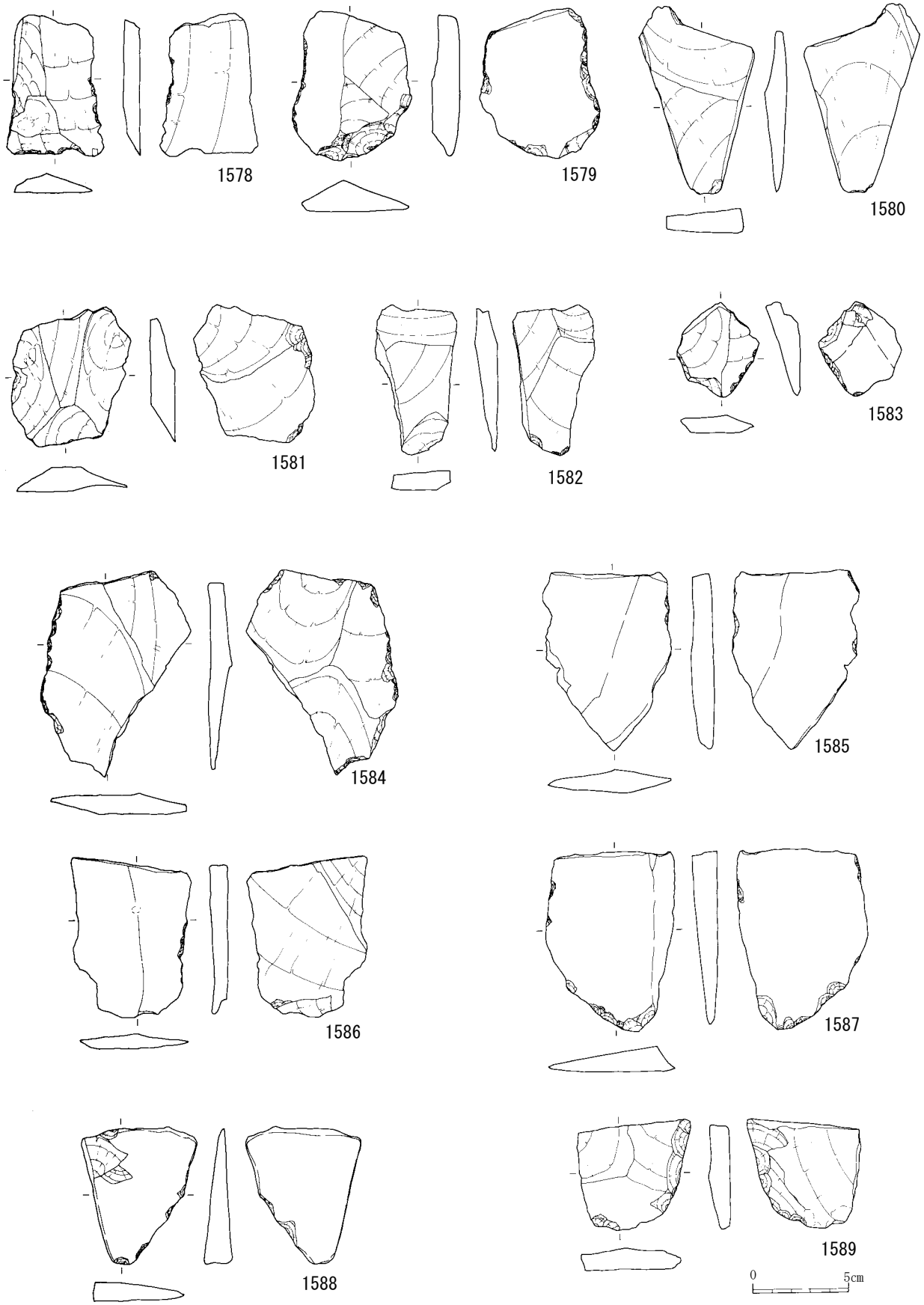
第22図　石器(22)



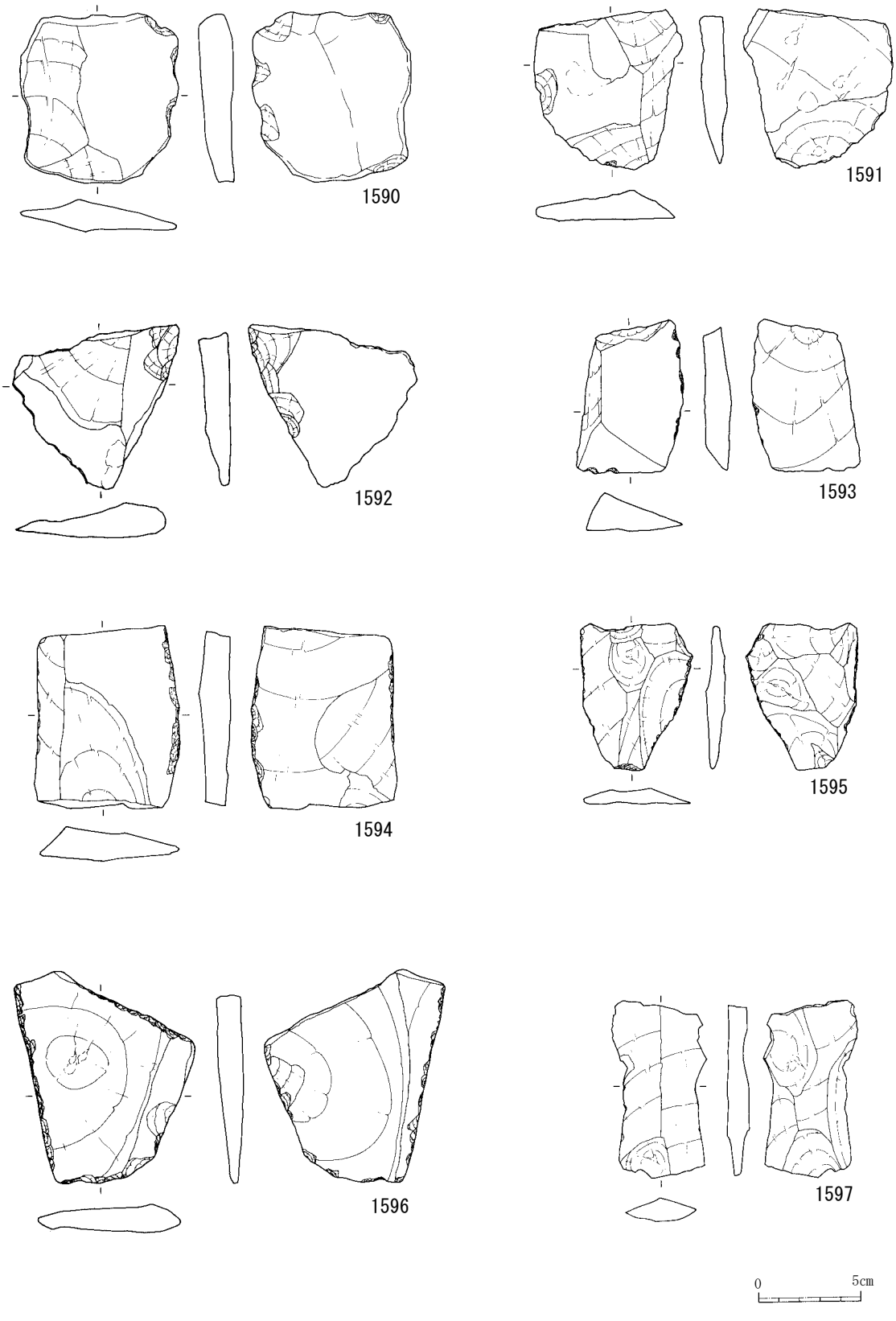
第23図　石器(23)

1566
1567
1568
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
0
5cm

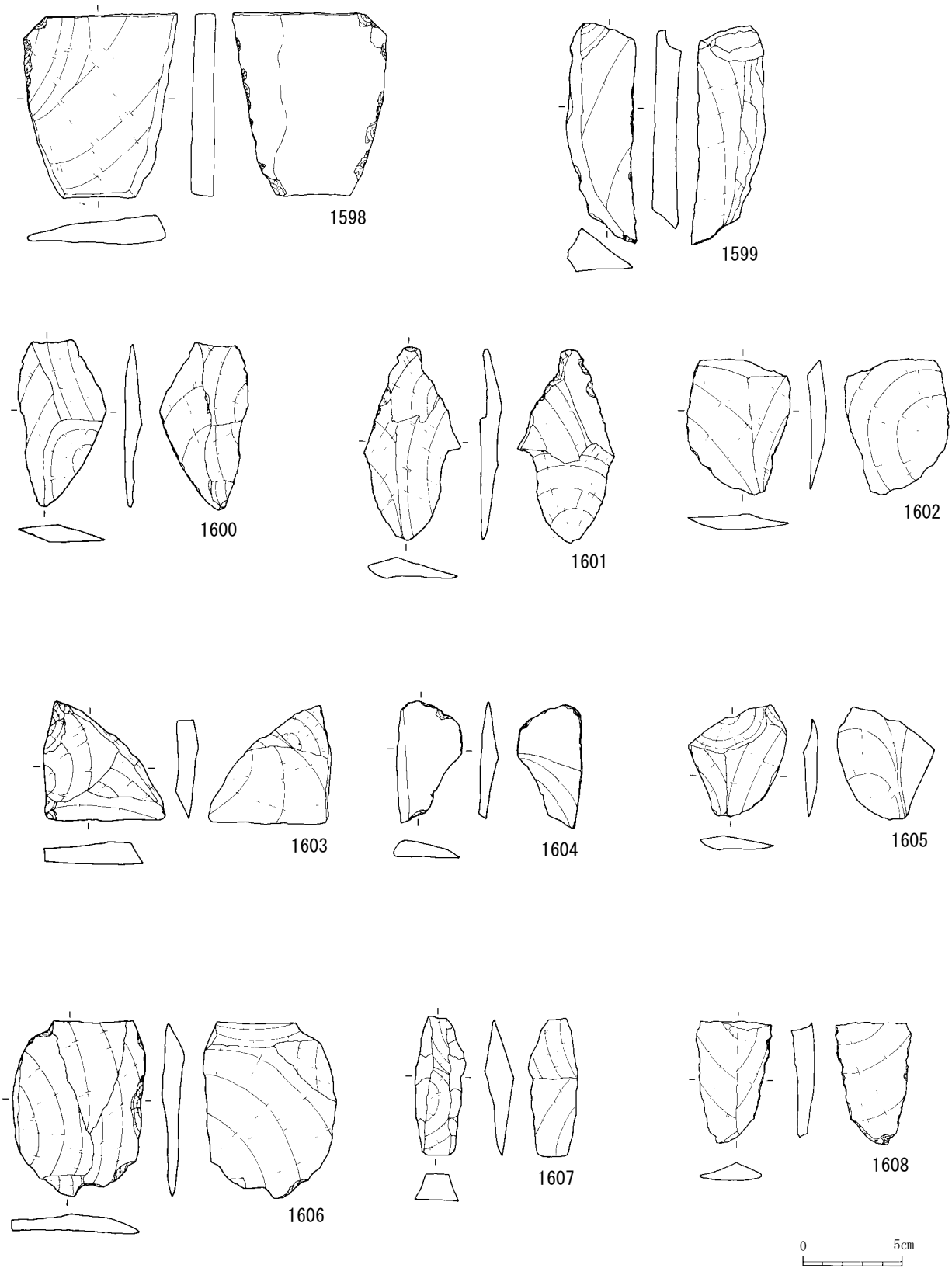
第24図　石器(24)


1578
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
0
5cm

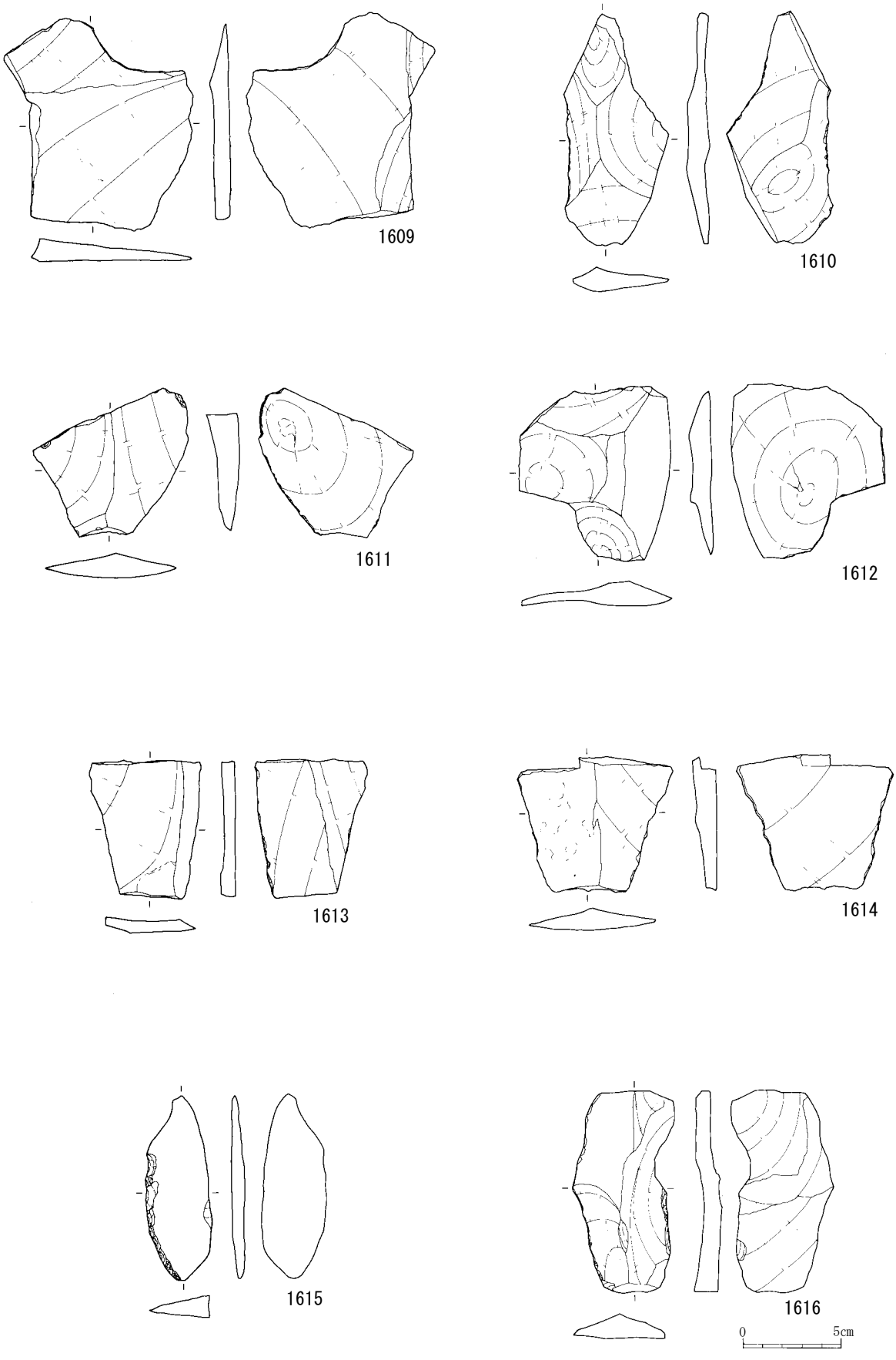
第25図　石器(25)



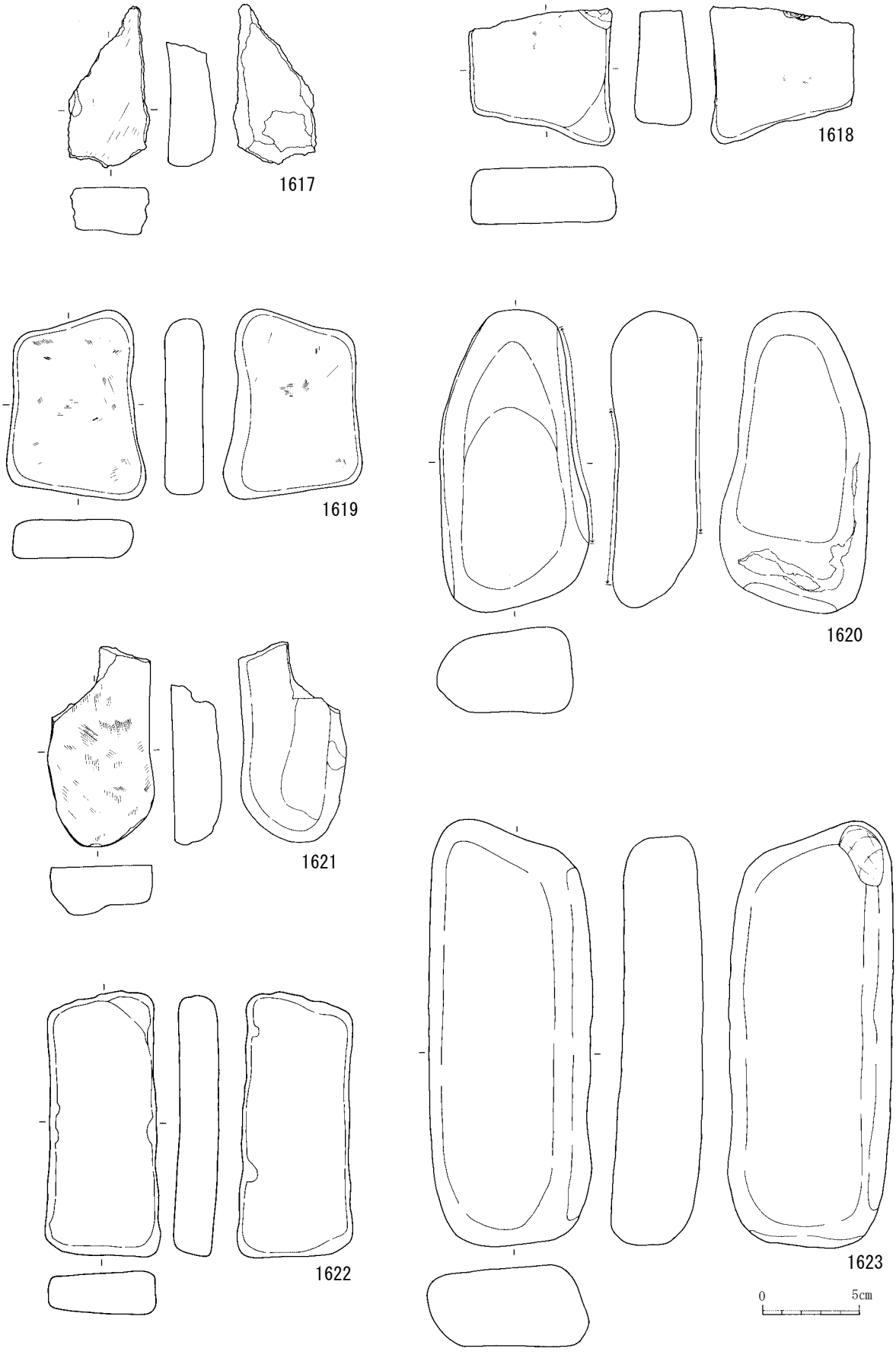
第26図　石器(26)



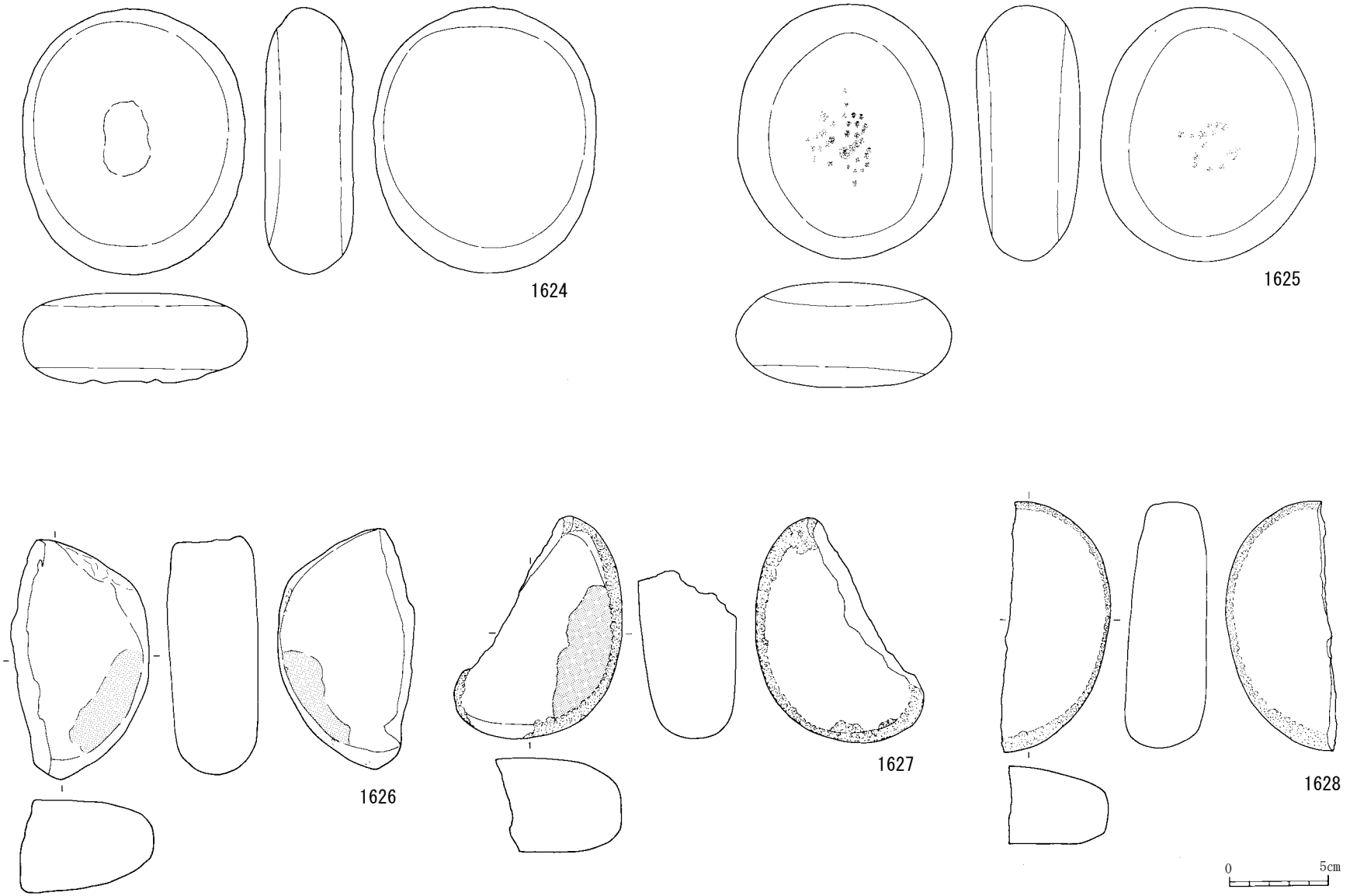
第27図　石器(27)



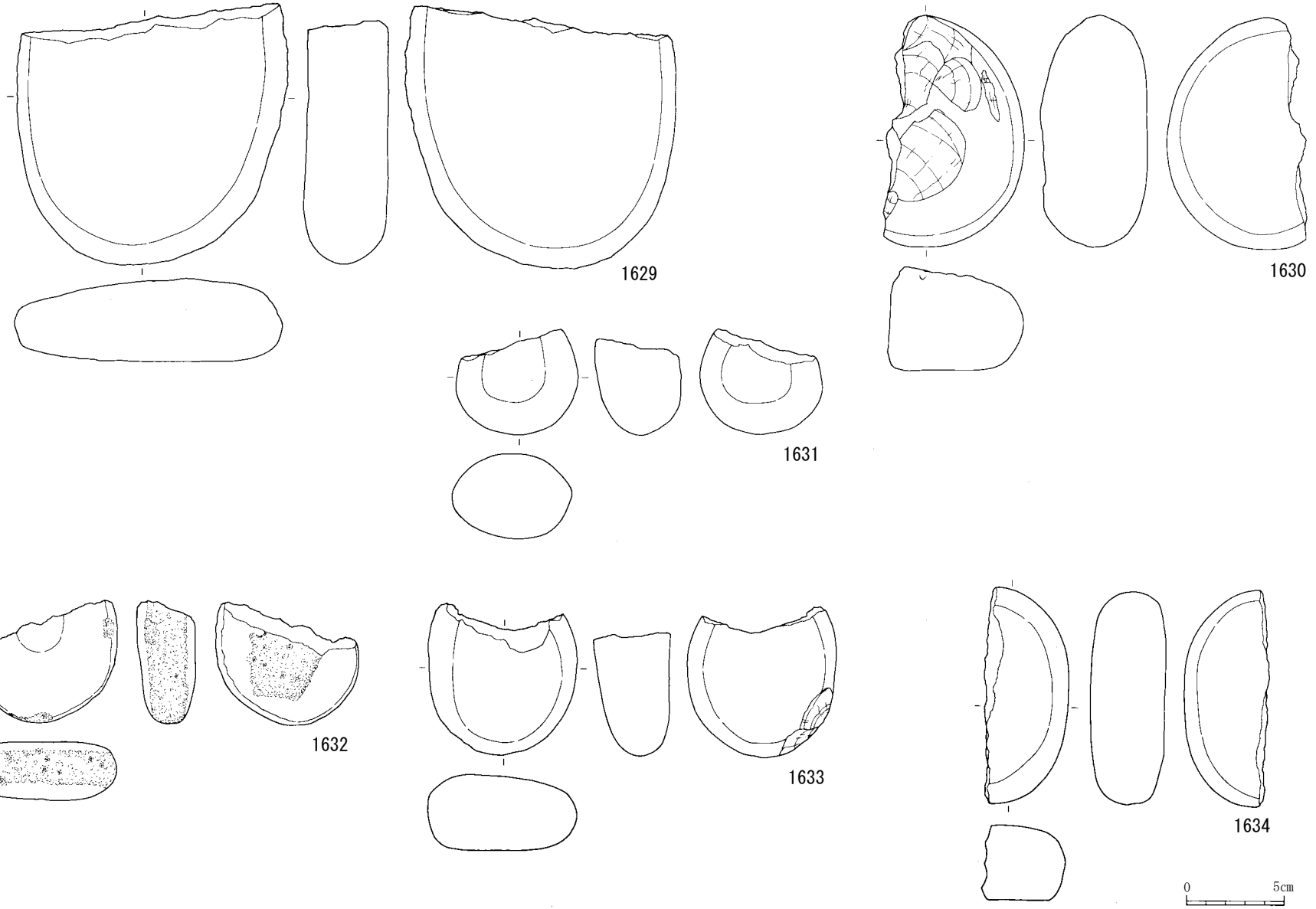
第28図　石器(28)



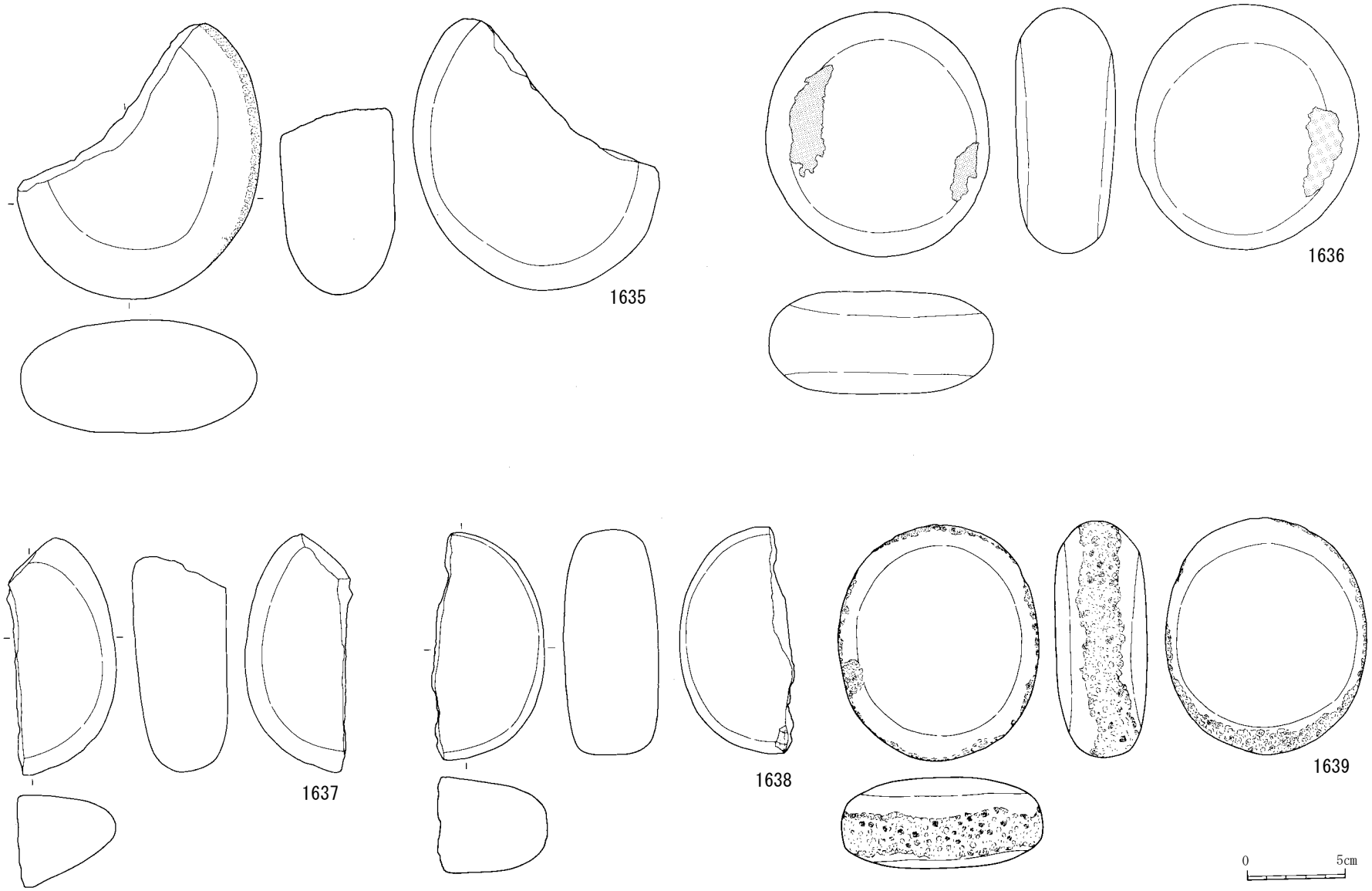
第29図　石器(29)



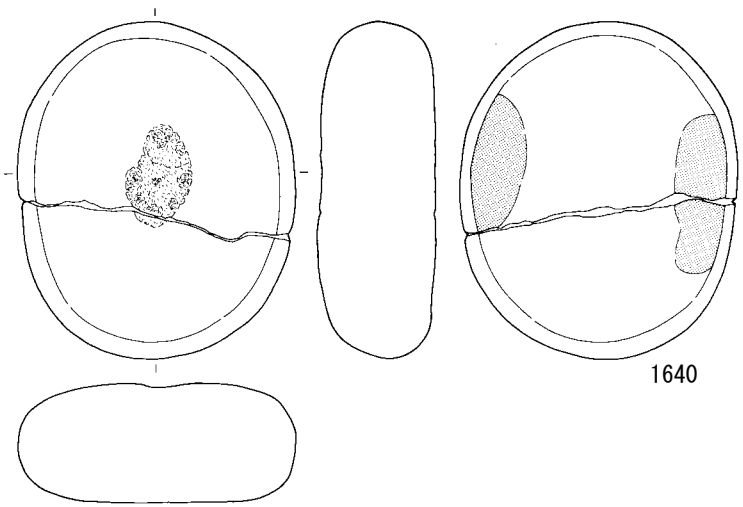
第30図　石器(30)

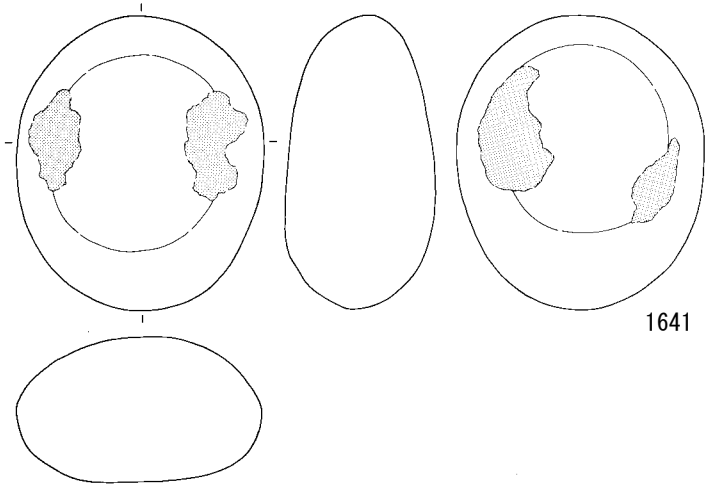


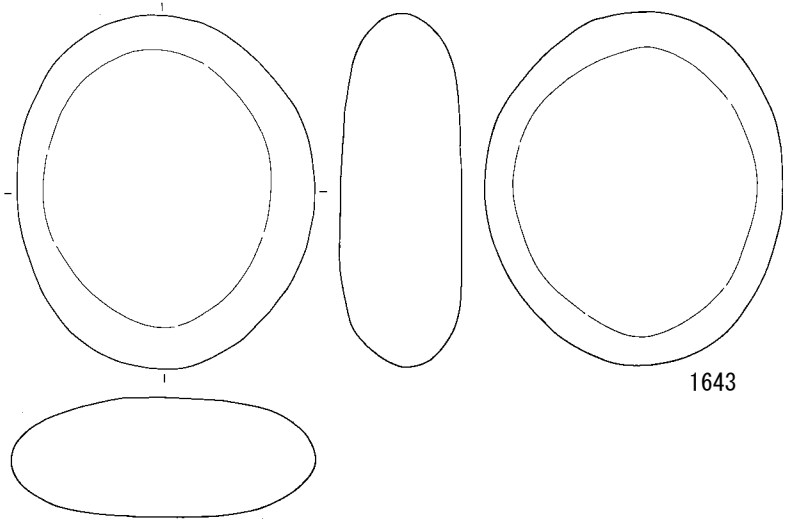
第31図　石器(31)

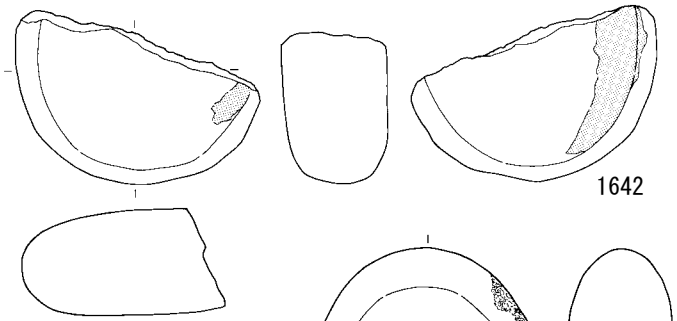


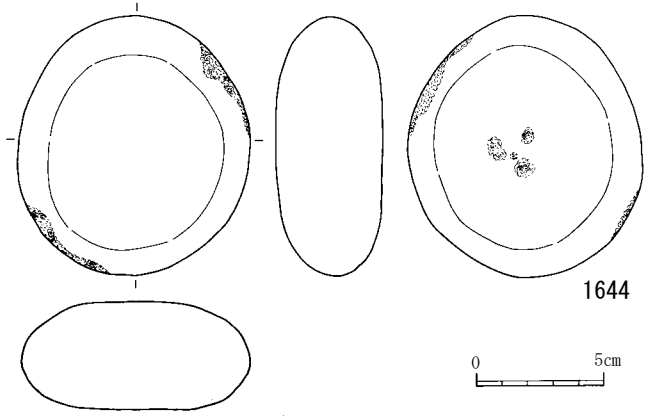
第32図　石器(32)



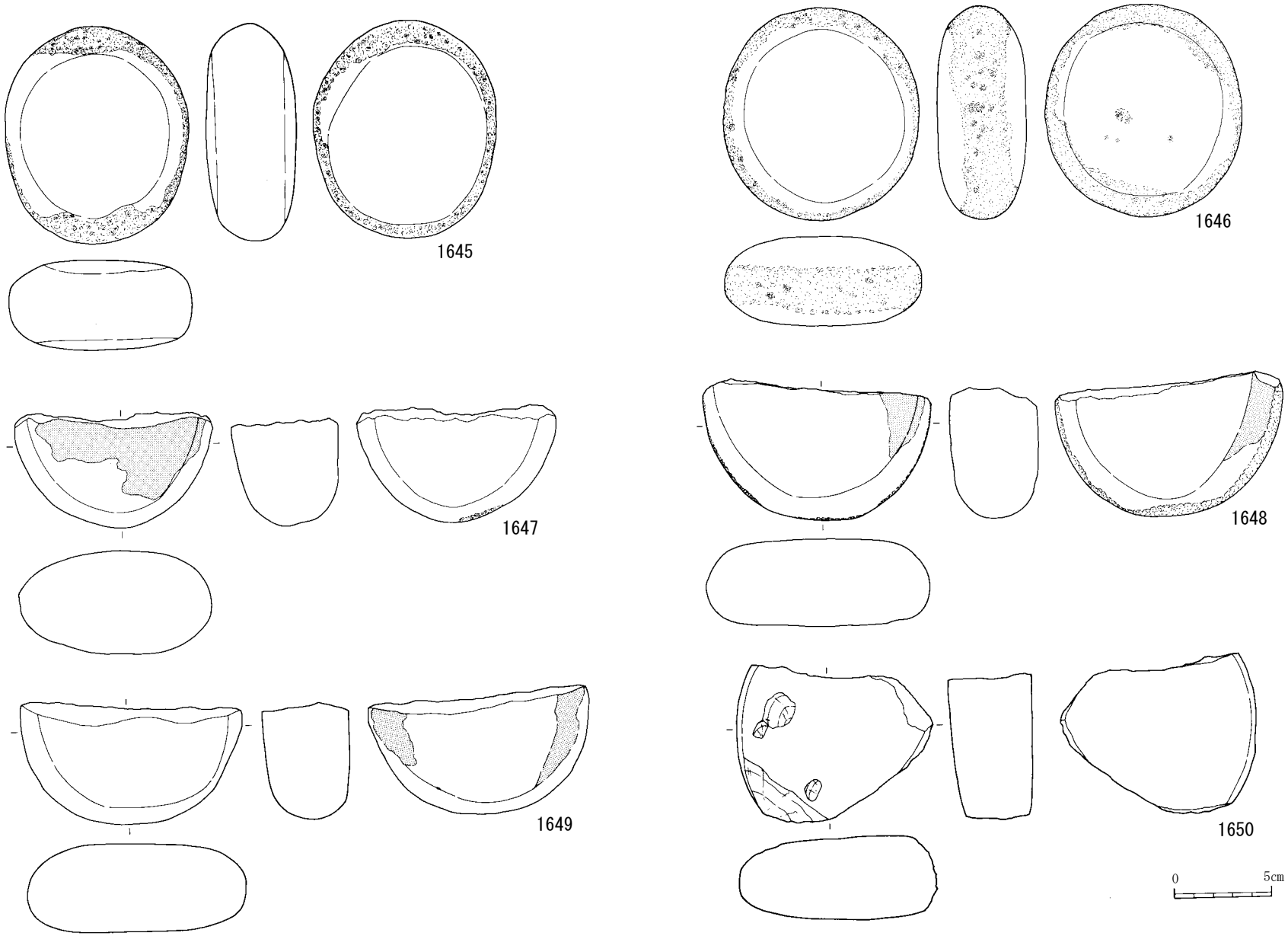




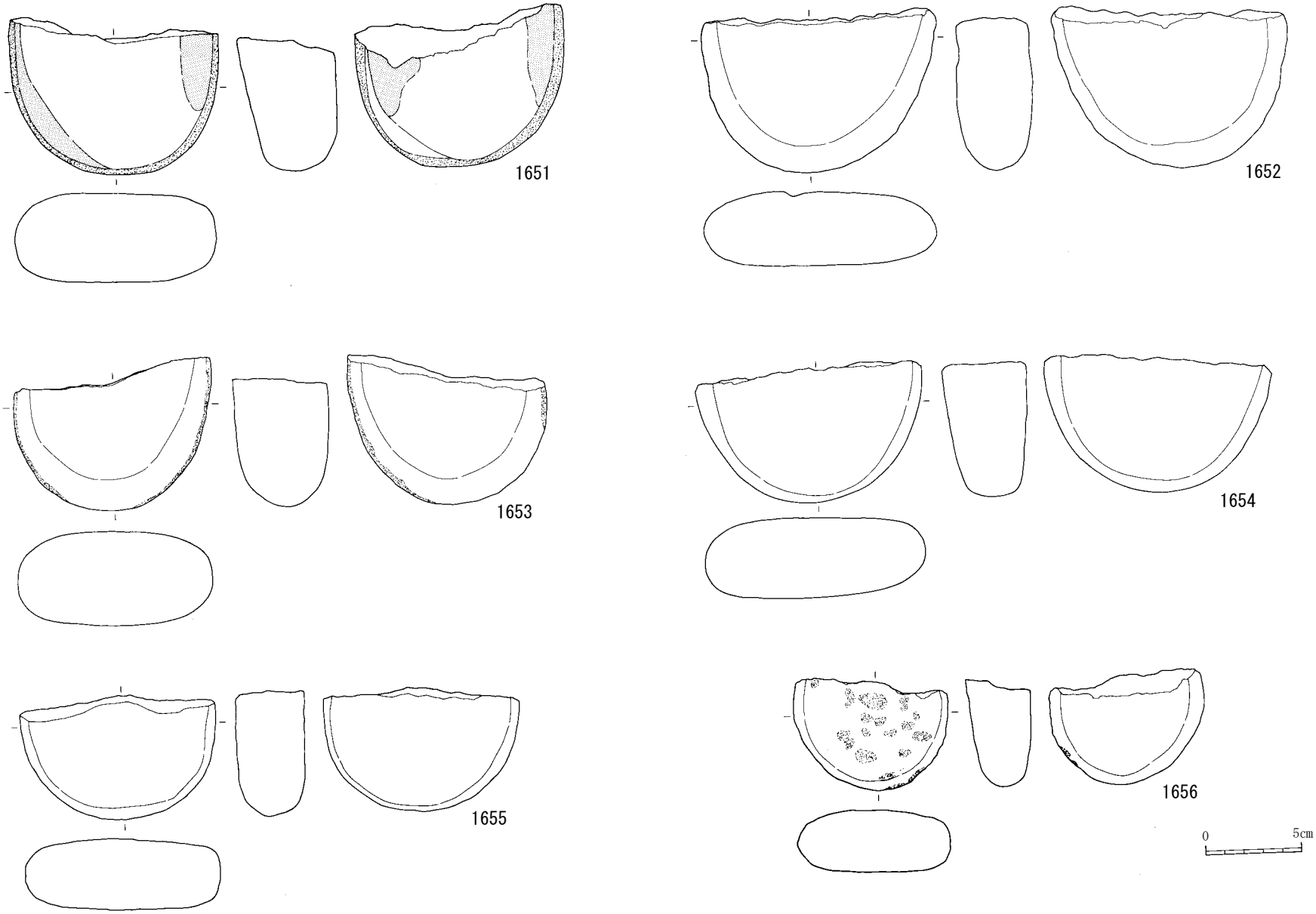




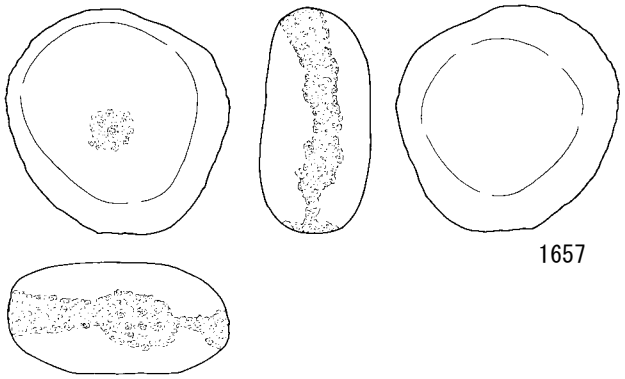
第33図　石器(33)

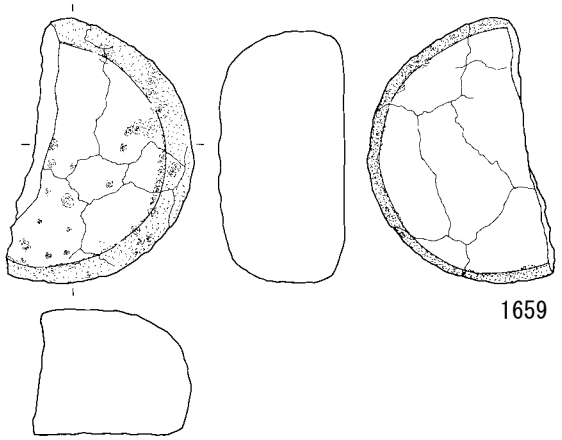


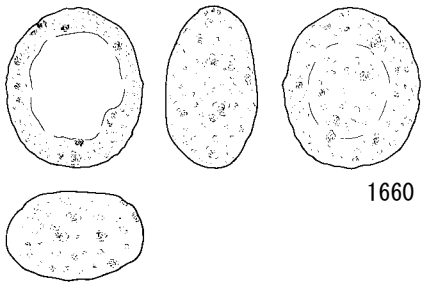
第34図　石器(34)

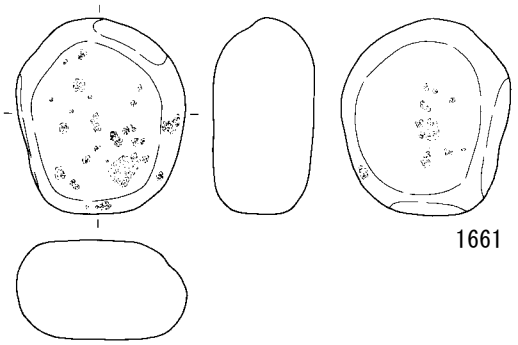


第35図　石器(35)

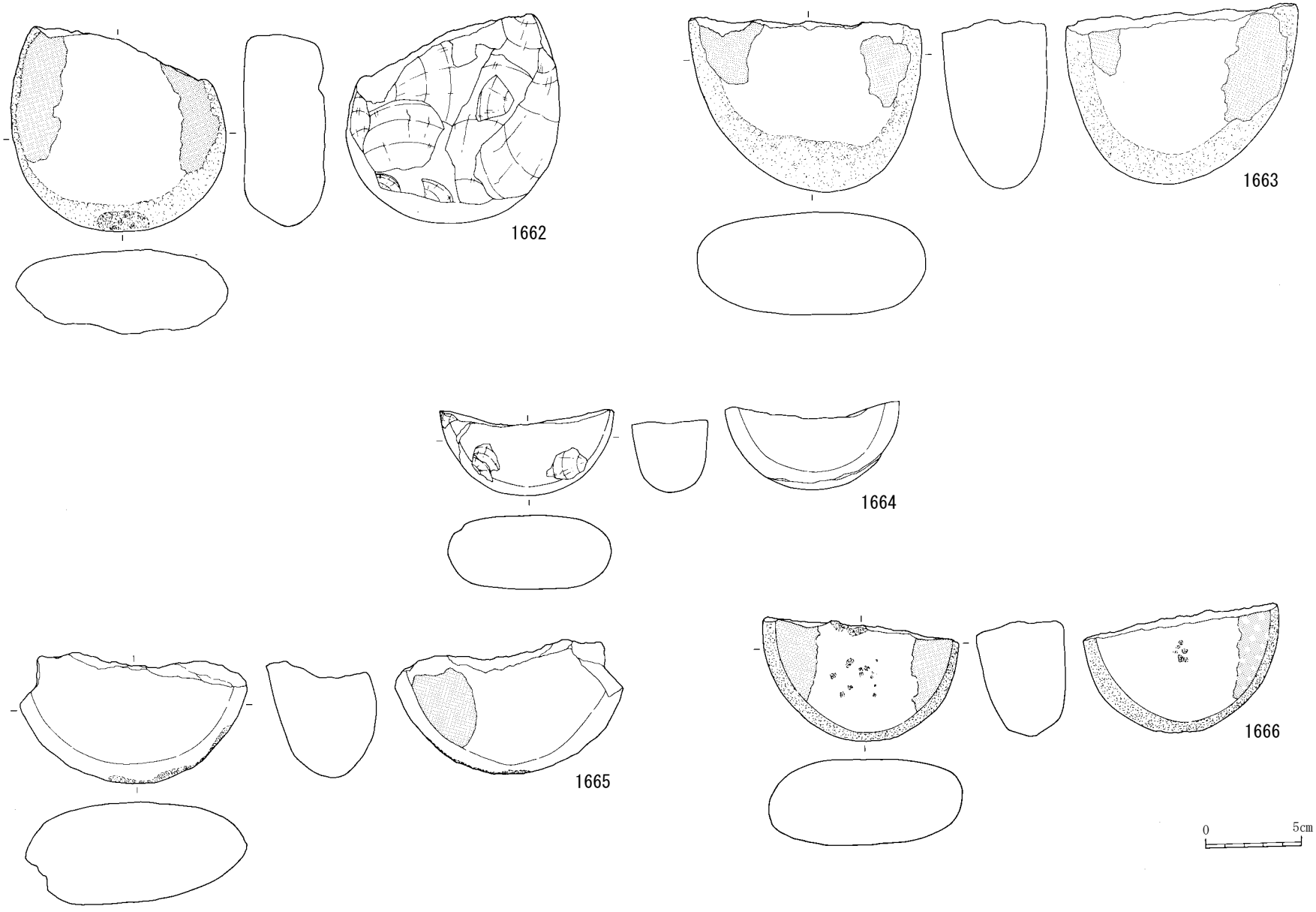




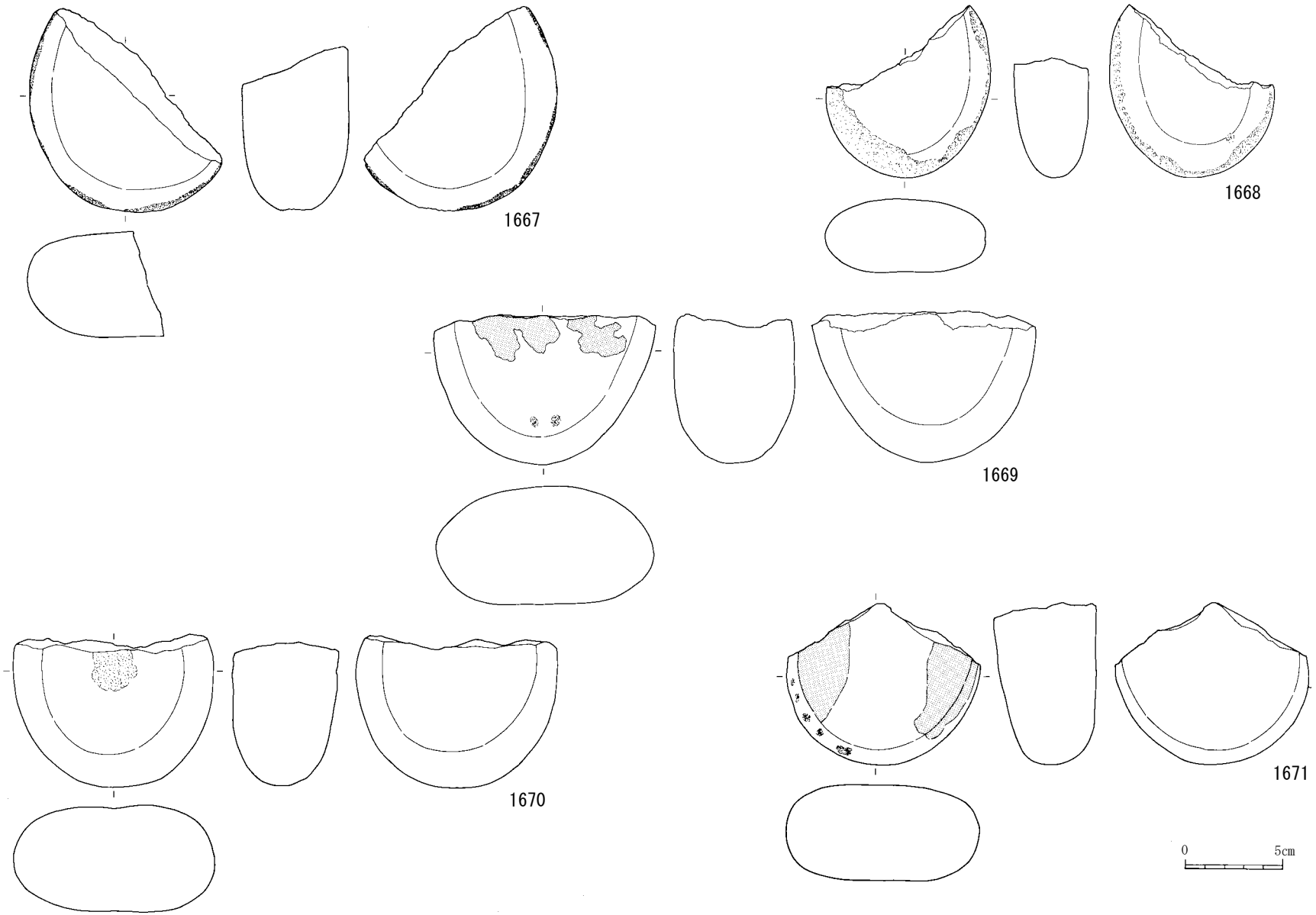




第36図　石器(36)

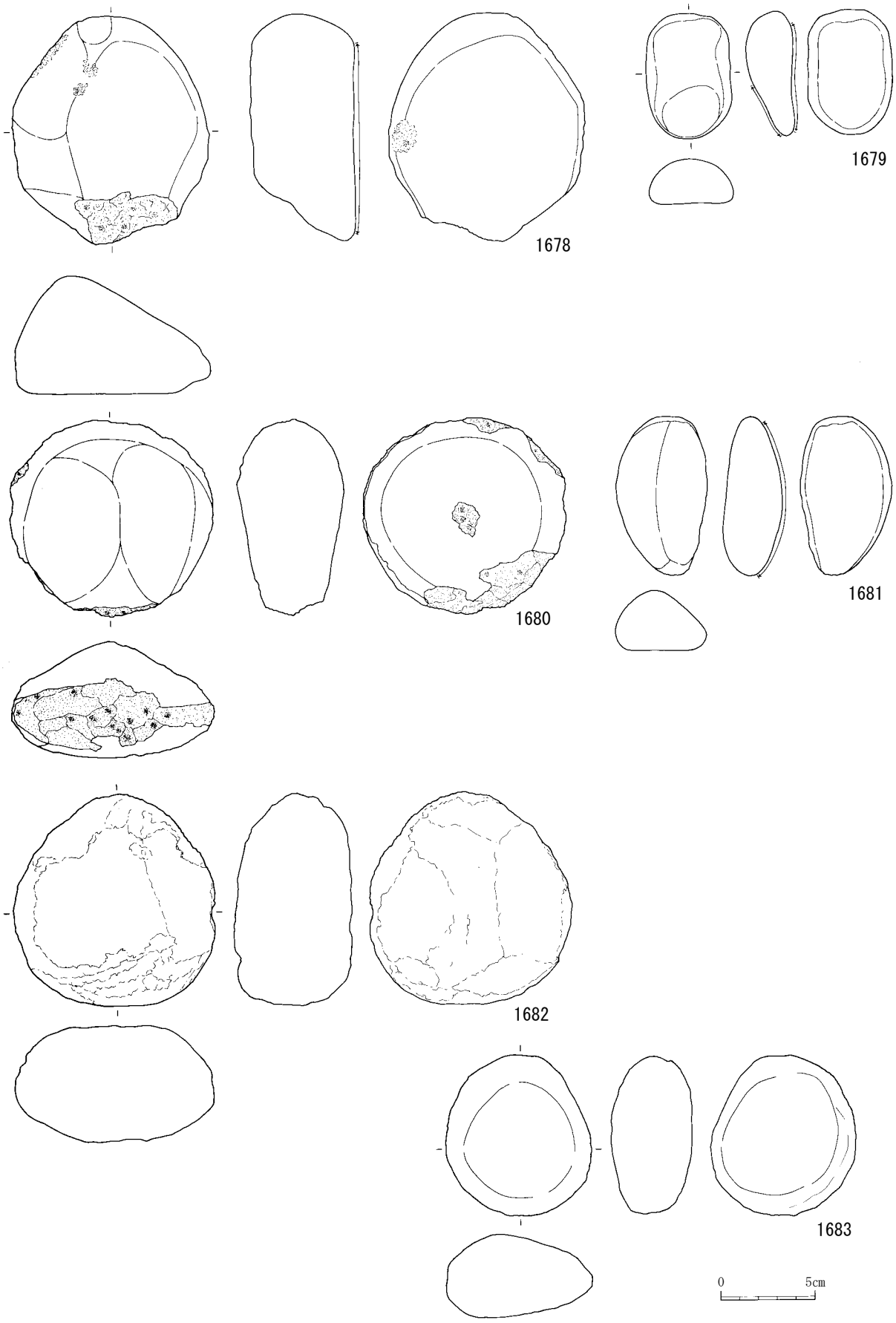


第37図　石器(37)

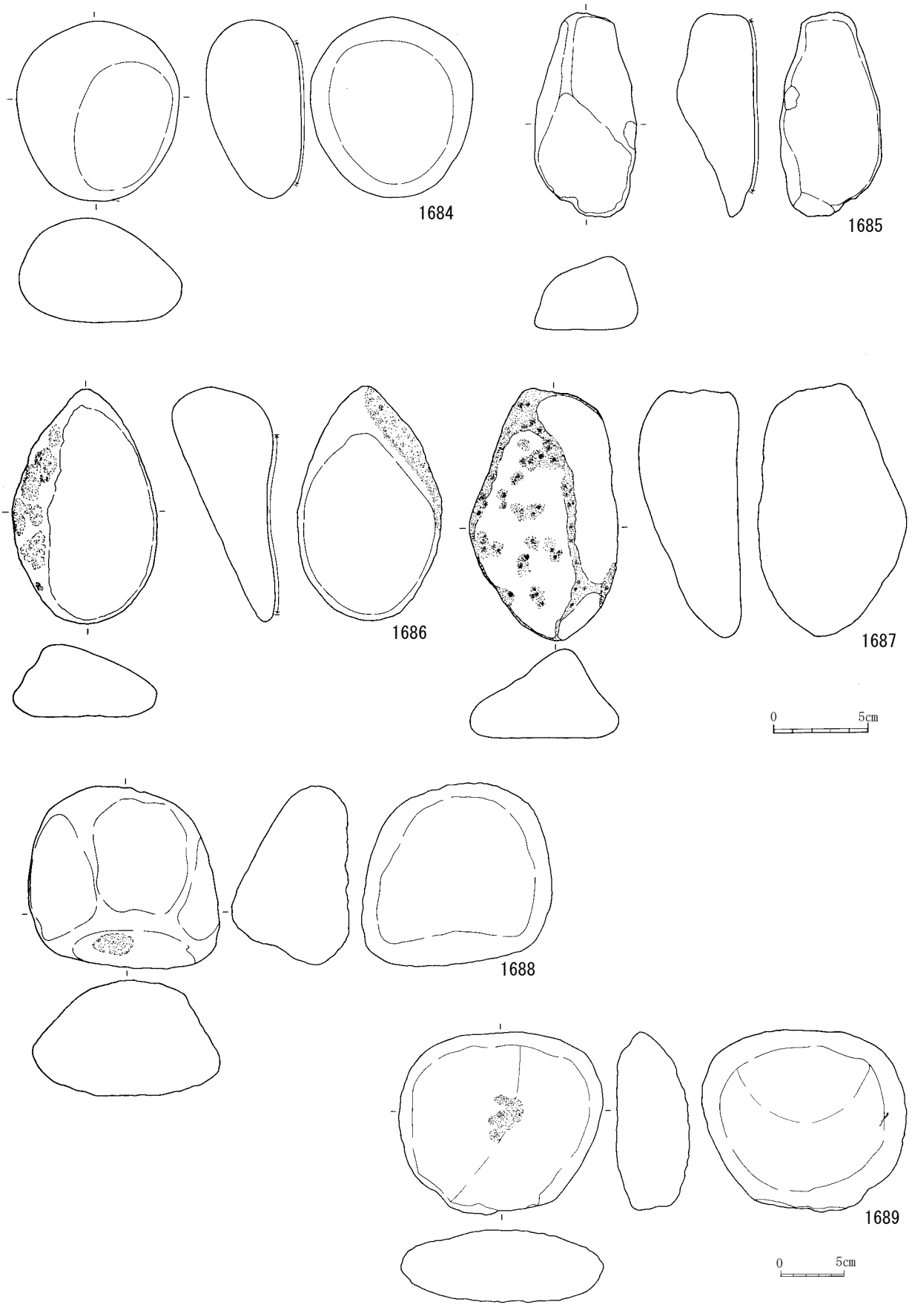


第38図　石器(38)

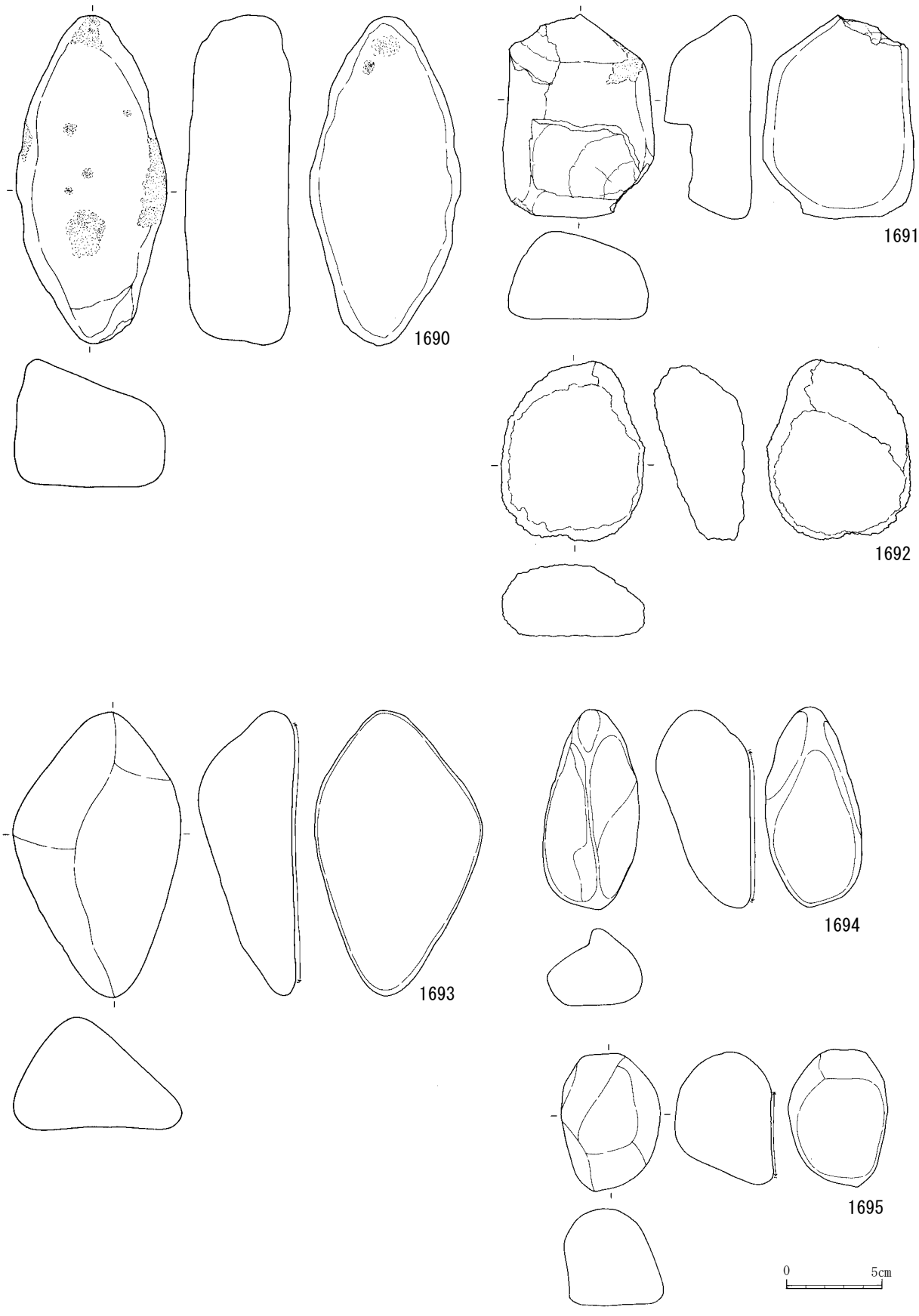
第39図　石器(39)



第40図　石器(40)

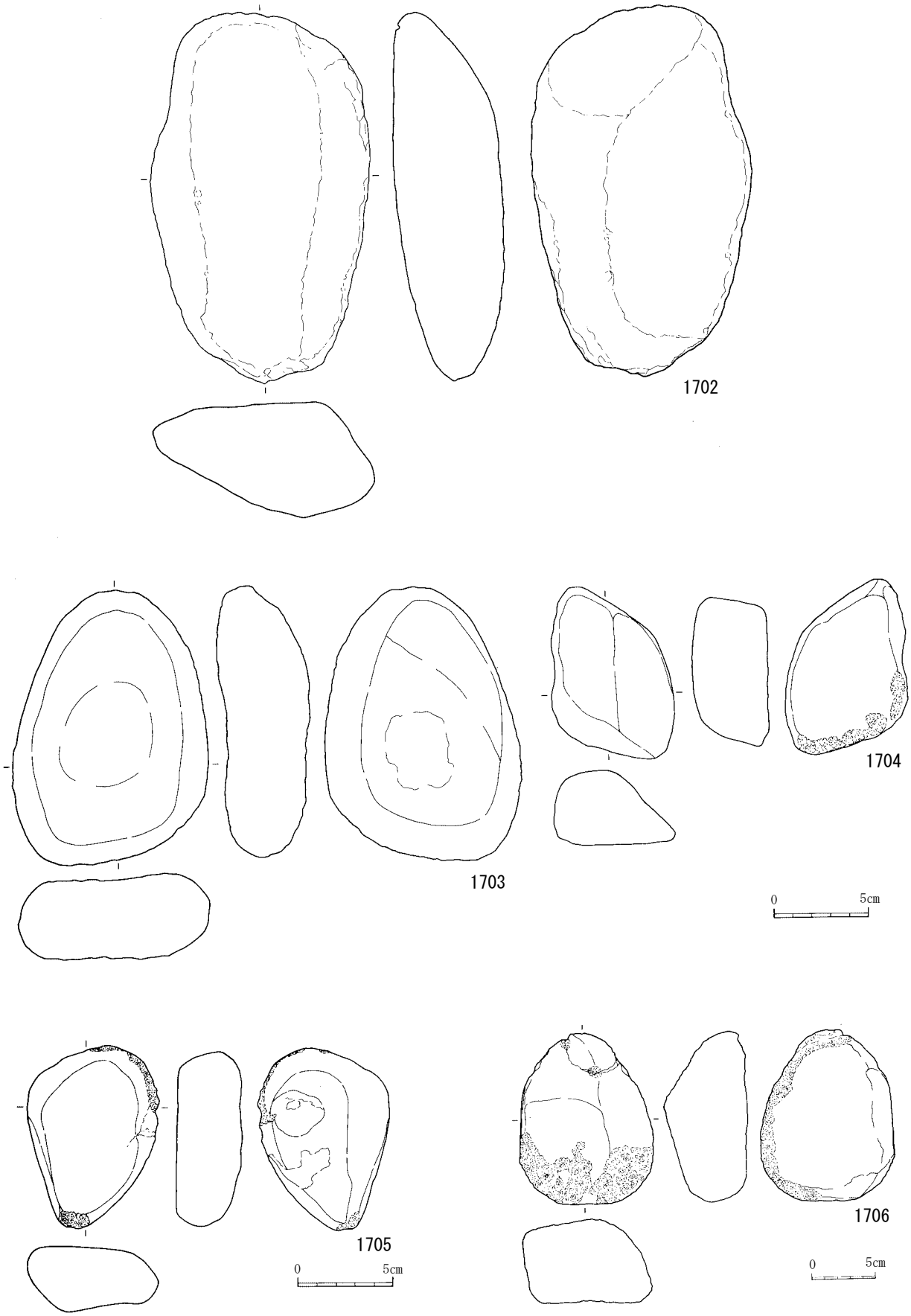


第41図　石器(41)

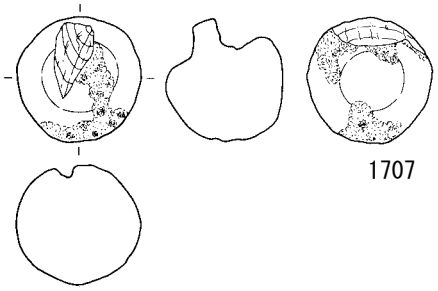


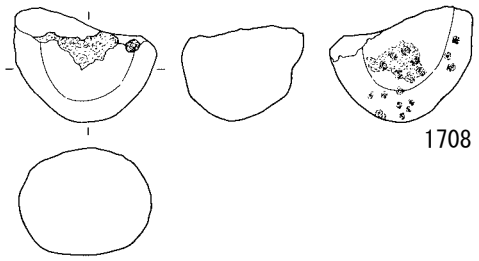
第42図　石器(42)

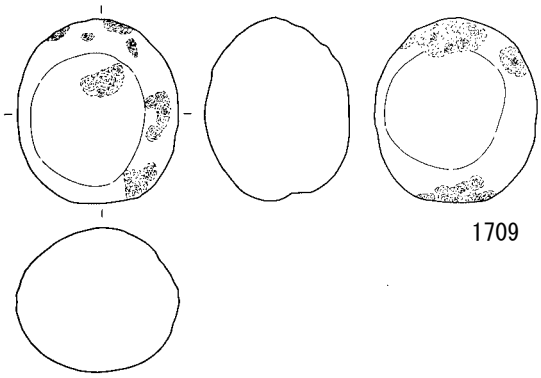
第43図　石器(43)

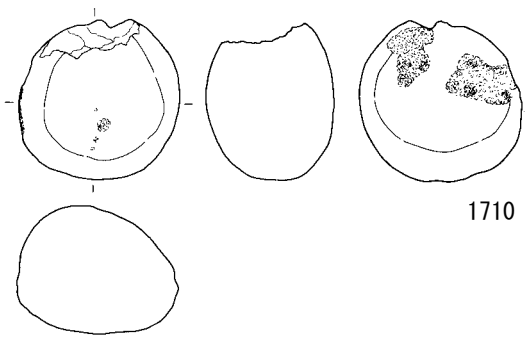


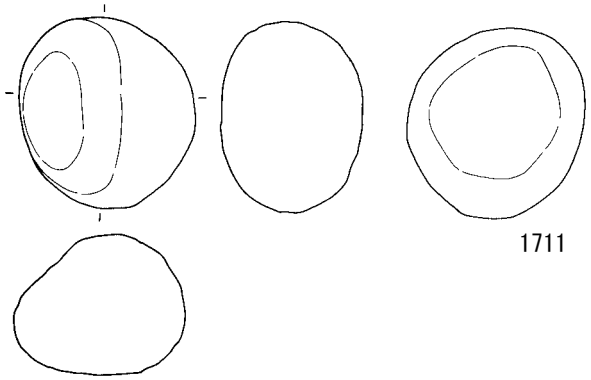
第44図　石器(44)

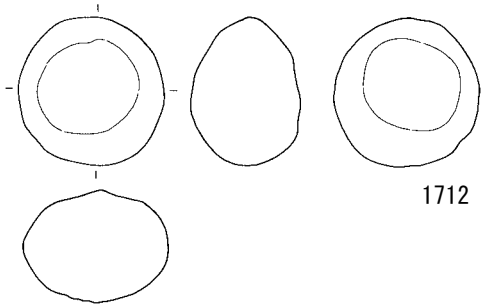


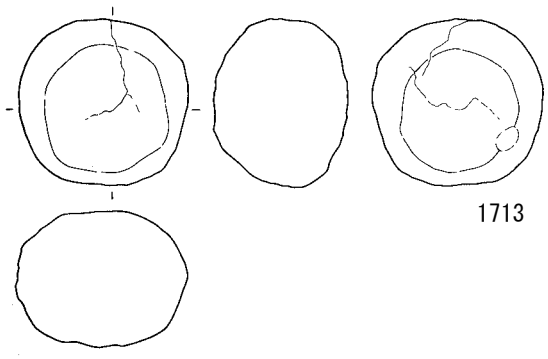


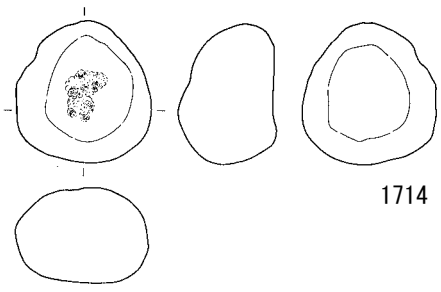


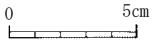




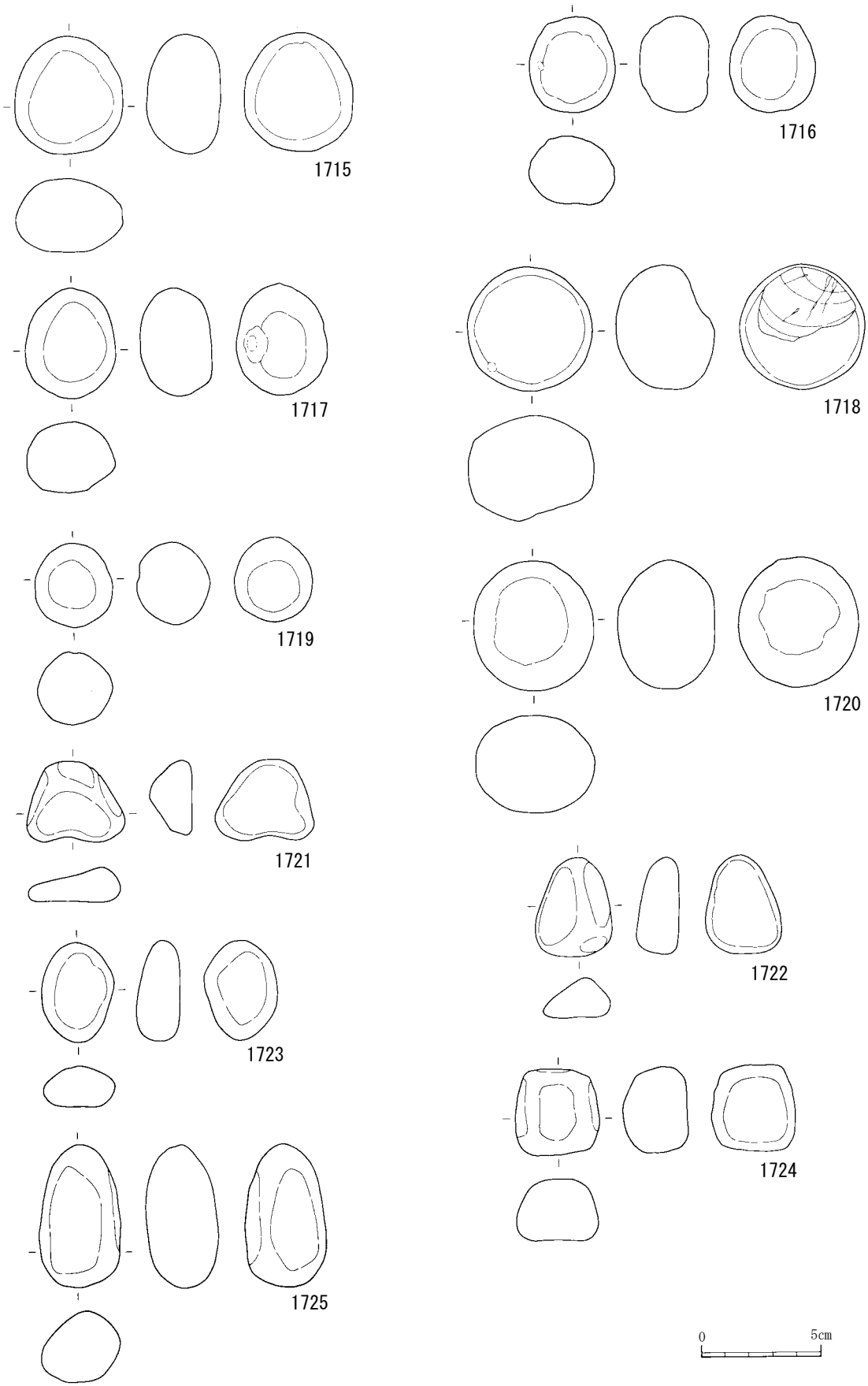




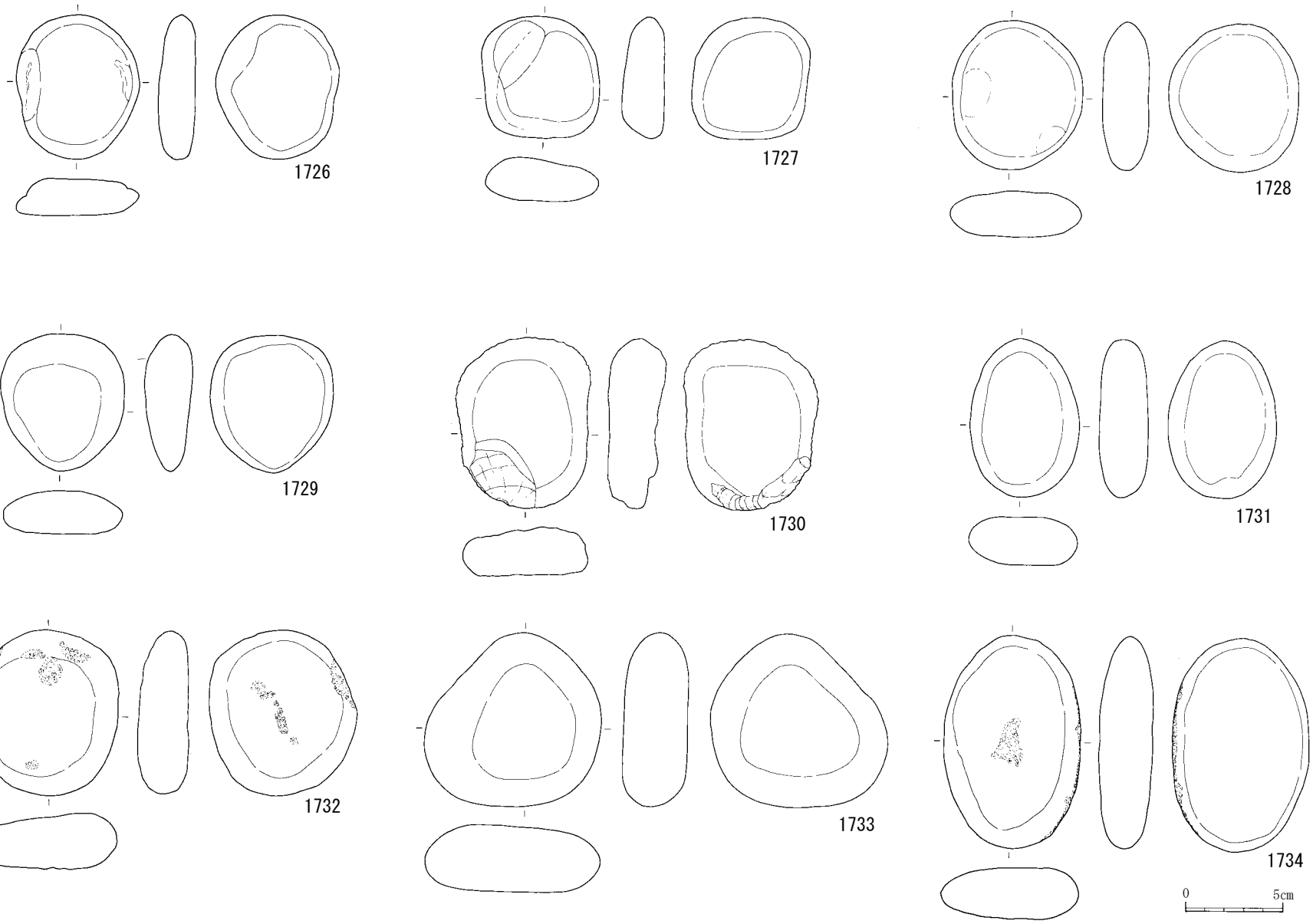




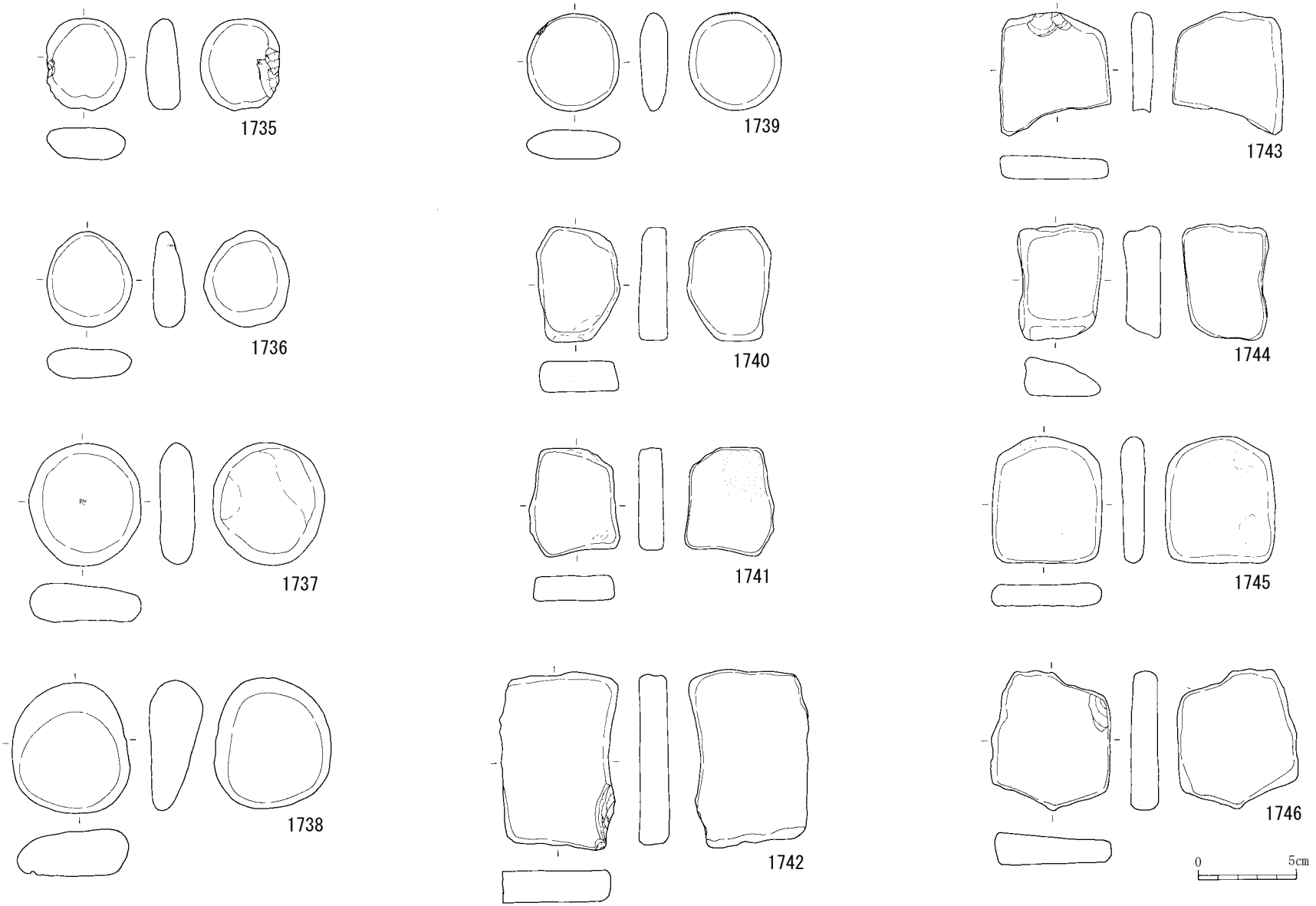
第45図　石器(45)



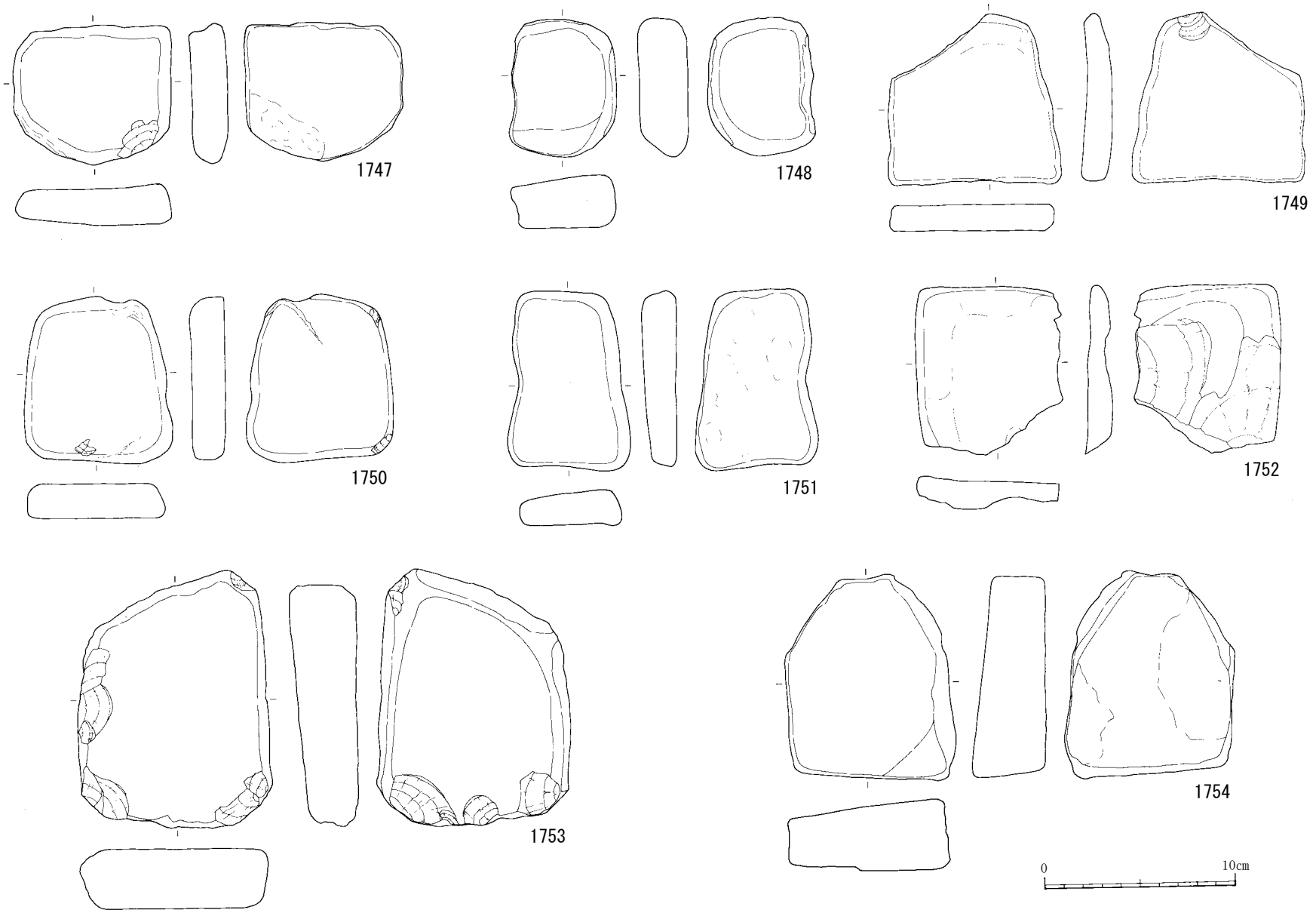
第46図　石器(46)



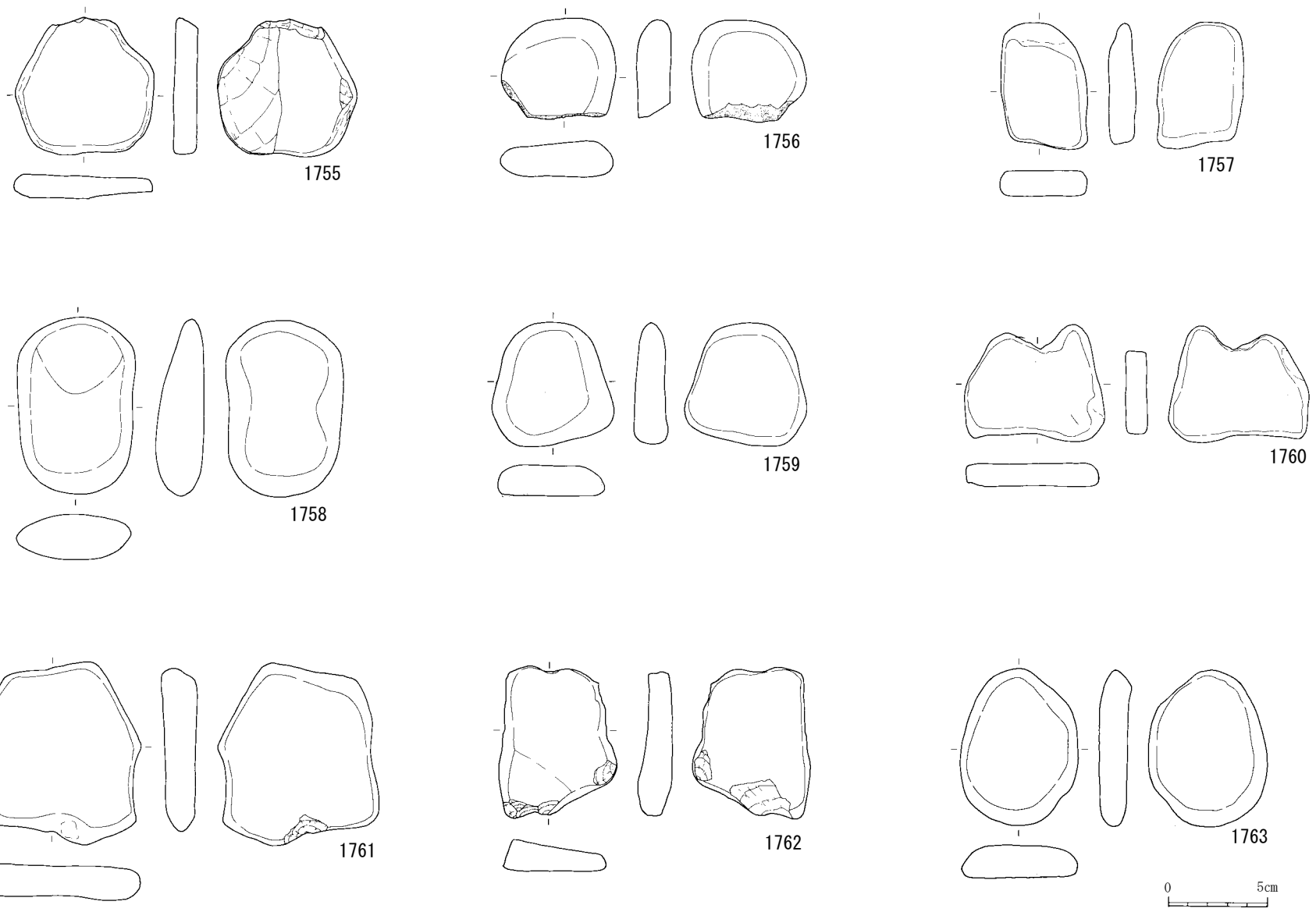
第47図　石器(47)


1735
1736
1737
1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745
1746
0
5cm

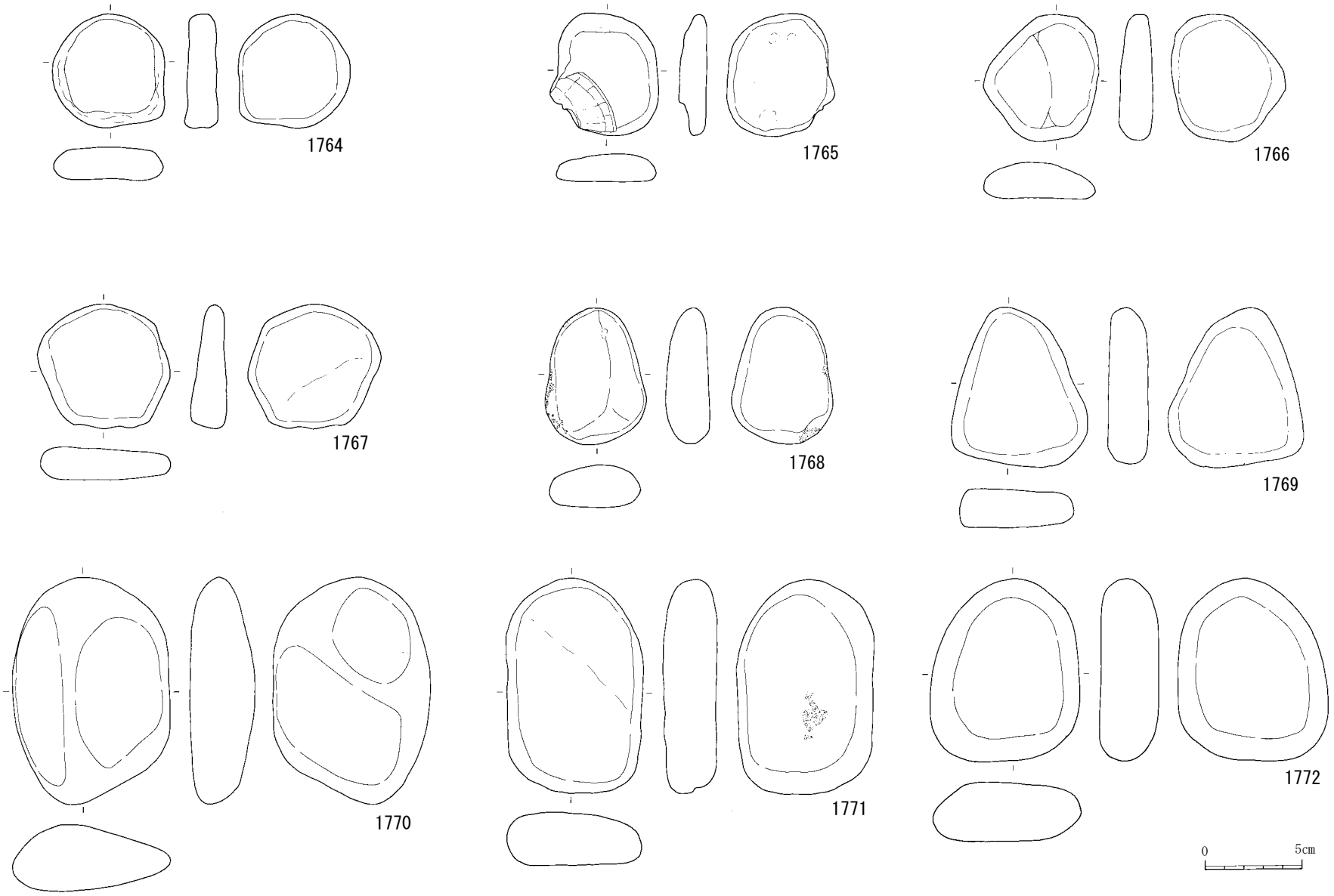
第48図　石器(48)



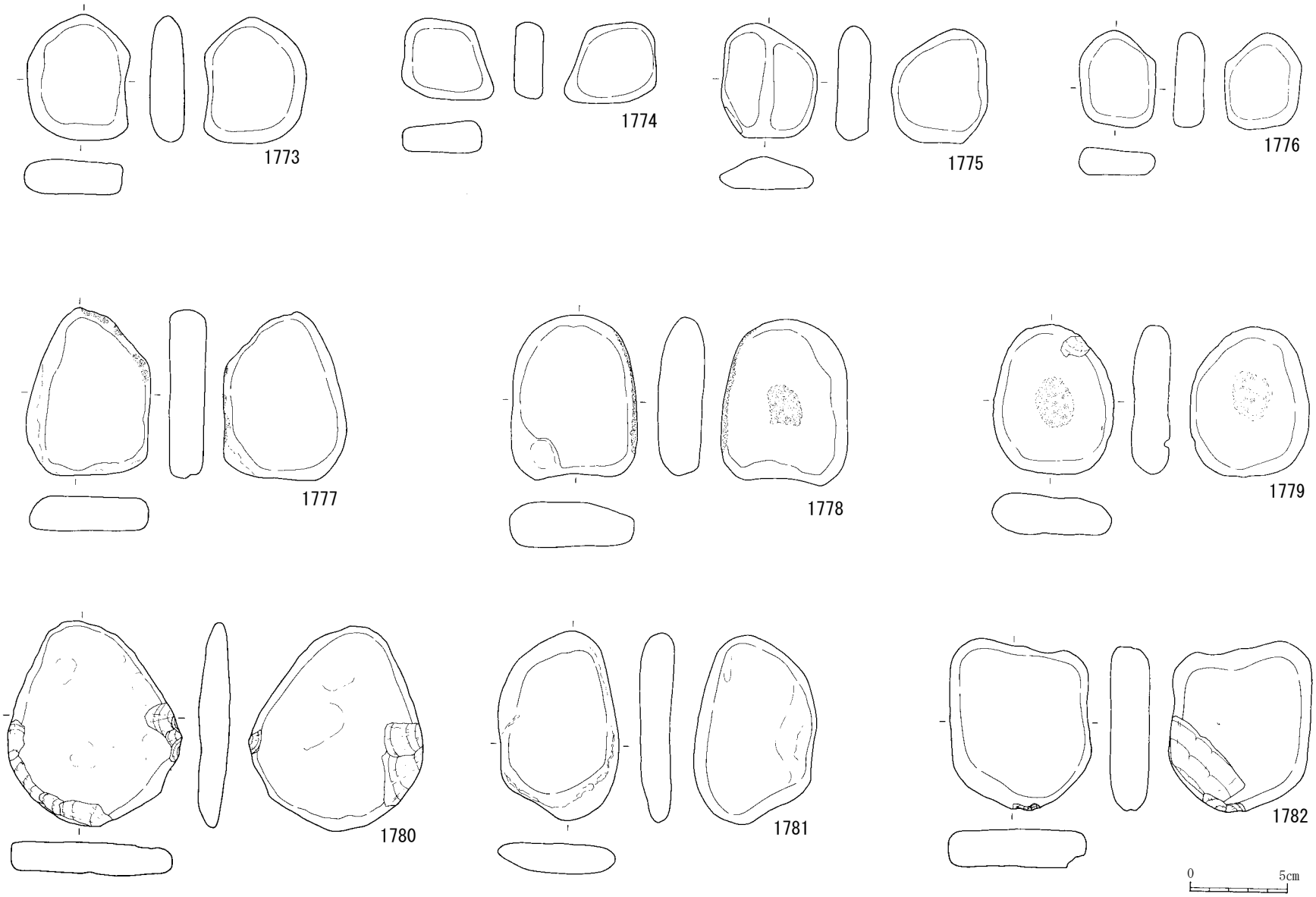
第49図　石器(49)



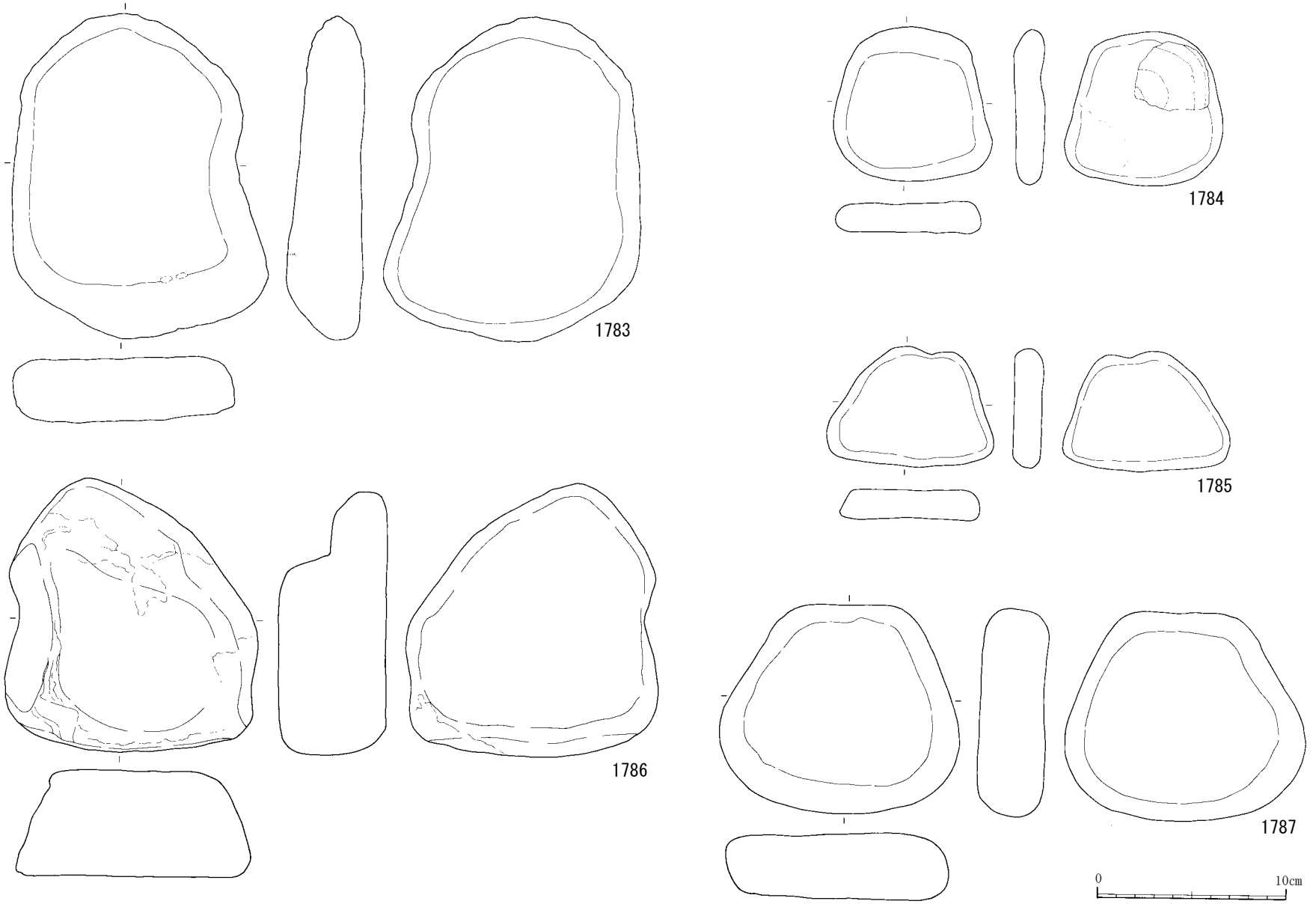
第50図　石器(50)



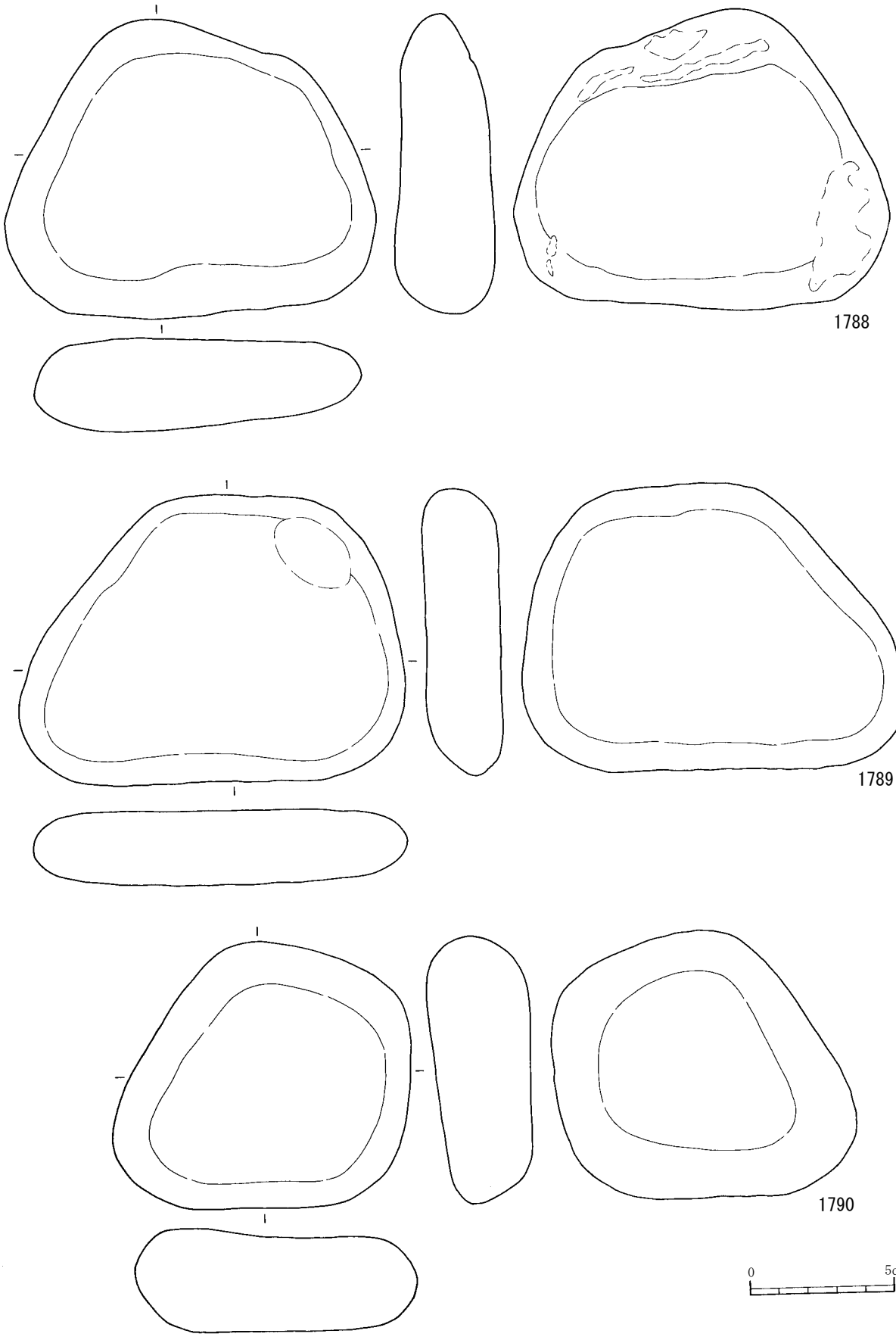
第51図　石器(51)



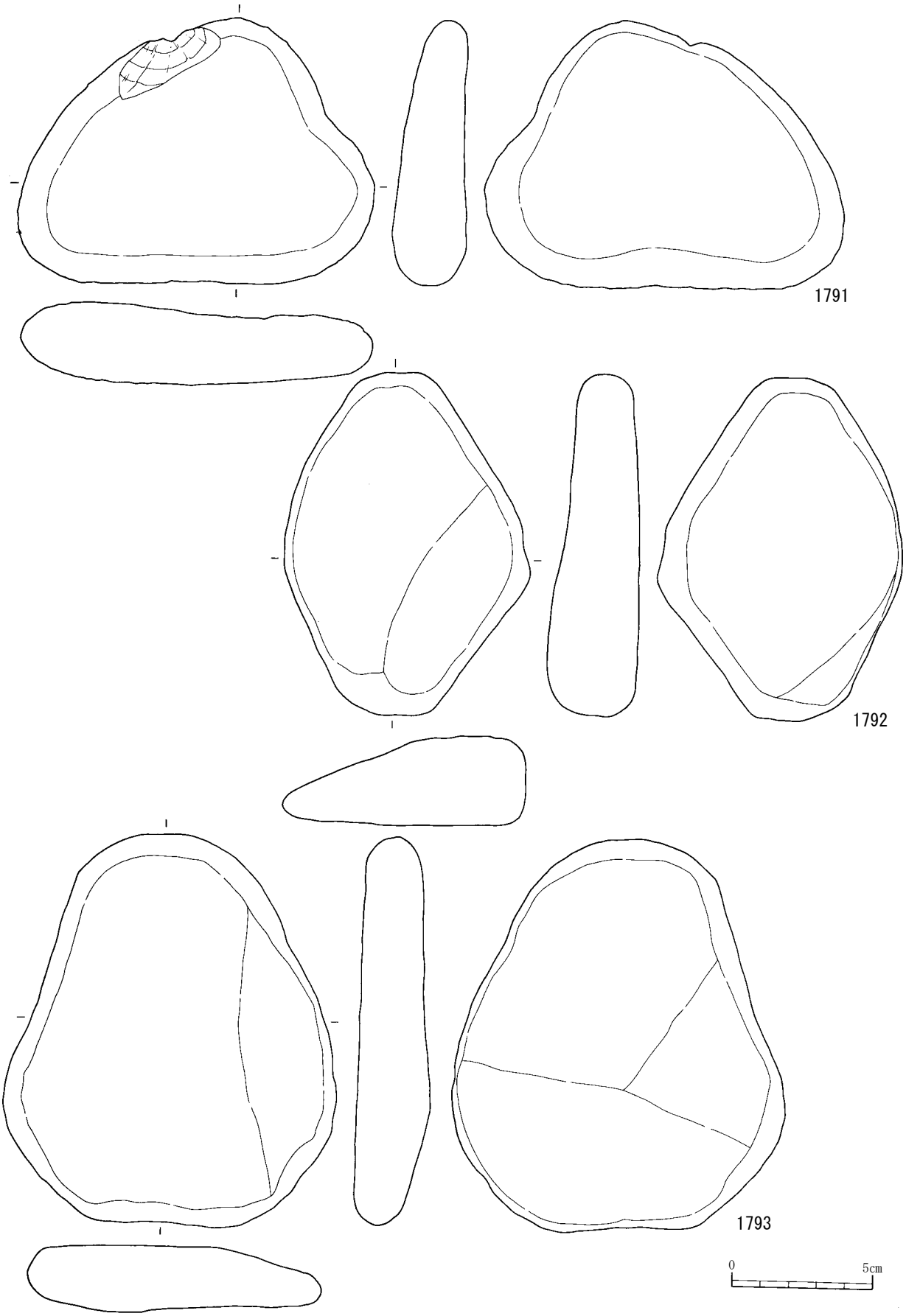
第52図　石器(52)



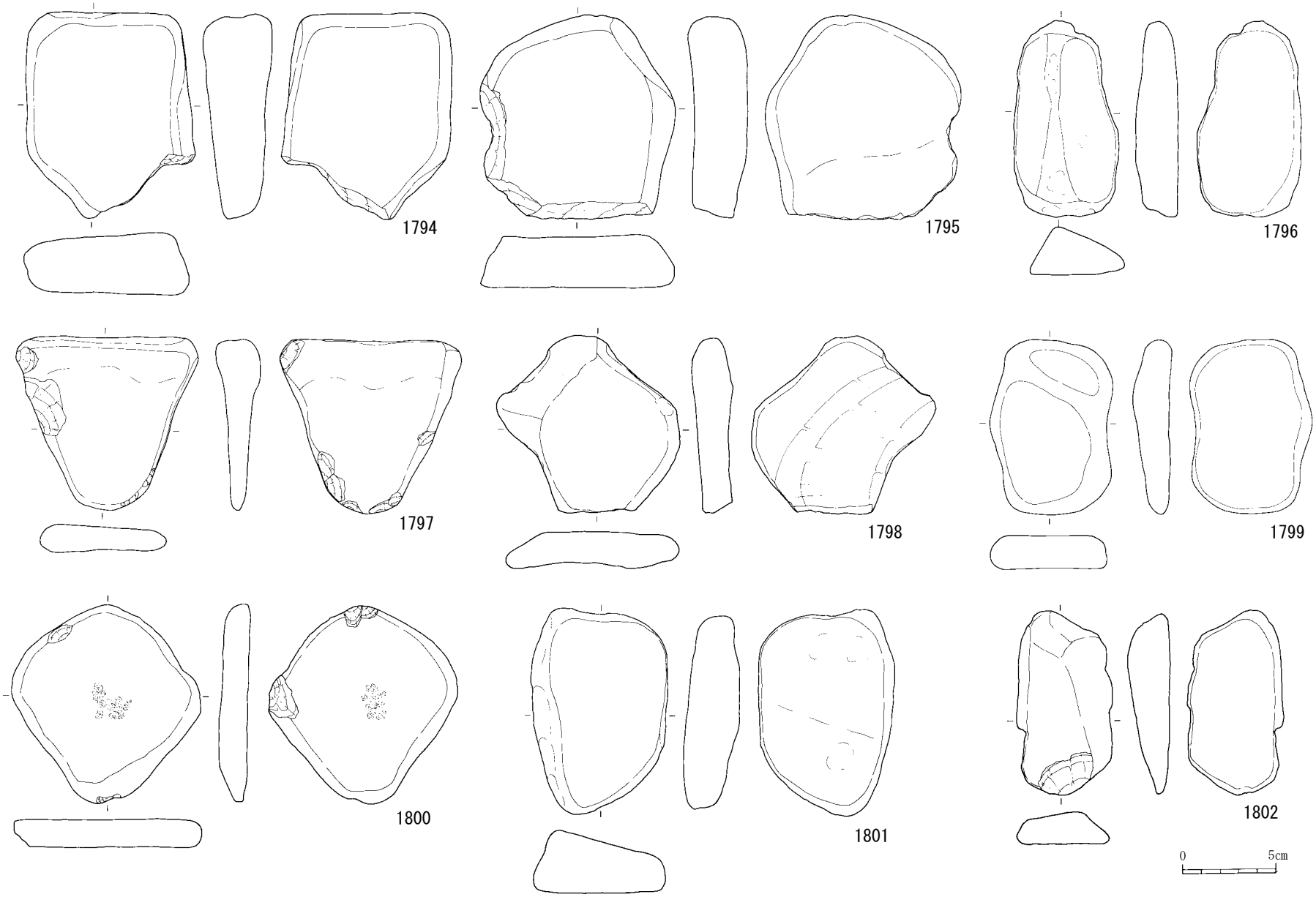
第53図　石器(53)



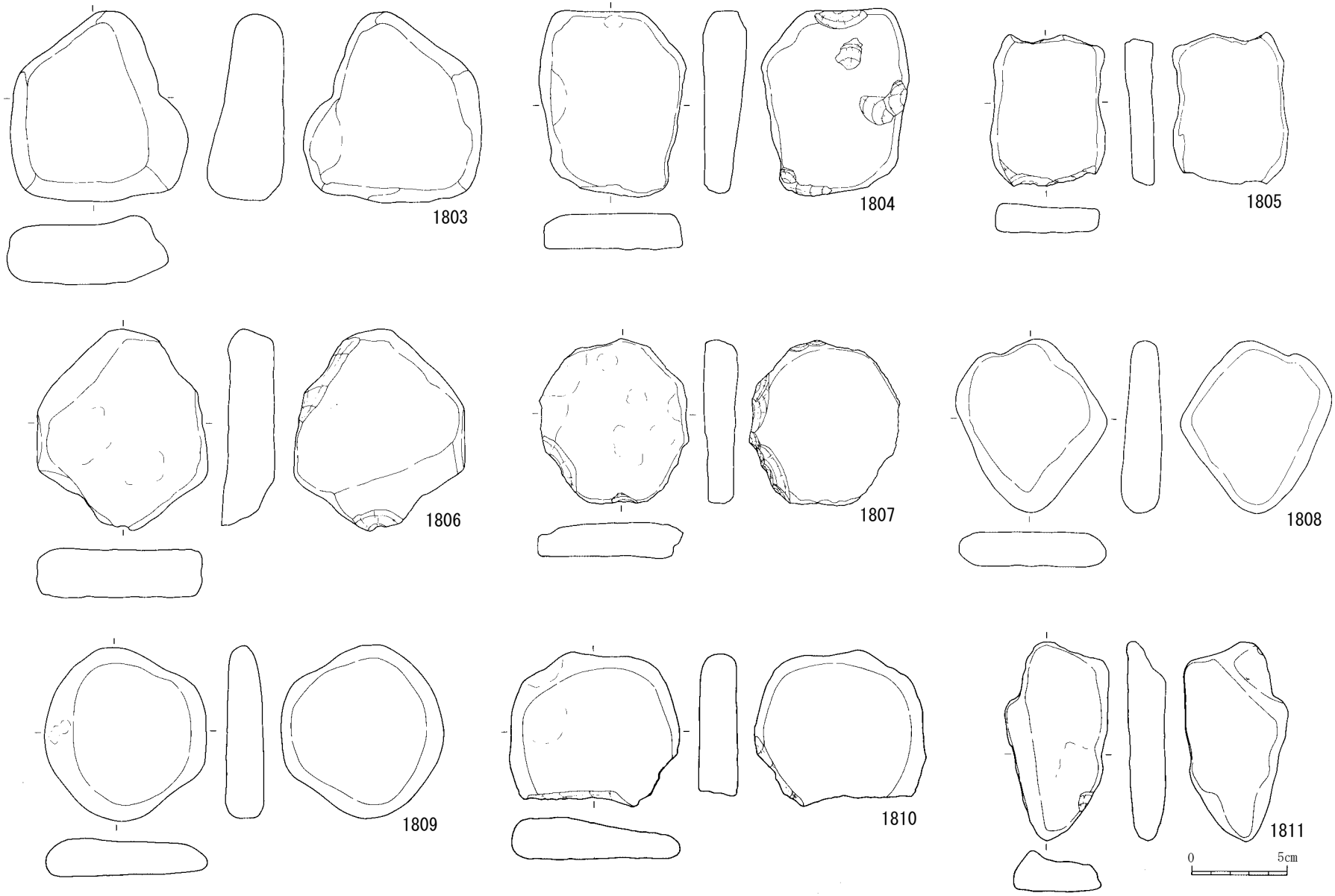
第54図　石器(54)



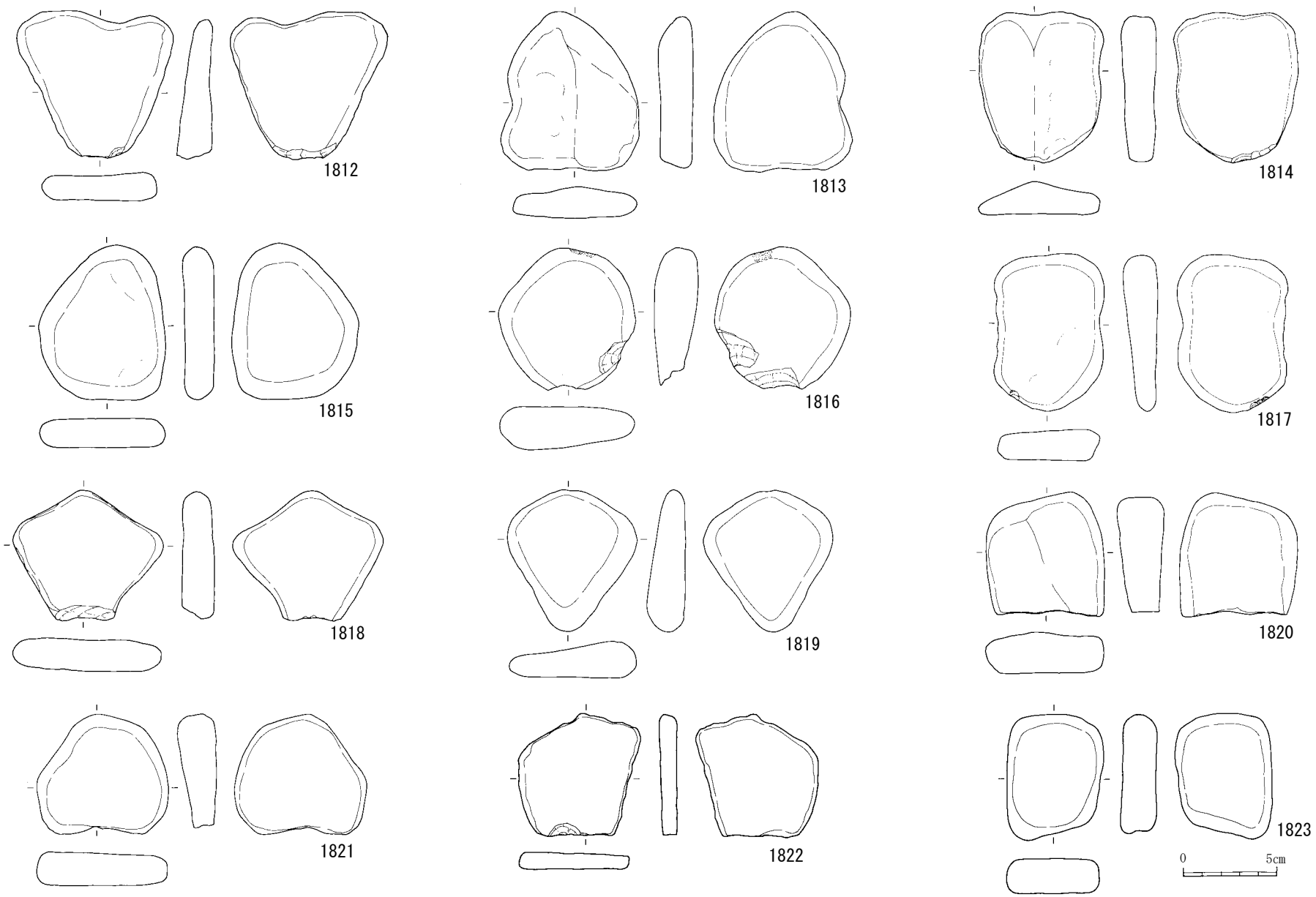
第55図　石器(55)



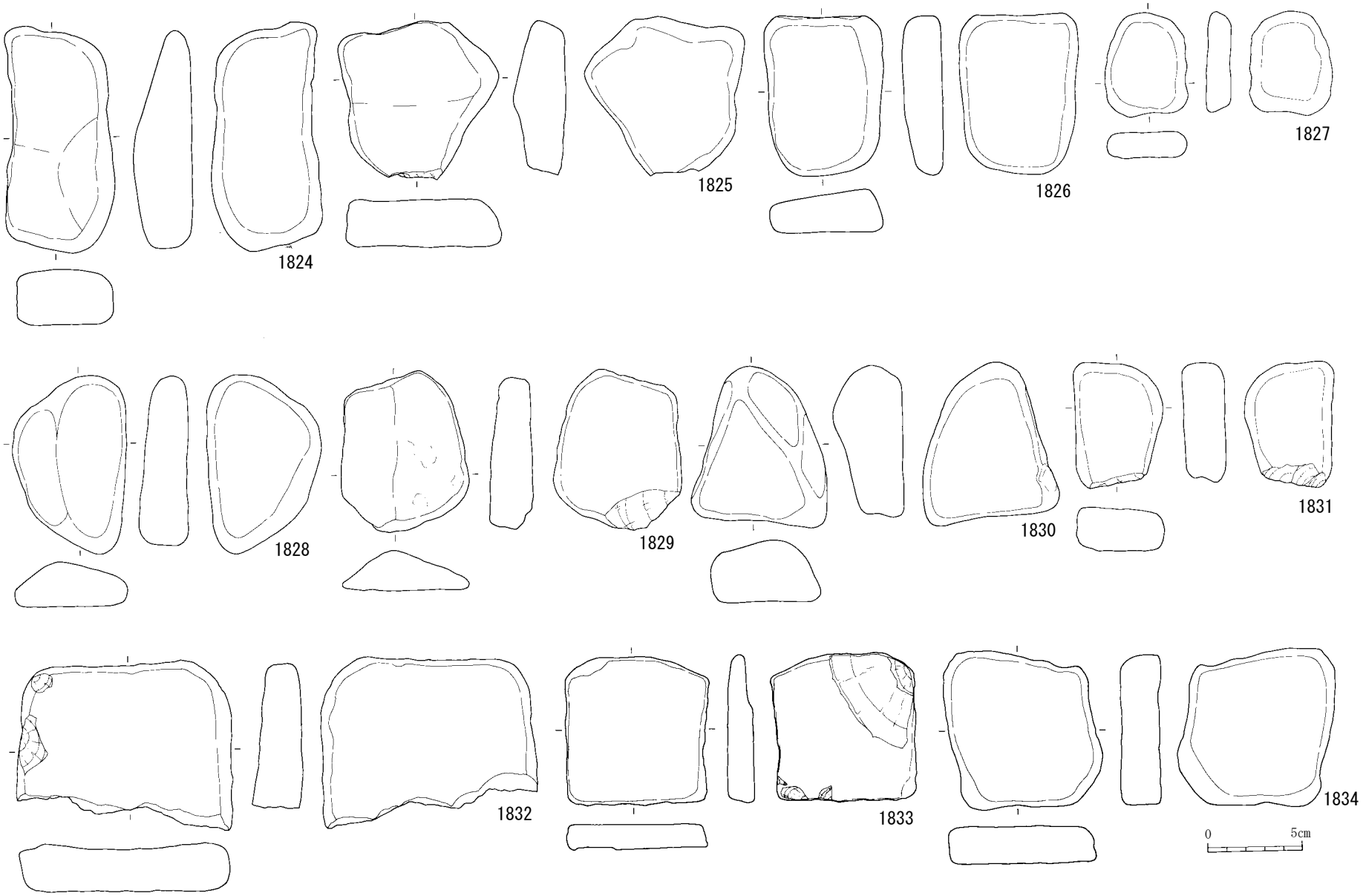
第56図　石器(56)



第57図　石器(57)

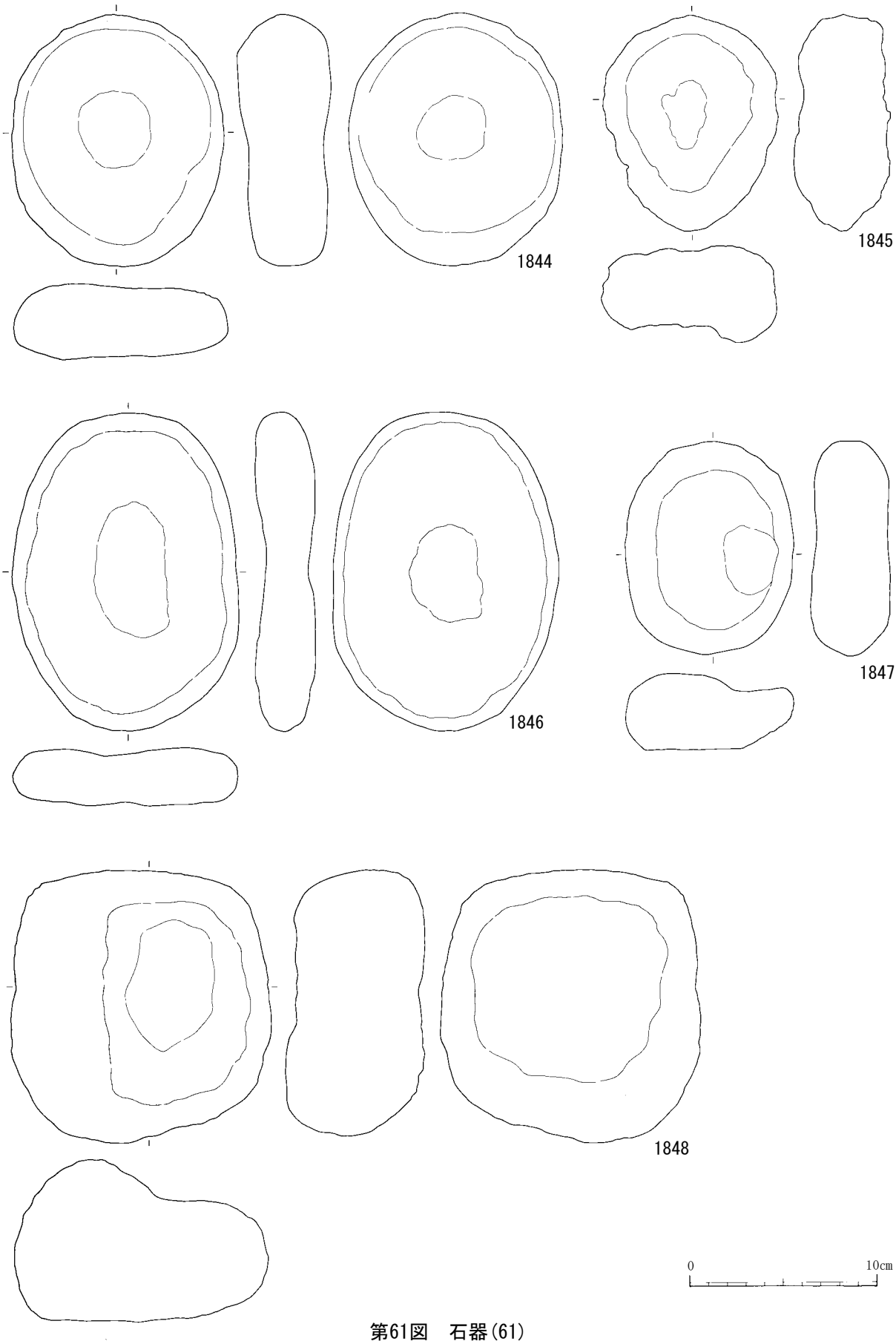

1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
1819
1820
1821
1822
1823
0
5cm

第58図　石器(58)

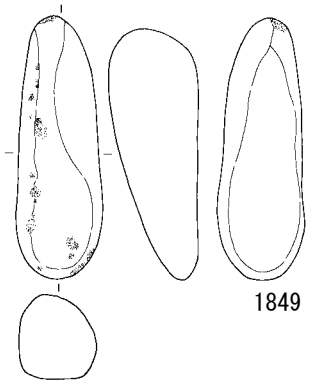


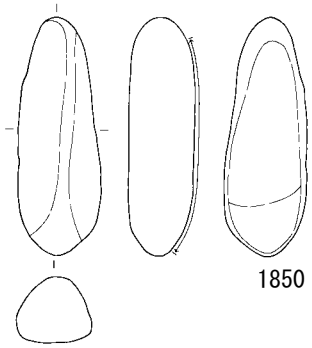
第59図　石器(59)

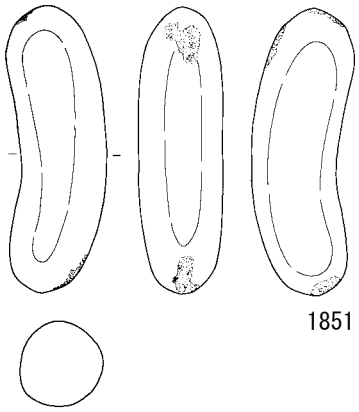
第60図　石器(60)

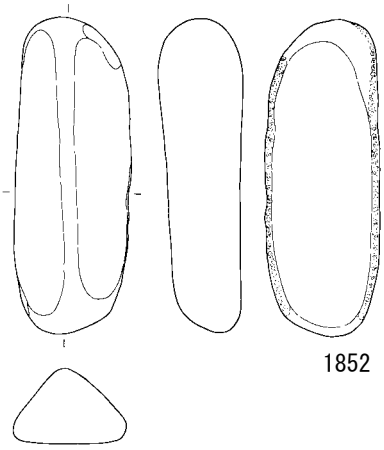


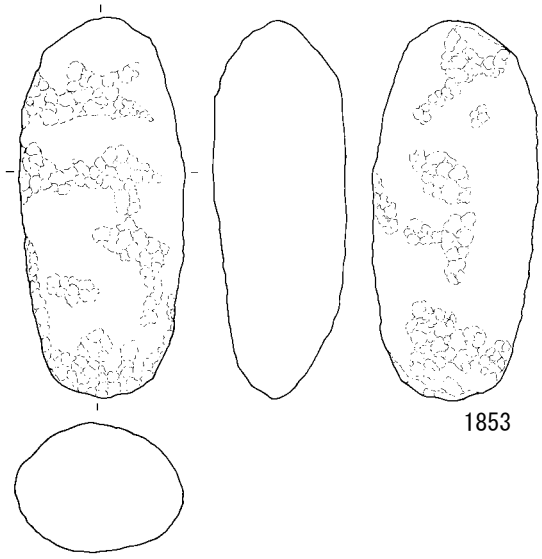
第61図　石器(61)

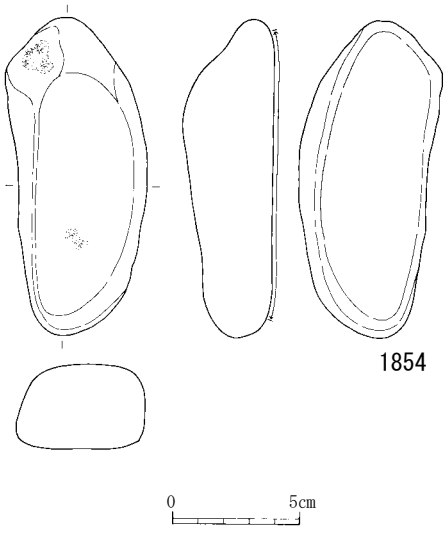




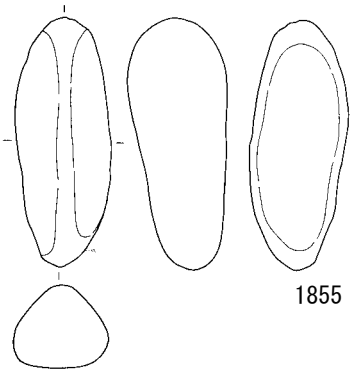


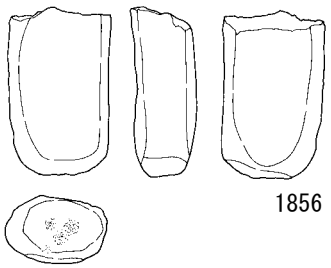


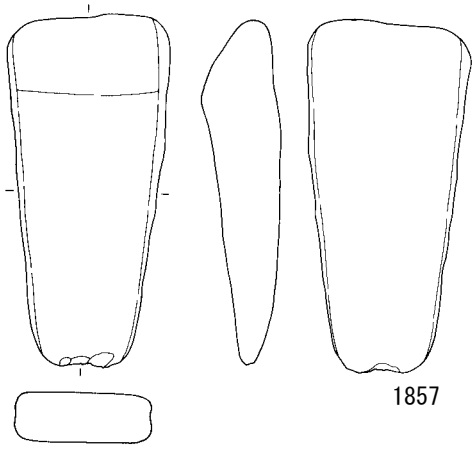


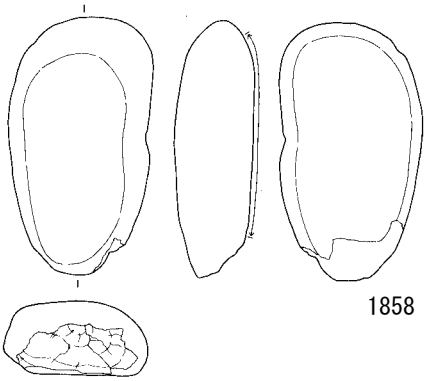


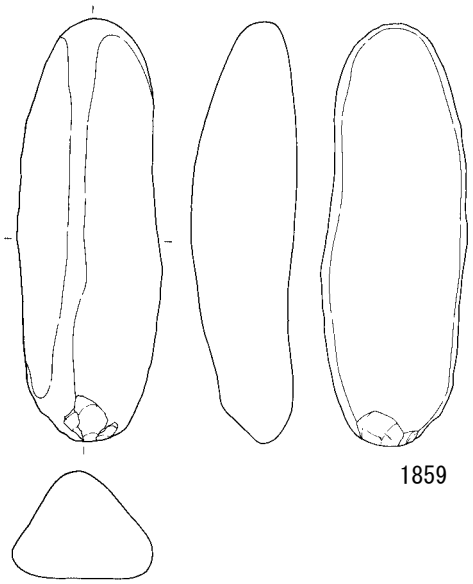
第62図　石器(62)

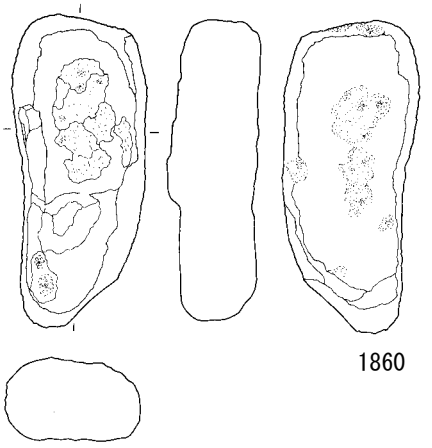




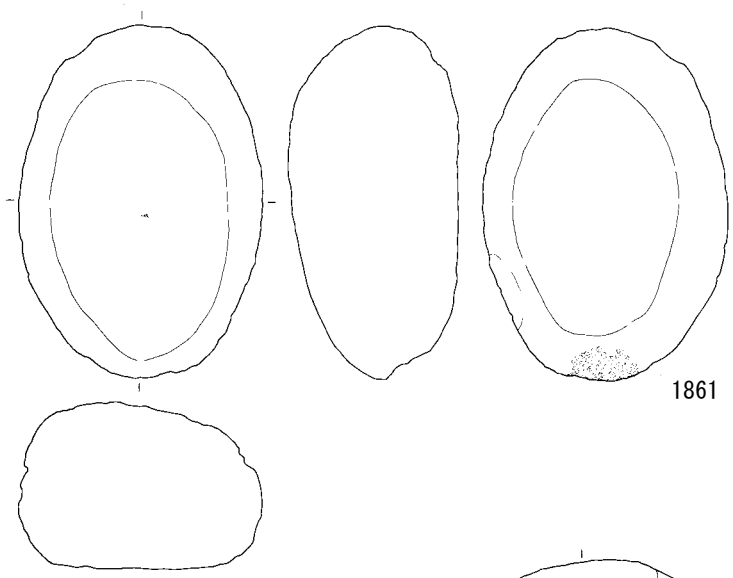


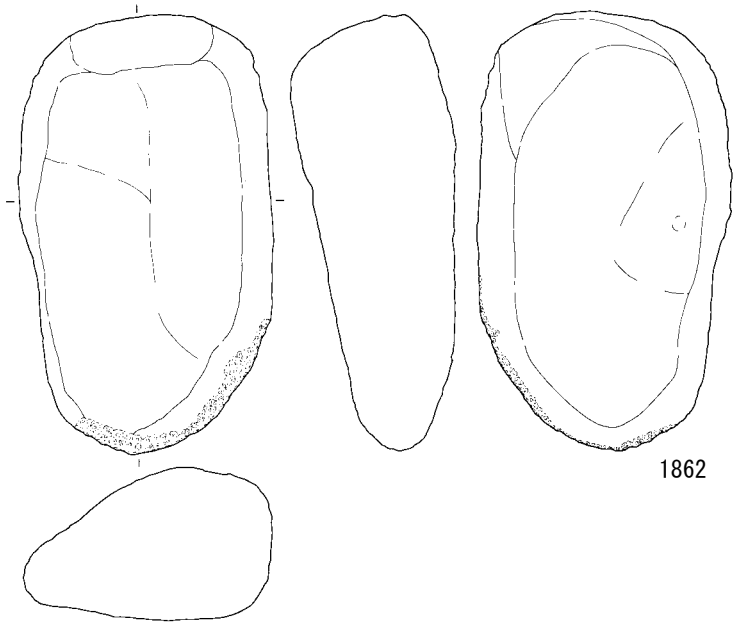


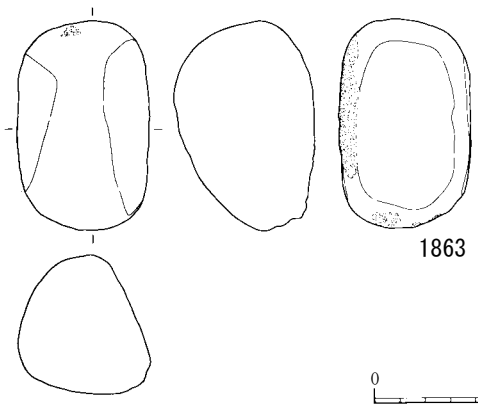


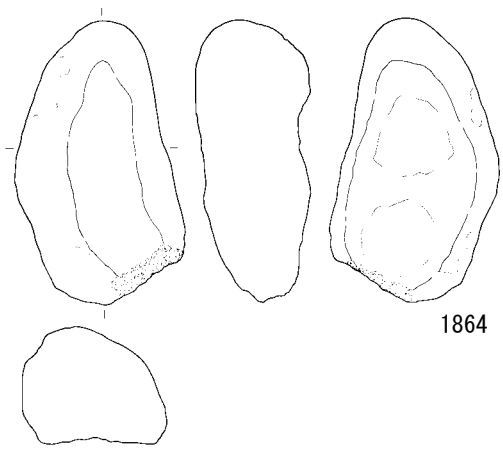


第63図　石器(63)

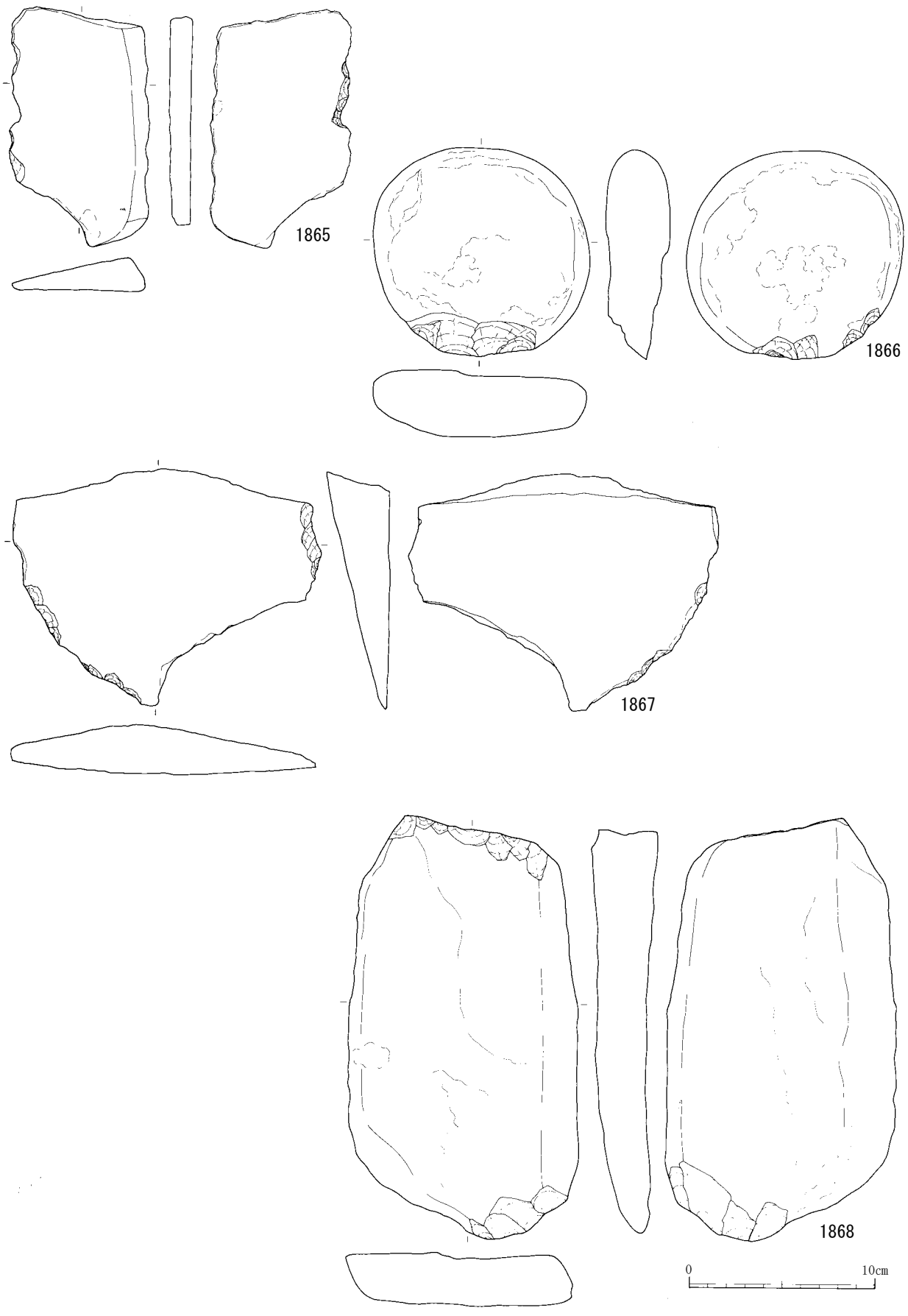




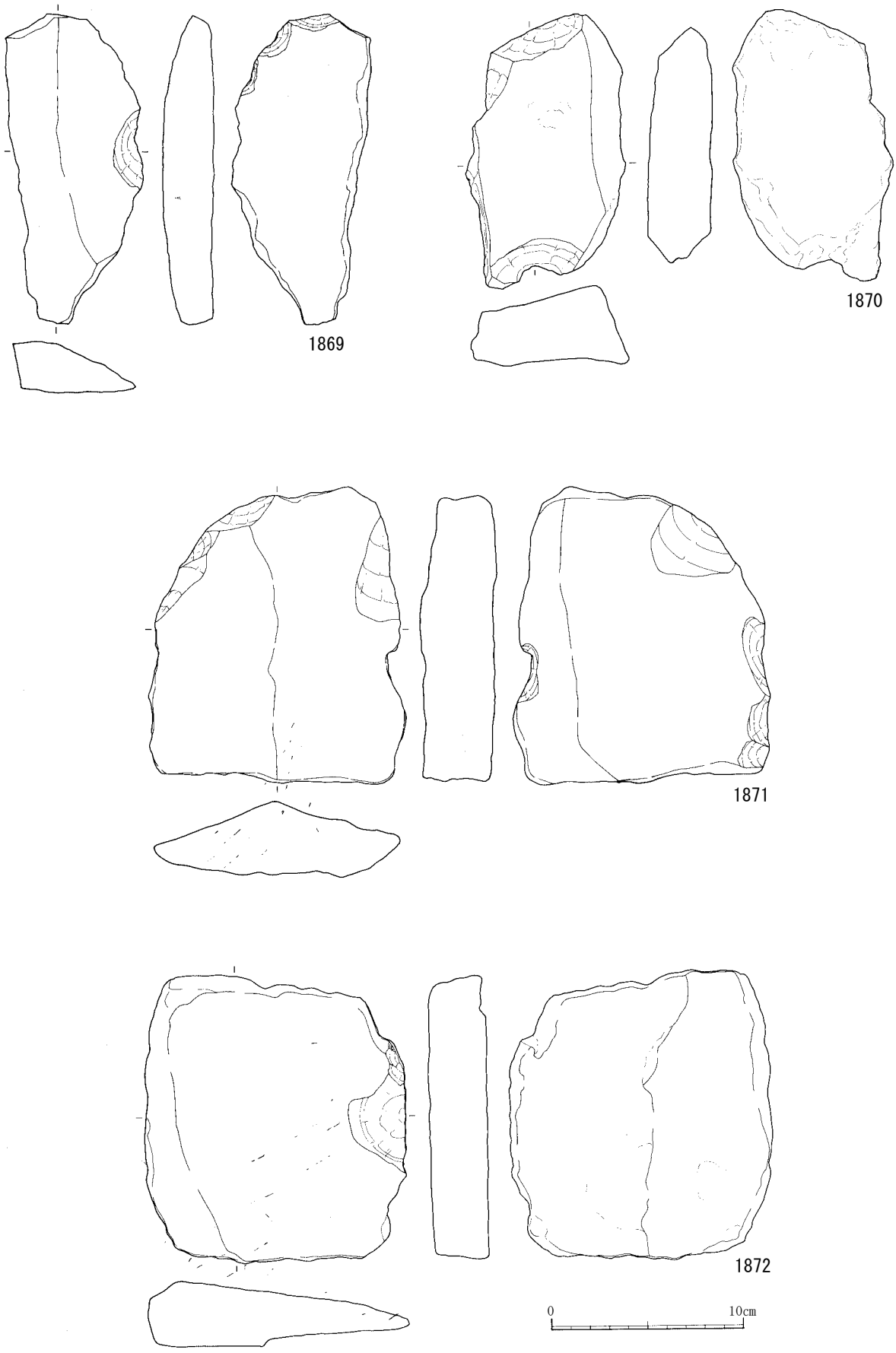




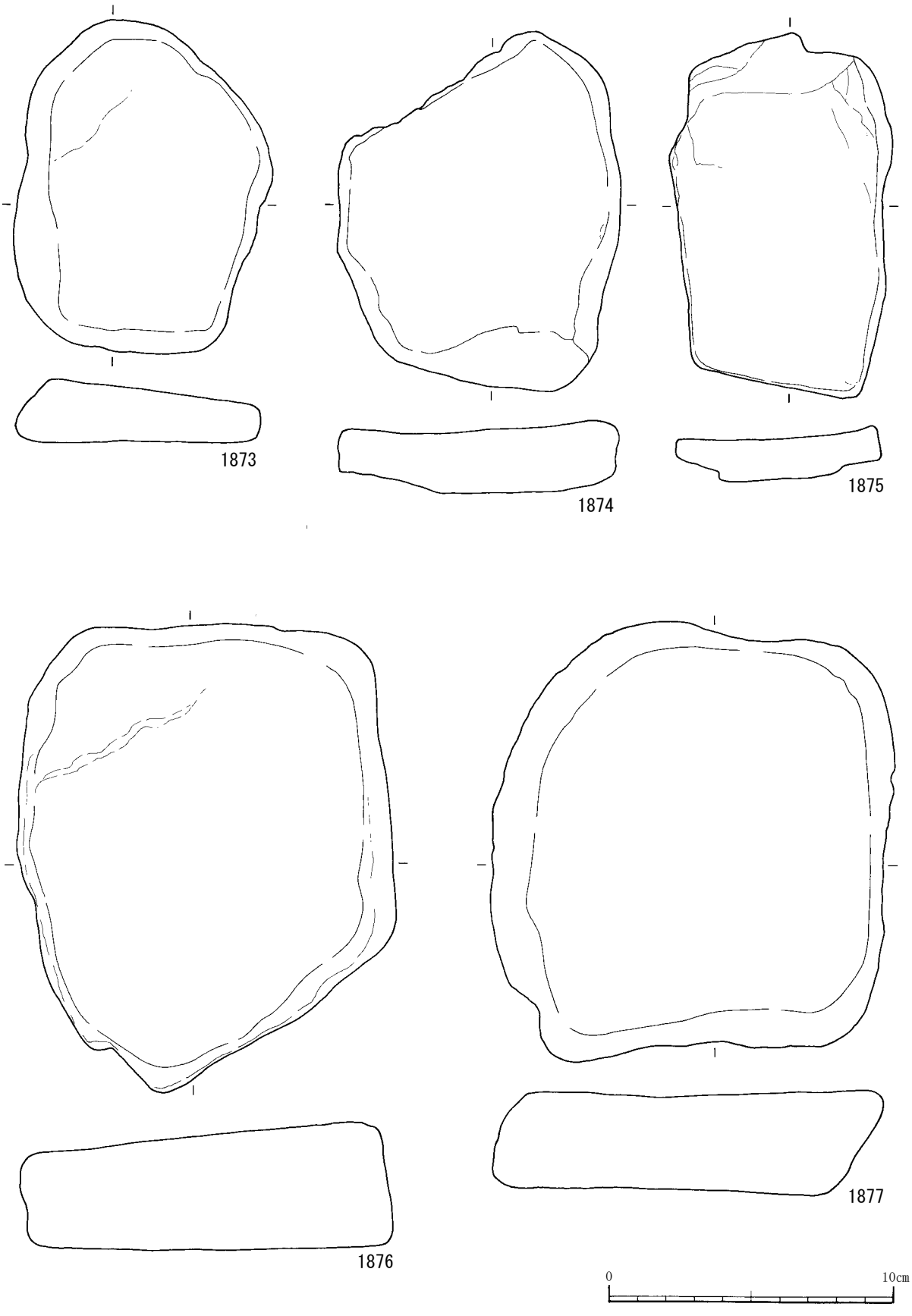
第64図　石器(64)



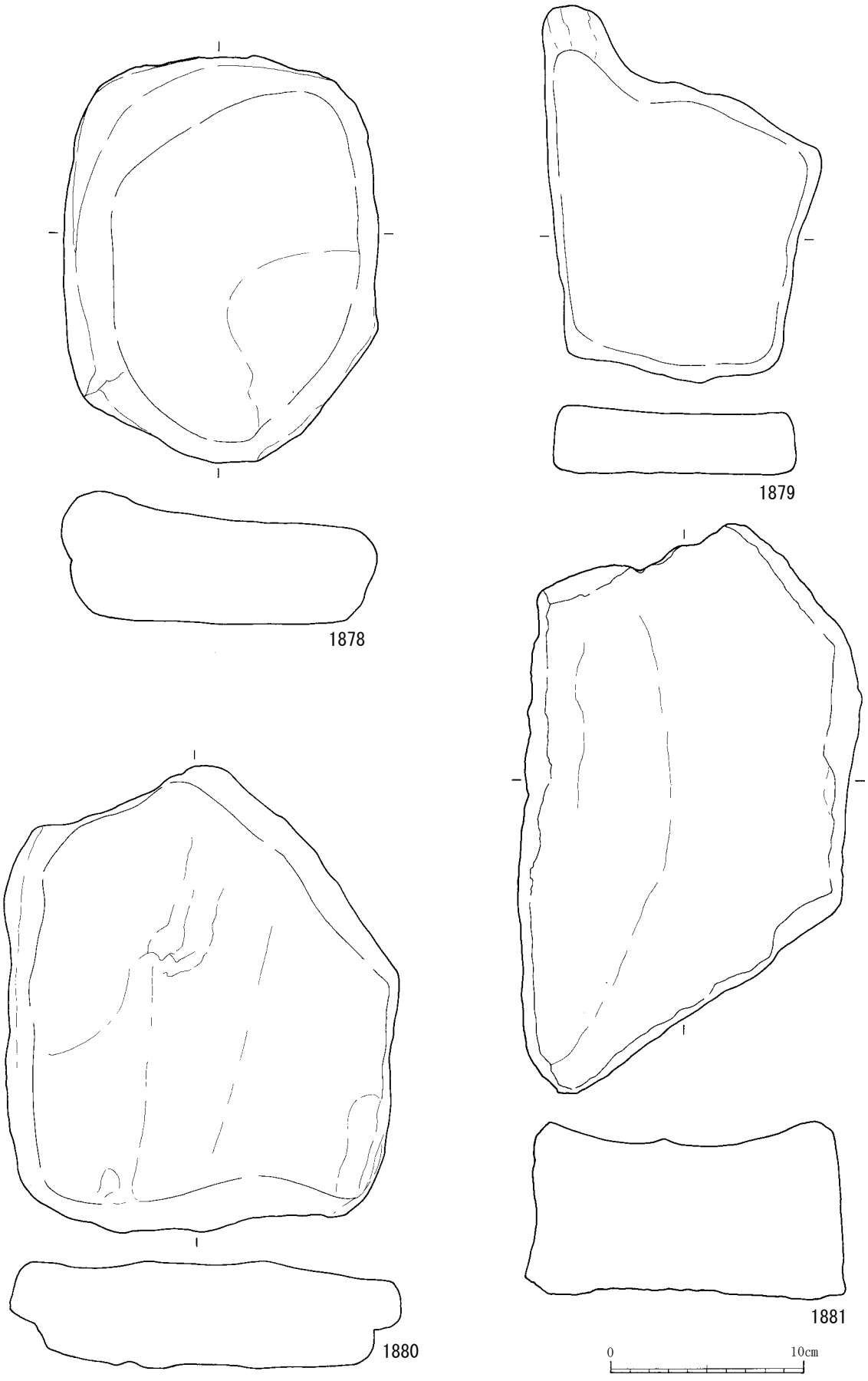
第65図　石器(65)



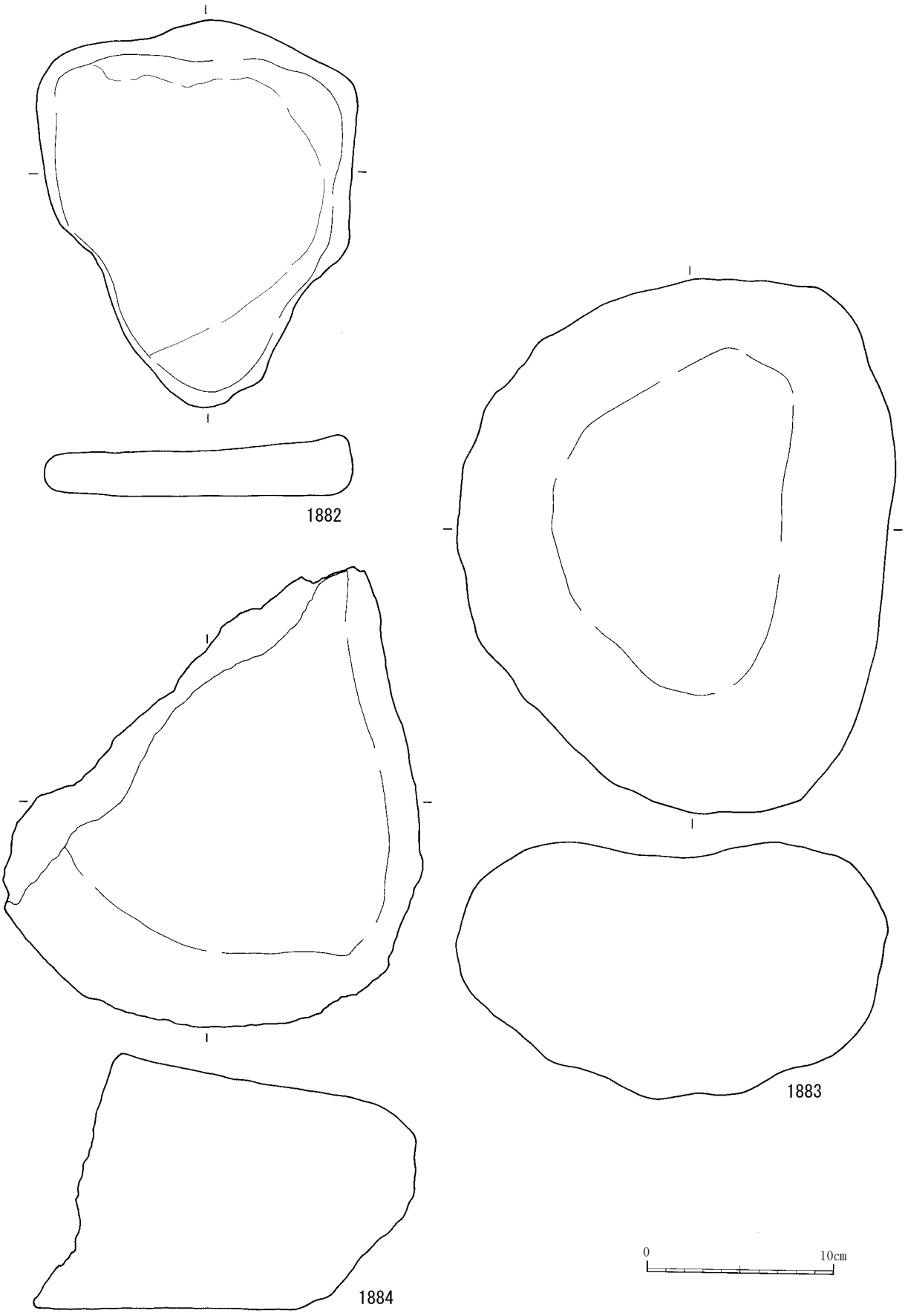
第66図　石器(66)



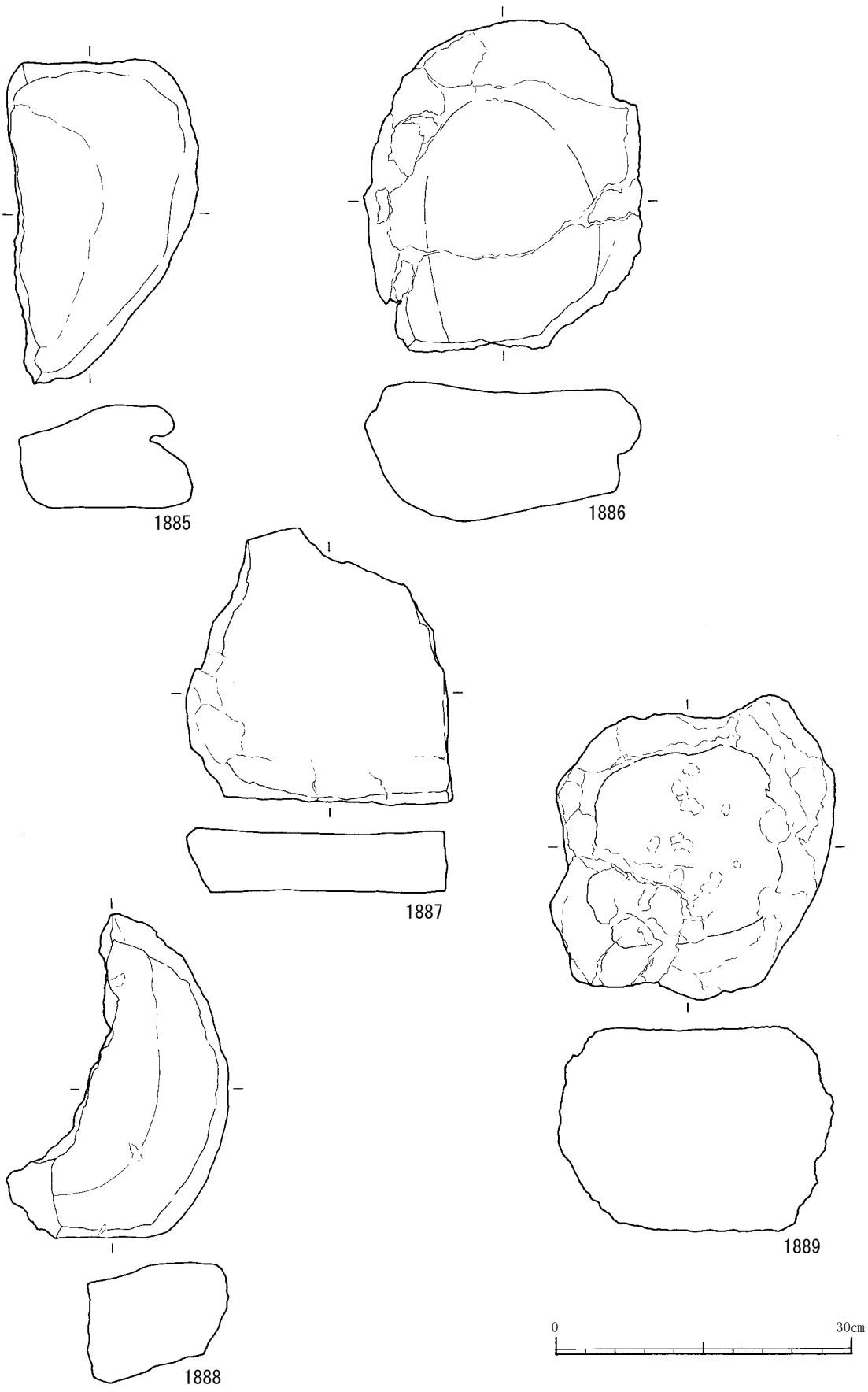
第67図　石器(67)



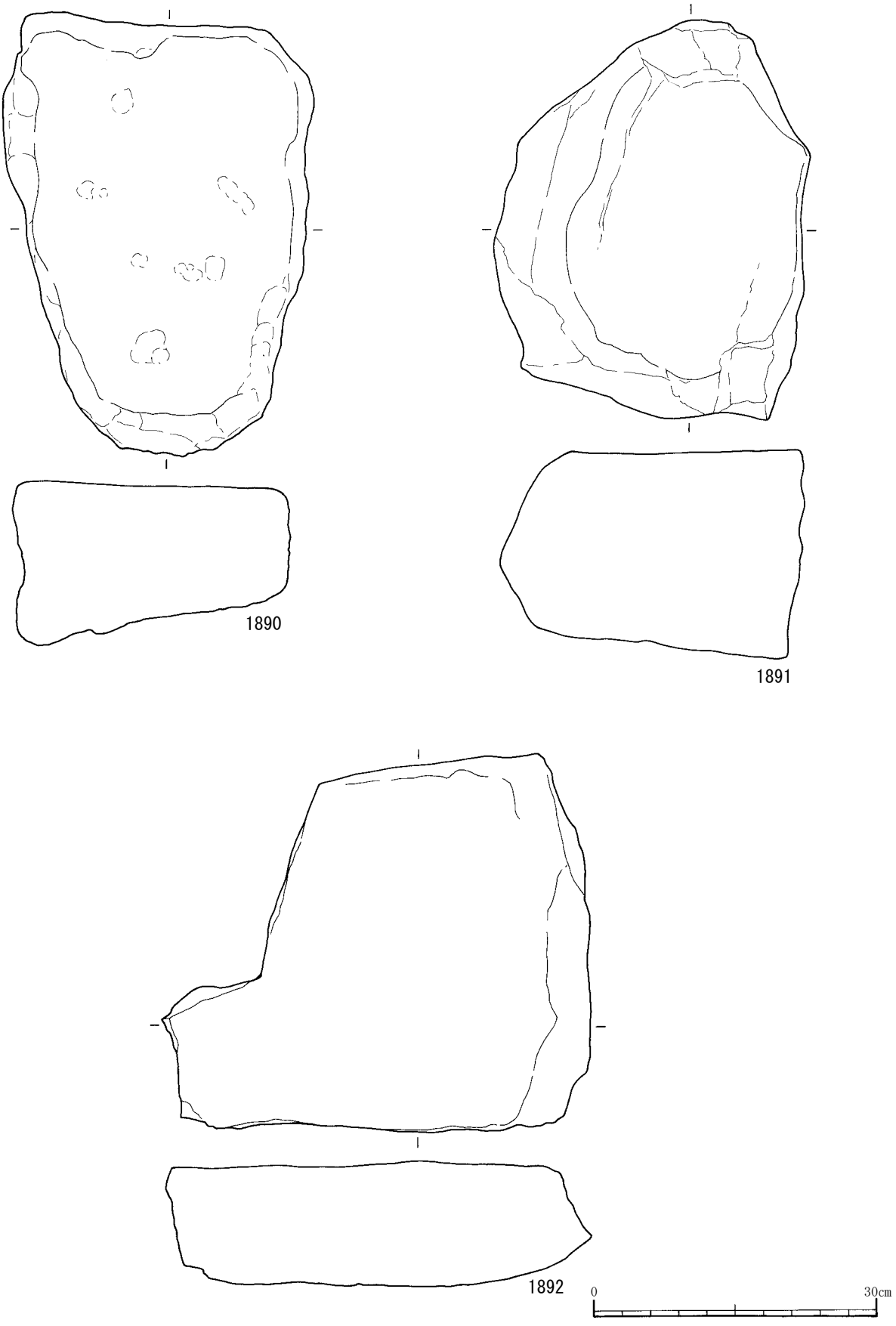
第68図　石器(68)



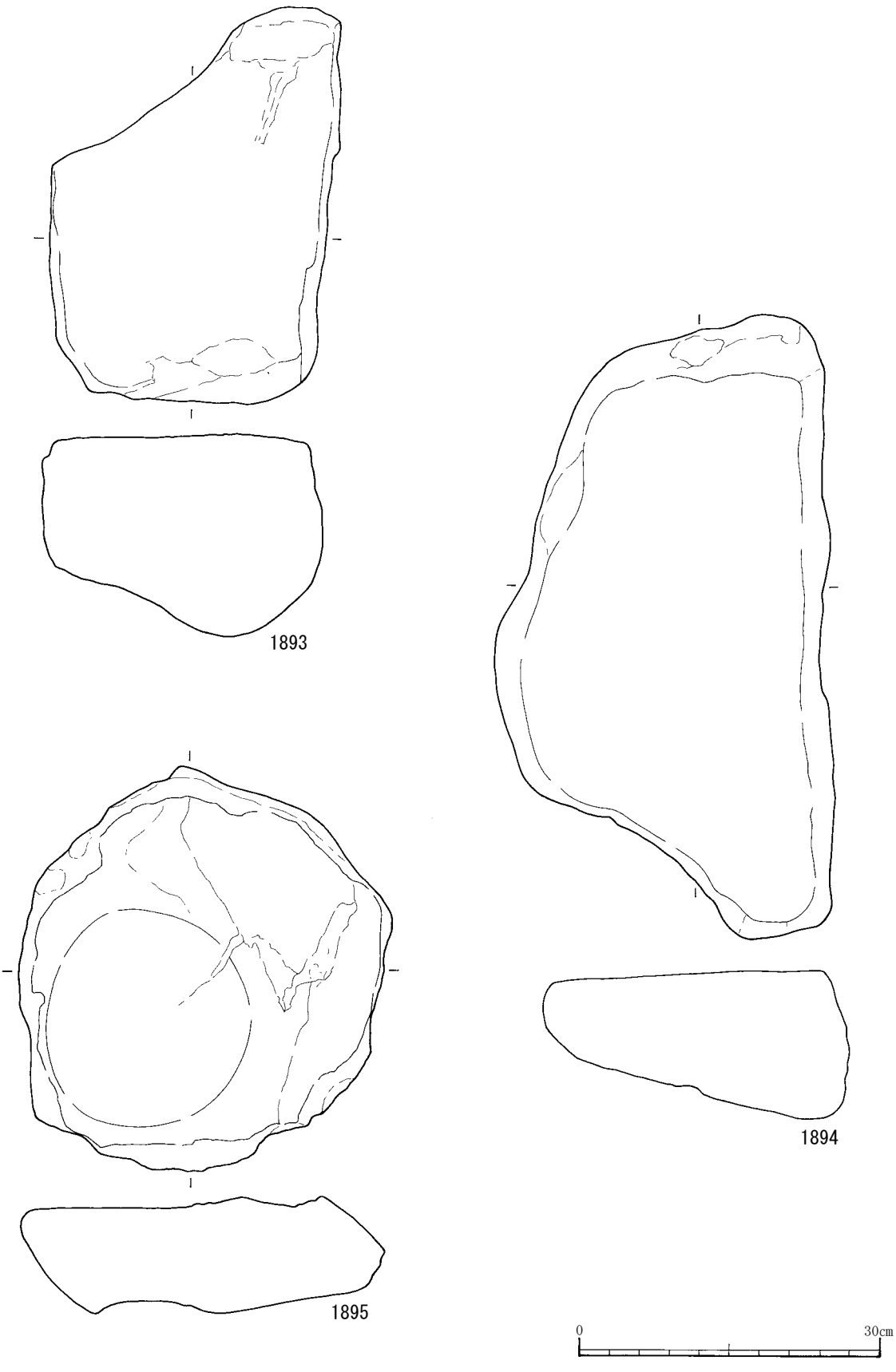
第69図　石器(69)



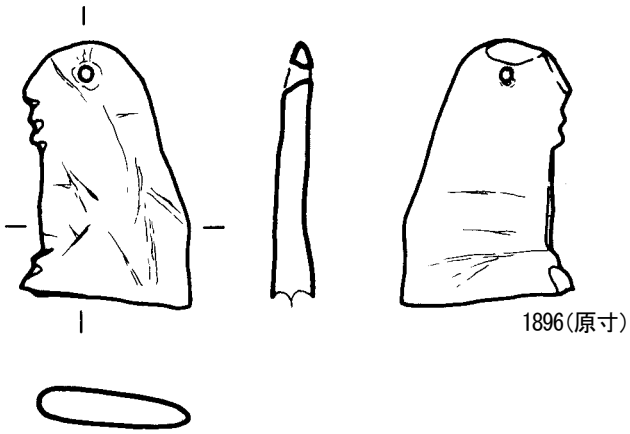
第70図　石器(70)

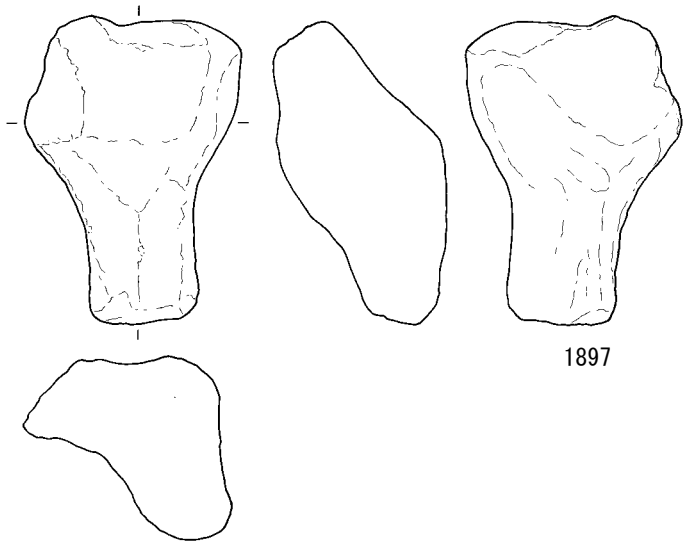


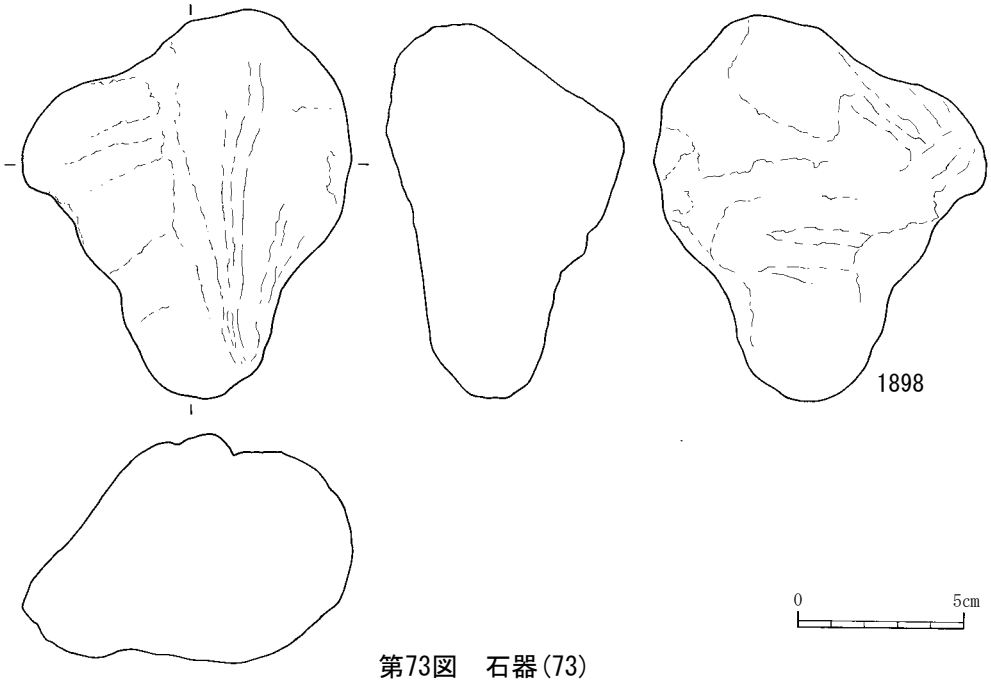
第71図　石器(71)



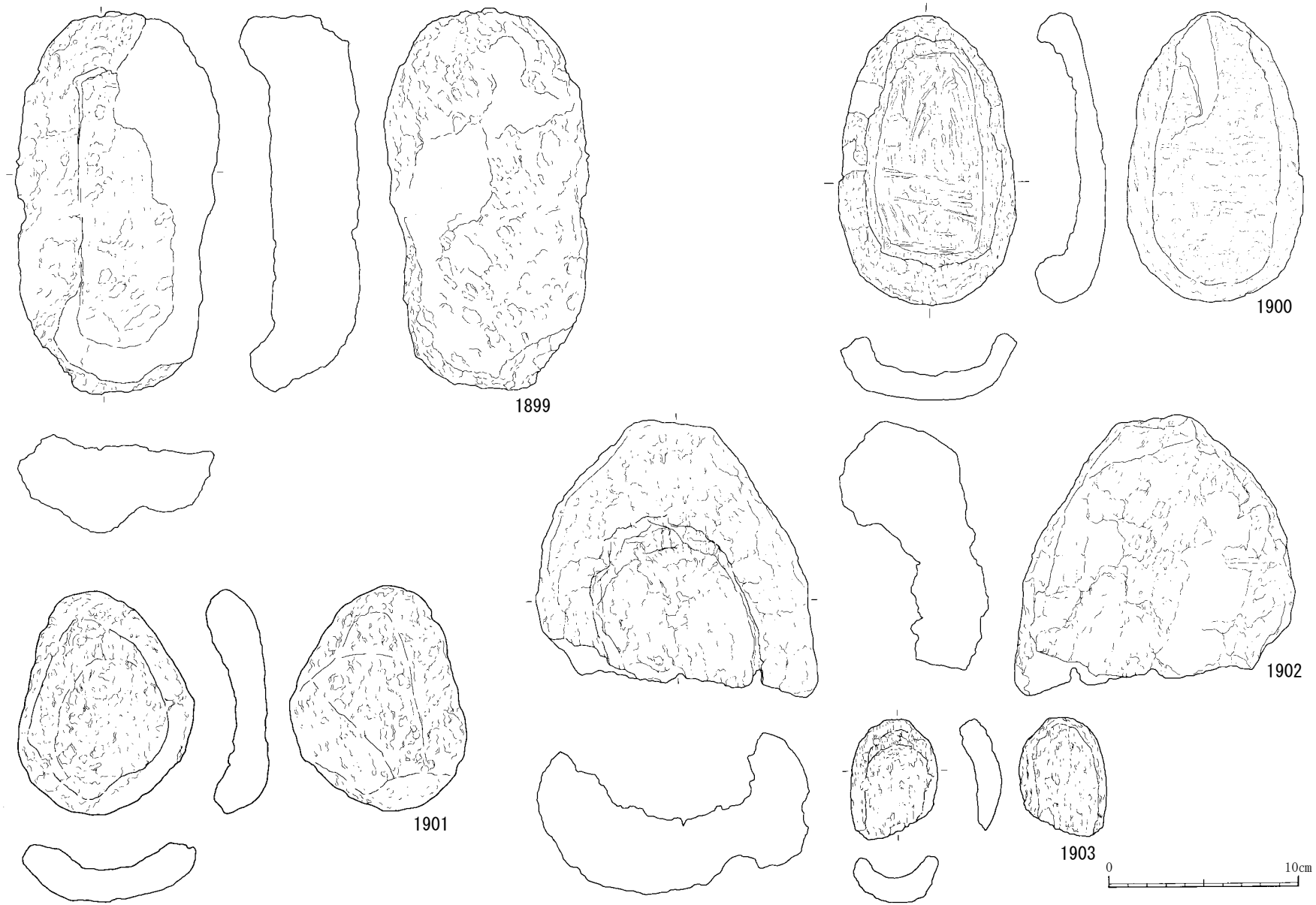
第72図　石器(72)



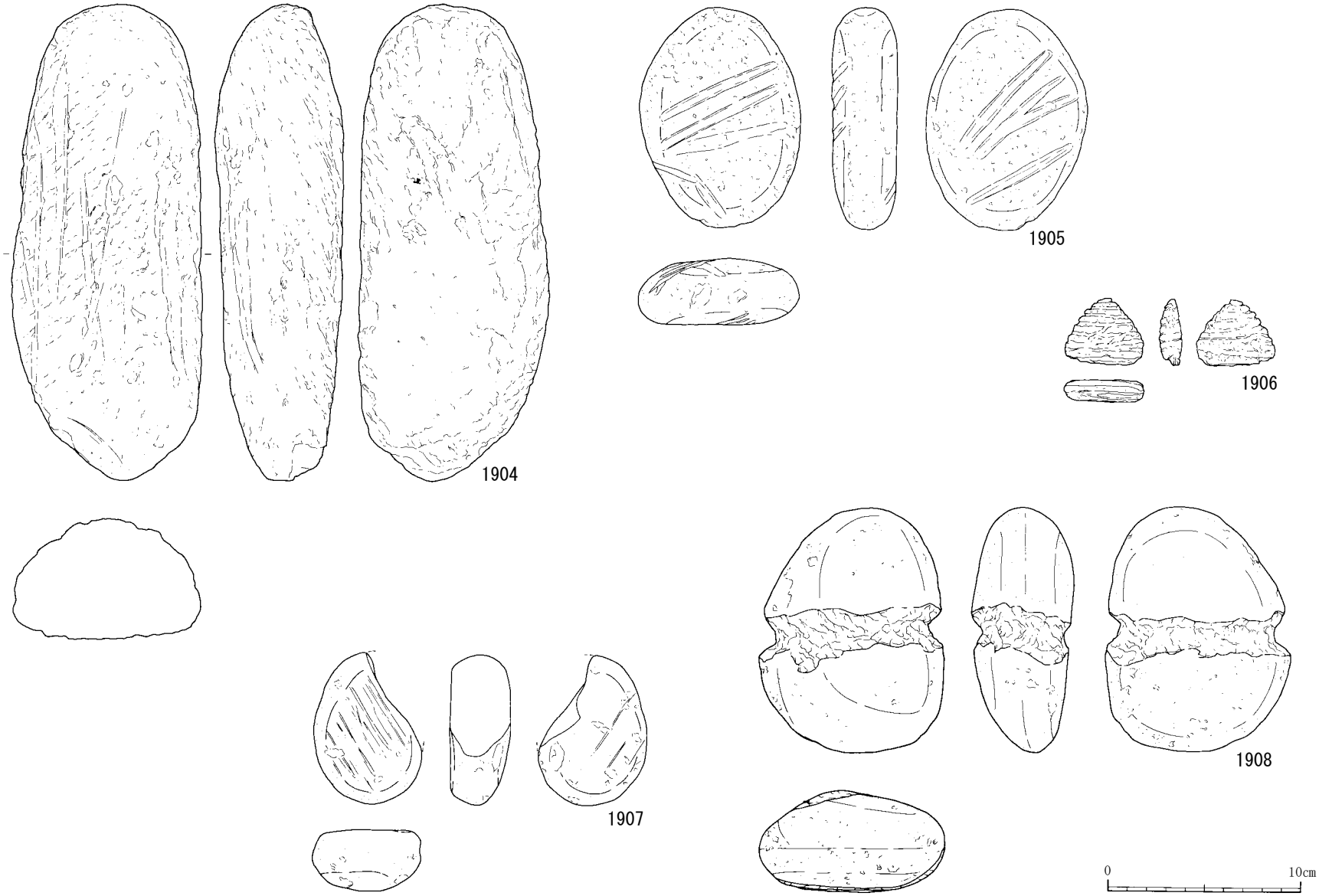




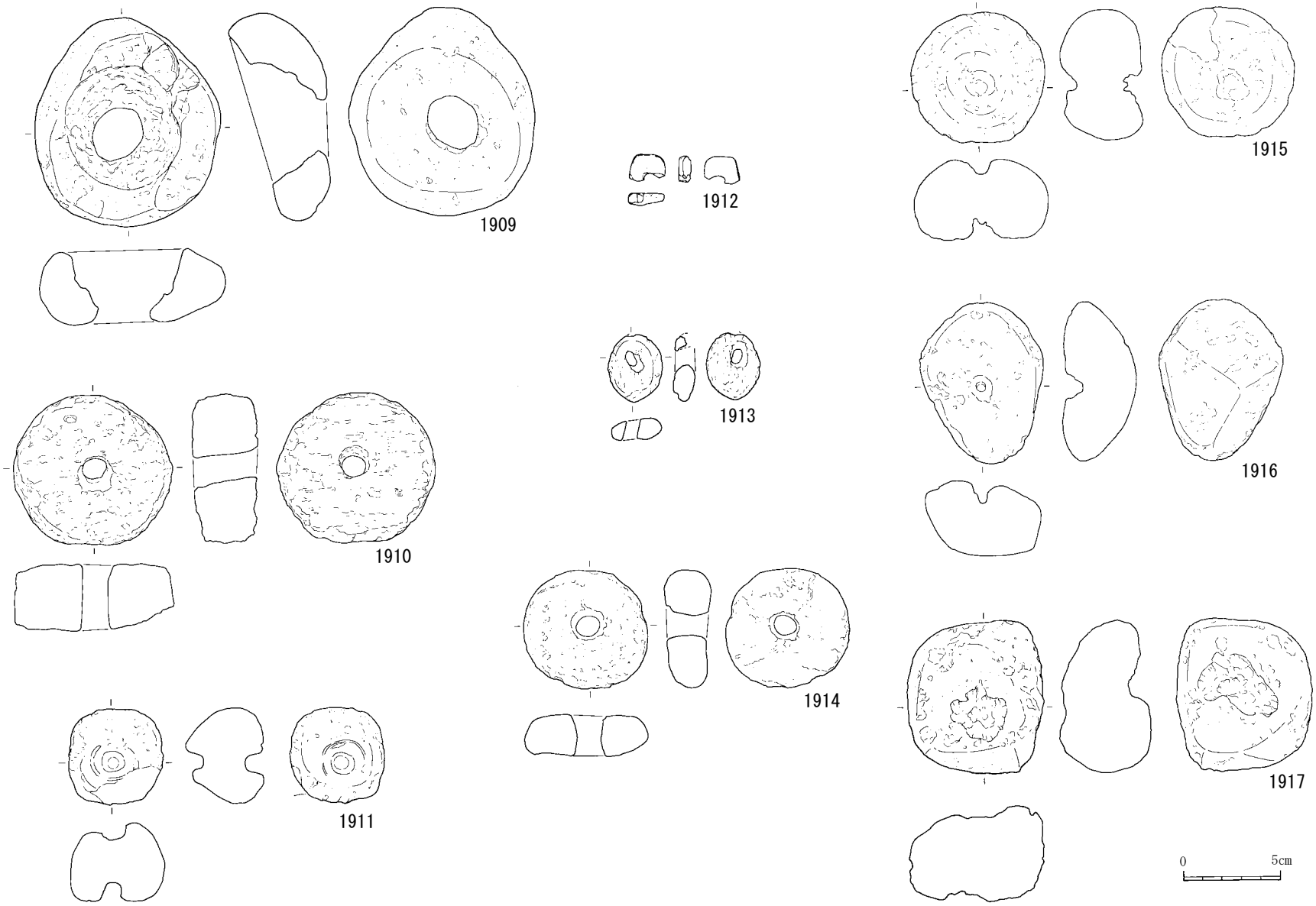
第73図　石器(73)



第74図　石器(74)



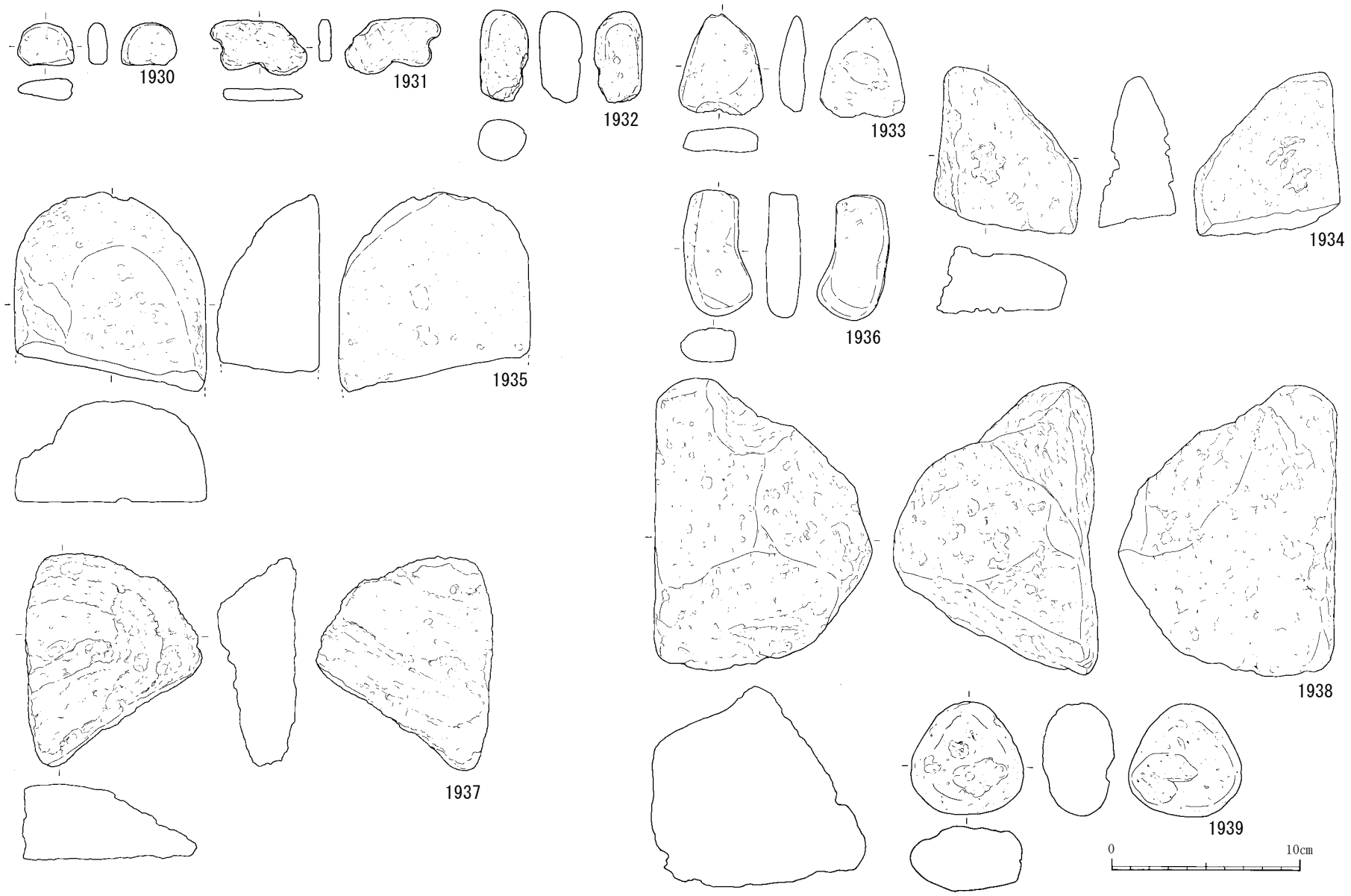
第75図　石器(75)



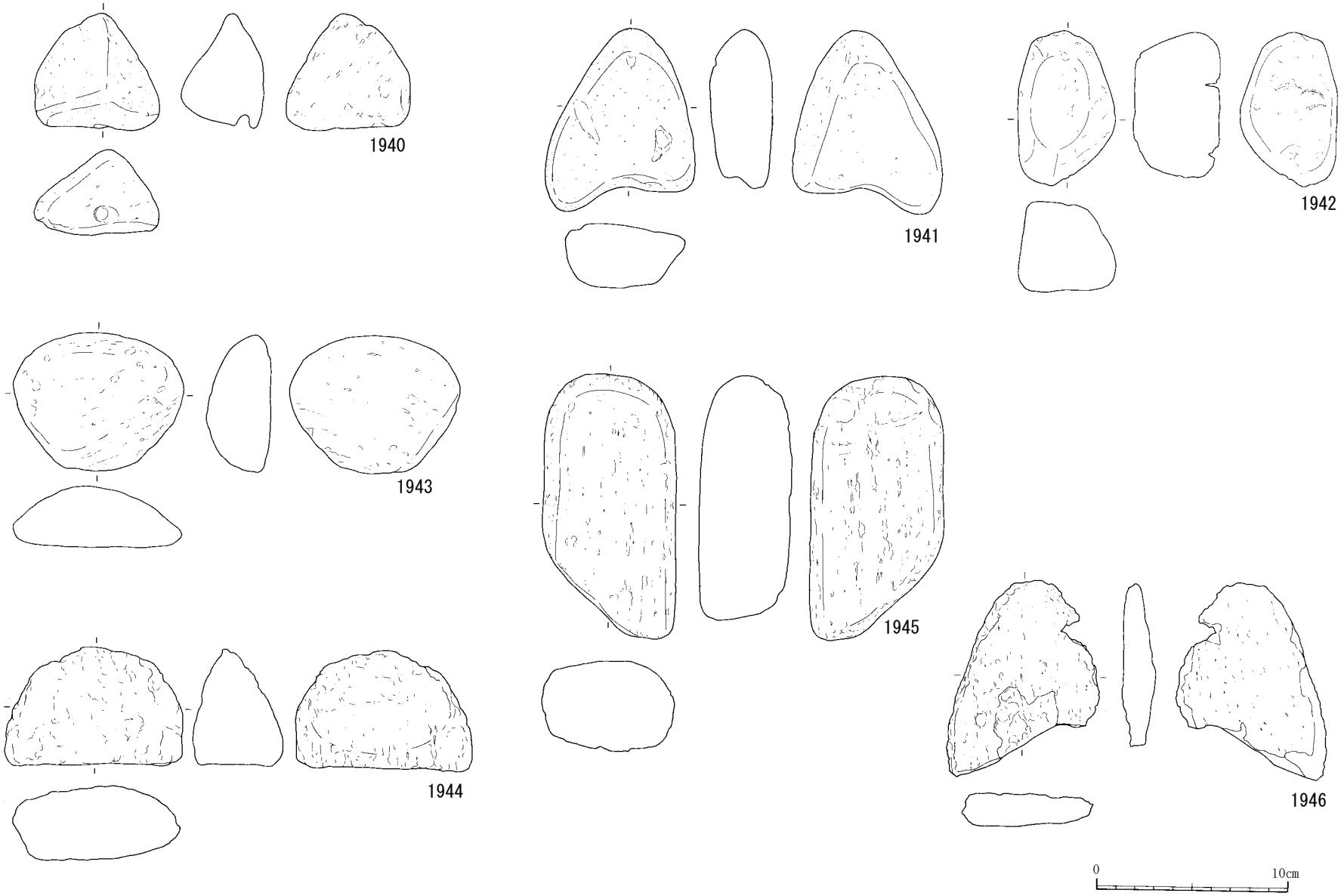
第76図　石器(76)

第77図　石器(77)

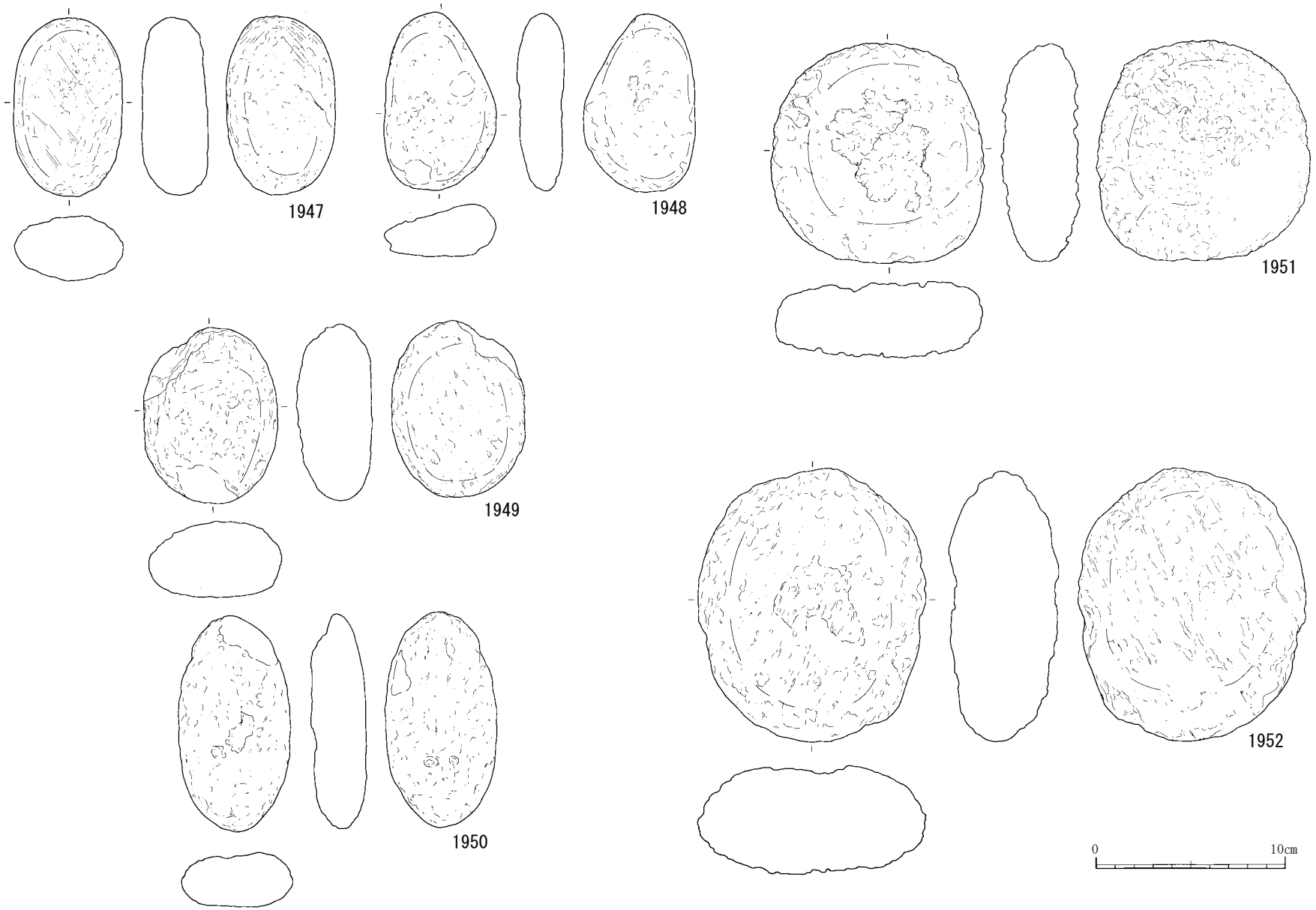
第78図　石器(78)



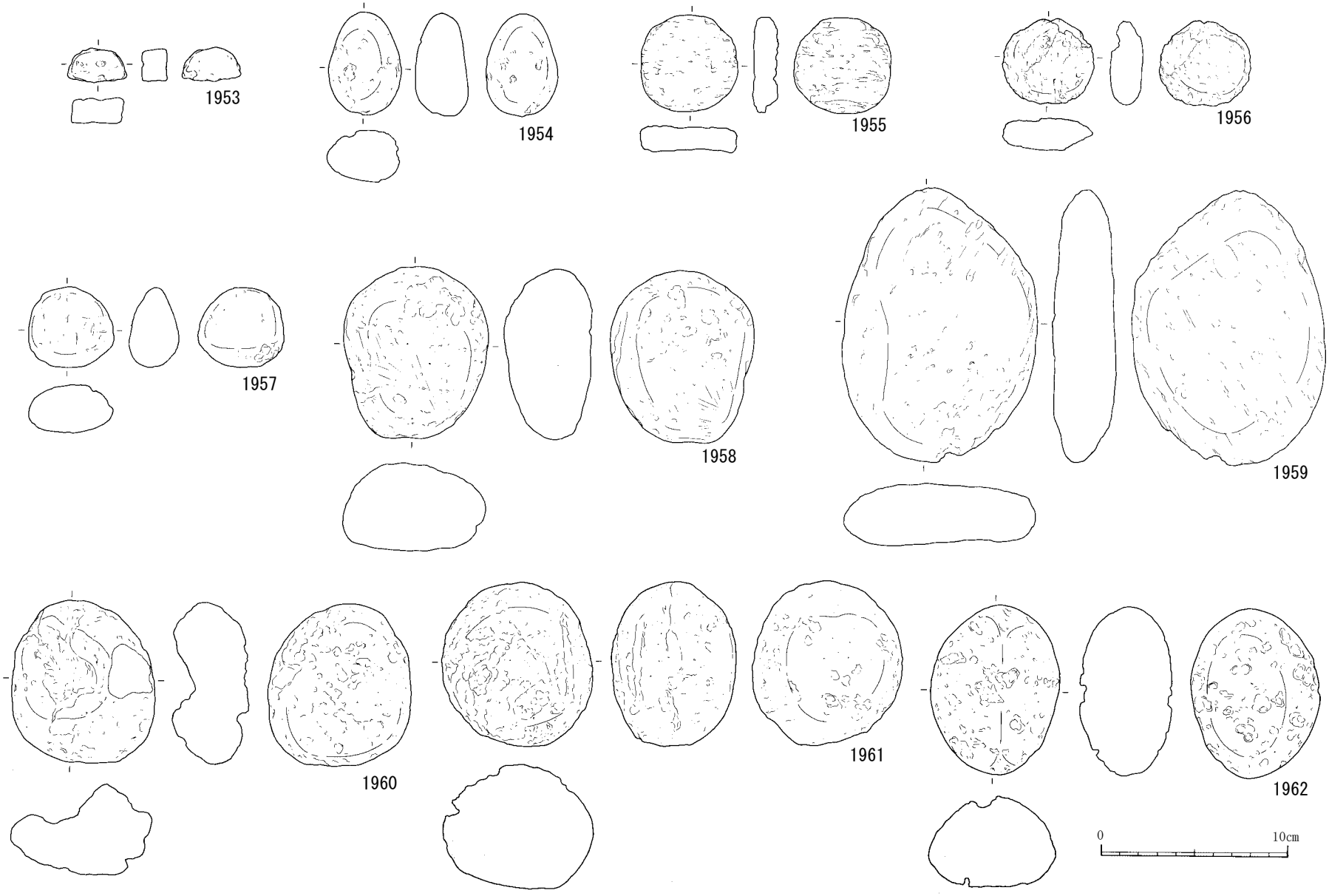
第79図　石器(79)



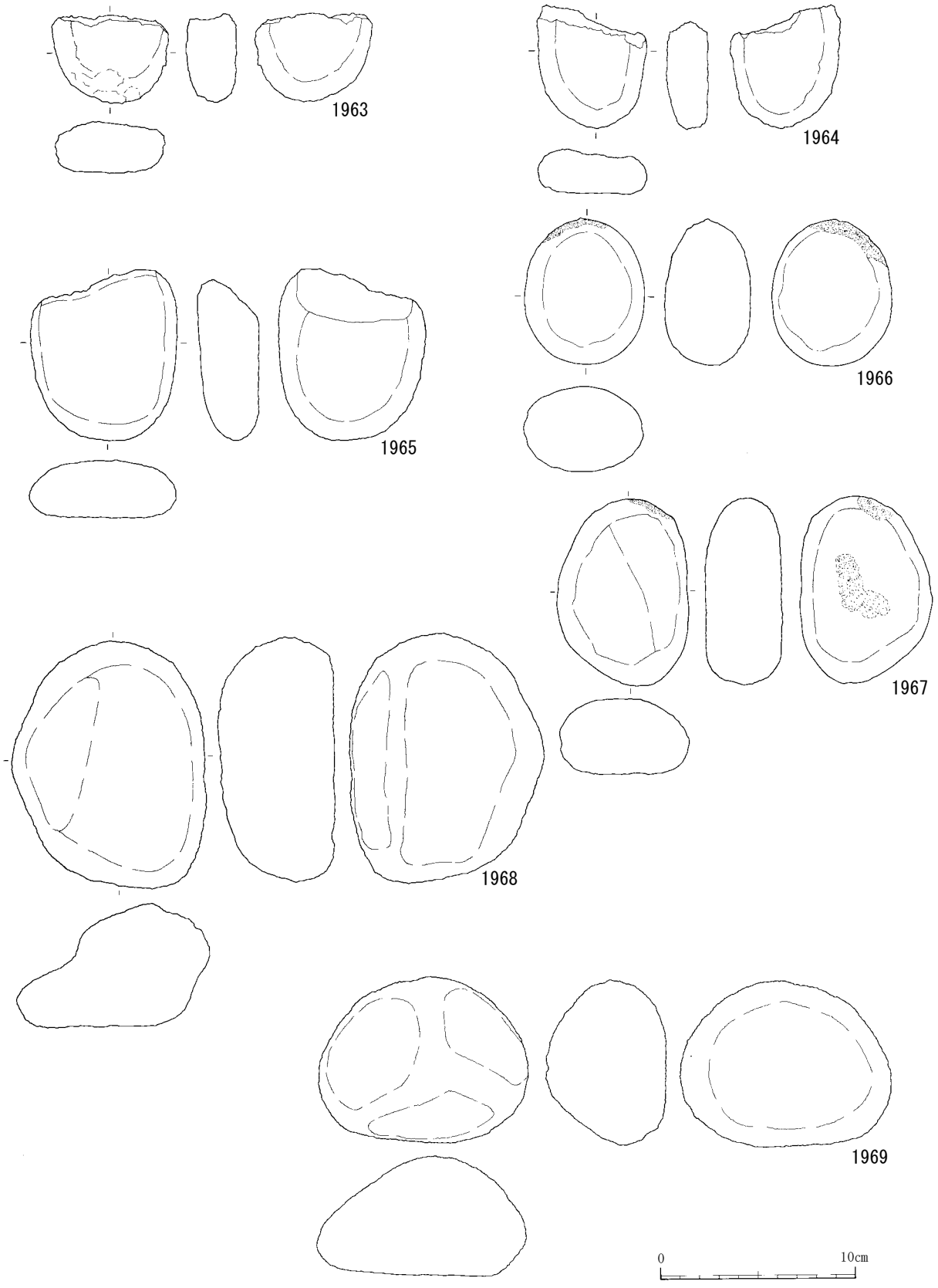
第80図　石器(80)



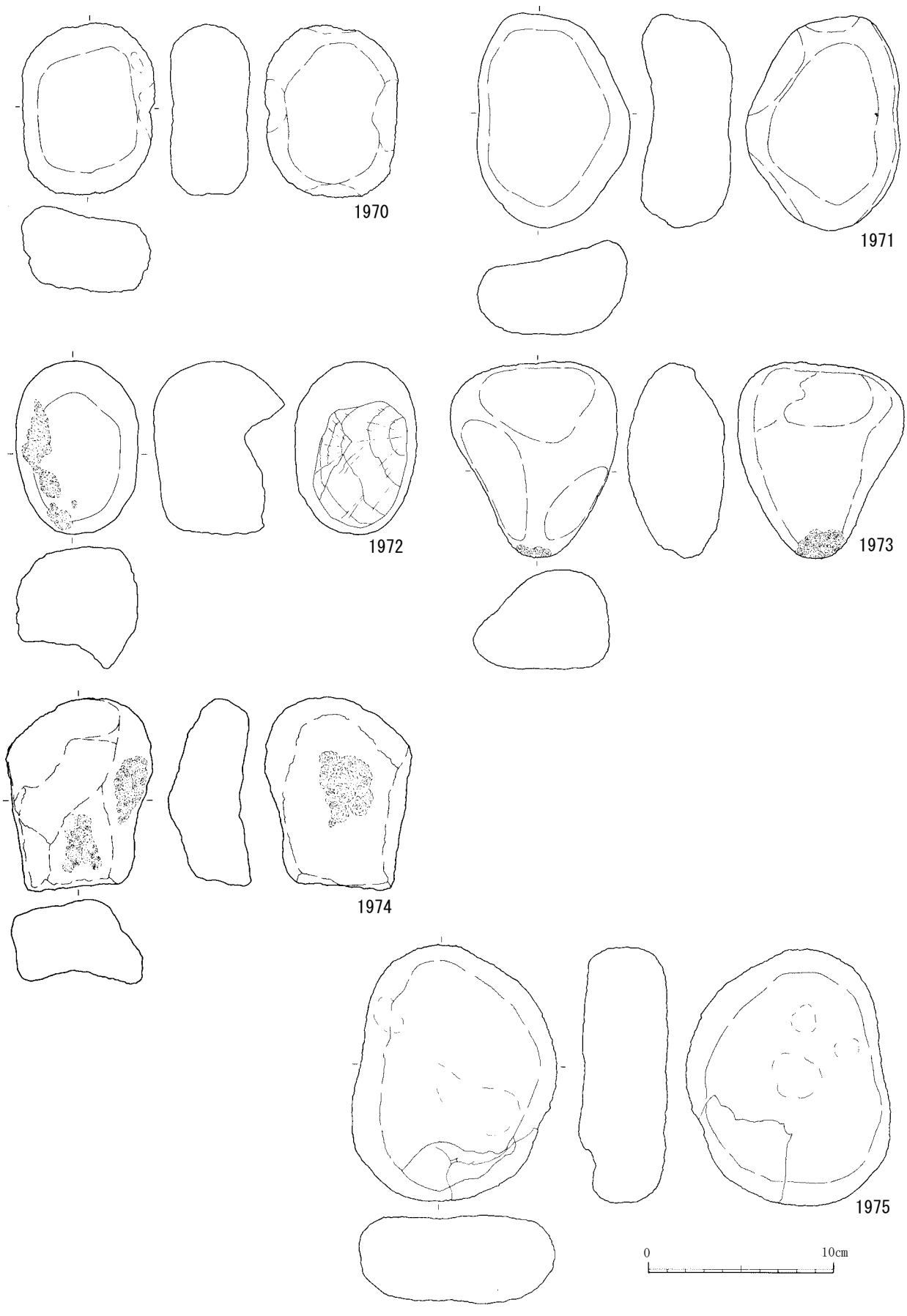
第81図　石器(81)



第82図　石器(82)



第83図　石器(83)



第84図　石器(84)

第１表　出土遺物観察表(1)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
1	1441	石器	石鏃		A7	低	-	-	1.9	1.5	0.3	0.66	メノウ	ADEH	40
	1442	〃	〃		B10	Ⅳ	9295	8.627	1.7	1.5	0.3	0.73	黒曜石	BEaI	
	1443	〃	〃		B18	Ⅱ	15480	8.972	2.3	2.1	0.4	1.41	頁岩	AEaG	
	1444	〃	〃		B2	攪	-	-	2.3	1.9	0.3	1.18	〃	BAEaH	
	1445	〃	〃		A5	低	-	-	2.2	1.6	0.4	0.87	〃	BEaH	
	1446	〃	〃		B8	Ⅱ	4301	6.241	2.0	1.6	0.4	0.97	〃	BEaI	
	1447	〃	〃		B6	Ⅱ	847	8.346	2.1	1.3	0.3	0.42	メノウ	破損EbB	
	1448	〃	〃		B2	A	20996	-	1.4	1.2	0.3	0.43	黒曜石(三船産)	破損EbH	
	1449	〃	スクレイパー		A3	B	19997	-	4.0	3.5	0.8	10.93	〃		
	1450	〃	〃		B3-3	B	18339	-	5.1	3.0	1.5	16.82	メノウ		
	1451	〃	〃		A5	低	-	-	3.0	3.9	1.0	8.12	〃		
2	1452	〃	打製石斧		B5	Ⅳ	2168	8.338	15.9	9.7	2.2	435	安山岩		
	1453	〃	〃		B3	A	20107	-	12.6	7.6	1.8	280	〃		
	1454	〃	〃		B5	Ⅱ	-	-	6.1	7.1	1.2	60	〃		
3	1455	〃	〃		B5	Ⅱ	2015	8.342	15.9	9.6	1.8	250	〃		
	1456	〃	〃		B5	Ⅱ	2061	8.311	8.6	7.0	1.1	90	〃		
4	1457	〃	磨製石斧		B2	A	20978	-	12.2	6.8	3.6	365	頁岩		41
	1458	〃	〃	刃部片	A3-30	B	18243	-	(11.1)	5.5	3.3	350	〃	Aa	
	1459	〃	〃	刃部片	B5	Ⅳ	4191	8.015	(9.5)	5.7	4.1	350	〃	Ac	
5	1460	〃	〃	刃部転	B2	B	20985	-	(11.2)	5.9	4.1	455	〃	A	
	1461	〃	〃		A3-22	A	16293	-	14.3	5.5	3.3	475	〃	Bc	41
	1462	〃	〃	転用	B2	A	21002	-	12.3	5.5	3.2	335	〃	〃	
6	1463	〃	〃	基損転	B3	B	20305	-	11.2	7.2	3.4	480	〃	Ca	
	1464	〃	〃	小型	B3	B	20072	-	8.9	4.2	1.9	115	蛇紋岩	Cb	41
	1465	〃	〃	刃部接	A3-33	B	17515	-	18.3	6.6	3.9	780	安山岩	Cc	
7	1466	〃	〃		A3-33	A	16440	-	12.2	5.1	2.9	290	砂岩	〃	41
	1467	〃	〃		B2	A	20836	-	10.4	4.3	2.0	145	〃	〃	
	1468	〃	〃		A3-2	A	16129	-	12.8	6.5	2.7	300	安山岩	〃	
	1469	〃	〃	小型	A7-26	A	19677	-	8.4	3.4	1.7	75	頁岩	〃	41
	1470	〃	〃	基部損	A4-1	A	16196	-	(12.5)	5.8	2.6	285	安山岩	〃	
8	1471	〃	〃	転用	B-6	Ⅱ	1252	8.269	9.6	5.1	2.1	165	〃	C	
	1472	〃	〃		A7-16	A	19639	-	(11.8)	(5.0)	3.1	220	頁岩	〃	
	1473	〃	〃	基損転	B10	Ⅳ	9226	8.580	(10.8)	6.3	3.4	275	安山岩	〃	
	1474	〃	〃	刃基損	B3	Ⅳ	3981	7.125	(12.2)	(6.8)	3.2	390	頁岩	〃	
9	1475	〃	〃	基部損	B3	A	20060	-	(9.7)	6.4	3.6	350	〃	〃	
	1476	〃	〃		A3-18	B	16245	-	12.3	5.0	2.9	265	〃	D	
	1477	〃	小型磨製石器		A4-31	A	19656	-	5.5	2.2	1.3	27.71	〃		41
10	1478	〃	擦切石器		B3-3	A	16634	-	(6.2)	5.8	0.6	35.18	砂岩		
	1479	〃	〃		B3	B	20252	-	5.6	(4.1)	0.3	13.18	〃		
	1480	〃	〃		B3	A	20026	-	(7.0)	(8.3)	0.8	72.47	〃		41
	1481	〃	〃		B10	Ⅳ	8157	8.541	(4.1)	(4.9)	0.5	13.69	〃		
	1482	〃	〃		A3-29	B	18236	-	3.3	3.6	0.8	8.24	〃		
	1483	〃	〃		A6	低	-	-	3.8	6.2	0.4	11.94	〃		
	1484	〃	〃		B11	Ⅳ	10854	8.561	(7.5)	(5.2)	0.6	31.18	〃		
	1485	〃	〃		A3-10	B	16727	-	8.0	11.6	1.0	147.7	〃		41
11	1486	〃	石錘		A7-31	A	20775	-	6.7	9.2	2.7	181	安山岩	A	
	1487	〃	〃		B10	Ⅳ	10665	8.525	8.4	6.9	2.0	111	〃	〃	

第２表　出土遺物観察表(2)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備考	図版
11	1488	石器	石鏃		B10	Ⅳ	11458	8.412	7.4	5.5	1.9	138	安山岩	A	
	1489	〃	〃		B4	表	−	−	6.2	7.3	1.5	166	〃	〃	42
	1490	〃	〃		B11	表	−	−	6.7	8.0	1.8	99	〃	〃	
	1491	〃	〃		B11	Ⅳ	12620	8.584	6.8	5.6	1.8	92	〃	〃	
12	1492	〃	〃		B10	Ⅳ	13358	8.350	8.8	6.4	2.0	199	〃	〃	
	1493	〃	〃		B11	Ⅳ	4967	8.612	7.9	8.1	1.4	142	〃	〃	42
	1494	〃	〃		B10	Ⅳ	11904	8.530	3.4	8.2	2.0	158	〃	〃	
	1495	〃	〃		B10	Ⅳ	12277	8.290	7.1	6.4	1.5	99	〃	〃	
	1496	〃	〃		B8	表	−	−	6.5	6.0	1.3	70	〃	〃	42
	1497	〃	〃		B5	Ⅳ	1981	8.25	5.0	6.4	1.1	52	〃	〃	
	1498	〃	〃		B11	Ⅳ	10537	8.381	5.4	5.4	1.5	58	砂岩	〃	42
13	1499	〃	〃		A11	Ⅳ	7881	8.488	8.6	7.4	2.2	224	安山岩	〃	
	1500	〃	〃		B10	Ⅳ	11735	8.452	8.2	6.9	2.2	196	〃	〃	
	1501	〃	〃		B10	Ⅳ	11694	8.495	6.7	6.3	1.4	88	〃	〃	
	1502	〃	〃		B10	Ⅳ	11690	8.500	8.1	6.5	1.8	138	〃	〃	
	1503	〃	〃		B10	Ⅳ	9487	8.517	5.2	6.4	1.8	81	〃	〃	42
	1504	〃	〃		B10	Ⅳ	8399	8.684	5.0	4.3	1.0	32	〃	〃	
	1505	〃	〃		B11	Ⅳ	10540	8.346	5.5	6.7	1.4	64	〃	〃	42
14	1506	〃	〃		B11	Ⅳ	10539	8.358	8.5	8.3	1.3	131	〃	B	
	1507	〃	〃		B3	B	20317	−	7.4	10.1	2.6	217	〃	〃	
	1508	〃	〃		B11	Ⅳ	13322	8.315	4.9	6.1	1.8	82	〃	〃	42
	1509	〃	〃		B10	Ⅳ	11104	8.391	6.0	6.1	1.2	70	〃	〃	
	1510	〃	〃		A7-1	A	19487	−	7.1	8.3	2.0	103	〃	〃	42
	1511	〃	〃		B11	Ⅳ	10531	8.365	5.2	6.0	2.5	149	〃	〃	
15	1512	〃	〃		B3-21	B	16292	−	8.8	9.7	2.2	224	砂岩	C	
	1513	〃	〃		A5	低	−	−	7.8	7.7	2.7	209	安山岩	〃	
	1514	〃	〃		B11	Ⅳ	9003	8.380	6.8	5.2	1.8	81	〃	〃	42
	1515	〃	〃		B10	Ⅳ	13029	8.246	7.0	6.1	2.5	155	〃	〃	
	1516	〃	〃		B11	表	9636	−	6.2	4.6	1.8	56	〃	〃	
	1517	〃	〃		B11	Ⅳ	8938	8.606	5.4	6.6	1.8	96	〃	D	
16	1518	〃	〃		B3	B	20332	−	7.5	6.7	1.9	187	〃	C	
	1519	〃	〃		B10	Ⅳ	8601	8.605	8.0	6.4	2.3	117	〃	〃	42
	1520	〃	〃		B11	Ⅳ	8821	8.583	5.9	5.6	1.3	66	〃	〃	
	1521	〃	〃		B10	Ⅳ	11230	8.456	5.0	4.4	1.0	29	〃	〃	42
	1522	〃	〃		B11	Ⅳ	12578	8.410	7.1	6.3	2.1	157	〃	〃	
	1523	〃	〃		B10	Ⅳ	5137	8.950	6.8	6.8	0.9	96	〃	〃	
	1524	〃	〃		−	−	−	−	7.2	6.2	1.0	61	〃	〃	42
	1525	〃	〃		A13	Ⅳ	14075	8.493	5.9	4.6	0.8	44	〃	〃	
17	1526	〃	〃		A11	Ⅳ	12504	8.393	8.9	6.0	1.9	185	〃	〃	42
	1527	〃	〃		B10	Ⅳ	8400	8.685	8.6	7.6	2.1	187	〃	〃	
	1528	〃	〃		B11	Ⅳ	13335	8.280	7.6	5.0	2.0	94	砂岩	〃	
	1529	〃	〃		B7	Ⅲ	7080	7.662	7.5	6.6	1.5	128	安山岩	〃	42
	1530	〃	〃		A10	A	−	−	6.7	6.0	1.6	87	〃	〃	
	1531	〃	〃		B10	Ⅳ	12251	8.336	7.5	6.3	1.9	148	〃	〃	
18	1532	〃	〃		A3-43	B	16519	−	8.2	10.9	2.8	306	〃	〃	42
	1533	〃	〃		A4-12	A	17663	−	8.5	7.9	1.7	191	〃	〃	
	1534	〃	〃		A3-32	B	16399	−	9.7	9.7	2.3	239	〃	〃	

第３表　出土遺物観察表(3)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
18	1535	石器	石錘		A3-30	B	18246	-	6.5	8.4	1.9	158	安山岩	C	
	1536	〃	〃		B8	表	-	-	3.4	8.2	2.0	63	〃	〃	
	1537	〃	〃		B10	Ⅳ	9968	8.512	4.5	4.5	1.1	32	砂岩	〃	
19	1538	〃	〃		B8	B	20330	-	10.3	8.4	2.1	234	安山岩	〃	42
	1539	〃	〃		A7-47	A	19745	-	8.7	6.5	1.5	144	〃	〃	
	1540	〃	〃		B10	Ⅳ	11896	8.543	8.1	7.7	2.7	245	〃	〃	
	1541	〃	〃		B10	Ⅳ	9511	8.558	6.7	5.7	2.0	105	〃	〃	
	1542	〃	〃		B10	Ⅳ	11921	8.340	5.1	4.6	1.4	30	砂岩	〃	42
	1543	〃	〃		B10	Ⅳ	11083	8.423	6.8	5.7	1.7	90	安山岩	〃	
20	1544	〃	〃		B6	Ⅳ	-	-	8.8	9.4	1.9	266	〃	D	
	1545	〃	〃		B10	Ⅳ	10292	8.581	7.5	7.3	1.8	170	〃	〃	
	1546	〃	〃		B5	Ⅳ	4231	8.251	7.6	6.5	1.6	115	〃	〃	
	1547	〃	〃		B10	Ⅳ	11692	8.733	6.5	6.6	2.9	171	〃	〃	
	1548	〃	〃		B10	Ⅳ	11691	8.543	8.1	7.0	2.1	188	〃	〃	
	1549	〃	〃		B10	Ⅳ	13252	8.390	8.0	6.5	1.5	102	〃	〃	
21	1550	〃	〃		B10	Ⅳ	11278	8.414	9.9	8.2	3.6	365	〃	〃	
	1551	〃	〃		A3-40	B	17534	-	10.0	7.4	1.8	175	〃	〃	
	1552	〃	〃		B11	Ⅳ	10538	8.367	6.1	6.3	1.2	51	〃	〃	42
	1553	〃	〃		B10	Ⅳ	13172	8.388	5.8	5.6	1.7	62	〃	〃	
	1554	〃	〃		B11	Ⅳ	9547	8.622	8.6	8.8	1.8	195	〃	〃	
	1555	〃	〃		A4-35	A	17916	-	10.0	9.6	1.9	240	〃	〃	
22	1556	〃	〃		A12	Ⅳ	-	-	8.1	8.2	1.7	181	砂岩	E	
	1557	〃	〃		B10	表	-	-	8.6	6.5	1.8	118	安山岩	〃	
	1558	〃	〃		B4	-	-	-	8.3	5.9	1.6	89	〃	〃	
	1559	〃	〃		B10	Ⅳ	12250	8.402	6.8	5.8	1.2	55	頁岩	〃	
	1560	〃	〃		B10	Ⅳ	-	-	6.2	4.9	1.4	60	安山岩	〃	
	1561	〃	〃		A10	A	17328	-	7.2	6.3	1.0	61	〃	〃	
23	1562	〃	〃		A10	A	17199	-	9.6	6.8	3.1	248	〃	〃	
	1563	〃	〃		A3	B	16248	-	8.2	9.9	1.7	188	〃	〃	42
	1564	〃	〃		B8	表	-	-	8.8	8.8	2.1	195	〃	〃	
	1565	〃	〃		B11	Ⅳ	9617	8.502	8.8	8.3	1.3	134	〃	〃	
24	1566	〃	剥片		B10	Ⅳ	11016	8.442	7.3	7.1	2.2	122.2	〃	〃	
	1567	〃	〃		A11	Ⅳ	12498	8.457	7.3	3.7	1.1	24.48	〃	〃	43
	1568	〃	〃		B10	Ⅳ	10320	8.445	8.3	6.1	1.8	105.2	〃	〃	
	1569	〃	〃		B10	Ⅳ	5168	9.115	8.6	6.3	1.1	86.54	〃	〃	
	1570	〃	〃		B10	Ⅳ	10098	8.419	8.0	5.6	1.9	56.15	〃	〃	
	1571	〃	〃		A11	Ⅳ	12546	8.443	8.4	5.4	1.6	79.76	〃	〃	43
	1572	〃	〃		B11	Ⅳ	12355	8.275	5.9	6.3	1.2	52.19	〃	〃	
	1573	〃	〃		B11	Ⅳ	11426	8.482	8.9	4.5	1.1	26.52	〃	〃	
	1574	〃	〃		B6	Ⅳ	3529	8.264	9.8	5.9	1.7	141.0	〃	〃	
	1575	〃	〃		B9	Ⅳ	9909	8.365	6.7	5.7	1.1	37.96	〃	〃	
	1576	〃	〃		A11	Ⅳ	10877	8.519	3.7	6.7	1.4	45.49	〃	〃	
	1577	〃	〃		B11	Ⅳ	14481	8.895	6.7	5.3	1.1	40.32	〃	〃	
25	1578	〃	〃		B10	Ⅳ	11071	8.432	7.6	5.2	0.9	41.99	〃	〃	43
	1579	〃	〃		B10	Ⅳ	10152	8.533	7.9	6.3	1.5	80.50	〃		
	1580	〃	〃		A11	Ⅳ	3897	8.782	10.1	6.1	1.2	58.25	〃		
	1581	〃	〃		B10	Ⅳ	8843	8.658	7.4	6.4	1.3	58.21	〃		

第４表　出土遺物観察表(4)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
25	1582	石器	剥片		A4-51	A	18014	-	8.0	4.4	1.2	39.91	安山岩		
	1583	〃	〃		A7-36	A	19711	-	5.0	4.4	1.8	24.75	〃		
	1584	〃	〃		A3-10	A	16191	-	11.0	8.0	1.3	95.6	〃		
	1585	〃	〃		B3	A	20020	-	9.5	6.8	1.2	84.38	〃		
	1586	〃	〃		A7-3	A	19501	-	8.6	6.3	1.0	53.01	〃		
	1587	〃	〃		A3-9	A	16168	-	9.6	6.9	1.3	98.26	〃		43
	1588	〃	〃		A3-36	A	16455	-	7.3	6.1	1.5	55.37	〃		
	1589	〃	〃		A3-33	A	16418	-	5.8	6.0	1.2	96.84	〃		
26	1590	〃	〃		A3-16	B	16238	-	8.4	7.8	1.7	125.9	〃		
	1591	〃	〃		B3	B	20087	-	7.9	7.4	1.3	73.11	〃		43
	1592	〃	〃		A5-25	B	18878	-	8.0	8.2	1.5	99.32	〃		
	1593	〃	〃		B3	B	20029	-	7.5	5.3	1.4	69.20	〃		43
	1594	〃	〃		A3-40	B	17539	-	9.0	7.2	1.5	135.8	〃		
	1595	〃	〃		B8	表	-	-	7.3	5.5	1.0	328.7	〃		
	1596	〃	〃		B8	表	-	-	8.7	4.7	1.1	40.92	〃		43
	1597	〃	〃		A7	低	-	-	10.5	8.9	1.3	142.4	〃		
27	1598	〃	〃		A5	低	-	-	9.4	7.9	1.4	134.6	〃		
	1599	〃	〃		B10	Ⅳ	11908	8.436	11.2	3.8	1.3	73.54	〃		
	1600	〃	〃		B10	Ⅳ	10043	8.513	8.6	4.5	0.9	25.85	〃		43
	1601	〃	〃		B10	Ⅳ	4456	8.388	9.9	4.9	1.1	32.28	〃		
	1602	〃	〃		A10	Ⅳ	12691	8.322	6.9	5.3	1.0	29.10	〃		
	1603	〃	〃		B9	Ⅳ	7239	8.415	6.1	6.3	1.2	39.69	〃		
	1604	〃	〃		B11	Ⅳ	7933	8.731	6.3	3.4	1.0	15.65	〃		
	1605	〃	〃		B10	Ⅳ	7411	8.638	5.8	5.0	0.7	20.69	〃		
	1606	〃	〃		B11	Ⅳ	13940	8.357	9.0	6.8	1.1	17.57	〃		
	1607	〃	〃		A11	Ⅳ	12505	8.402	7.1	2.6	1.5	63.16	〃		
	1608	〃	〃		B11	Ⅳ	12588	8.364	6.2	3.8	1.2	21.78	〃		
28	1609	〃	〃		A5-14	A	19244	-	11.0	9.8	1.0	118.2	〃		
	1610	〃	〃		A6-50	B	19382	-	12.0	5.4	1.2	59.63	〃		
	1611	〃	〃		A3-4	A	16143	-	7.7	7.9	1.7	69.50	〃		
	1612	〃	〃		A5-39	B	18960	-	9.0	7.9	1.1	76.11	〃		
	1613	〃	〃		A7-31	A	19556	-	7.2	5.8	0.7	41.29	〃		
	1614	〃	〃		A3-15	B	18185	-	7.0	8.1	1.2	57.47	〃		
	1615	〃	〃		A7-1	A	19488	-	9.5	3.4	0.7	31.20	〃		
	1616	〃	〃		B3	B	20004	-	10.4	5.3	1.5	59.36	〃		
29	1617	〃	砥石状石器		B19	Ⅱ	14888	8.722	(8.3)	(4.2)	2.6	106.8	シルト岩		43
	1618	〃	〃		B10	Ⅳ	11553	8.320	(7.2)	(7.6)	3.0	267.6	安山岩		
	1619	〃	〃		A3-19	B	16783	-	9.9	7.1	2.3	265.2	〃		
	1620	〃	〃		A7	低	-	-	15.6	7.8	4.7	87.0	〃		
	1621	〃	〃		B16	Ⅱ	14648	9.007	(10.5)	5.6	2.7	213.9	〃		
	1622	〃	〃		B7	Ⅳ	3956	6.262	13.8	6.0	2.3	360	〃		
	1623	〃	〃		B3	B	20154	-	22.2	8.2	4.8	14.75	安山岩		
30	1624	〃	磨石		A3-33	A	16427	-	13.5	11.4	4.6	1200	貢岩	A	
	1625	〃	〃		A3-33	B	16407	-	12.9	11.0	5.3	1150	安山岩	〃	44
	1626	〃	〃		B3	B	20274	-	12.2	(7.0)	4.6	580	〃	〃	
	1627	〃	〃		A7-45	A	19597	-	(11.4)	(8.6)	(5.0)	590	〃	〃	
	1628	〃	〃		B3	A	20015	-	12.7	(5.7)	4.2	420	〃	〃	

第５表　出土遺物観察表(5)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
31	1629	石器	磨石		B3	A	20108	−	(13.6)	14.0	4.3	1230	安山岩	A	
	1630	〃	〃		B12	Ⅱ	139	9.120	12.0	(7.3)	5.5	710	〃	〃	
	1631	〃	〃		B10	Ⅳ	9389	8.538	(5.5)	6.3	4.4	195	〃	〃	
	1632	〃	〃		B9	Ⅳ	13878	8.232	(6.4)	7.4	(3.0)	175	〃	〃	
	1633	〃	〃		A3-21	B	16289	−	(7.9)	8.7	4.0	330	〃	〃	
	1634	〃	〃		A −30	A	16373	−	11.2	(4.4)	3.9	315	〃	〃	
32	1635	〃	〃		B3	A	20452	−	(14.0)	12.6	5.8	1210	〃	〃	
	1636	〃	〃		B3	B	20145	−	12.6	11.5	5.3	1195	〃	〃	44
	1637	〃	〃		A7-21	A	20729	−	(12.2)	(5.1)	4.8	335	〃	〃	
	1638	〃	〃		B3	B	20083	−	11.6	(5.6)	5.0	525	〃	〃	
	1639	〃	〃		B3	A	20114	−	12.2	10.3	4.6	940	〃	〃	
33	1640	〃	〃		A3-21	B	16931 18207	−	13.4	10.9	4.7	1200	〃	〃	44
	1641	〃	〃		A3-23	B	18216	−	11.7	9.7	5.8	970	〃	〃	
	1642	〃	〃		B3	B	20318	−	(6.9)	(9.6)	(4.2)	400	〃	〃	
	1643	〃	〃		B3	B	20174	−	14.0	11.8	4.7	1190	砂岩	〃	
	1644	〃	〃		A3-13	B	16218	−	10.4	9.2	4.3	630	〃	〃	44
34	1645	〃	〃		A3-32	B	16394	−	11.4	9.5	4.7	825	〃	〃	
	1646	〃	〃		B3-1	A	16625	−	11.0	10.2	4.6	880	〃	〃	
	1647	〃	〃		A3-4	A	16138	−	(6.0)	(10.3)	(5.4)	480	安山岩	〃	
	1648	〃	〃		B3	B	20322	−	(7.5)	(11.8)	(4.6)	630	〃	〃	
	1649	〃	〃		A3	−	−	−	(6.6)	(11.5)	(4.5)	535	〃	〃	
	1650	〃	〃		A4-29	A	18547	−	(8.3)	(10.2)	(4.4)	535	〃	〃	
35	1651	〃	〃		A3-53	B	16601	−	(8.4)	11.0	(5.0)	685	〃	〃	
	1652	〃	〃		B11	Ⅳ	9622	8.494	(8.5)	(12.4)	(3.9)	615	〃	〃	
	1653	〃	〃		A6-20	B	19335	−	(7.9)	(10.4)	(4.9)	570	〃	〃	
	1654	〃	〃		A3-43	B	16522	−	(7.3)	(11.9)	(4.4)	525	〃	〃	
	1655	〃	〃		A3-33	B	17513	−	(6.6)	(10.3)	(3.6)	400	〃	〃	
	1656	〃	〃		A6-40	A	20700	−	(6.0)	(8.0)	(3.4)	280	〃	〃	
36	1657	〃	〃		A3-12	B	16215	−	9.0	8.9	4.4	505	〃	〃	
	1658	〃	〃		A3-33	A	16423	−	11.6	11.3	6.0	1190	〃	〃	
	1659	〃	〃		B3-7	B	16673	−	10.5	(7.4)	5.0	445	〃	〃	
	1660	〃	〃		B10	Ⅳ	10550	8.463	6.4	5.5	3.5	145	〃	〃	
	1661	〃	〃		B10	Ⅳ	11893	8.311	7.8	6.7	4.0	345	〃	〃	
37	1662	〃	〃		A3-3	B	16135	−	(11.0)	11.2	4.3	840	〃	〃	
	1663	〃	〃		A3-47	B	17561	−	(9.4)	12.2	5.5	955	〃	〃	
	1664	〃	〃		A4-21	A	18499	−	(4.6)	(9.2)	(4.0)	210	砂岩	〃	
	1665	〃	〃		A3-33	B	17509	−	(7.0)	(12.0)	(5.7)	580	安山岩	〃	
	1666	〃	〃		A3-28	B	16340	−	(6.7)	(10.3)	(4.6)	460	〃	〃	
38	1667	〃	〃		A6-19	A	20589	−	(10.6)	(10.0)	(5.5)	670	〃	〃	
	1668	〃	〃		A6	A	−	−	(10.0)	(8.5)	3.9	385	〃	〃	
	1669	〃	〃		A3-28	B	16339	−	(8.8)	(11.5)	(6.2)	795	〃	〃	
	1670	〃	〃		A6	低	−	−	(8.9)	(10.4)	(5.5)	680	〃	〃	
	1671	〃	〃		B3	B	19881	−	(8.4)	(10.09	(5.3)	620	〃	A	
39	1672	〃	〃		A4-31	A	18759	−	10.6	8.0	7.0	765	〃	B	
	1673	〃	〃		B5	Ⅱ	2077	8.312	10.2	(7.3)	(5.2)	580	〃	〃	
	1674	〃	〃		B10	Ⅳ	5169	9.238	10.2	6.2	4.3	350	〃	〃	
	1675	〃	〃		A7-21	A	20722	−	11.4	11.2	8.2	1690	〃	〃	44

第６表　出土遺物観察表(6)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
39	1676	石器	磨石		B3	B	20267	−	13.5	12.8	6.2	1465	安山岩	B	
	1677	〃	〃		A6-19	A	20586	−	7.5	5.3	3.6	170	〃	〃	44
40	1678	〃	〃		A6-20	A	20602	−	12.2	10.4	6.3	1035	〃	D	
	1679	〃	〃		A3-11	B	16731	−	6.7	4.5	2.9	110	〃	〃	
	1680	〃	〃		B3	B	20333	−	10.5	10.8	6.2	750	〃	〃	44
	1681	〃	〃		B10	Ⅳ	11981	8.508	8.5	4.9	3.2	180	〃	〃	
	1682	〃	〃		A7	低	−	−	11.3	10.8	6.2	1045	〃	〃	
	1683	〃	〃		B3-3	B	16636	−	8.5	7.7	4.5	260	〃	〃	
41	1684	〃	〃		A6-40	A	20699	−	9.6	8.7	5.6	655	貢岩	〃	
	1685	〃	〃		B10	Ⅳ	11152	8.355	11.0	5.4	3.9	315	安山岩	〃	44
	1686	〃	〃		A7-3	A	19499	−	12.6	7.7	3.9	400	〃	〃	
	1687	〃	〃		B3	B	20308	−	13.5	7.9	4.8	670	〃	〃	
	1688	〃	〃		A7-45	A	20806	−	14.7	15.2	9.2	2400	〃	〃	
	1689	〃	〃		B2	B	21072	−	14.6	16.1	5.8	180	〃	〃	
42	1690	〃	〃		A6-30	A	20679	−	17.2	7.9	6.7	1140	〃	〃	
	1691	〃	〃		B7	Ⅳ	−	−	10.8	7.9	4.6	550	〃	〃	
	1692	〃	〃		A6-29	A	20574	−	9.5	7.5	3.8	370	〃	〃	
	1693	〃	〃		B3	A	20413	−	15.0	8.8	5.9	780	〃	〃	
	1694	〃	〃		B10	Ⅳ	11669	8.341	10.5	5.0	4.0	270	砂岩	〃	44
	1695	〃	〃		A3-30	A	16389	−	7.2	5.2	5.1	280	安山岩	〃	
43	1696	〃	〃		A7-46	A	19738	−	14.3	8.1	4.4	700	〃	E	
	1697	〃	〃		B10	Ⅳ	13244	8.300	14.9	6.4	4.3	700	〃	〃	
	1698	〃	〃		B10	Ⅳ	13134	8.328	6.8	4.8	2.2	145	〃	〃	
	1699	〃	〃		A7-47	A	20786	−	13.0	11.0	5.5	1080	〃	F	
	1700	〃	〃		A7-49	A	20789	−	9.6	9.5	8.1	1120	〃	〃	
	1701	〃	〃		B11	Ⅳ	7849	8.689	(8.1)	6.8	4.0	255	〃	〃	
44	1702	〃	〃		A4-5	A	18434	−	19.9	11.7	6.2	1975	〃	〃	
	1703	〃	〃		A6-30	A	20690	−	14.7	10.4	4.5	965	〃	〃	44
	1704	〃	〃		B10	Ⅳ	9514	−	9.3	6.5	4.0	310	〃	〃	
	1705	〃	〃		B10	Ⅳ	9959	8.544	9.7	7.0	3.5	320	〃	〃	
	1706	〃	〃		A5-55	A	19067	−	13.6	10.6	6.6	1210	〃	〃	
45	1707	〃	〃		B2	A	21011	−	5.0	5.0	4.8	126.9	貢岩	H	44
	1708	〃	〃		B11	Ⅳ	10371	8.445	(4.5)	(5.7)	(4.3)	400	安山岩	〃	
	1709	〃	〃		B11	Ⅳ	9776	8.590	7.2	6.4	5.7	107.8	〃	〃	
	1710	〃	〃		A3-33	A	16433	−	(6.3)	6.4	5.1	243.0	〃	〃	
	1711	〃	〃		A3-45	B	17555	−	7.6	7.1	5.6	151.3	〃	〃	
	1712	〃	〃		A3-13	B	16224	−	5.9	5.8	4.5	350	〃	〃	
	1713	〃	〃		A3-33	B	17507	−	6.6	6.7	5.4	268.7	〃	〃	44
	1714	〃	〃		B5	Ⅳ	2030	8.249	5.6	5.3	3.8	177.2	〃	〃	
46	1715	〃	〃		AB18	Ⅱ	−	−	4.0	3.6	2.9	62.01	〃	〃	
	1716	〃	〃		A11	Ⅳ	12480	8.422	5.0	4.5	3.1	96.30	〃	〃	
	1717	〃	〃		B2	A	21057	−	4.6	3.8	3.0	76.45	〃	H	
	1718	〃	〃		A3-40	B	17535	−	5.2	5.2	(4.5)	25.41	〃	〃	44
	1719	〃	〃		B10	Ⅳ	11925	8.360	3.5	3.2	3.1	158.4	〃	〃	
	1720	〃	〃		A7-4	A	19509	−	5.5	5.0	4.1	129.8	〃	〃	
	1721	〃	〃		B11	Ⅳ	7898	−	3.4	4.1	2.0	29.34	〃	C	
	1722	〃	〃		A10	Ⅳ	12485	−	4.1	3.2	1.7	27.02	〃	〃	44

第７表　出土遺物観察表(7)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
46	1723	石器	磨石		B10	Ⅳ	11538	-	4.2	3.1	1.7	26.43	安山岩	C	44
	1724	〃	〃		B10	Ⅳ	12122	-	3.6	3.5	2.6	54.74	〃	〃	
	1725	〃	〃		B11	Ⅳ	13288	-	6.0	3.4	3.0	84.26	〃	〃	
47	1726	〃	扁平磨石		A4	A	-	-	7.5	6.4	1.9	131.9	〃	ⅠAa	45
	1727	〃	〃		B11	Ⅳ	9195	8.627	7.3	6.1	2.3	124.9	〃	ⅠAa	
	1728	〃	〃		B5	Ⅳ	1932	8.257	7.7	6.7	2.3	171.4	〃	ⅠAa	
	1729	〃	〃		A6-9	A	19308	-	7.1	6.4	2.3	159.4	〃	ⅠAd	45
	1730	〃	〃		B10	Ⅳ	9509	8.602	8.8	7.1	2.5	209.1	〃	ⅠCc	
	1731	〃	〃		A10	A	17107	-	8.2	5.6	2.5	185.7	〃	ⅠAa	
	1732	〃	〃		B3	B	19928	-	8.6	7.6	2.9	264.3	〃	ⅠBa	45
	1733	〃	〃		B3	B	20126	-	9.0	9.1	3.5	440	〃	ⅠAa	
	1734	〃	〃		A5	低	-	-	11.0	7.1	2.7	308.9	〃	ⅠAb	45
48	1735	〃	〃		B10	Ⅳ	11081	8.500	4.3	4.1	1.6	42.94	〃	ⅠBa	
	1736	〃	〃		B10	Ⅳ	10611	8.405	4.9	4.4	1.6	51.81	〃	ⅠBb	
	1737	〃	〃		B10	Ⅳ	11996	8.406	6.3	5.7	2.0	108.6	〃	ⅠBa	
	1738	〃	〃		A5-44	B	18988	-	6.8	6.0	2.4	134.9	〃	ⅠAb	45
	1739	〃	〃		A3-47	A	16557	-	5.1	4.8	1.5	51.74	砂岩	ⅠBa	
	1740	〃	〃		B10	Ⅳ	10988	8.412	6.0	4.2	1.5	60.14	安山岩	ⅡBa	
	1741	〃	〃		B10	Ⅳ	13216	8.223	5.6	4.6	1.2	64.21	〃	ⅡBa	45
	1742	〃	〃		B10	Ⅳ	9995	8.502	9.2	6.1	1.6	171.7	〃	ⅡBa	
	1743	〃	〃		B5	Ⅳ	2336	8.219	6.4	5.7	1.1	65.81	〃	ⅡBb	
	1744	〃	〃		A3-11	B	16734	-	5.9	4.4	2.0	87.08	〃	ⅡAb	
	1745	〃	〃		B11	Ⅳ	12310	8.313	6.5	5.7	1.2	81.43	〃	ⅡAc	45
	1746	〃	〃		B11	Ⅳ	10495	8.392	7.2	6.2	1.6	107.2	〃	ⅡBb	
49	1747	〃	〃		A12	Ⅳ	8502	8.545	7.4	8.2	2.1	211.3	〃	ⅡBd	
	1748	〃	〃		A3-7	B	16718	-	7.3	5.6	2.7	212.0	〃	ⅡAa	
	1749	〃	〃		A3-9	A	16167	-	9.0	9.2	1.4	198.7	〃	ⅡBd	45
	1750	〃	〃		A3-14	A	16229	-	8.8	7.7	1.8	239.8	〃	ⅡBb	
	1751	〃	〃		B4	-	-	-	9.5	6.5	1.9	177.5	〃	ⅡAa	45
	1752	〃	〃		A4-31	A	18760	-	(8.8)	(7.7)	(1.7)	153.1	〃	ⅡBc	
	1753	〃	〃		B2	A	21068	-	13.6	10.2	3.5	835.0	〃	ⅡBa	45
	1754	〃	〃		A3-48	B	16573	-	10.8	8.9	3.2	59.5	〃	ⅡBa	
50	1755	〃	〃		B10	Ⅳ	11274	8.423	7.0	7.1	1.2	92.17	〃	ⅢBa	
	1756	〃	〃		B10	Ⅳ	11307	8.361	5.1	5.8	1.8	84.03	〃	ⅢBb	
	1757	〃	〃		B11	Ⅳ	7745	8.749	6.5	4.4	1.3	64.20	〃	ⅢAa	
	1758	〃	〃		B3	B	20295	-	9.0	6.0	2.4	186.3	〃	ⅢAa	
	1759	〃	〃		A3-18	B	16253	-	6.3	6.2	1.6	111.44	〃	ⅢBd	
	1760	〃	〃		B9	Ⅳ	11350	8.377	5.9	7.1	1.1	78.25	〃	ⅢAa	
	1761	〃	〃		A3-32	B	16397	-	9.3	8.2	1.7	210.5	〃	ⅢAb	
	1762	〃	〃		B9	Ⅳ	11355	8.383	7.3	6.0	1.7	101.29	〃	ⅢBb	
	1763	〃	〃		B11	Ⅳ	10440	8.407	8.0	6.0	1.7	106.65	〃	ⅢAd	
51	1764	〃	〃		B12	Ⅳ	8921	8.465	6.0	5.9	1.7	94.80	〃	ⅢAa	
	1765	〃	〃		B6	Ⅱ	1376	8.237	6.4	5.7	1.4	69.58	〃	ⅢBa	
	1766	〃	〃		B11	Ⅳ	12581	8.386	6.7	6.1	1.9	104.58	〃	ⅢAd	
	1767	〃	〃		A4-29	A	18546	-	6.6	7.0	1.9	105.54	〃	ⅢBa	45
	1768	〃	〃		B9	Ⅳ	8525	8.355	7.2	5.3	2.2	93.35	〃	ⅢBa	
	1769	〃	〃		A3-23	B	16309	-	8.4	7.1	2.1	188.03	〃	ⅢAb	45

第８表　出土遺物観察表(8)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
51	1770	石器	扁平磨石		A5-22	B	18858	-	11.9	8.2	3.5	480.0	安山岩	VAc	
	1771	〃	〃		A3-37	B	16465	-	11.3	7.1	2.8	385.0	〃	VAb	45
	1772	〃	〃		A5-18	A	19091	-	9.6	7.9	3.1	380.0	〃	VAa	
52	1773	〃	〃		B9	Ⅳ	11757	8.358	6.6	5.3	1.8	104.40	〃	ⅢAa	
	1774	〃	〃		A11	Ⅳ	8930	8.565	4.2	4.8	1.7	48.80	〃	ⅢAa	
	1775	〃	〃		B10	Ⅳ	11249	8.473	6.0	5.0	1.7	74.43	〃	ⅢAf	
	1776	〃	〃		B10	Ⅳ	8596	8.615	5.1	4.0	1.4	47.90	〃	ⅢAa	
	1777	〃	〃		B11	Ⅳ	8359	8.524	8.8	6.5	1.8	174.27	〃	ⅢBc	
	1778	〃	〃		A3	-	-	-	8.7	6.5	2.4	221.98	〃	ⅢAa	
	1779	〃	〃		A4-1	A	16198	-	7.8	6.3	2.1	137.05	〃	ⅢD	
	1780	〃	〃		A7	低	-	-	10.8	9.1	1.7	240.94	〃	ⅢBc	
	1781	〃	〃		A3-13	B	16219	-	10.0	6.3	1.6	167.16	〃	ⅢAb	
	1782	〃	〃		A3-33	B	17510	-	8.9	7.4	2.0	234.27	〃	ⅢBa	
53	1783	〃	〃		B3	B	20254	-	17.3	13.5	3.3	1440.0	〃	VBb	
	1784	〃	〃		B10	Ⅳ	8561	8.672	6.4	8.8	1.6	145.10	〃	ⅢAc	
	1785	〃	〃		A3-17	B	16240	-	14.0	13.9	5.6	1630.0	〃	VBb	
	1786	〃	〃		B10	Ⅳ	9943	8.427	8.2	8.3	1.7	172.23	〃	ⅢAc	
	1787	〃	〃		A7-26	A	19680	-	11.1	12.7	3.5	870.0	〃	VAa	
54	1788	〃	〃		A3-4	B	16139	-	15.7	19.4	4.9	2200.0	〃	VAd	
	1789	〃	〃		A6	低	-	-	15.1	20.0	4.0	2200.0	〃	VAb	45
	1790	〃	〃		A6-16	B	19437	-	14.0	15.6	5.5	1980.0	〃	VAd	
55	1791	〃	〃		B3	A	20487	-	14.2	19.9	4.4	1550.0	〃	VAb	
	1792	〃	〃		A6-19	A	20590	-	18.4	13.1	4.8	1630.0	〃	VAd	45
	1793	〃	〃		B3	B	19938	-	21.1	17.8	3.6	2200.0	〃	VBb	
56	1794	〃	〃		B11	Ⅳ	13355	8.330	11.2	9.3	3.7	610.0	〃	ⅢCb	
	1795	〃	〃		A7	低	-	-	11.1	10.6	3.2	625.0	〃	ⅢCb	
	1796	〃	〃		B6	Ⅱ	807	8.328	10.6	5.6	2.4	207.5	〃	ⅢBf	
	1797	〃	〃		A3-30	B	18240	-	9.4	9.7	2.3	251.0	〃	ⅣBb	
	1798	〃	〃		A3-3	B	18117	-	9.6	9.8	2.2	253.4	〃	ⅢCf	
	1799	〃	〃		A3-11	B	16735	-	9.5	6.6	2.1	204.9	〃	ⅢBd	
	1800	〃	〃		A3-33	B	18269	-	10.8	10.2	1.7	279.9	〃	ⅢBa	
	1801	〃	〃		A6-29	A	20557	-	11.3	7.4	3.0	400.0	〃	ⅢBe	
	1802	〃	〃		B10	Ⅳ	10987	-	10.0	5.2	2.3	159.1	〃	ⅢBf	
57	1803	〃	〃		A6-30	A	20691	-	10.2	9.3	4.1	530.0	〃	ⅢCc	
	1804	〃	〃		B6	Ⅱ	1357	8.284	10.0	7.8	2.2	289.4	〃	ⅢCa	
	1805	〃	〃		B6	Ⅱ	648	8.363	8.1	6.1	1.5	131.0	〃	ⅢCb	
	1806	〃	〃		B5	Ⅳ	3336	8.284	10.7	9.1	2.8	420.0	〃	ⅢCd	
	1807	〃	〃		A7-23	A	20751	-	8.8	8.0	1.9	203.0	〃	ⅢCd	
	1808	〃	〃		B11	Ⅳ	9103	8.509	9.2	8.1	2.1	207.6	〃	ⅢBa	
	1809	〃	〃		A3-31	B	18255	-	9.2	8.6	2.1	256.8	〃	ⅢBb	
	1810	〃	〃		A7-22	A	19529	-	8.3	9.1	2.1	272.2	〃	ⅢCa	
	1811	〃	〃		B10	Ⅳ	11196	8.331	10.6	5.5	2.1	153.6	〃	ⅢBb	
58	1812	〃	〃		B10	Ⅳ	10316	8.366	8.1	8.5	1.9	149.4	〃	ⅢCb	
	1813	〃	〃		A4	A	-	-	8.7	7.5	1.9	187.7	〃	ⅢBf	
	1814	〃	〃		B10	Ⅳ	11697	8.478	8.2	6.7	1.9	140.3	〃	ⅢBd	
	1815	〃	〃		B11	Ⅳ	8953	8.493	8.4	6.9	1.7	172.2	〃	ⅢBb	
	1816	〃	〃		B6	Ⅱ	1358	8.307	7.7	7.4	2.4	179.4	〃	ⅣBe	

第９表　出土遺物観察表(9)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
58	1817	石器	扁平磨石		B10	Ⅳ	13853	8.210	8.5	6.0	1.9	157.3	安山岩	ⅣBc	
	1818	〃	〃		B5	Ⅳ	5047	9.997	7.1	8.1	1.7	142.2	〃	ⅢCb	
	1819	〃	〃		B10	Ⅳ	10191	8.521	7.7	7.0	2.1	139.0	〃	ⅣBc	
	1820	〃	〃		B11	Ⅳ	7874	8.560	6.8	6.4	2.5	179.4	〃	ⅢCf	
	1821	〃	〃		B10	Ⅳ	12244	8.301	6.5	7.1	2.1	146.0	〃	ⅣBc	
	1822	〃	〃		A14	Ⅱ	15747	8.770	6.7	6.5	1.0	65.49	〃	ⅢCa	
	1823	〃	〃		B11	Ⅳ	9156	8.649	6.8	5.3	2.0	136.5	〃	ⅢBb	
59	1824	〃	〃		B11	Ⅳ	9591	8.495	12.2	5.9	3.1	370.0	〃	ⅢBf	
	1825	〃	〃		B10	Ⅳ	11628	8.403	8.5	8.6	2.8	299.7	〃	ⅢCf	
	1826	〃	〃		B11	Ⅳ	9592	8.501	8.6	6.4	2.1	226.5	〃	ⅢCb	
	1827	〃	〃		B3-2	B	18330	-	5.6	4.4	1.4	62.68	〃	ⅢBb	
	1828	〃	〃		A3-3	B	16706	-	9.5	6.1	2.7	214.2	〃	ⅢBb	
	1829	〃	〃		B10	Ⅳ	2638	8.431	8.6	6.9	2.4	158.0	〃	ⅢCf	
	1830	〃	〃		B9	Ⅳ	12971	8.259	8.7	7.3	3.7	303.8	〃	ⅢBc	
	1831	〃	〃		A11	Ⅳ	7879	8.494	6.8	4.8	2.3	134.8	〃	ⅢCb	
	1832	〃	〃		A3-21	B	16290	-	9.2	11.5	2.7	470.0	〃	ⅢBc	
	1833	〃	〃		B5	Ⅱ	2198	8.255	7.9	7.7	1.3	156.4	〃	ⅢBa	
	1834	〃	〃		B5	Ⅳ	6531	9.003	8.5	8.4	2.2	308.4	〃	ⅢBb	
60	1835	〃	凹石		B10	Ⅳ	11272	8.406	7.4	5.5	3.6	230.0	〃		
	1836	〃	〃		B10	Ⅳ	9950	8.435	8.9	6.1	3.8	140.0	〃		
	1837	〃	〃		B3	B	20250	-	8.3	6.6	4.3	380.0	砂岩		
	1838	〃	〃		A11	Ⅳ	2547	9.150	8.0	7.3	5.6	380.0	安山岩		
	1839	〃	〃		B10	Ⅳ	9262	8.656	8.1	7.6	7.1	650.0	〃		
	1840	〃	〃		A3	B	16393	-	8.6	7.6	4.7	470.0	〃		
	1841	〃	〃		A3	B	15761	-	12.0	10.5	6.0	1060.0	〃		46
	1842	〃	〃		A5	低	-	-	9.6	8.8	5.3	740.0	〃		
	1843	〃	〃		A3	B	18178	-	10.6	9.0	3.3	350.0	〃		
61	1844	〃	〃		A3	B	16324	-	13.5	11.4	5.0	1180.0	砂岩		46
	1845	〃	〃		A10	-	17341	-	11.6	9.3	5.2	610.0	安山岩		
	1846	〃	〃		A3	B	18173	-	17.0	12.0	3.2	990.0	〃		46
	1847	〃	〃		A7	低	-	-	11.4	8.9	4.3	600.0	〃		
	1848	〃	〃		A6-20	A	20605	-	14.6	13.8	7.5	2400.0	〃		
62	1849	〃	敲石		A4-37	A	18610	-	10.4	3.3	3.8	175.4	頁岩		
	1850	〃	〃		B10	Ⅳ	11256	8.412	9.5	3.3	2.8	110.8	〃		
	1851	〃	〃		B10	Ⅳ	13309	8.370	11.4	3.9	3.4	224.7	砂岩		46
	1852	〃	〃		A6	低	20820	-	12.6	4.6	3.5	272.9	頁岩		
	1853	〃	〃		B3-4	B	16647	-	15.0	6.6	5.1	510.0	安山岩		46
	1854	〃	〃		B10	Ⅳ	9507	8.502	12.7	6.7	3.8	390.0	〃		
63	1855	〃	〃		B17	Ⅱ	14143	9.052	9.9	3.9	3.8	183.8	〃		
	1856	〃	〃		A3-18	B	16248	-	(6.7)	4.1	2.8	103.4	〃		
	1857	〃	〃		B3	A	20130	-	14.1	6.4	3.0	420.0	〃		
	1858	〃	〃		A11	Ⅳ	8423	8.494	10.3	5.5	3.1	205.8	〃		46
	1859	〃	〃		B3	B	20292	-	16.8	5.6	4.3	550.0	〃		
	1860	〃	〃		B11	Ⅳ	10835	8.339	12.4	5.2	3.4	320.0	〃		
64	1861	〃	〃		B2	B	20839	-	14.0	9.6	6.8	1100.0	〃		
	1862	〃	〃		B3	B	20157	-	17.4	9.8	6.5	1460.0	〃		
	1863	〃	〃		B10	Ⅳ	13649	8.242	11.2	5.3	5.6	280.0	〃		

第10表　出土遺物観察表(10)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
64	1864	石器	敲石		B11	Ⅳ	10525	8.385	11.2	6.3	4.5	440.0	安山岩		
65	1865	〃	礫器		A3-31	B	18257	-	12.9	7.6	1.2	160.0	〃		
	1866	〃	〃		A7-21	A	20713	-	11.3	11.7	3.5	660.0	〃		
	1867	〃	〃		B3	B	20192	-	12.8	16.6	3.5	580.0	〃		46
	1868	〃	〃		B10	Ⅳ	11269	8.451	22.8	12.4	3.6	1420.0	〃		
66	1869	〃	〃		B3	B	20245	-	16.2	7.2	2.8	390.0	〃		
	1870	〃	〃		A7-24	A	20765	-	14.3	8.4	3.5	560.0	〃		
	1871	〃	〃		A7-34	A	19564	-	15.5	13.4	4.0	1100.0	〃		
	1872	〃	〃		B3	B	20209	-	15.2	13.7	3.1	580.0	〃		46
67	1873	〃	石皿		A6-30	A	20692	-	17.3	13.5	3.3	1110.0	〃		
	1874	〃	〃		A7-31	A	20771	-	18.7	14.7	3.9	1660.0	〃		
	1875	〃	〃		B11	Ⅳ	10365	8.460	18.9	11.6	2.8	860.0	〃		
	1876	〃	〃		A6-28	A	20539	-	24.1	19.8	6.5	5800.0	〃		
	1877	〃	〃		B3	B	20184	-	22.8	21.1	5.5	4900.0	〃		
68	1878	〃	〃		B6	Ⅳ	-	-	20.9	16.2	5.5	3300.0	〃		
	1879	〃	〃		A6	低	20823	-	19.2	14.5	3.5	1340.0	〃		
	1880	〃	〃		A5-21	A	18847	-	23.8	20.5	5.5	4300.0	〃		
	1881	〃	〃		A7-14	A	20646	-	29.1	17.9	9.2	6500.0	〃		
69	1882	〃	〃		B10	Ⅳ	12856	8.443	20.4	17.1	3.2	1580.0	〃		
	1883	〃	〃		B3	B	20262	-	28.4	23.3	13.7	9900.0	〃		47
	1884	〃	〃		A3	-	-	-	24.5	22.3	13.6	8700.0	〃		
70	1885	〃	〃		B3	A	20502	-	32.5	19.2	10.2	7900.0	〃		
	1886	〃	〃		A7-23	A	20756	-	33.0	27.9	13.8	15900.0	〃		47
	1887	〃	〃		B3	B	20160	-	27.6	26.8	6.5	8600.0	〃		
	1888	〃	〃		B3	A	20498	-	32.3	22.3	12.1	7900.0	〃		47
	1889	〃	〃		B3	A	20516	-	30.4	28.7	20.6	23600.0	〃		
71	1890	〃	〃		A6-40	A	20708	-	46.2	32.6	17.1	35000.0	〃		
	1891	〃	〃		B3	A	20109	-	41.8	33.2	21.9	50700.0	〃		
	1892	〃	〃		B3	B	20177	-	39.4	44.7	13.0	43000.0	〃		
72	1893	〃	〃		A2	A	21055	-	39.1	28.8	19.9	32900.0	〃		
	1894	〃	〃		A7-12	A	20616	-	61.8	33.8	14.9	44500.0	〃		
	1895	〃	〃		B3	B	20516	-	40.0	37.0	11.4	24700.0	〃		
73	1896	〃	石製品		B10	Ⅳ	11894	8.397	3.9	2.5	0.6	6.82	頁岩		
	1897	〃	〃		-	-	-	-	14.0	9.8	8.3	680	安山岩		
	1898	〃	〃		A6-30	A	20676	-	16.4	15.0	10.4	2300	〃		
74	1899	〃	軽石製品		B3	B	19884	-	20.2	10.8	6.2	460.0	軽石		48
	1900	〃	〃		-	-	-	-	15.3	9.4	3.8	130.0	〃		
	1901	〃	〃		B11	Ⅳ	-	-	11.9	9.3	3.2	76.6	〃		
	1902	〃	〃		A4-18	A	17935	-	14.8	14.8	7.8	490.0	〃		
	1903	〃	〃		B10	Ⅳ	13690	8.372	6.3	4.6	2.2	13.3	〃		48
75	1904	〃	〃		A3-5	B	16712	-	24.6	9.9	6.7	312.3	〃		
	1905	〃	〃		A10	A	17245	-	11.5	8.3	3.4	90.4	〃		
	1906	〃	〃		B18	B	15960	-	3.5	4.1	1.2	2.2	〃		
	1907	〃	〃		A10	A	-	-	7.8	5.6	3.2	25.8	〃		
	1908	〃	〃		A11	Ⅳ	5002	8.582	12.7	9.6	5.3	360.0	〃		
76	1909	〃	〃		B6	Ⅳ	6673	8.674	10.9	9.7	5.0	62.9	〃		
	1910	〃	〃		B10	Ⅳ	-	-	7.8	8.2	3.4	46.4	〃		

第11表　出土遺物観察表(11)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
76	1911	石器	軽石製品		B3	B	20363	-	5.0	4.9	4.1	20.6	軽石		48
	1912	〃	〃		B4	Ⅳ	3736	7.701	1.4	1.9	0.6	0.3	〃		
	1913	〃	〃		-	-	-	-	3.5	2.8	1.2	1.9	〃		
	1914	〃	〃		B10	Ⅳ	11077	8.447	6.2	6.4	2.4	25.3	〃		
	1915	〃	〃		B11	Ⅳ	-	-	6.8	7.0	4.2	46.2	〃		
	1916	〃	〃		A13	Ⅳ	13788	8.352	8.4	6.4	3.9	58.5	〃		
	1917	〃	〃		B18	Ⅳ	15962	-	8.0	7.1	4.7	84.5	〃		
77	1918	〃	〃		B10	Ⅳ	11895	8.584	18.6	8.4	4.3	135.3	〃		
	1919	〃	〃		A4-59	A	18059	-	12.7	10.0	4.4	180.8	〃		
	1920	〃	〃		B3	B	20097	-	15.8	13.5	6.0	490.0	〃		48
	1921	〃	〃		B10	Ⅳ	9515	8.655	20.0	10.4	4.0	420.0	〃		
78	1922	〃	〃		B8	表	-	-	8.1	7.0	4.2	68.3	〃		
	1923	〃	〃		B11	Ⅳ	9189	8.562	10.0	8.0	3.9	77.5	〃		
	1924	〃	〃		B11	Ⅳ	13289	8.560	11.3	6.9	4.4	95.3	〃		
	1925	〃	〃		B10	Ⅳ	9338	8.424	10.3	9.7	5.0	130.1	〃		
	1926	〃	〃		A19	Ⅱ	15048	8.392	8.5	7.5	3.5	42.2	〃		
	1927	〃	〃		B10	Ⅳ	9426	8.533	11.4	7.5	2.9	86.4	〃		
	1928	〃	〃		B10	Ⅳ	10078	8.374	9.6	7.2	4.2	76.7	〃		
	1929	〃	〃		B10	Ⅳ	13700	8.362	14.2	8.8	5.8	190.0	〃		
79	1930	〃	〃		B10	Ⅳ	9261	8.708	11.4	9.4	4.2	109.0	〃		
	1931	〃	〃		B5	Ⅳ	6073	8.983	15.5	11.6	10.9	410.0	〃		
	1932	〃	〃		B5	Ⅱ	1571	8.232	2.3	3.0	1.1	1.4	〃		48
	1933	〃	〃		B10	Ⅳ	10192	8.539	3.0	5.1	0.7	2.7	〃		
	1934	〃	〃		B10	Ⅳ	11251	8.412	4.9	2.6	2.3	7.4	〃		
	1935	〃	〃		B4	Ⅱ	-	-	5.3	4.4	1.4	11.2	〃		
	1936	〃	〃		B10	Ⅳ	10335	8.550	8.8	7.7	4.0	51.1	〃		
	1937	〃	〃		B5	Ⅳ	-	-	10.6	10.2	5.4	126.4	〃		
	1938	〃	〃		B10	Ⅳ	9291	8.584	6.7	3.8	1.8	9.2	〃		
	1939	〃	〃		A15	Ⅱ	16114	-	6.0	6.0	3.8	36.9	〃		
80	1940	〃	〃		B10	Ⅳ	9498	-	6.2	6.5	4.3	25.4	〃		
	1941	〃	〃		B7	Ⅴ	6793	8.642	9.6	7.9	3.3	48.4	〃		
	1942	〃	〃		B11	Ⅳ	13396	8.700	8.2	5.1	4.6	40.2	〃		
	1943	〃	〃		B7	Ⅲ	6792	8.684	7.2	9.0	3.3	41.5	〃		
	1944	〃	〃		B11	Ⅳ	8887	8.631	6.3	9.3	4.7	61.9	〃		
	1945	〃	〃		B5	Ⅳ	-	-	13.9	7.0	4.8	124.4	〃		
	1946	〃	〃		B10	Ⅳ	9516	8.594	10.3	8.0	1.7	20.2	〃		
81	1947	〃	〃		B11	Ⅳ	9625	8.475	9.5	5.7	3.5	45.9	〃		48
	1948	〃	〃		A3-3	B	16703	-	9.4	5.9	2.5	31.3	〃		
	1949	〃	〃		B10	Ⅳ	9469	8.552	11.6	11.2	4.0	131.6	〃		
	1950	〃	〃		B4	Ⅲ	-	-	9.3	7.0	4.0	70.5	〃		48
	1951	〃	〃		B10	Ⅳ	13780	8.377	11.4	5.9	2.9	48.3	〃		
	1952	〃	〃		A11	Ⅳ	13411	8.490	14.5	12.0	5.8	197.0	〃		
82	1953	〃	〃		A3-3	-	-	-.	14.7	10.3	3.4	102.2	〃		
	1954	〃	〃		B10	Ⅳ	11902	8.590	8.7	7.7	4.1	76.1	〃		
	1955	〃	〃		B10	Ⅳ	13687	8.362	9.2	7.7	4.7	106.8	〃		
	1956	〃	〃		B11	Ⅳ	8776	8.515	9.1	6.9	4.9	111.3	〃		
	1957	〃	〃		B10	Ⅳ	11700	8.471	5.5	3.9	2.8	17.3	〃		

第12表　出土遺物観察表(12)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備考	図版
82	1958	石器	軽石製品		B10	Ⅳ	13751	8.342	4.4	4.6	2.7	10.5	軽石		
	1959	〃	〃		A4-27	A	17756	−	4.6	4.9	1.7	9.3	〃		
	1960	〃	〃		B6	−	−	−	5.2	5.2	1.3	10.5	〃		
	1961	〃	〃		B22	−	−	−	1.9	3.1	1.4	2.3	〃		48
	1962	〃	〃		B11	Ⅳ	13275	8.595	8.8	8.1	7.7	140.8	〃		
83	1963	〃	球顆状礫		A5	低	−	−	(4.5)	(6.0)	(2.6)	94.5	球顆岩		
	1964	〃	〃		A3-40	B	18293	−	6.4	5.7	2.1	98.8	〃		47
	1965	〃	〃		B5	Ⅳ	−	−	(8.7)	7.5	3.0	270.3	〃		
	1966	〃	〃		B2	B	20998	−	7.5	6.2	4.4	260.0	〃		
	1967	〃	〃		B3	B	20102	−	14.3	10.0	5.8	1180.0	〃		
	1968	〃	〃		B3	A	20117	−	19.0	14.8	8.9	3200.0	〃		47
	1969	〃	〃		A6-19	A	20583	−	12.8	16.0	9.1	2200.0	〃		
84	1970	〃	〃		A3-41	B	16510	−	13.9	10.8	6.5	1500.0	〃		
	1971	〃	〃		B3	B	20185	−	17.4	12.4	7.4	2100.0	〃		
	1972	〃	〃		−	−	−	−	14.0	9.8	10.6	1700.0	〃		
	1973	〃	〃		A7-4	A	19510	−	15.8	13.4	7.8	1900.0	〃		47
	1974	〃	〃		A3-23	B	16817	−	15.3	11.8	6.2	1240.0	〃		
	1975	〃	〃		A2	B	20927	−	20.7	16.4	7.1	3500.0	〃		

３　弥生・古墳時代の調査

弥生時代および古墳時代の調査は，Ⅳ層である砂層上面までの黒色土を包含層としている。遺構としては底面にピットが連続して残る古墳時代の溝状遺構が検出されている。遺物は全体的に少なかったが，調査区南西域の低地部分や北東端で比較的多く出土した。

⑴　遺構：溝状遺構（第85，86図）

古墳時代の溝状遺構と考えられるものが１条検出されている。これはＡ14区からＡ21区の延長約140ｍに亘って検出されたもので，調査区とほぼ平行している。おおむね幅約２ｍ，検出面からの深さ50～70㎝を測る。底面に硬化面はみられなかった。

この遺構の最大の特色は，底面に直径20㎝程度のピットが杭列状に連続して検出されている点である。ピット間の距離に統一性は見いだせないが，溝状遺構に付属する施設である可能性が高い。遺構の性格については不明であるが，数m間隔で鋸歯状に屈折する部分があることも注意しておきたい。底面上から成川式土器が出土している。第85図からもわかるように，遺構は南東に延びる台地をほぼ横切る形で検出されている。

⑵　遺物（第87，88図　1976～2013）

本遺跡全体の出土遺物からすると，弥生時代から古墳時代にかけての遺物の総数は微々たるものであるが，少ないながらも数時期の資料が見られ，周辺に集落が存在する可能性を示唆する結果が得られた。

1976～1980は前期中葉から後葉にかけての土器と考えられる。1976は壺形土器，ほかは突帯に刻目をもつ甕形土器である。口唇部の突帯は1977のようにやや上がり気味のものと，1978～1980のように下がり気味のものがある。

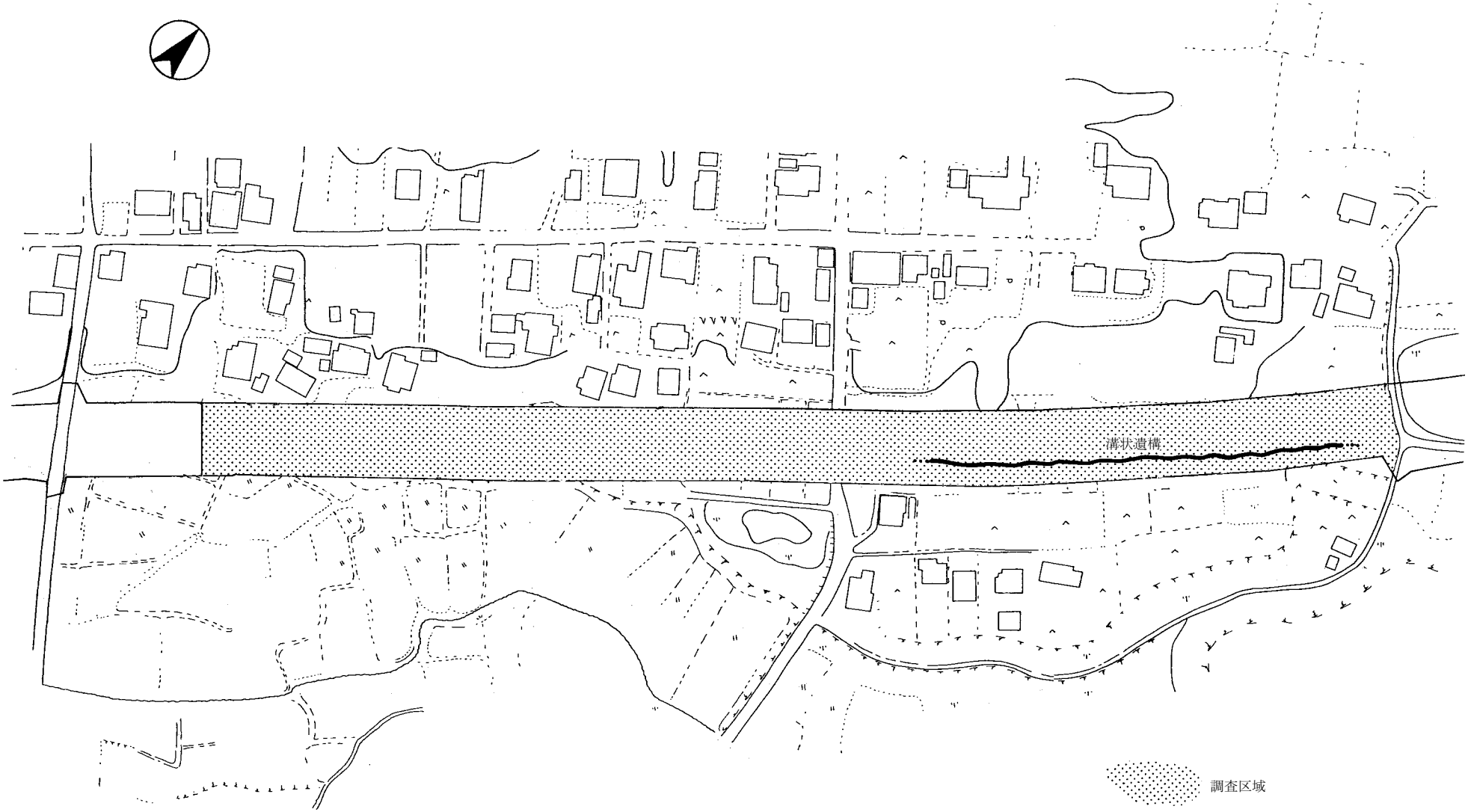
1981～1990は中期後葉の土器と考えられる。1981，1982は壺形土器，ほかはすべて甕形土器である。1981は口唇部が二股に分かれる形態の土器で，いわゆる「二叉状口縁」を呈している。1982は口縁部が外側へ大きく開くもので，口唇部に刻みがみられる。1984～1990はやや「く」字状に近い口縁部をもつ。口縁部内面に稜線をもつのが特徴的である。1988は口唇部に先端極細の工具による沈線が数条施されている。

1991～1994の４点は後期後葉の土器である。前二者が壺形土器で後者が甕形土器である。1992の底部は，安定した平底であることから，所属時期がややさかのぼる可能性もある。1993の甕形土器の口縁部内面は，やや張り出すものの稜線は弱い。

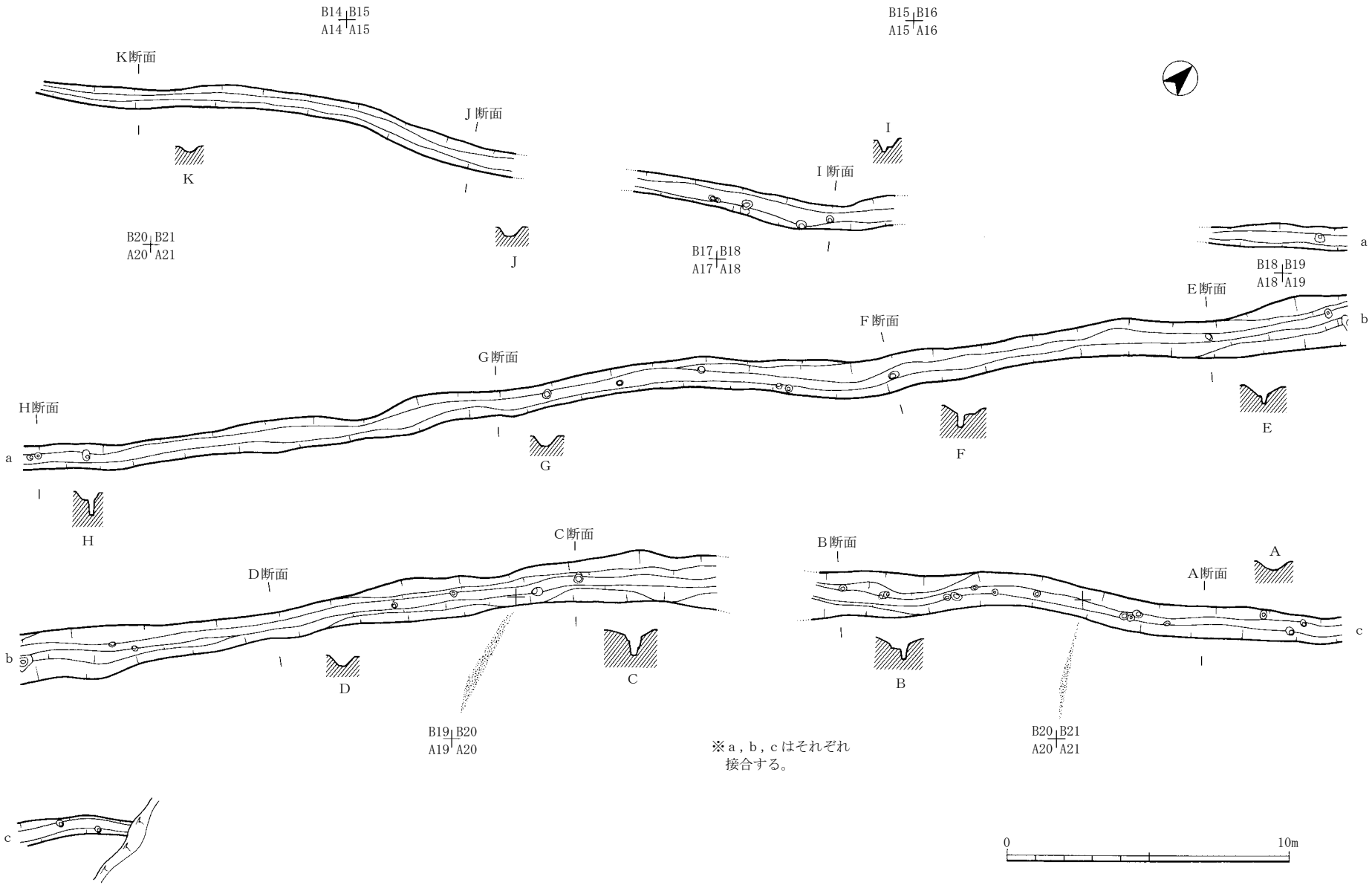
1995～2013はおおむね古墳時代初頭の土器と考えられる一群である。1995～1999は甕形土器の口縁部である。「く」字状屈曲する口縁部内面の稜線は弱い。2005～2009は甕形土器の脚台部である。つまり，この時期の底部は上げ底の脚台を呈している。

2000～2004，2010は壺形土器である。2000は口縁部，2001～2004は胴部片である。2001～2003は胴部最大径のやや上位に刻目突帯文が施されたものである。2004は突帯のかわりに格子目状沈線の文様を施したものである。2011～2013は高坏である。

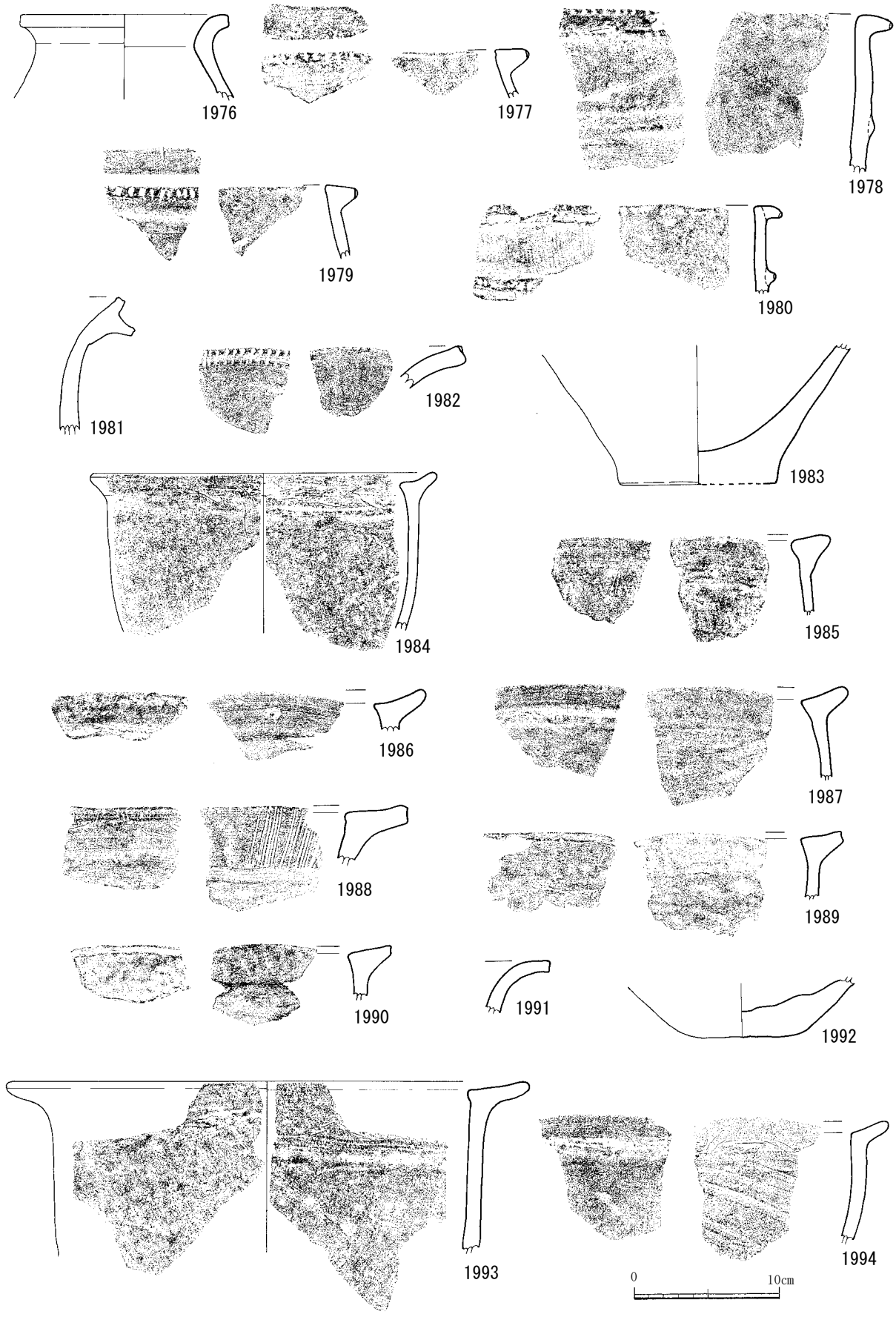
第13表からもわかるように，出土遺物はＡ15，16区とＢ22区のⅠ層で多く見られる傾向がある。Ｂ22区の資料はすべてⅠ層からの出土であることから，本来は調査区外の北西域に原位置があったものと想定される。



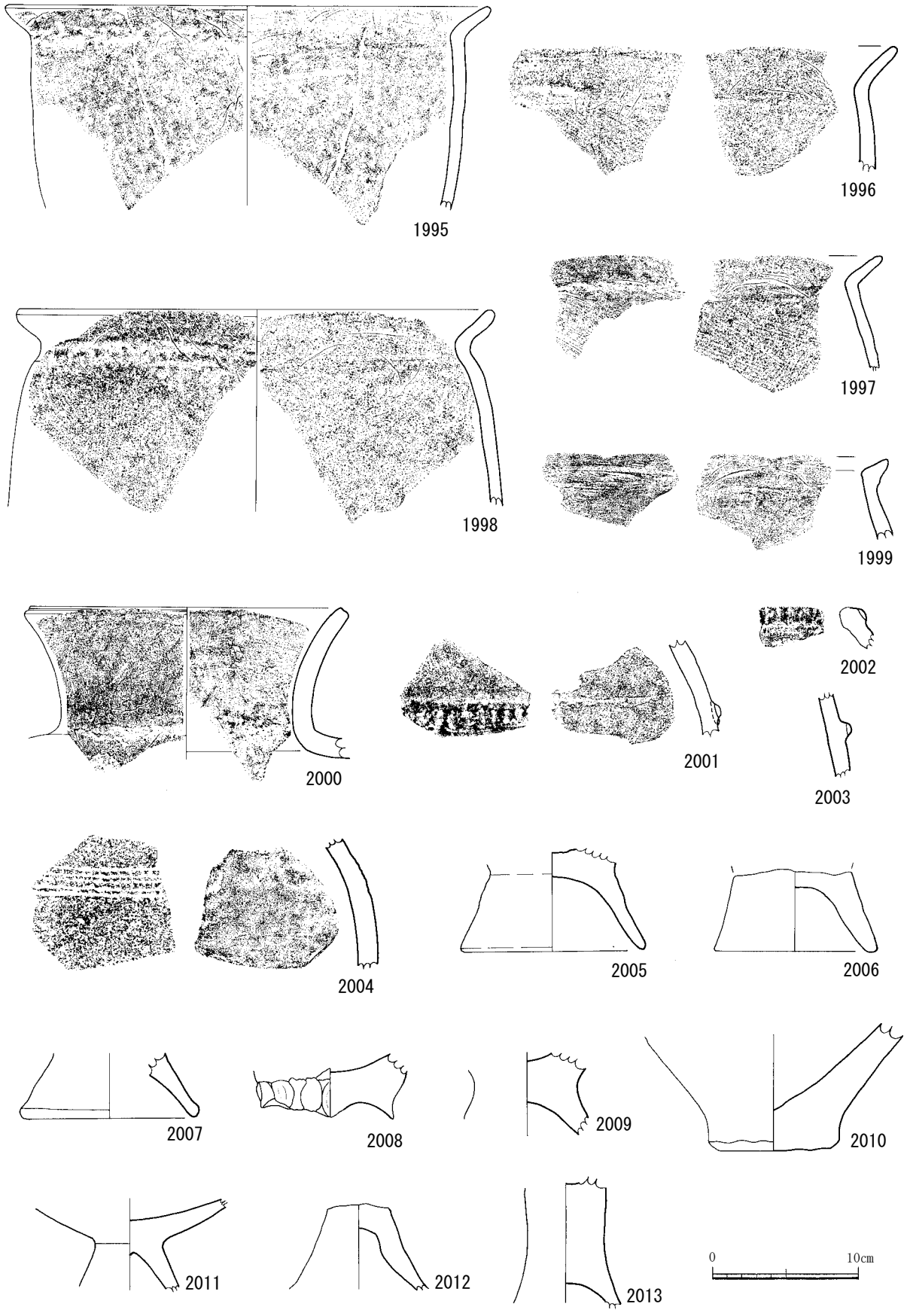
第85図　古墳時代の遺構配置図



第86図　溝状遺構（古墳時代）



第87図　弥生時代の土器



第88図　弥生～古墳時代の土器

４　古代～近世の調査

古代～近世の調査では，様々な遺構と多様な遺物が出土した。

⑴　遺構（第89～98図）

古代～近世の遺構としては，土坑２基，柱穴状ピット群２か所，道跡８条，大型道路遺構１条，溝状遺構６条，畠跡２か所，井戸状遺構２基が検出された。

①土坑（第91図）

土坑は２基検出された。土坑１はＢ10区で検出された。平面形が略楕円形を呈する。長径205㎝，短径135㎝を測る。遺物は小片が多い中，図化可能な軽石（2020，2021）および縄文土器（2023～2026）を掲載したが，黒色の埋土であることや，小片に土師器が含まれていることから古代～中世の遺構であると考えられる。

土坑２はＢ12区で検出された。円形の土坑に溝が伴っている状態であったが，調査区境付近での検出であったため，部分的な調査しかできなかった。2014（第91図）は溝から出土した鉄製品である。長さ6.7㎝，幅0.8㎝を測る細長い形状の製品である。

時期についての詳細は，やはり遺物が少ないことから明確でないが，黒色の埋土と，土師器の小片から土坑１とほぼ同様な時期が想定される。

②柱穴状ピット群（第92図）

柱穴状ピット群はＢ５から７区にかけてと，Ｂ９区からＡ・Ｂ13区にかけての２か所で検出された。まとまりの大きい後者の様子を図化した。ピットの数が多いことや調査区外にも広がっていると考えられることから，ピットの組み合わせによる建物の位置関係は明確に出来なかった。しかし，明確な掘り込みをもつことから柱穴である可能性が高い。特にＢ12，13区のピット群は掘立柱建物数棟を構成する柱穴の一部と考えられ注目される。埋土状況から中世以前のものと考えられる。

③道跡（第93，94図）

道跡は８条検出した。ここで道跡としたものは，すべて硬化面を筋状に残している形態のものである。

道跡１は11区から13区にかけて調査区（バイパス路線）とほぼ並行する形で検出された。長さ約40m，幅約５ｍを測る。台地の窪んだ部分に硬化面が形成されている。

道跡２はＡ15区からＢ17区にかけて検出された。長さ約25m，幅約1.2ｍを測る。調査区を南北に横切る形で検出され，両端ともに調査区外へと延びている。また，本遺構と並行して溝状遺構２～４が検出された。これらは切り合い関係がないことから，一連した遺構である可能性が考えられる。

道跡３はＢ19区で検出された。長さ約８ｍ，幅約60㎝を測る。両端とも消滅した状態で検出されており本来の形状は不明である。延長線上に道跡５があるが，約15ｍの距離があり一連したものかは確定できない。

道跡４はＢ20区で道跡５および道跡６を横切る状態で検出された。長さ約８ｍ，幅約50㎝を測る。両端ともに消滅した状態で，本来の形状については不明である。

道跡５はＢ20区から21区にかけて検出された。長さ約32m，最大幅約2.2ｍを測る。焼土を伴う道跡７の上部，道跡４の下部から検出されている。またほぼ平行して道跡６の硬化面がある。検出

面からの深さが約50～100㎝を測る溝の底面には硬化面がみられる。つまり，溝状遺構の底面に硬化面があるという状態である。Ｂ21区側では二股に分かれる部分もある。

道跡６はＢ20区からＡ21区にかけて検出された。長さ約28ｍ，幅約50㎝である。杭を伴う溝状遺構の上部，道跡４の下部から硬化面のみ検出されている。

道跡７は焼土を伴う道跡である。Ｂ20区からＢ21区にかけ，長さ約20ｍ検出された（硬化面の長さ）。東側は災害によると考えられる崩壊により削平され，西側の端も消滅していた。Ｂ21区側が溝状（最大幅1.4ｍ）を呈していることから，西側は削平され，かろうじて硬化面だけが一部確認できる状態であると考えられる。この遺構の最大の特徴は，冒頭述べたように，焼土を伴っているということである。それはＢ21区の溝状を呈する部分で顕著で，とくに北側斜面を中心として硬化面の上位で検出された。要因は不明である。道跡４～６よりも古いが，大型道路遺構と一部並行するような状況もみられることから，古代をさかのぼるものではないと考えられる。

道跡８はＣ23区で検出された。長さ約９ｍ，幅約50㎝の硬化面を確認することができた。検出区域は，調査区の北側端にあたり，並行して畝が直交する畠跡が検出されている。また，下位には溝状遺構６がほぼクロスして検出されている。道跡の北西側は消滅，南東側は調査区外へと延びていることから詳細は不明であるが，大型道路遺構とほぼ並行して検出されている点は，同時存在の可能性も含めて注意しておきたい。

④大型道路遺構（第95図）

大型道路遺構は，Ｂ20区から23区にかけ，長さ約50ｍ（ほぼ直線）に亘って検出された。西側は調査区外に延びるが，東側は崩壊している。

ほぼ東西に横たわるこの遺構は，検出面での幅が約８ｍを測る。遺構の検出は，まずⅤ層上面まで掘り下げた段階で黒褐色の落ち込みを確認したところから始まった。黒褐色の落ち込み部分は筋状に長く延びることが確認されたため，直交する幅50㎝のベルトを設定しながら掘り下げた。20㎝ほど掘り下げると，南側を中心に検出ラインと並行しながら筋状に延びる幅30～50㎝程度の硬化面が確認された。硬化面は鉄分を含み，茶褐色を呈している部分も多かった。また，厚さ１～５㎝程の硬化面が幾層も重なっている部分もみられた。硬化面と硬化面の間には水成作用によるものと考えられる砂層が残っている場合が多かった。

50㎝ほど掘り下げた段階で，幅６ｍ弱の硬化面およびそれに近い状態と考えられる面に到達した。硬化面を少し掘り下げると，南側に幅１ｍ弱の溝状遺構が検出された。埋土の下部には砂層がみられた。側溝的な役割を果たしていた段階が想定される。この溝状遺構は最終的に幅40㎝ほどの規模で残存していた。より南側で検出されたこの溝状遺構の埋土は黒色土であった。いずれの溝状遺構も，底面が硬化した状況はみられなかった。

また，第95図のＢ断面図中にあるａの硬化面を掘り下げると，Ｂ22区側に道筋とほぼ直交する溝状の落ち込みが数条検出された。この落ち込みは，長さ1.5～1.8ｍ，幅30㎝，深さ15㎝程度の規模を測る。図化したのは13条であるが，西側に浅い落ち込みが10条ほど確認できた。埋土は黒色土で，砂が顕著に見られるという状況はなかった。

ａの硬化面を掘り下げると，遺構の北側を中心に幅３～４ｍほどの落ち込みが確認された。最終的にはａ面を約１ｍ掘り下げた段階で底面に達したが，上位は黒褐色系，中～下位は黄白色系の砂

層が埋土となったもので，後者はほぼ水成作用によるものであった。底面の幅は約３ｍであった。硬化面はみられなかった。

以上のように大きく２段構成になった遺構であるが，幅３ｍ程度の道として造られた段階と幅６ｍ程度の道に拡張された段階の２つの段階として捉えた。第１段階の遺構は，埋土に水成作用による砂層がみられることから，自然流路の可能性も考えたが，ほぼ直線的な形状であること，23区側に本遺構とほぼ直交する自然の谷筋が存在することを考慮すると，この直線は人工的なものである可能性が高い。溝状を呈する遺構であるため，ひとたび大雨が降ると川に変身するような状況があったものと考えられる。第２段階でも同様なことがいえる。つまり，幅６ｍの段階の遺構は，東側で崩壊しているのである。崩壊した要因は，崩壊部分の砂層がポットホール状になっていることからも水の作用によることは明らかである。前述したように23区付近は北から南に落ちる緩い谷筋があることから，普段から水が集中するところであったと考えられる。遺構の時期や性格等については，第Ⅴ章で述べることにする。

⑤溝状遺構（第96図）

溝状遺構は６条検出された。溝状遺構１はＢ４区とＢ５区の境で調査区へ延びる形で検出された。溝状遺構２から４は道跡２を挟むように検出された。前述のように相互に関係があると考えられる。

溝状遺構５はＢ19区で道跡５を断ち切るように検出された。溝状遺構６はＣ23区，調査区の北東隅で検出された。いずれも硬化面や特記すべき状況はみられなかった。

⑥畠跡（第97図）

畠跡と考えられる畝状遺構はＢ19区からＢ20区とＣ23区の２か所から検出された。前者のほうは，４か所に集中区が分かれて検出された。最も西側にある集中区は，畝状遺構の方向からさらに２つのグループに分かれている。また，西端には幅15～20㎝，深さ10㎝程度の直線の溝状遺構がみられる。境界の役目が考えられる。他の３つの集中区にある畝状遺構の方向は，ほぼ一定して同じである。

Ｃ23区で検出された畠跡は，前述のように道跡８と近接している。畝状遺構が硬化面をカットしている部分があることから，畠跡のほうが新しいものと考えられる。

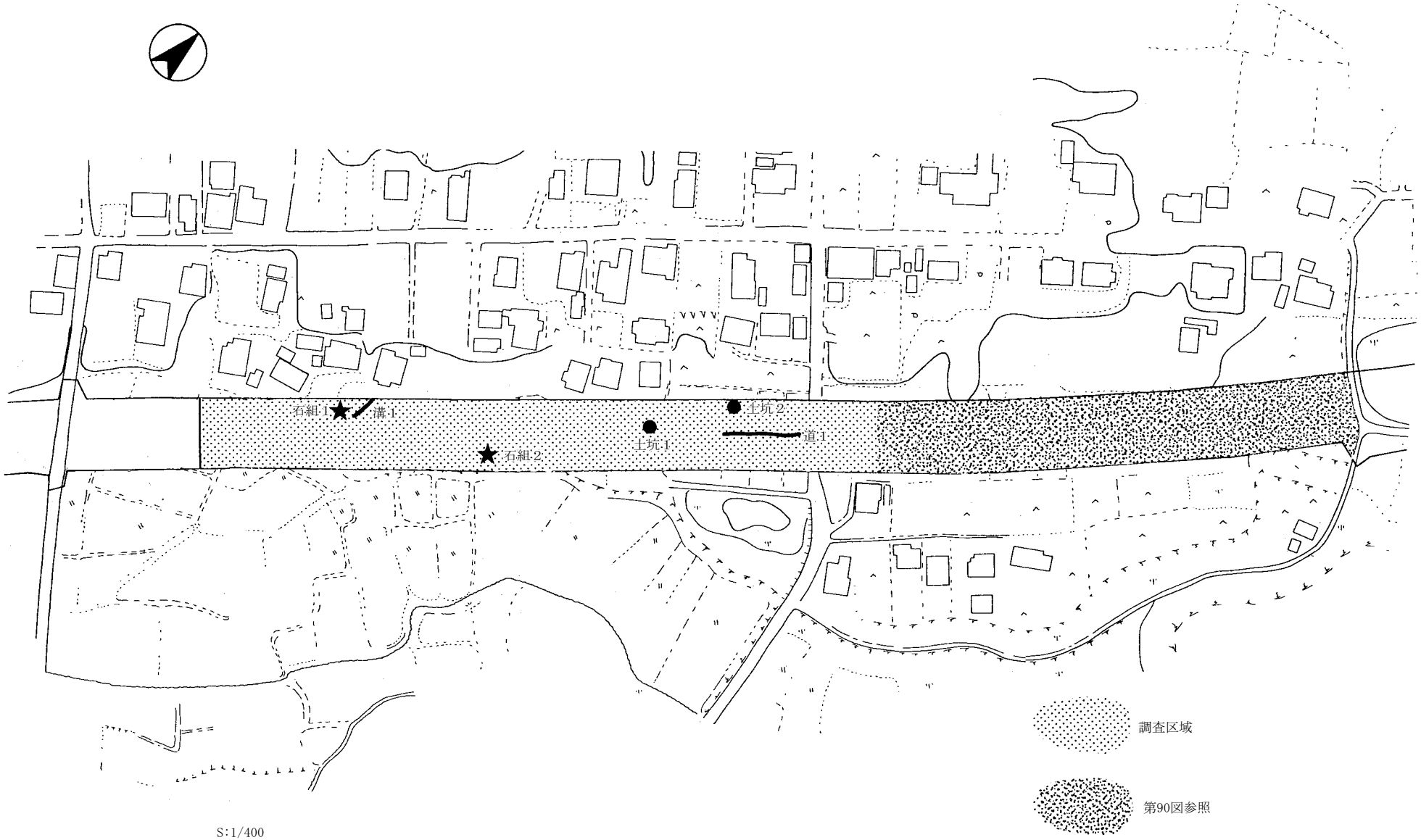
いずれの畠跡も時期の詳細が不明確であるが，黒褐色の埋土から判断すると中世～近世のものといえよう。

⑦石組遺構（第98図）

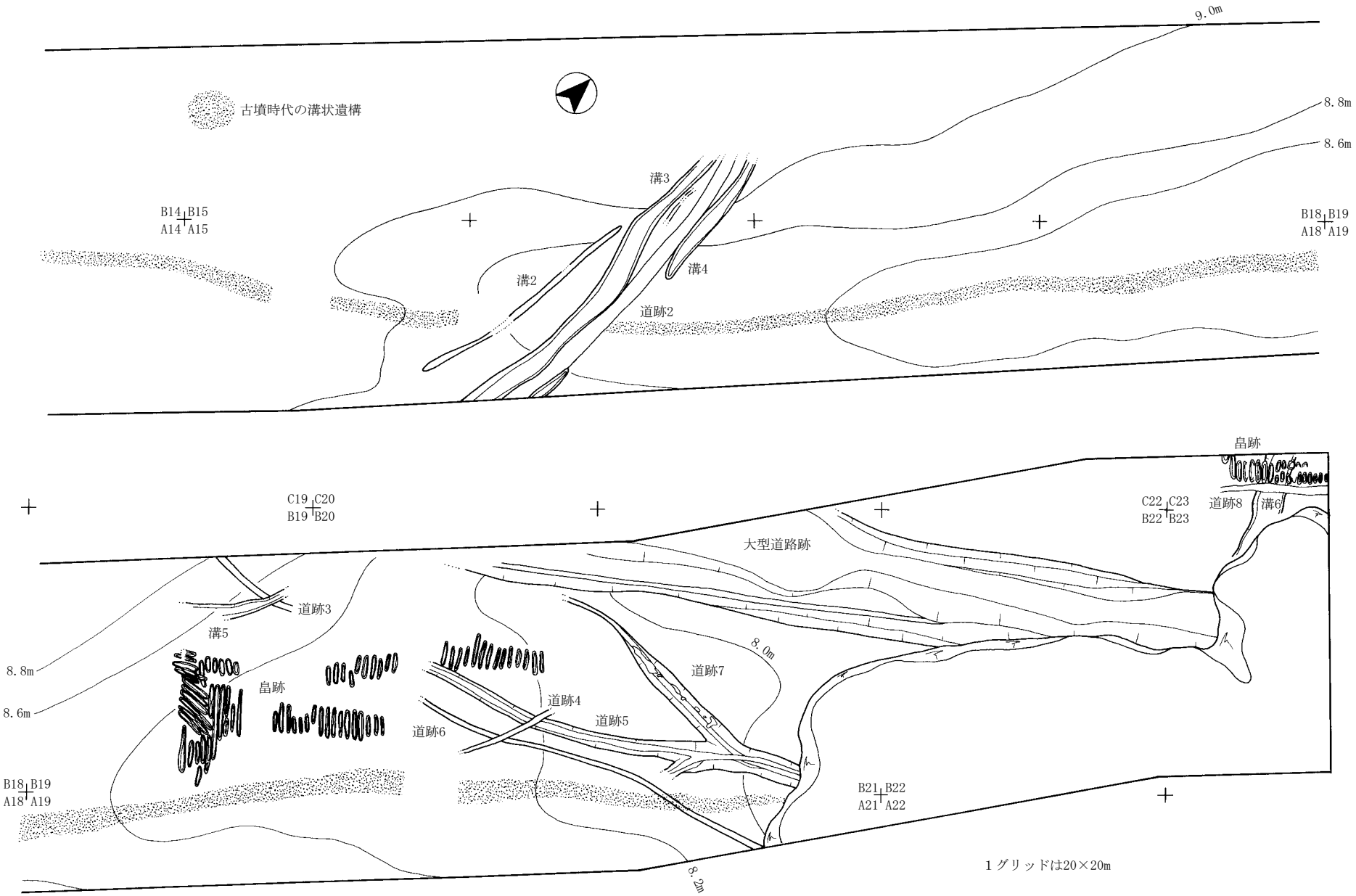
石組遺構は２基検出された。石組遺構１はＢ４区で検出された。楕円形状に石を並べ，底面にかけて扁平面を上にした大型の石が階段状に置かれていた。この大型の石と石の間には，拳大の小礫が丁寧に敷き詰められていた。西側に大型の柱穴が並行して検出されている。陶器の小片が出土していることから，近世以降のものと考えられる。

石組遺構２はＡ７区の低地部分で検出された。多量の礫のかたまりを取り除いた下部から砂層を掘り込んだ状態で検出された。直径約１ｍのほぼ円形を呈する形状で，円周上に礫が積み重ねられた状態であった。

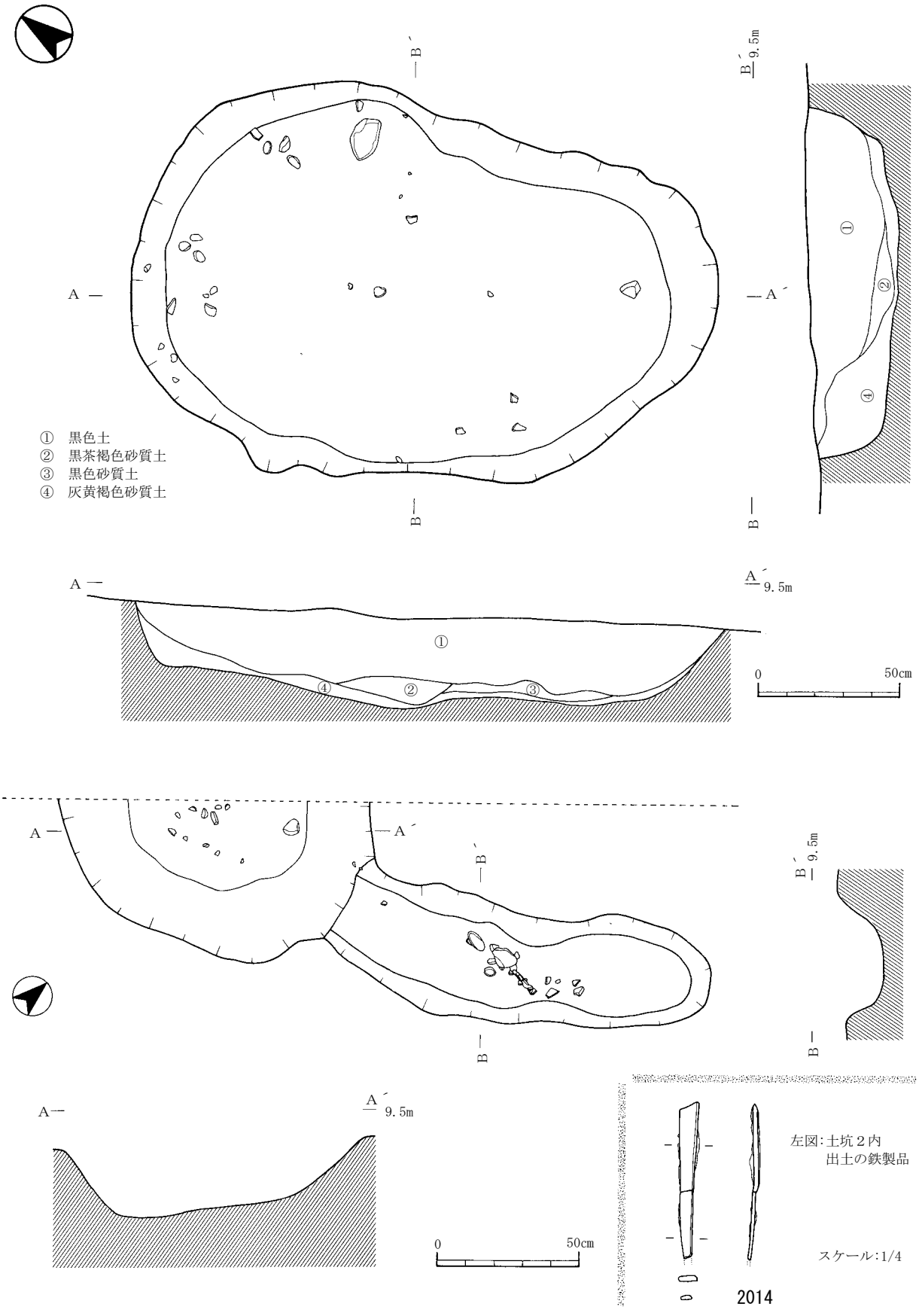
階段状の構造や深さが60～80㎝程度しかないことから，いずれも井戸的な使われ方よりも，溜まり水を汲み上げる施設と考えられる。



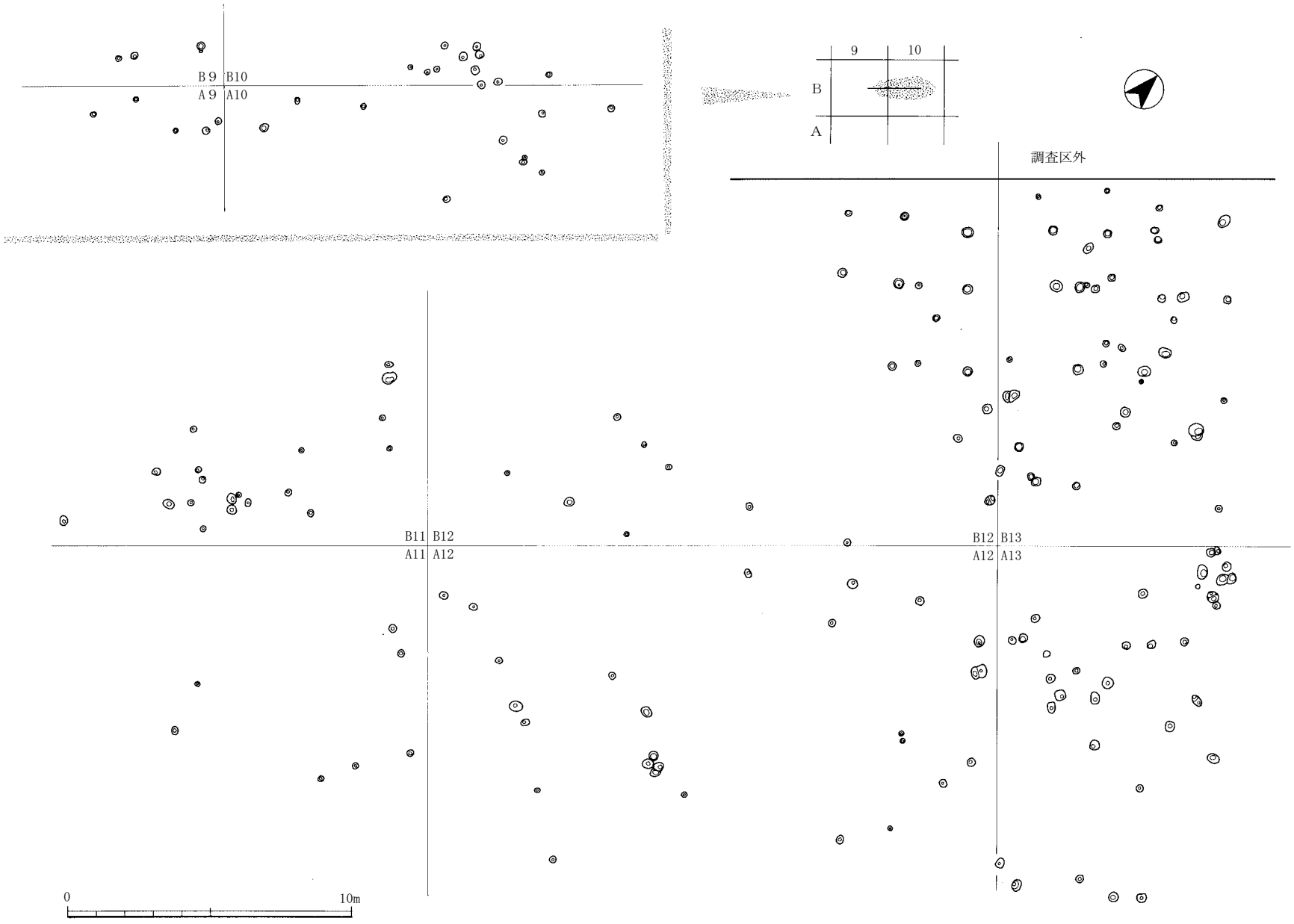
第89図　古代～近世の遺構配置図(1)



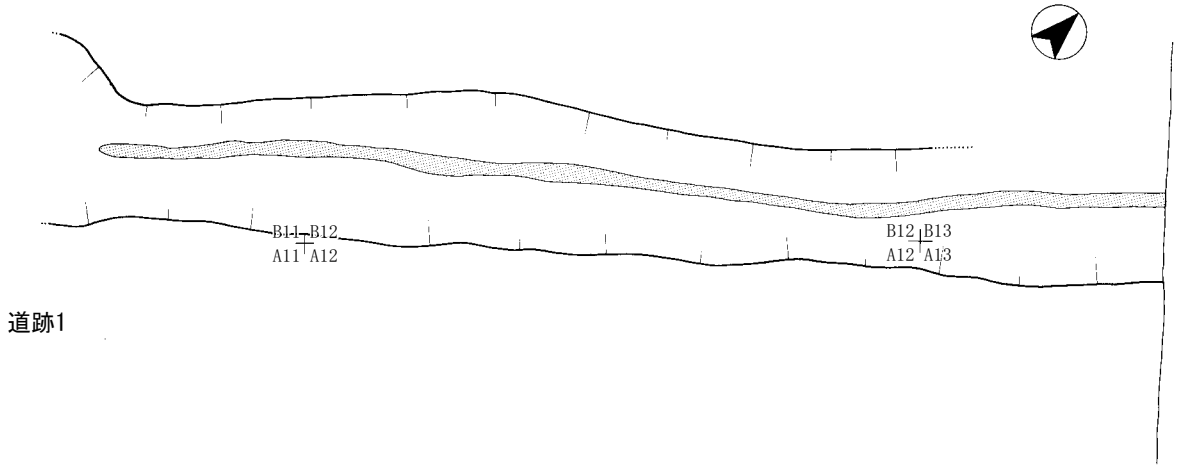
第90図　古代～近世の遺構配置図(2)



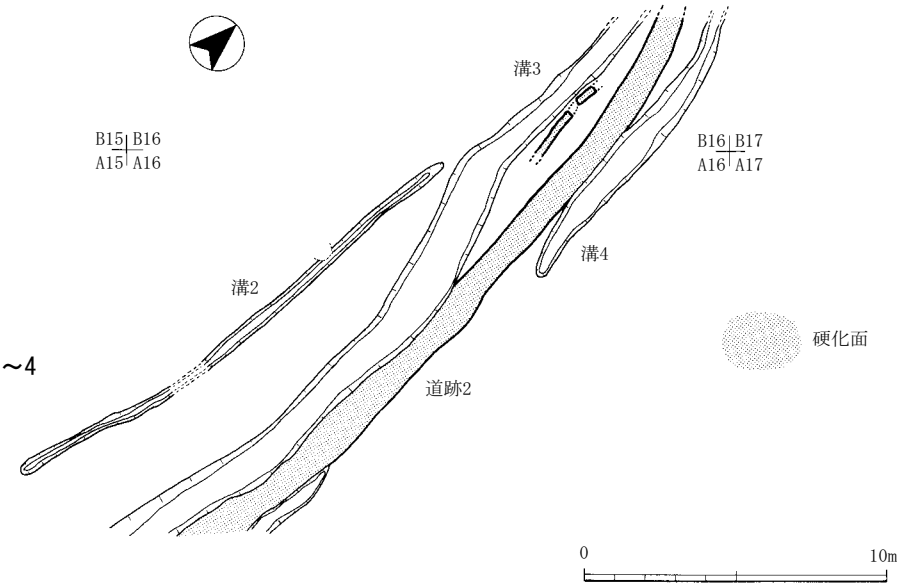
第91図　土坑（上:土坑１,下:土坑２）



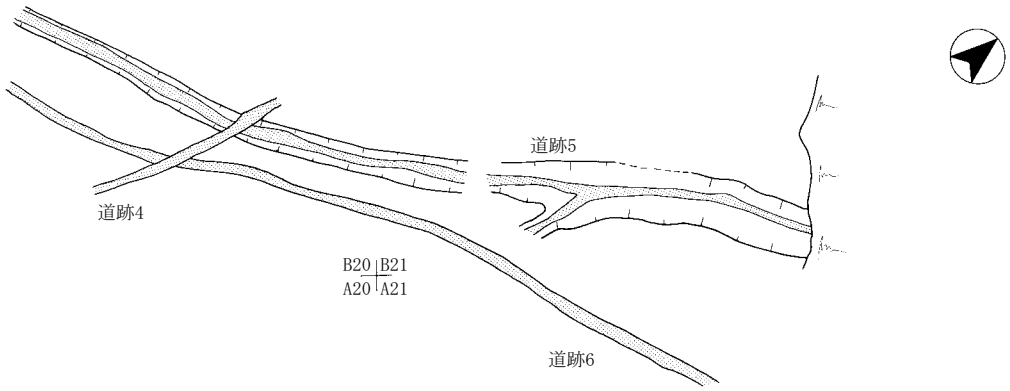
第92図　柱穴状ピット群



道跡1

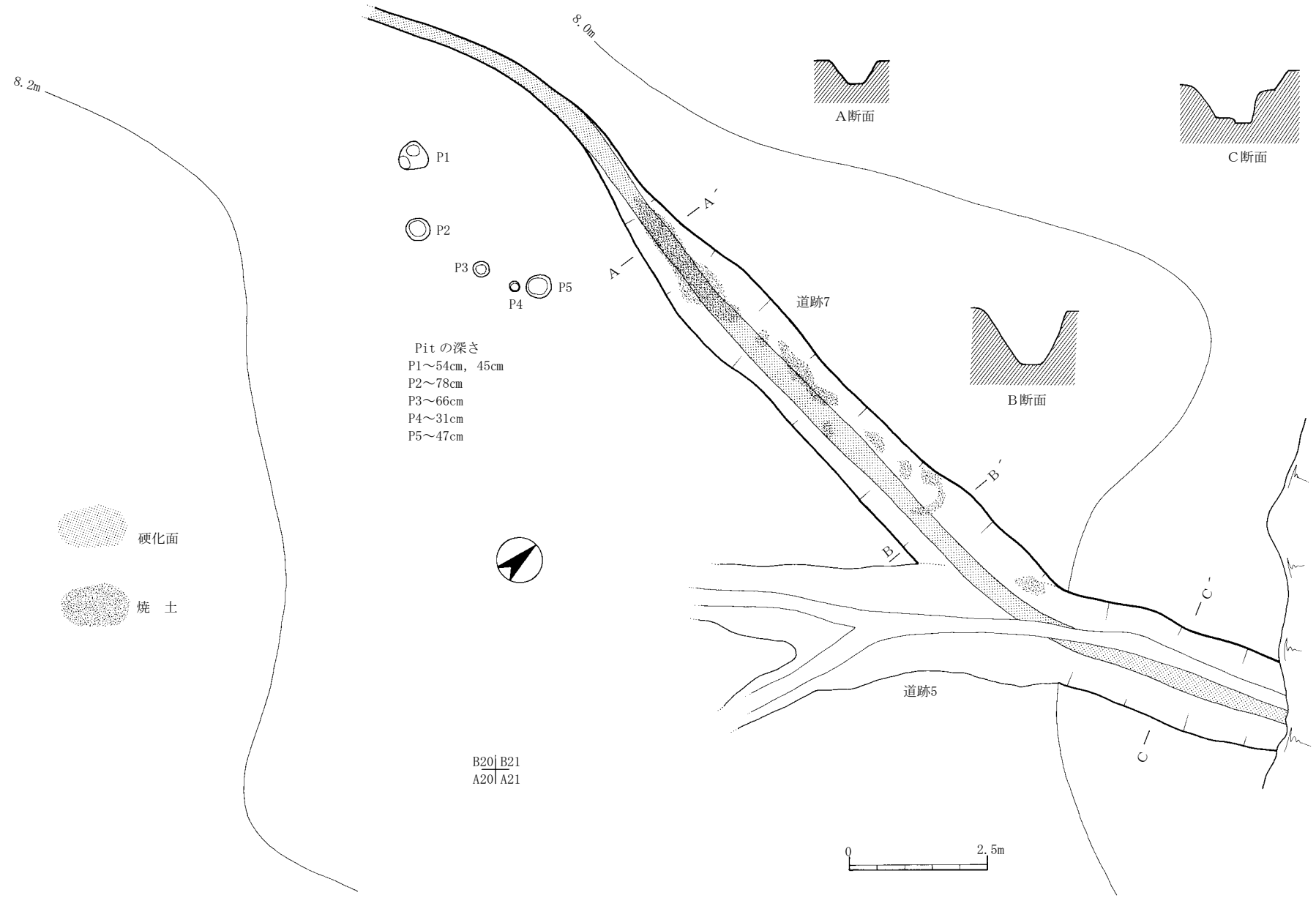


道跡２
　および溝状遺構2～4

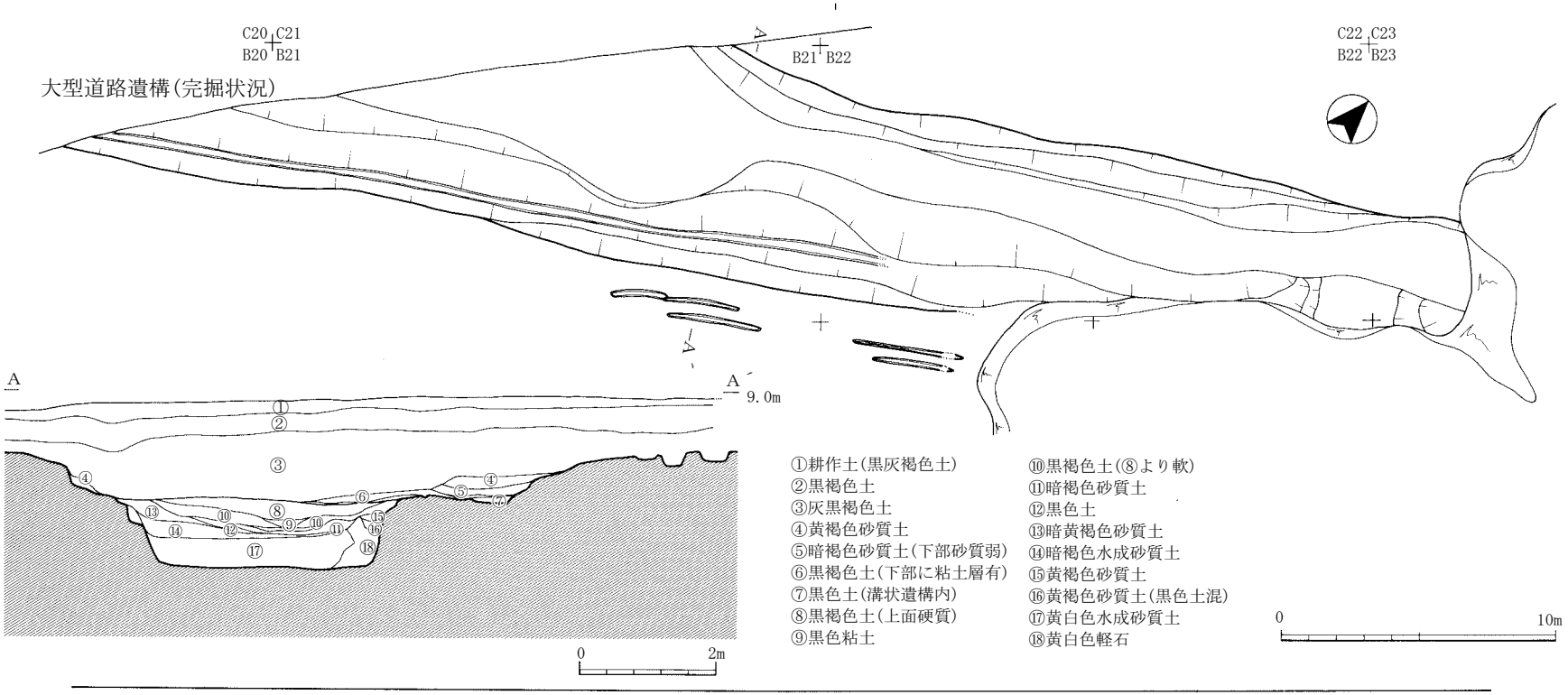


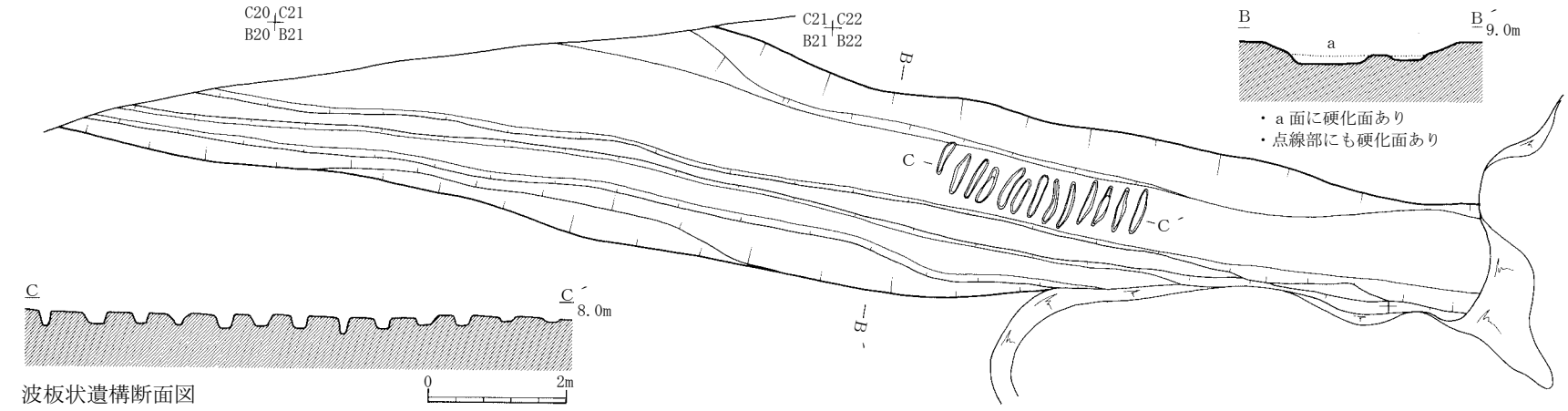
道跡４～６

第93図　道跡１～６及び溝状遺構２～４

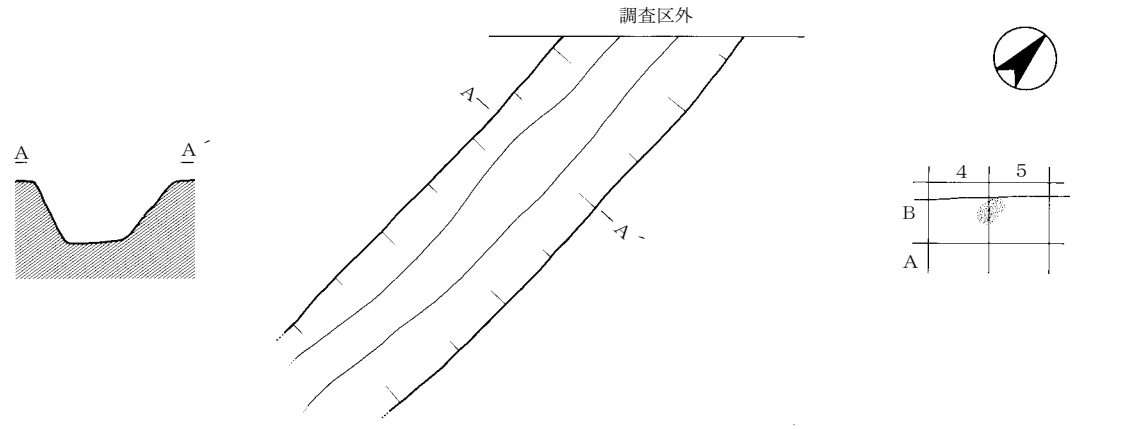

8.2m
8.0m
P1
P2
P3
P4
P5
A
A´
B
B´
C
C´
A断面
B断面
C断面
道跡7
道跡5
Pitの深さ
P1～54cm，45cm
P2～78cm
P3～66cm
P4～31cm
P5～47cm
硬化面
焼　土
B20 B21
A20 A21
0
2.5m

第94図　道跡７

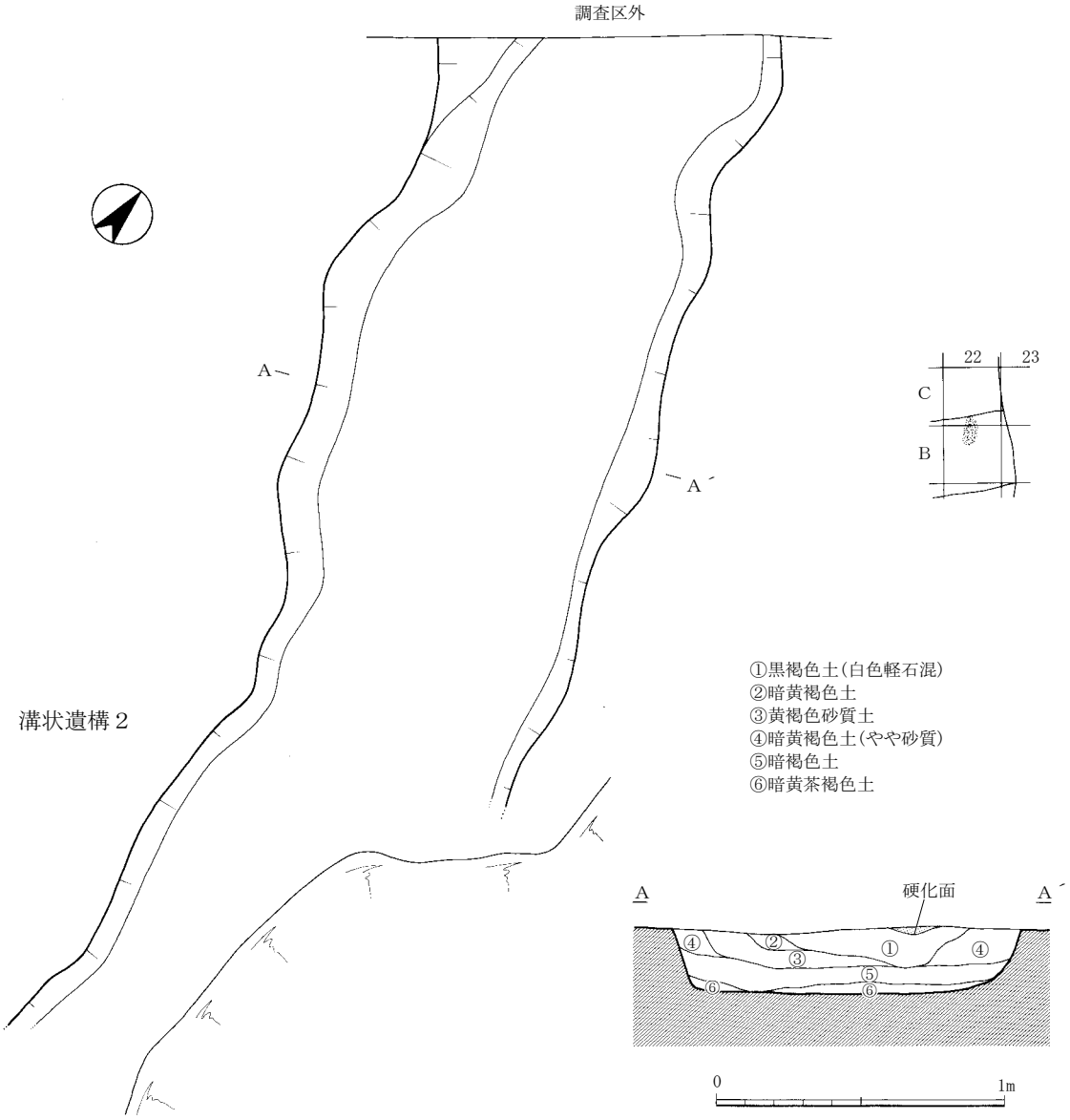

大型道路遺構(完掘状況)
C20 C21
B20 B21
B21 B22
C22 C23
B22 B23
A
A´
9.0m
0
2m
①耕作土(黒灰褐色土)
②黒褐色土
③灰黒褐色土
④黄褐色砂質土
⑤暗褐色砂質土(下部砂質弱)
⑥黒褐色土(下部に粘土層有)
⑦黒色土(溝状遺構内)
⑧黒褐色土(上面硬質)
⑨黒色粘土
⑩黒褐色土(⑧より軟)
⑪暗褐色砂質土
⑫黒色土
⑬暗黄褐色砂質土
⑭暗褐色水成砂質土
⑮黄褐色砂質土
⑯黄褐色砂質土(黒色土混)
⑰黄白色水成砂質土
⑱黄白色軽石
0
10m


大型道路遺構(上面)
C20 C21
B20 B21
C21 C22
B21 B22
B
B´
9.0m
a
・a 面に硬化面あり
・点線部にも硬化面あり
C
C´
8.0m
0
2m
波板状遺構断面図

第95図　大型道路遺構

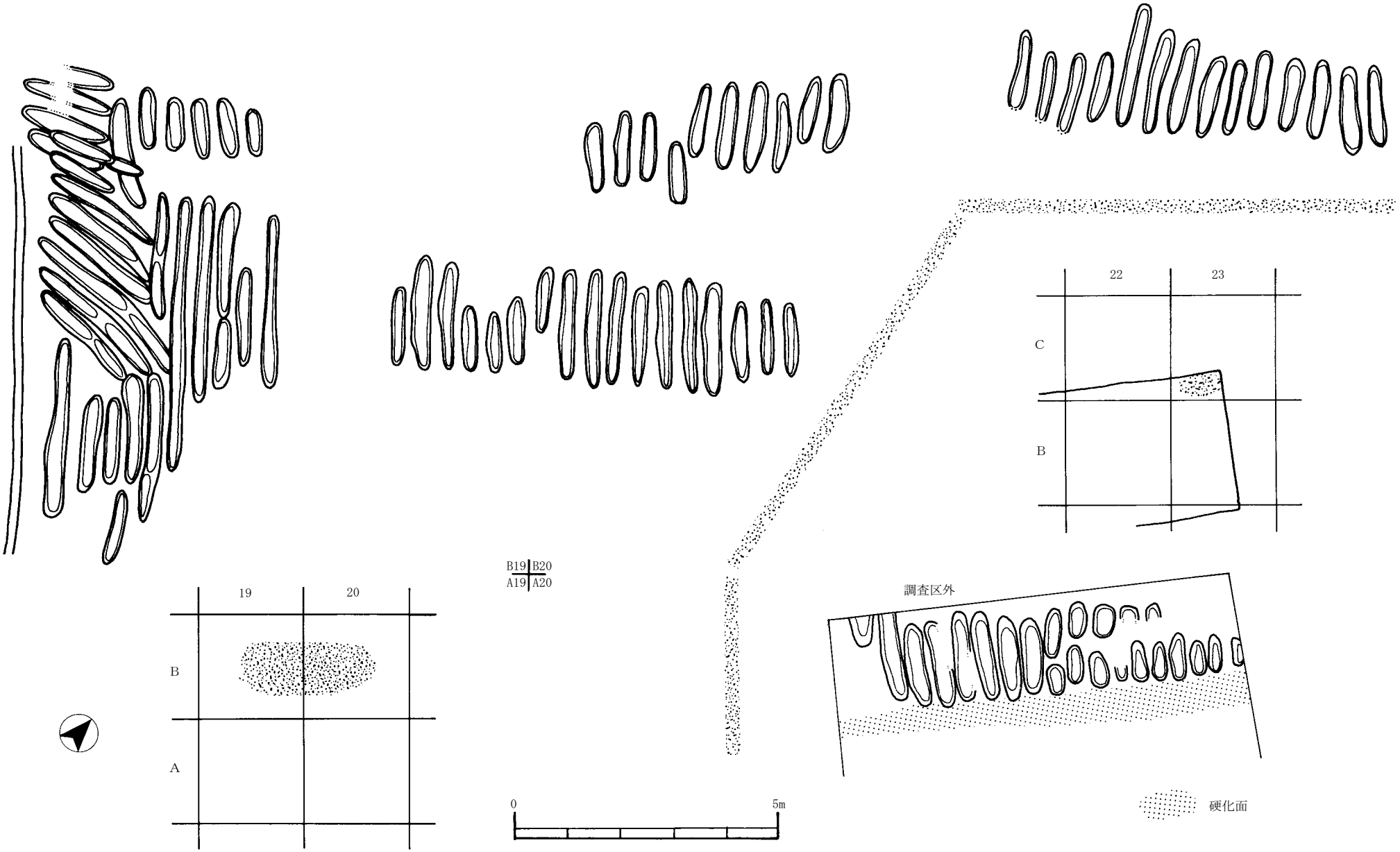


溝状遺構１

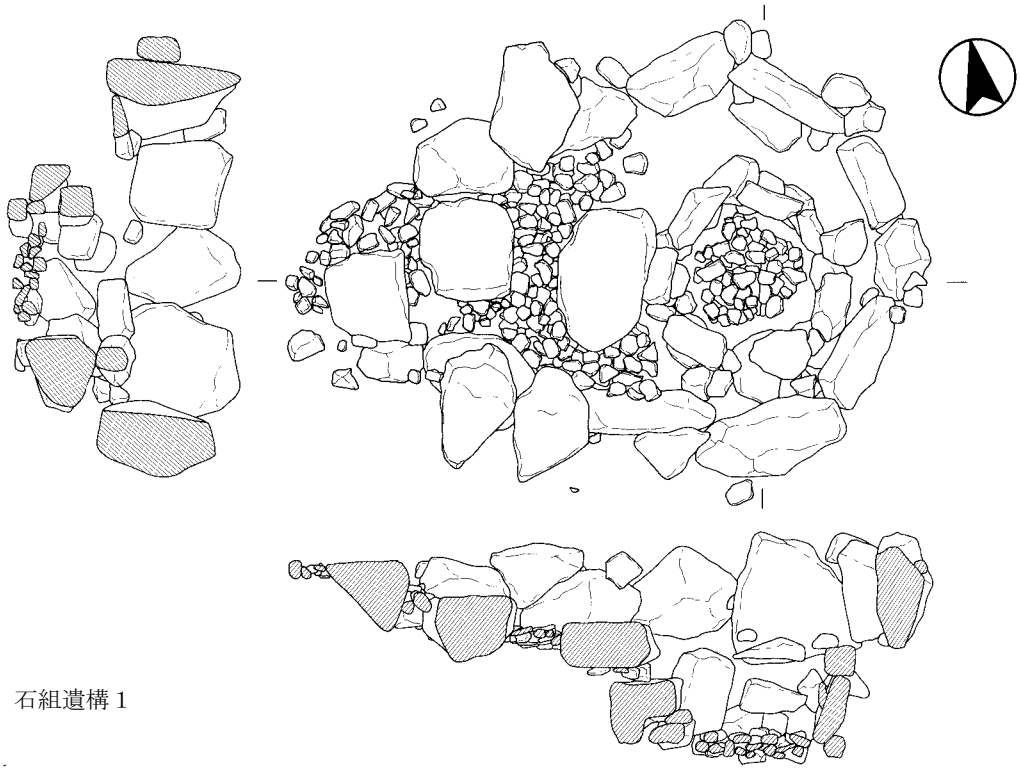


溝状遺構２

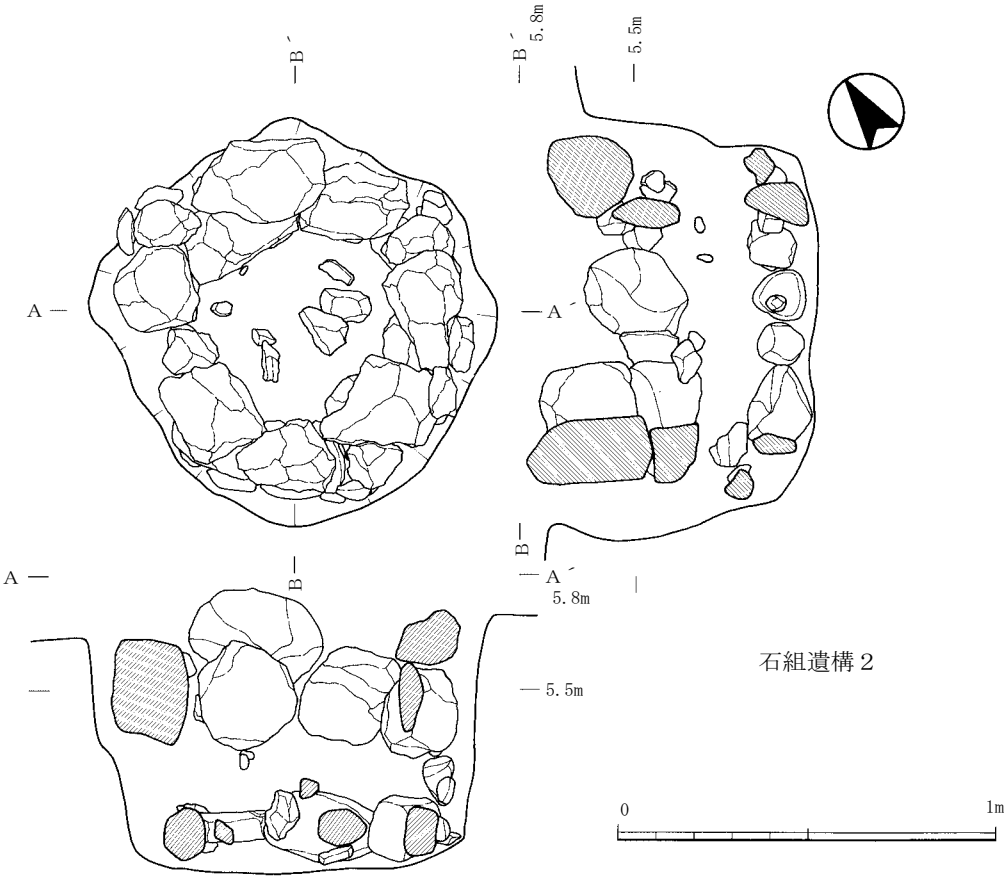
第96図　溝状遺構１，２



第97図　畠跡



石組遺構１



第98図　石組遺構

⑧遺構内遺物（第99～101図　2015～2068）

2015，2016は溝状遺構２から出土した石器である。2015は縦長の礫の両端が剥離している。また側辺部の剥離も観察できる。クサビ的な機能をもつ石器と考えられる。2017は擦痕こそ確認できないが，形状と石材から擦切石器と判断した。

2018，2019，2022は柱穴状ピットから出土した遺物である。2018は陶器製の壺の肩部である。2019は土器片加工品，2022は指宿式土器の口縁部である。

2020～2026は土坑１から出土した遺物である。2020，2021は軽石製加工品で，2021は中央部に窪みがみられる。

2023，2024は縄文土器で，2024では凹線が観察できる。2025は土器片加工品である。2026は台付皿形土器の底部から脚部にかけてのものである。

2027～2034は道跡出土の遺物である。2027は須恵器の壺形土器で外面が剥落している。内面は同心円の当て具痕が観察できる。

2028・2030・2031は青磁である。2028は小片であるが，外面に雷文崩れの文様がみられる。2030は幅広の蓮弁文が施されている。2031は雷文が観察できる。2029は白磁碗の底部である。

2033・2034は軽石加工品である。２点とも明確な抉りが確認できる。

2035～2066は大型道路遺構から出土した遺物である。2035～2039は縄文土器である。2035は深浦式土器である。口縁部近くに補修孔が観察できる。2036～2029は春日式土器と考えられる。2036はやや内湾する口縁部に細い粘土紐が貼付され，沈線文や刺突文で文様が構成されている。2037も内湾する口縁部であるが，文様は口唇部に刻みがみられるだけである。2039は胴部から底部にかけての部分で若干上げ底状を呈している。他にも多数の土器が出土したが，多くはローリングを受けた状態のものであった。

2038～2044は古墳時代の土器で，いわゆる成川式土器である。2040・2044は甕の口縁部で，他は壺の胴部片である。後者には刻みをもつ突帯が施されている。

2045～2048は須恵器である。2048は土師器に近い色調を呈しているが，内外面ともに叩き目が確認できる。

2049・2050は土師器の坏である。ともに底部はヘラ切りである。

2051～2053・2056～2058は青磁である。2051・2052は碗の口縁部から胴部にかけてのもので，蓮弁文が施されている。2058は皿であるが，釉薬に斑が多く，全体的に白味がかっている。2054・2055は白磁の底部である。

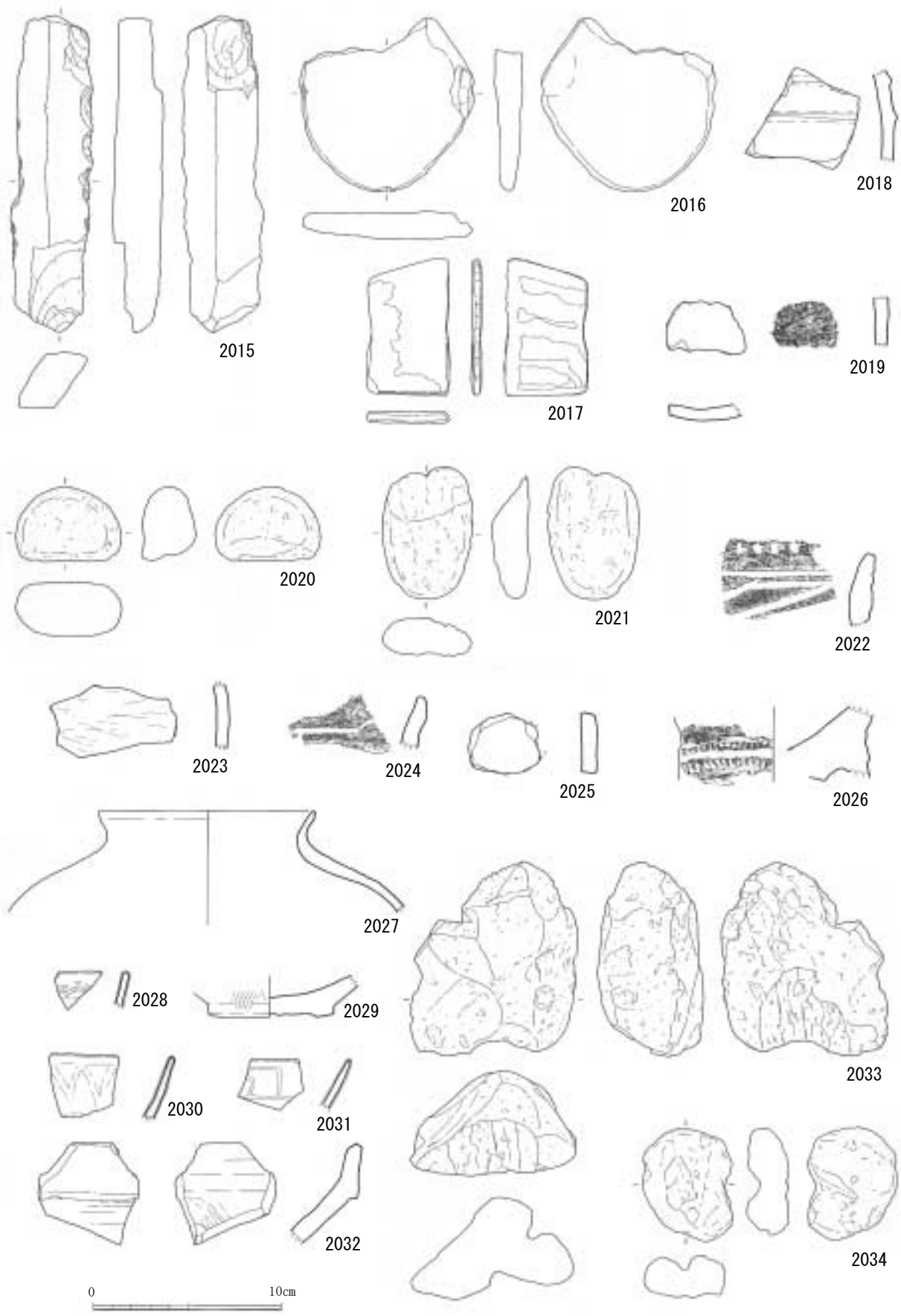
2059・2060は陶器の底部で，2061～2064は擂鉢である。

2065は安山岩製の扁平な礫である。

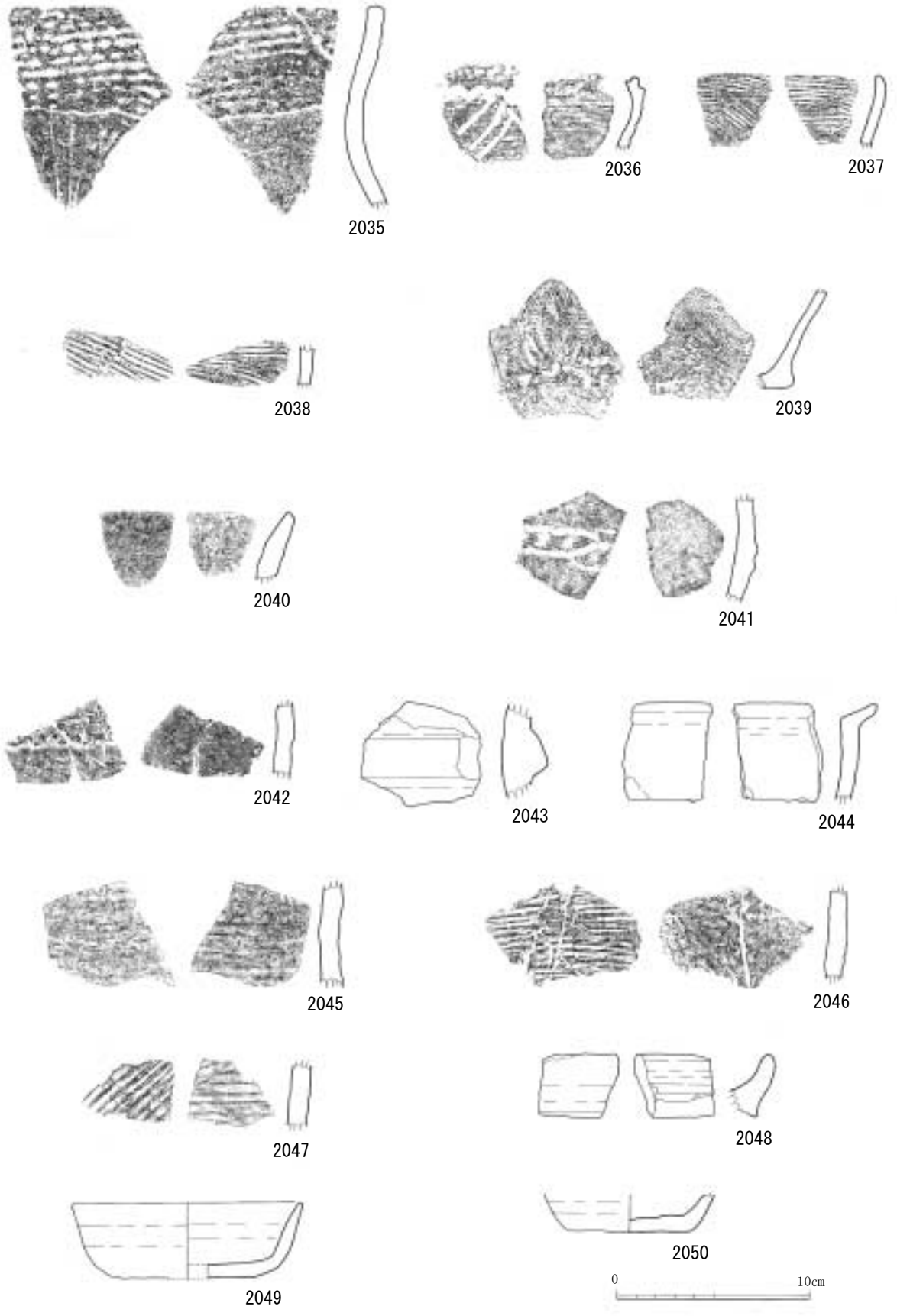
2067は管状の土錘である。孔径が1.2㎝と大きい。器壁が薄く外面の調整も丁寧である。中心部が膨らむ完形品である。

2066・2068は軽石加工品で，ともにやや湾曲する形状を呈し，面を作りだしている。

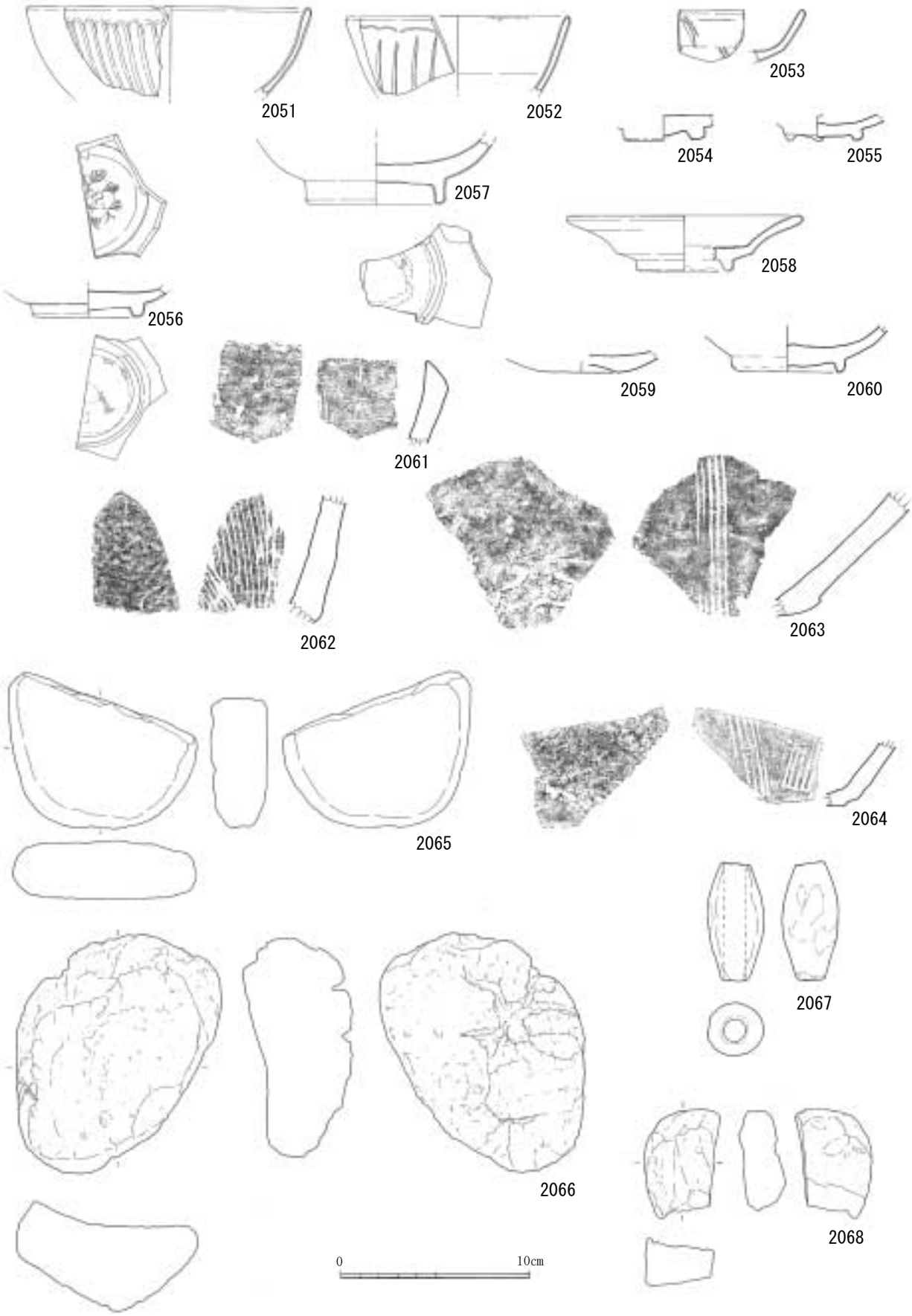
このように，大型道路遺構からは多種の遺物が出土しているが，遺構の時期判定との関係は不明確であった。ただし，遺構最下面で染付片（遺物は現地で紛失）が出土していることから，当初の形態が少なくとも15，6世紀頃には存在したということはいえる。


2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034
0
10cm

第99図　遺構内遺物(1)



第100図　遺構内遺物(2)



第101図　遺構内遺物(3)

⑵ **遺物**（第102～125図　2069～2448）

①土師器（第102図　2069～2091）

ａ．古代

2069～2077は古代に属すると考えられる土師器である。2069・2070は坏，2071～2076は椀，2077は充実高台を有する椀である。

2069・2070は坏の底部である。いずれも上部は欠損しているため不明である。ローリングを受けている。2069は底部側面に幅約５㎜のヘラ削り，もしくは強いナデ調整が施されている。底面に「九」字である可能性がある線刻が施されている。2070は底面にヘラ切りの痕跡が残る。

2071～2076は椀である。2071は高台の接地面に斜位の平坦面を有している。上部は欠損しており詳細は不明であるが，曲線的な体部を有するようである。2072は高台，体部とも欠損しており詳細は不明であるが，体部は横に張り出したあと立ち上がると考えられる。2073は短い高台を有し，直線的な体部は２㎝ほど立ち上がったところでやや外反する。2074は短い高台を有し，やや内湾するものの直線的な体部を有している。ローリングが激しい。2075・2076はいずれも高台も体部上部も欠損している。残存部の観察では，高台は短いようである。

2077は充実高台を有する椀である。底面の調整が粗く施されており，ヘラ切りの痕跡が残る。ローリングを受けており，詳細は不明である。

ｂ．中世

2078～2085は中世のものと考えられる土師器である。2078～2080は坏，2081は椀，2082～2084は皿，2085は盤である。

2078～2080は坏である。2078は欠損部が多く詳細は不明であるが，内面の内部立ち上がり部分がくぼんでいる。2079は体部が内湾しながら立ち上がる。外面にススが付着している。ローリングを受けている。2080は坏と考えられるものの欠損部が多く断定はできない。皿である可能性もある。2078・2080は糸切りの痕跡が残っている。

2081は底部が欠損しているため断定できないが，下部の厚みを考慮すると椀である可能性が高い。体部は曲線的に立ち上がった後，直線的にのびる。

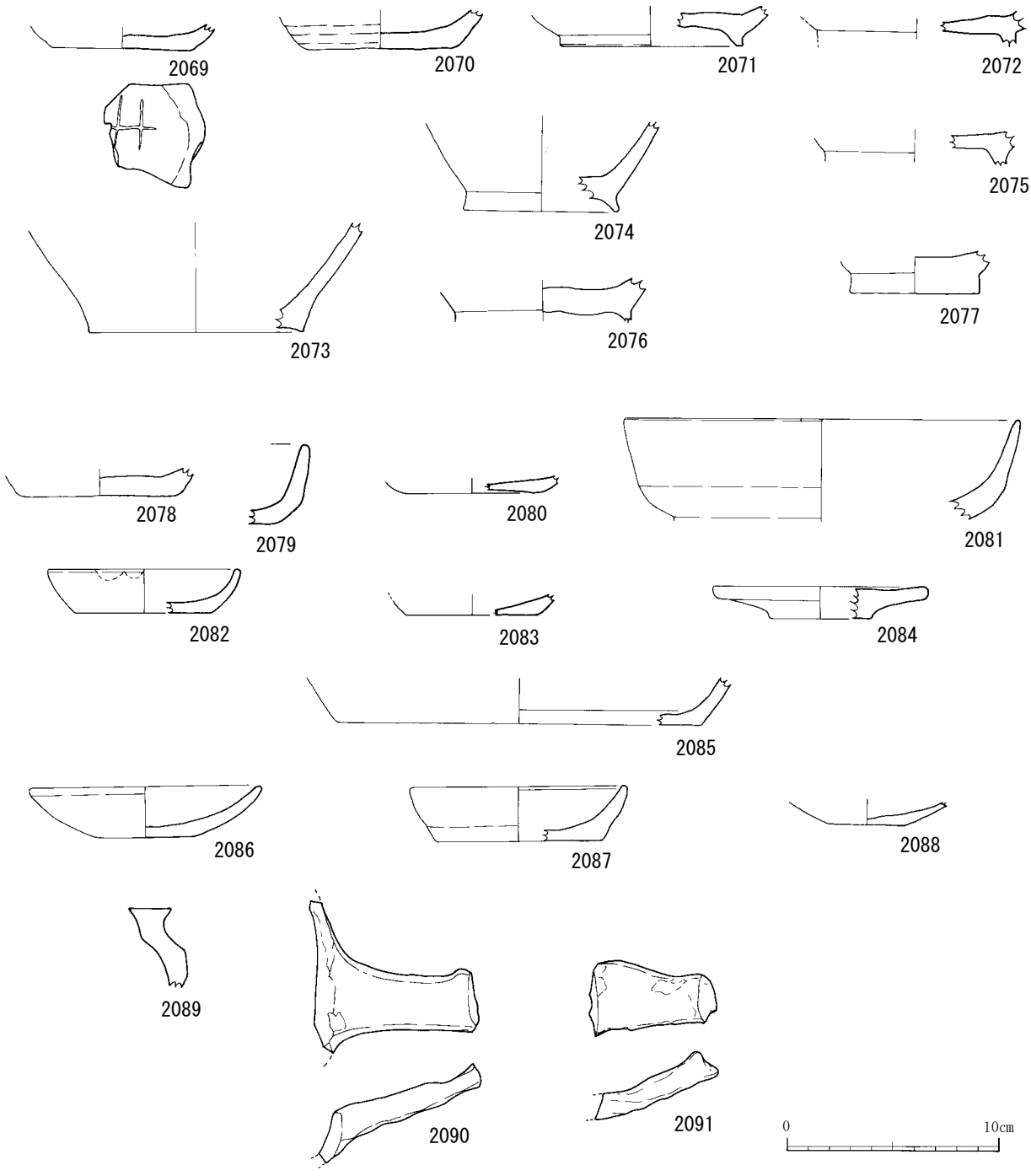
2082～2084は皿である。いずれも底部切り離しは糸切りである。2082は曲線的な体部を有する。口縁部にススが付着しており，灯明皿として使用されたものと考えられる。2083は残存部は直線的な体部を有する。内面の器壁の剥落が激しい。2084は充実高台である。直線的で浅い体部を有する。

2085は盤である。底径は17.1㎝を測る。残存部では直線的な体部を有する。底面に丁寧な調整が施されており，底部切り離しの痕跡は観察できない。

②土師質土器（第102図　2086～2091）

2086～2091は近世のものと考えられる土師質土器である。2086～2088は坏，2089は火舎の一部，2090・2091は焙烙の把手である。

2086～2088は坏である。2086は体部が横に張り出し，口縁部でやや内湾する。底部から1.2㎝のところまでケズリが施されている。2087は体部が底部周辺に段を有して立ち上がる。2086・2087は底面まで丁寧に調整が施されている。2088は体部が横に張り出す。糸切りの痕跡が残る。



第102図　土師器

2081は火舎の一部であると考えられる。上部平坦面に波状のキザミが施されており，接合面であると考えられる。

2090・2091は焙烙の把手である。2090・2091とも下部を中心に指頭圧痕が残る。

③須恵器（第103，104図　2092～2121）

ａ．古代

2092～2120は古代のものと考えられる須恵器である。2092・2093は坏蓋，2094～2096は高台付坏，2097は皿，2098～2114は甕，2115～2120は壺である。

2092・2093は坏蓋である。いずれも口縁端部はやや外側に開くと考えられるが，器形に歪みがあり，小破片のため詳細は不明である。

2094～2096は高台付坏である。2094は体部が横に張り出した後直線的に立ち上がる。高台の接地面は平坦であるがわずかに傾く。2095は体部が横に張り出した後直線的に立ち上がる。高台は幅４㎜ほどの平坦面を有する。2096は体部がわずかに横に張り出した後直線的に立ち上がる。高台は幅４㎜ほどの平坦面を有する。外面全体に白い灰が付着している。

2097は皿である。底部は円盤状の底部のように３㎜ほどの高さを有する。底部切り離しが糸切りで，外面に灰色を呈する釉が付着しているようにみえることから，灰釉陶器である可能性がある。内面に赤色化した盛り上がりがある。観察すると細かい鉱物を多数含んでおり，窯変と考えられる。

2098～2114は甕である。甕は完全に復元できたものはない。2098は口縁部～肩部を含む破片，2099は肩部の破片，2100～2114は胴部の破片である。

2098は口縁部～肩部を含む破片である。外面の屈曲部より下位には格子状の叩き目が残るが，その上下に櫛目状の調整が施されている。口縁部は横ナデが施されている。内面は同心円状の当て具痕が残り，口縁部は横ナデが施されている。内外面の一部に白色の灰が付着している。

2099は甕の肩部である。外面の屈曲部より下位には格子状の叩き目が残り，屈曲部より上位には横位の櫛目状の調整が施されているが，叩き目がわずかに残る。内面の下部にわずかに当て具痕が残るが，その形状は判断できない。

2100～2114は甕の胴部である。いずれも破片であるため詳細な部位や傾きは不明であるが，内面の当て具痕の相違により，おおまかな部位が判断できると考え，叩き目と当て具痕の種類によって以下の６種類に分類した。

・格子－同心円タイプ（2100・2101）

2100・2101は外面に格子叩き目，内面に同心円状の当て具痕が残っている。同心円状の当て具痕は，甕の最大径より上位に残ることが多いことから，これらも甕の胴部のうちで，比較的上部の破片である可能性が高い。

2100は外面の下位には1.5～２㎜ほどの間隔で，幅0.5～１㎜ほどの平行な６条の叩き目がみられる。その上部は格子叩き目が残る。焼成の際の還元が不良なため胎土が橙色を呈している。2101は外面には５㎜間隔程度のやや大きめの格子叩き目が残る。

・平行－同心円タイプ（2102～2104）

2102～2104は外面に平行叩き目，内面に同心円状の当て具痕が残っている。格子－同心円タイプと同じく，上部の破片である可能性が高い。

2102は外面に白色の灰が付着している。2103は外面に厚く白色の灰が付着しており，一部緑灰色の灰も付着している。

・格子－中間（同心円・平行）タイプ（2105・2106）

2105・2106は外面に格子叩き目，内面に同心円状と平行状の当て具痕が混在している。上部に多い平行状の当て具痕と下部に多い平行状の当て具痕が混在していることから，甕の最大径付近の破片である可能性が高い。

2106は外面にゴマ塩状に灰が付着している。

・平行－中間（同心円・平行）タイプ（2107）

2107は外面に平行叩き目，内面に同心円状と平行状の当て具痕が混在している。格子－中間（同心円・平行）タイプと同じく，甕の最大径付近の破片である可能性が高い。外面には灰白色の灰が付着している。

・格子－平行タイプ（2108～2112）

2108～2112は外面に格子叩き目，内面に平行状の当て具痕が残っている。平行状の当て具痕は，甕の最大径より下位に残ることが多いことから，これらは比較的下部の破片である可能性が高い。

2108は内面の当て具痕がナデによって擦り消されたり，ランダムな方向への刷毛目状の沈線が施されていたりするが，当て具を移動させる際に擦った可能性があり，意識的なものではないと考えられる。外面の上部に灰白色の灰が付着している。2111は内面や断面に焼成の際にできたと考えられる直径１㎜以下の小孔が多数みられ，一部器壁がふくらんでいる。

・平行－平行タイプ（2113～2114）

2113・2114は外面に平行叩き目，内面に平行状の当て具痕が残っている。格子－平行タイプと同じく，下部の破片である可能性が高い。

2115～2120は壺である。

2115は壺の口縁部を含む破片である。口唇部は，やや外側へ向かって下る斜位の平坦面を有している。内外面とも横位を基本とする丁寧なナデ調整が施されており，叩き目等は確認できない。

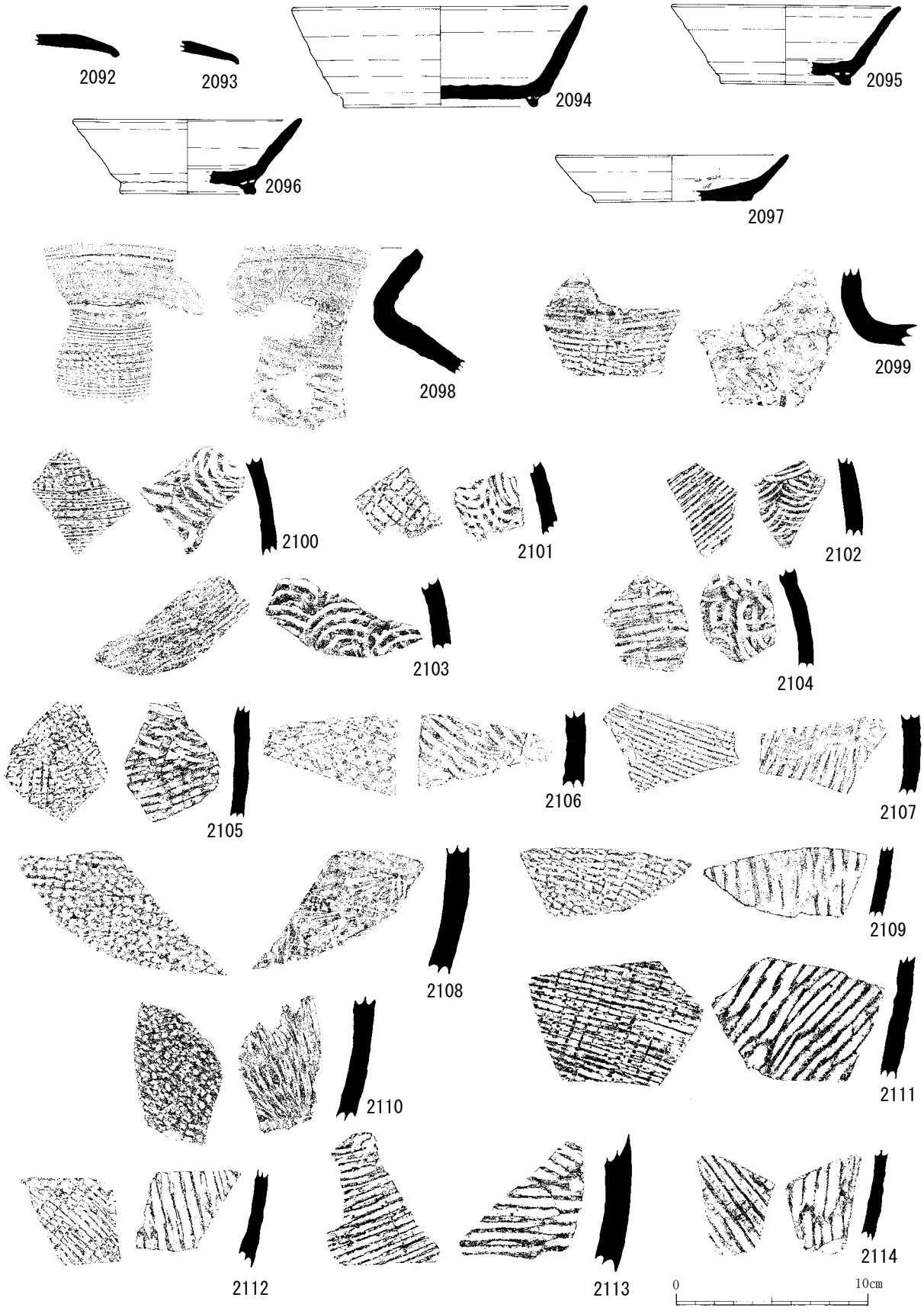
2116～2118は壺の肩部である。2116は外面は横位の平行叩き目が残り，屈曲部より上位は横ナデ調整が施されている。内面は粗いナデ調整が施されており，幅1.6㎝ほどの輪積みの痕跡が明瞭に残っている。2117は外面は横位の平行叩き目が残り，内面は粗いナデ調整が施されており，指頭圧痕がみられる。2118は内外面とも横位を基本とする丁寧な調整が施されており，叩き目等は確認できない。外面上部に暗緑色の灰が厚く付着し，ゴマ塩状に白色の灰が付着している。

2119は壺の胴部である。外面に平行叩き目が残る。内面は粗いナデ調整が施されており，幅1.5㎝ほどと幅1.8㎝ほどの輪積みの痕跡が一部にみられる。

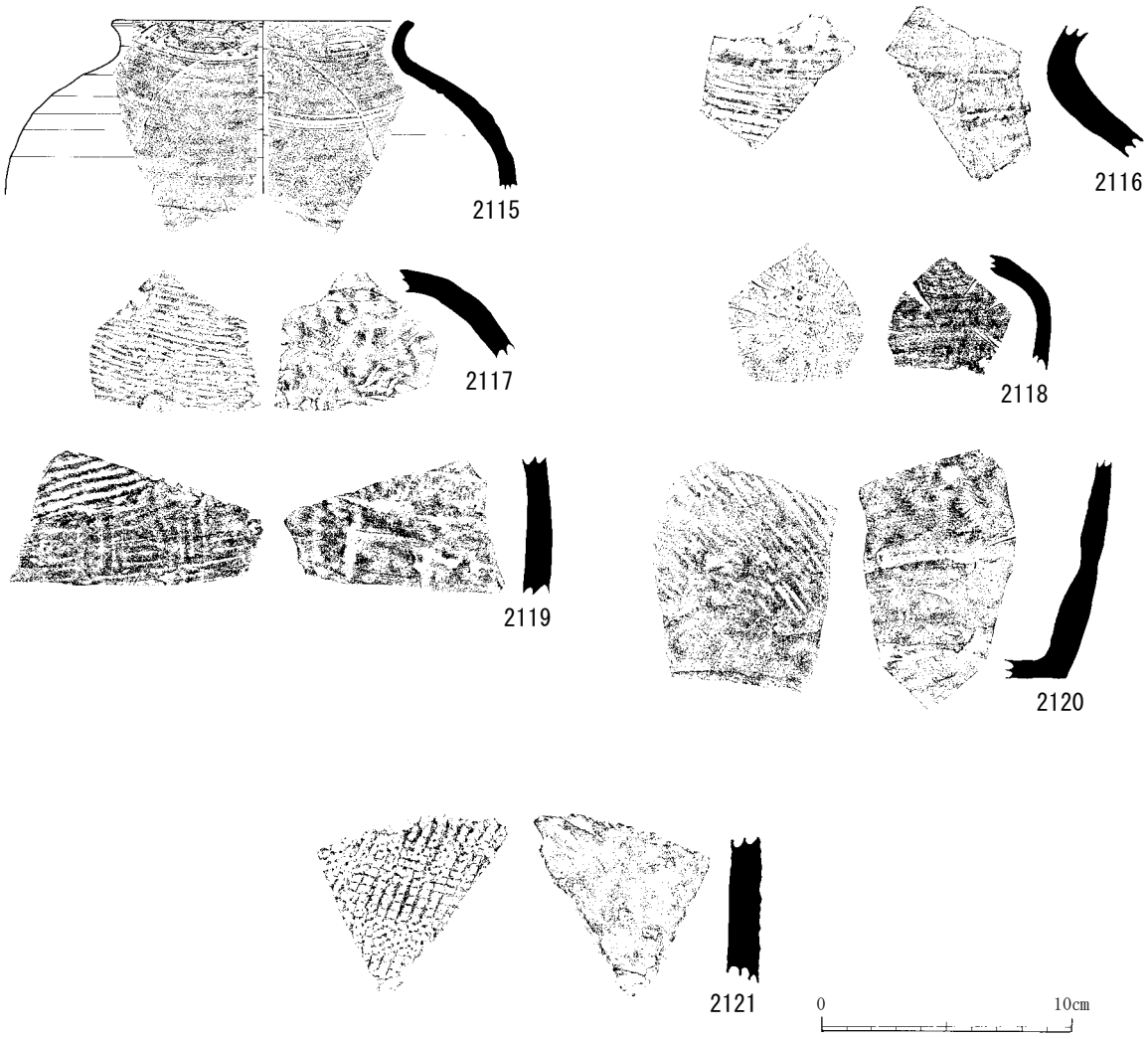
2120は壺の底部である。外面は斜位の平行叩き目が残る。内面は粗いナデ調整が施されており，幅３～3.8㎝ほどの輪積みの痕跡がみられる。外面上部には，暗緑色の灰が付着しガラス質化しており，外面全体には白色の灰が付着している。

ｂ．中世

2121は甕の胴部である。外面には約３㎜間隔の正格子の叩き目が残る。内面には当て具痕がみられず，ハケ目が施されている。断面は，胎土がスジ状に幾層も重なっているようにみえる。内外面とも灰白色を呈しており，焼成が瓦質状である。以上の特徴から，中世の須恵器である可能性が高いと考えられる。


2092
2093
2094
2095
2096
2097
2098
2099
2100
2101
2102
2103
2104
2105
2106
2107
2108
2109
2110
2111
2112
2113
2114
0
10cm

第103図　須恵器(1)



第104図　須恵器(2)

④羽釜形土器（第105図　2122～2126）

羽釜形土器が破片を含めて９点出土した。そのうち５点を図化し掲載した。多くはＡ５区付近からの出土であった。

これらの中で，厳密に瓦質土器と呼べるものは2123と2126の２点だけであった。ほかの土器は表面にいぶしがなされているものの，割れ口から下地は橙色またはにぶい褐色を呈した土師質のものであることが確認できた。おそらく地元で模倣され製作されたが，技術的な問題で焼成・還元などが完全でなかったものと考えられる。これらの土器はおおむね中世後半から近世初頭にかけてのものである。

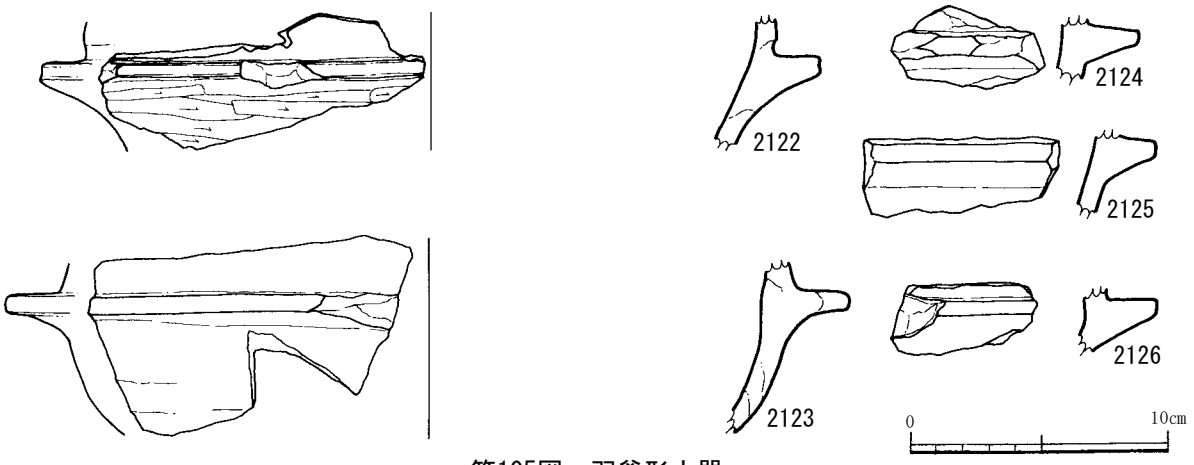
鹿児島県内で羽釜形土器が出土した例としては，溝辺町石峰遺跡・鹿児島市加栗山遺跡・横川町横川城跡・川内市成岡遺跡，西ノ平遺跡，鍛冶屋馬場遺跡・姶良町南宮島遺跡・屋久町岡遺跡，火ノ上山遺跡などをあげることができる。しかし，多くの資料が破片のみの出土で完形品はほとんどみられない。

鹿児島県における煮炊具の変遷については，10世紀頃まで丸底の土師器甕が使用されていることが明らかになっている。しかし，それ以後の状況については未だ不明瞭な部分が多い。特に県内における中世以降の煮炊具についての研究はほぼ皆無といってよい。このことは，県内の中世遺跡の中には，輸入陶磁器が多く出土する例が存在するということで，研究者から注目されているのとは相反する状況である。

全国的にみると，中世の煮炊具としては鍋・釜が知られている。しかし，県内の遺跡から鍋が発見された例は今のところ確認されていない。それどころか，釜についても羽釜形土器の出土が少量みられるのみであった。

近年の発掘調査において，ようやく羽釜形土器の発見例が増加してきた。まだまだ少ない資料であるが，鹿児島県内の様相について検討する必要性がでてきているといえよう。

鹿児島県内では溝辺町石峰遺跡や鹿児島市加栗山遺跡などで数点から十数点出土しているが，多くの遺跡では１遺跡から１，２点しか出土していないという場合がほとんどである。特に中原遺跡のように１遺跡からこれだけの羽釜形土器が出土している例はあまりなく，注目される資料であるといえよう。



第105図　羽釜形土器

⑤白磁（第106図　2127～2134）

2127～2134は白磁である。2127は軟質で白色の磁胎，黄色味を帯びたくすんだ釉がかかる碗の底部で，貫入が認められ，見込および高台内に３か所の砂目積痕がみられる。外面にはヘラ状工具によるものと考えられる沈線が施され，見込中心に凸部と高台内中心に凹部が観察できる。平坦な畳付部の削りは雑で露胎を呈する。李朝のものと考えられる。

2128は軟質で灰白色の磁胎，クリーム色がかったざらざらした釉が施された碗の底部である。高台に抉りがあり，６か所の足を有する。高台内および見込中央は露胎を呈し，断面両側に膨らみがある。

2129は灰色の磁胎，青味がかった光沢のある釉の施された端反りの碗である。外面に釉のたれがみられる。2130は灰白色の磁胎，灰白色の釉のかかる皿で，外面底部付近は露胎を呈し，口唇部に稜がつく。

2131・2132は腰部がやや張り，端反りの口縁を呈し，口唇下部に稜がつく皿である。畳付は釉剥ぎがなされている。2131は灰白色の磁胎で，光沢のある白色の釉が施されている。2132は灰白色の磁胎で黄色味がかった光沢のある白色釉が施されている。高台内側に砂が付着している。

2133は灰色の磁胎，青味がかった光沢のある釉の施された壺の肩部である。内面は回転ナデ，外面は回転ヘラ削りの条痕がみられる。

2134は軟質で白色の磁胎，白色の釉が施され，貫入が認められる。口縁部であるが小片のため器形は不明である。口縁部内側に突起があり，蓋をもつ器種の身であると考えられる。

⑥青磁（第106，107図　2135～2157）

2135～2157は青磁である。2135は灰白色の磁胎で，淡青緑色の釉が施された盤の口縁部と考えられる。貫入が認められる。

2136は灰白色の磁胎で，光沢のある淡青色の釉を施している。内側は部分的に透明の釉がかかっており，内外ともに釉のたれが認められ，内側下部は無釉である。胴部から口縁部に向かって直行し，口唇部は厚く平坦で，内側に張り出しているという器形から香炉であると考えられる。

2137は灰色の磁胎で，深緑色の釉が施された花生である。口縁部は波状で貼り付けの把手がつく。貫入が認められる。

2138は灰色の磁胎で，くすんだ暗緑色の釉が施された大型の碗と考えられる。口縁部が「く」の字状に外反し，器壁が厚い。口縁部内側には波状文が施されている。

2139は灰色の磁胎で，光沢のある薄緑色の釉がかかり，貫入が認められる。口縁部が「く」の字状に外反する碗である。大柄のヘラ描き蓮弁文を施している。

2140は灰色の磁胎で，くすんだ淡青色の釉が施された稜花皿である。貫入が認められ，口縁内側に波状文を施している。

2141は茶褐色の磁胎で，深緑色の釉薬は厚みが無く釉の垂れや釉切れがみられる。大型の皿であると考えられる。

2142～2150は碗の口縁部である。2142は灰白色の磁胎で光沢のある淡緑色の施釉である。貫入がみられ，外面にヘラ描きの細蓮弁文を，内側にヘラ描き文を施している。2143は灰色の磁胎，青緑色の施釉で，貫入がみられ，外側に退化した線描きの蓮弁文を施している。蓮弁間は比較的広く，

弁先は丸い。2144は灰色の磁胎，淡青色の施釉で，外側に退化した線描きの蓮弁文を施している。蓮弁間は比較的広く，弁先は尖っている。

2145は灰色の磁胎，光沢のある深緑色の施釉で，貫入がみられ，内側に退化したヘラ描きの蓮弁文を施している。弁先は丸い。2146は灰白色の磁胎，くすんだ淡緑色の施釉である。口縁部内外面に雷文を施し，胴部内面に唐草様の文様を描いている。

2148は灰色の磁胎，緑色の施釉で，口縁部外側に雷文を施している。2147は灰色の磁胎，淡緑色の施釉で，口縁部外側に雷文を施している。2149は灰白色の磁胎，淡緑色の透明に近い施釉で，貫入がみられ，やや内湾する口縁部の外側に雷文崩れを施している。2150は灰色の磁胎で，深緑色で施釉された碗の口縁部である。口縁部内側に花弁文が描かれている。

2151は灰色の磁胎，明青色の釉が施された碗の胴部である。貫入がみられ，二次焼成をうけてくすんでいる。内面に人物が描かれている。

2152～2157は碗の底部である。2152は赤褐色の磁胎で，光沢のある緑色の釉が施され，畳付から高台内は露胎を呈する。外面には蓮弁文と考えられる沈線が施されている。著しい貫入が観察できる。2153は灰白色の磁胎，光沢のある薄緑色の釉のかかった底部で，丸味を帯びた高台内および見込は露胎を呈する。見込中央には花弁の中に「金」の印刻が施されている。

2154は灰色の磁胎で，深緑色の釉が高台内中心部以外の部分にかかるが，畳付から高台内は施釉に斑がある。見込には花文が施されている。2157は白色の磁胎で，淡青色の釉がかかっているが，高台内部は釉剥ぎを施している。見込には二頭の鹿の施文がある。また貫入も観察できる。2156は灰色の磁胎で，全体に緑色の釉がかかり，高台内は釉剥ぎがなされている。貫入が認められ，圏線を施した見込み施文があるが文様は明確でない。2155は赤褐色の磁胎，肥厚する高台で，高台内は露胎となり，ほかの部分には深緑色の釉がかかる。磁胎は茶色で貫入が認められる。見込中央部にヘラ状工具による施文がみられる。

⑦染付（第108～111図　2158～2222）

ａ．景徳鎮窯産（第108図　2158～2173）

2158～2173は景徳鎮窯産と考えられるものである。全体に磁胎は灰白色で器壁は薄い。2158～2169・2171は16世紀後半のもので，2170・2172・2173は15世紀末のものである。

2158は口縁部が直行する碗で，口縁部内面に二条圏線を施し，外面は口縁部に二条圏線と胴部にアラベスク文を施している。

2159・2160は端反りの碗で，2159は口縁部内面に斐垣文（四方襷文）を施し，外面は口縁部下に二条圏線と胴部に草花文（牡丹唐草文）を施している。2160は口縁部内面に一条の圏線を施し，外面は口縁部に一条の圏線と胴部に玉取獅子を施している。

2161は口縁部に突起部をもち，蓋との合わせ部を作り出している。突起部下に二条の圏線と胴部に波状文を施している。2162は中央部分が破損しているが，蓋と考えられる。外面の圏線間に草花文を施している。口唇部および口縁内側は露胎を呈する。2163は碗の底部で，高台に二条圏線，見込みには昆虫文崩れを施している。畳付および高台内側は露胎を呈する。

2164は皿の底部で，見込および胴部外面に草花文を施している。2165は碗の底部で，見込には二条圏線内に草花文が施されている。畳付は露胎を呈している。また貫入が認められる。2166は碗の

底部で，高台内に文字らしき文様が観察できる。畳付は露胎を呈し，砂粒子が付着している。外面は緑色を帯びている。2167は碗の底部である。見込に松葉文を施し，高台および胴部との屈曲部分に圏線をもつ。高台内には，「萬福攸同」と文字が記されている。

2168は盤の底部である。高台に二重圏線，内面に草花文がある。畳付は釉剥ぎがなされ，貫入が認められる。

2169・2171は碁笥底の皿で，畳付部分は釉剥ぎがなされている。2171は見込に二条圏線が施されて，貫入が認められる。2169は見込草花文，胴部外面にも草花文が施されている。

2170は端反りの皿で，見込および胴部外面に草花文が施されている。畳付は露胎を呈する。2172は碗の底部で，見込に草花文，胴部外面に渦巻文があり，高台に二条圏線が施されている。2173は皿の底部で，高台に二条圏線が施され，見込にも文様が施されている。畳付は露胎を呈し，砂粒子が付着している。

b．漳州窯産（第109図　2174～2186）

2174～2188は漳州窯産と考えられるものである。陶器質で黄白色系の胎土をもち，呉須の発色が悪くて絵柄も乱れているものが多い。

2174・2175・2178・2179は碗で，2174・2175・2178は口縁が直行し，2179は口縁部下で外反屈曲している。2174は灰白色の磁胎で，口縁部内面に一条，外面に二条の圏線を施し，外面胴部に葉様文を描いている。

2175は黄白色で軟質の磁胎で，口縁部内外面に一条の圏線を施し，外面胴部に葉様文を描いている。貫入が認められる。2178は白色の磁胎で，口縁部内外面に一条の圏線を施し，胴部外面に文様を描いている。2179は黄白色で軟質の磁胎で，口縁部内外面に一条の圏線を施している。貫入が認められる。2177は灰白色で軟質の磁胎で，口縁部内外面に二条の圏線を施し，内面の圏線間に文様を描いている。胴部に丸味があり，「く」の字状に外反する器形から盤（平泉城跡151）である可能性があるが，小片であるため器形は不明である。

2180～2182は碗の底部である。2180は白色の磁胎で貫入が認められる。見込に一条の圏線を施し，蛇ノ目釉剥ぎを施している。高台内の中心部が膨らみ，畳付は露胎を呈する。

2181は黄灰色の磁胎で，貫入が認められ，見込と高台外側に一条の圏線を施している。畳付に砂粒子が付着し，高台内は露胎を呈する。2182は黄白色で軟質の磁胎で，見込と高台外側に一条の圏線を施し，見込および高台から内側は無釉である。

2183・2184は底部である。高台から内側は無釉である。見込は蛇ノ目釉剥ぎを施し，菊花文を描いている。2183は茶白色で軟質の磁胎で，焼成が不完全なためか発色が悪い。2184は黄白色で軟質の磁胎で貫入が認められる。

2185は端反りの皿である。灰白色の磁胎で貫入が認められる。見込に文様が施され，畳付は露胎を呈する。

2176は灰色の磁胎で，貫入が認められる皿である。口縁部下に二条の圏線と連点，口縁部内側に一条の圏線を施している。

2186は碁笥底の皿である。黄白色で軟質の磁胎で，口縁内に圏線と，見込み重線文を施している。施釉に斑があり，見込および底部は無釉である。

ｃ．中国系（第109，110図　2187～2191）

2187～2191は中国産と考えられるが，産地が限定できないものである。2187は灰色の磁胎で，灰色を帯びた施釉の皿である。口縁内面に一条の圏線を施し，口縁外面には菱垣文を描いている。

2188は黄白色で軟質の磁胎で，貫入が認められる。口縁部内外面に一条の圏線を，胴部外面に小花文を施している。

2189・2190は黄白色で軟質の磁胎の小型の皿で，底部が碁笥底を呈し，見込には人形化した「寿」字（人形寿字文）を描き，貫入が観察できる。2189は口縁がやや内湾しながら開き，内外面の口縁部下と底部上に一条の圏線を施し，胴部外面に略字化した文字のような文様を描いている。灰色を帯びた釉が施され，底部には砂が付着している。

2190は底部上に一条の圏線を施している。2131は灰褐色を帯びた釉が施され，見込および高台内は回転ヘラ削り痕が観察でき，露胎を呈する。高台内に墨書が記されている。文字は薄く判読が困難である。

ｄ．肥前（第110図　2192～2204）

2192～2204は肥前産と考えられるものである。白色の磁胎で，2192～2199は碗である。2192は高台・高台付根・見込に圏線を施し，内面には胡麻状に灰が付着している。畳付のみ露胎を呈する。2195は外面に菊花文が描かれている。2193・2194は高台内に文字が記されている。2194はいわゆる喰らわんか碗である。

2196は大ぶりの碗で，口縁部内面に圏線を施し，外面には口縁部の二条圏線の下に草花文を描いている。2197は外面に二重網目文を施している。2198は外面に紅葉文を施している。2199は外面は緑色，内面および高台内は透明の施釉で，細かな貫入がみられる。見込に二条の圏線を施している。2200・2201は外面に草花文を描いている。2202は見込に細かな十字文を施している。2203は見込にコンニャク印判を施し，高台内にも文様があるが判読不可能である。2204は見込に蛇ノ目を有する粗製の皿である。外面は無文で，見込の文様は二条圏線外側に斜格子目文を施している。波佐見系または平佐系染付と考えられる。

ｅ．肥前系（第111図　2205～2217）

2205～2217は肥前系で，2205は筒形の碗で胴部外面に雪持笹を描いている。
2206は口縁部内面に二条の圏線を施し，胴部外面には格子目文または暦文・格子状の梵字文を描いている。弥勒皿山産のものとも考えられる。細かな貫入が観察できる。

2207は碗で，胴部外面に網目文を施している。2208は黄白色の磁胎で，白釉が施された碗である。全体に貫入がみられる。口縁と見込に圏線を，胴部には木賊様文を描いている。

2209は小型の皿と考えられ，見込に渦巻文が描かれている。高台は低く，畳付は露胎を呈する。内面にのみ貫入が入る。2210は口縁部が湾曲している。稜花皿と考えられるが小片のため明確ではない。外面に草花文，内面に草花文を描いている。2211は蛇ノ目凹形高台の皿で，見込に文様がある。2212は見込に昆虫文崩れのある皿の底部で，高台に三条の圏線をもつ。

2213は灰褐色の磁胎で，茶灰色の釉が施されている。畳付は露胎を呈し，砂が付着している。内面は無釉で横位に凹線が刻まれている。内側底面に釉だれが認められる。

2214は紅猪口である。逆「ハ」の字状の器形で，胴部には放射状の凹凸がみられる。磁器質で，

青白色の釉は見込のみに施されているが，斑があり胴部にも垂れている。化粧用の容器である。2215は猪口である。底部外面に二条の圏線が僅かに確認できる。

2216は蓋で合わせ部に突起がある。

2217は青白磁の仏飯器で，脚台部はやや上げ底となり，底部無釉である。

ｆ．近現代（第111図　2218～2222）

2218～2222は近現代のものと考えられる。2220は色絵磁器碗の底部で，見込に赤と緑で紅梅が描かれている。黄白色で軟質の磁胎で，細かな貫入がみられる。2221は碗の底部で，外面に亀が，見込には二重圏線内に文様が描かれている。畳付は露胎を呈する。

2218は色絵磁器の猪口である。2219は皿で，見込に緑で日章旗が描かれている。2222は歯磨容器である。底部裏側に「…馬喰町二…　花王石鹸本…　長瀬富郎」の印刷がある。

⑧薩摩焼（第112～114図　2223～2274）

2223～2263は薩摩焼である。2223・2224は碗で，茶褐色に黄白色の釉が粒状に混じる施釉である。見込は蛇ノ目釉剥ぎを施し，高台および高台内は露胎を呈する。2223は口唇部に平坦面を作っている。

2225は飴釉の碗である。口縁部は内外面ともに黄茶褐色で，下部は茶褐色の光沢のある施釉である。見込は蛇ノ目釉剥ぎが施され，高台および高台内は露胎を呈する。

2226は蕎麦釉の碗である。見込は蛇ノ目釉剥ぎを施し，畳付は露胎を呈する。中心部には焼成時のものと考えられる亀裂が入っている。

2227は碗の底部で，黒釉が施されている。見込は蛇ノ目釉剥ぎがなされ，畳付から高台内は露胎を呈する。2228は高台がやや外に開き，胴部が膨らまずに口縁部へ向かう碗である。黄白色の胎土に茶褐色の釉が施され，蛇ノ目釉剥ぎで，畳付は露胎を呈する。口縁部内側および高台付根に鉄釉が巡り，胴下部にも釉の斑がみられる。

2229・2230はやや膨らむ胴部を持つ碗である。2229は黄白色の胎土に黄色味がかった黄茶褐色の施釉がなされ，見込は釉剥ぎが施されている。2230は灰白色の胎土に飴色の施釉が施されている。2231は赤褐色の胎土に白灰色の蛇蝎釉の施された碗の底部である。高台上部まだ釉垂れが観察できる。高台および高台内は露胎を呈する。2232は黒灰褐色の胎土に灰色の蛇蝎釉の施された筒形の碗である。施釉された部分はざらざらしている。

2233・2234は天目碗である。灰白色の胎土に光沢のある黒茶褐色の釉を施している。底部外面は露胎を呈する。2233は胎土が白っぽく，2234は釉に光沢がある。

2235は黄白色の胎土に蕎麦釉が施された皿である。内面および外面腰部まで施釉されている。2236は茶褐色の胎土に蕎麦釉のかかった小皿である。見込に５か所の砂目跡があり，底部は糸切りの後，板ナデ調整を施している。外面には釉が施されていない。

2237～2240は灯明皿台である。皿状の台にやや外反する円筒状の器体を接合したものである。釉は円筒部と受け皿部に施されている。底部は無釉で，糸切り底である。2237は口唇部見込中心部と皿部の外面は無釉で，それ以外の部分に蕎麦釉が施されている。2238は口唇部と皿部の外面は無釉で，そのほかの部分に釉がかかるが，発色が不十分で黄白色を呈する。口唇部に砂が付着している。2239は口唇部と皿部の外面は無釉で，そのほかの部分に茶褐色の釉がかかる。2240は口唇部と皿部

の外面は無釉で，そのほかの部分に黒褐色の釉がかかる。

2241・2242は盤である。2241は灰褐色の釉を施し，底部は平底で貝目跡が観察できる。2242の底部は上げ底となり，茶褐色の釉は発色していない。底部および口唇部に目跡がある。

2243～2245は仏飯器である。2243は灰緑色の施釉に白色の釉がかかっている。見込は蛇ノ目釉剥ぎを施している。脚部には施釉されず，底部内は浅く円錐状に削られている。2244は白っぽい蕎麦釉が内面および外面腰部まで施釉され，脚部および底部は無釉である。底部は充実し，糸切り底である。貫入の入る見込には砂目跡が観察できる。2245は脚部が太く，底部は浅く円錐状に削られている。底部に砂目跡が観察できる。

2246・2247は台付たんころ形の秉燭である。口縁部の内湾する坏部の見込中心に，片側に切り込みのある筒状の燈芯を差し込む部分が直立する。充実した脚部は底面近くで大きく外へ張り出し，安定した形になる。脚部はやや上げ底を呈し，中央部分に小穴が穿たれている。褐釉薬が坏部から柱状部まで施されている。燈芯を中央の筒の上から差し込み，末端を筒の切り込みから油の浮いている坏部に垂らし，筒の中央で火が燃えるような仕組みとなっている。鹿児島では「ヒトコボシ」と呼ばれている。

2248～2251は茶家である。2248は蕎麦釉の施された茶家の注口部である。注口は曲線状で小穴を穿った三角形状の蔓取付部がある。胴部と注口部の接点には直径約７㎜の小穴が３個穿たれている。

2249は白土に透明釉を施した急須の口縁および把手部である。口縁部には蓋受けの突起部があり，全体に貫入が入る。2250は赤褐色の胎土に透明に近い白っぽい釉が施されている。注口は曲線状で小穴を穿った三角形状の蔓取付部があり，胴部と注口部の接点には直径約７㎜の小穴が３個穿たれている。2191は赤褐色の胎土に鉄釉の施された茶家である。注口は破損しているが，小穴を穿った三角形状の蔓取付部がある。

2252・2253は胎土が極めて精緻な鮫肌の急須である。2252は小鮫と言われる凹凸の細かなものである。2253は注口部が直線的で，注口部に直径２㎜の小穴が７個穿たれている。

2254～2257は茶家の蓋である。2254は灰釉が施されているが斑がある。2255は光沢のある蕎麦釉が施され，抓み部は使用のためか光沢が無くなっている。2256は鉄釉が施されている。天井部には見込３足付ハマ熔着痕がみられる。2257は白土に透明釉を上面と天井部に施し，口縁部に赤と金で花文を描いている。

2258は徳利の頸部である。内面に絞り目がみられる。灰褐色の胎土に透明釉が施されている。頸部全体が意図的に削られている。

2259は花生の底部である。黒褐色の胎土に黒釉が施され，露胎を呈する底部は糸切り底である。2260は胴部から口縁部にかけて直行するが，器形は不明である。光沢のある黒釉が施され，口縁部に砂が付着している。

2261は小型の釜である。上部は破損しているため不明であるが，全体に無釉である。若干上げ底の底部は糸切り底で，煤が付着している。

2262は蛇蝎釉の施された鉢の口縁部である。2263は三彩の花生と考えられる。精緻な茶褐色の胎土に白釉に，茶褐色と青緑色の釉が施されている。

2264は動物（鳥）の頭部である。黄白色の胎土に透明と緑色の釉が施されている。内面には指紋が観察できる。

2265・2266は片口である。2265は赤褐色の胎土に灰緑色の釉が施されている。注口上部に直径約１㎝の小穴のある蔓取付部がある。2266は口縁部直下に注口部を作り出している。

2267・2268は擂鉢である。口縁は若干内湾気味に外へ開き，口縁は「Ｌ」字状の張り出しをもつ。2267の内側は横方向のカキ目の後，縦方向の卸目が施され，灰褐色の施釉がなされている。

2268は小型の擂鉢で，見込のカキ目は縦位である。底部は若干上げ底である。「Ｌ」字状の張り出し部に一条の凹線が施されている。

2269・2270は壺である。2269は口縁部が短い「Ｌ」字状で，内面は板ナデ調整がなされ，灰緑色の釉が施されている。2270は頸部から口縁部にかけて外反し，口唇部が玉縁状に膨らんでいる。茶褐色に黒褐色の釉が施されているが，発色がよくない。

2271は口縁部が「Ｌ」字状の鉢である。茶褐色の上に灰緑色の釉を施し，胴上部には沈線が２条あり，内面には艶がある。

2272～2274は甕の口縁部である。2273は口縁部が内傾し，口唇部に三角形状の張り出しをもっている。頸部から胴部にかけて２本の三角突帯をもつ。内面は櫛描き調整を行った後，緑褐色の釉が施されている。2272は口縁部が「Ｌ」字状で，平坦な口唇部に貝目跡が観察できる。2274は口縁部がやや外反し，貼り付けによる二段の張り出し部をもち，胴部内外面に刷毛目が観察できる。暗緑褐色の釉が施され，平坦な口唇部は釉剥ぎされ，貝目の跡が僅かに残る。

⑨肥前系陶器（第115図　2275～2279）

2275～2279は肥前系の陶器で，2275・2276は唐津焼，2277・2278は現川窯の陶器である。2275は赤茶褐色の胎土に灰白色の釉が内面および胴部まで施された皿で，見込に４か所の目跡がある。高台は低く，雑なつくりである。

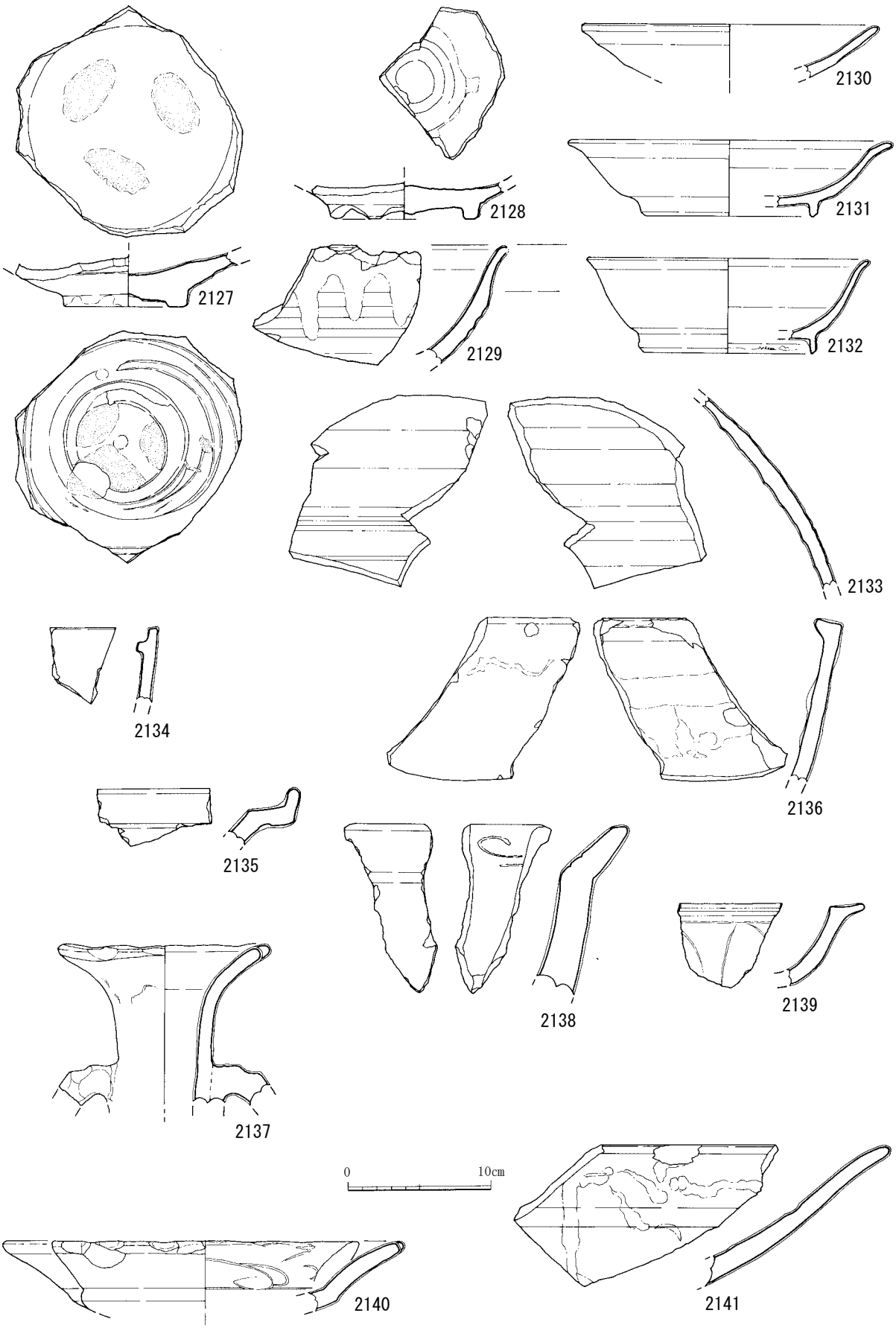
2276は口縁部が外反する碗で，灰茶褐色の胎土で，内面および胴部に深緑色の釉が施されている。2278は小型の碗で，高台脇で屈曲して口縁部へ直行している。畳付のみ露胎を呈し，全体に貫入が入る。精緻で光沢のある茶褐色の器面に白釉を組み合わせて特徴のある文様を構成している。外面胴部に円文を配し，内面は刷毛目状に白釉を施している。2219も同様の文様である。底部が欠損しているが同様の形状であると考えられる。

2277は茶褐色の極めて精緻な胎土に透明釉と白色釉を施した猪口である。蛇ノ目釉剥ぎで，露胎を呈する高台および高台内に細かい砂が付着している。

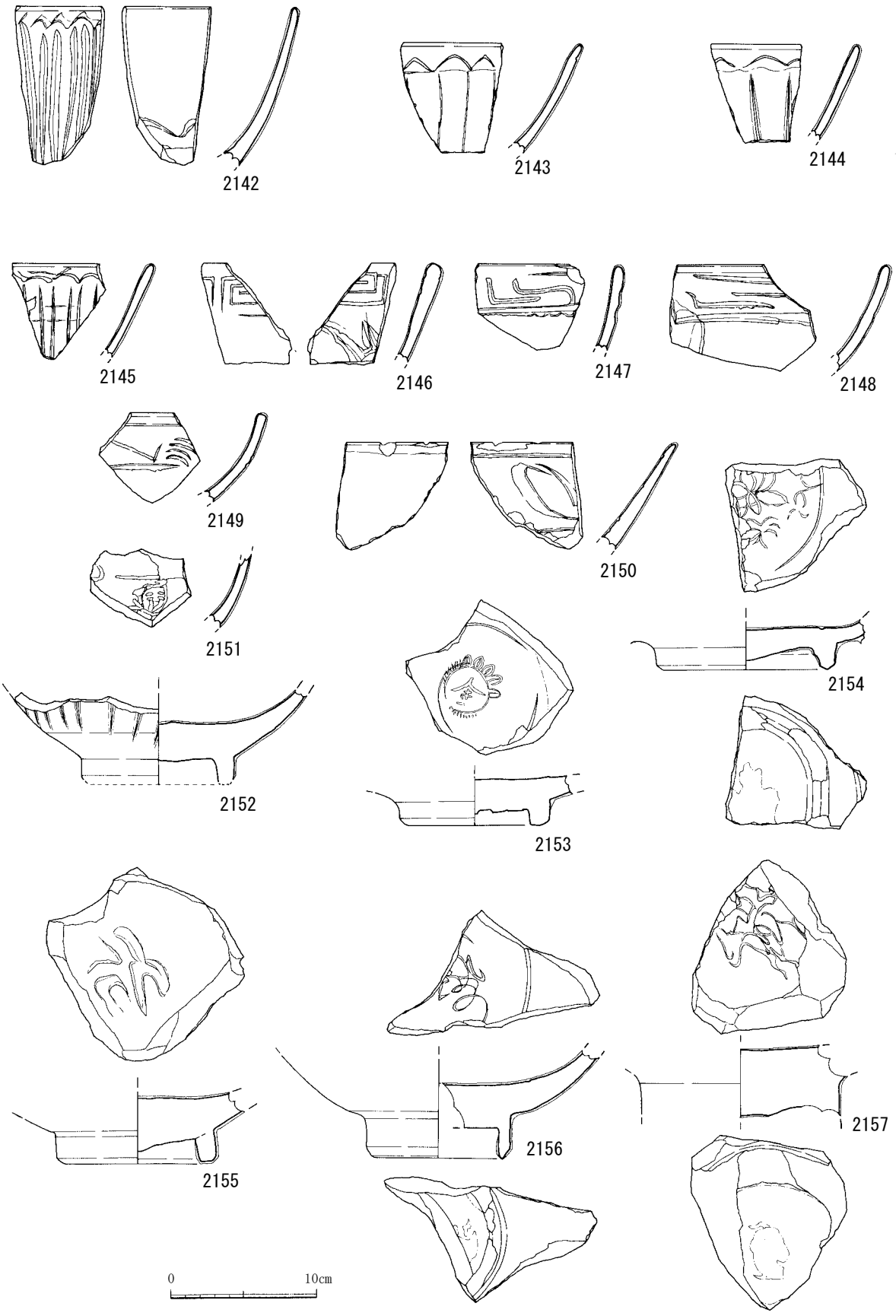
⑩備前焼（第115図　2280～2283）

2280～2283は備前焼の擂鉢である。胎土には小石が混ざり鉄分が多い。拡張された口縁部には２～３条の凹線を有する。2281は全体に茶褐色であるが，口縁部は灰白色である。断面三角形の口縁部に縦位に一条の凹線が刻まれている。

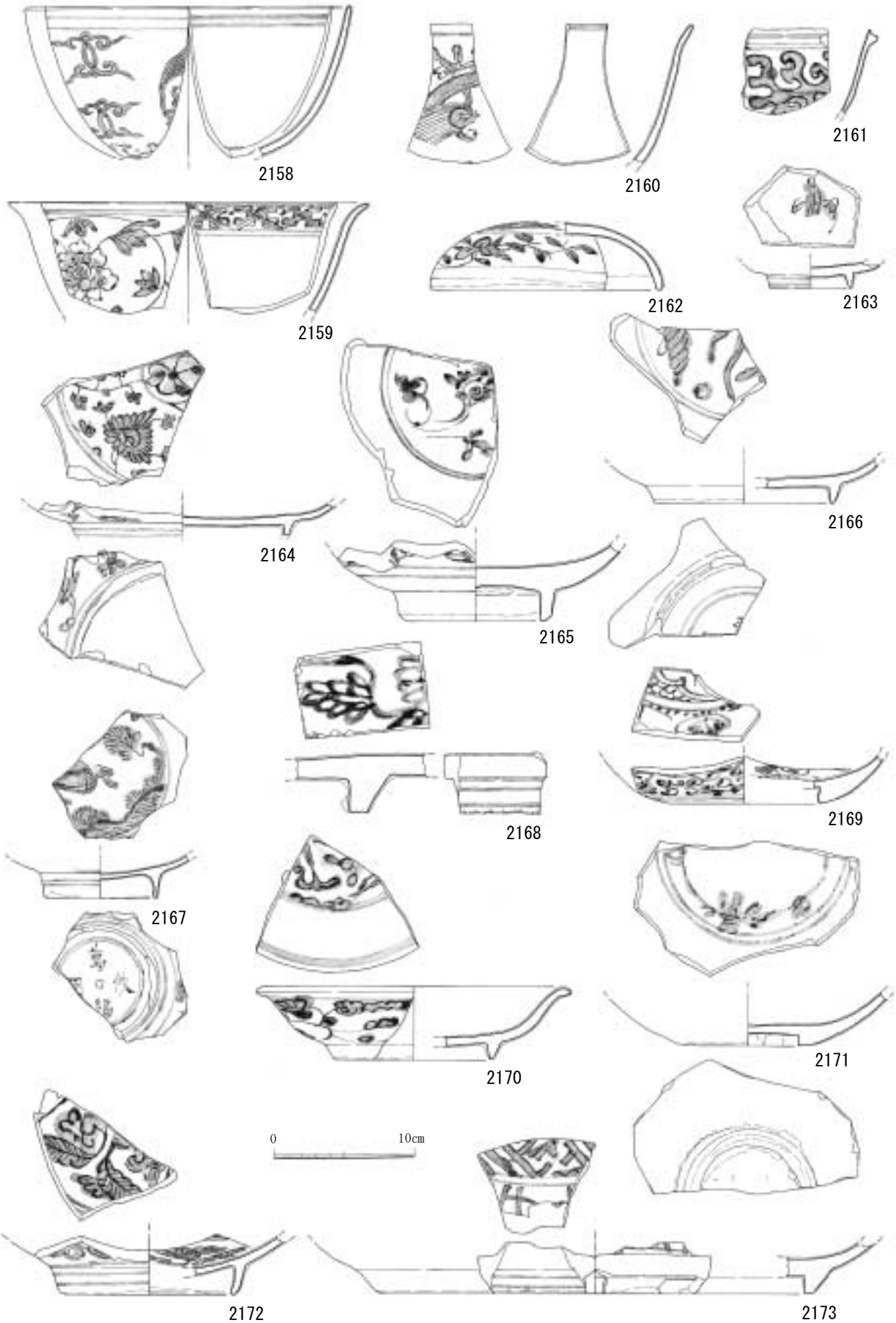
2282は全体的に赤褐色を呈するが，自然釉がかかり，茶褐色に発色している部分もある。残存状況が良くないため，下から上へのカキ目の数は明確でない。胎土に小礫を含んでいる。2283は全体に茶褐色で，口縁部のみ灰褐色である。2280は底部から胴部で，１束11本のカキ目が確認できる。



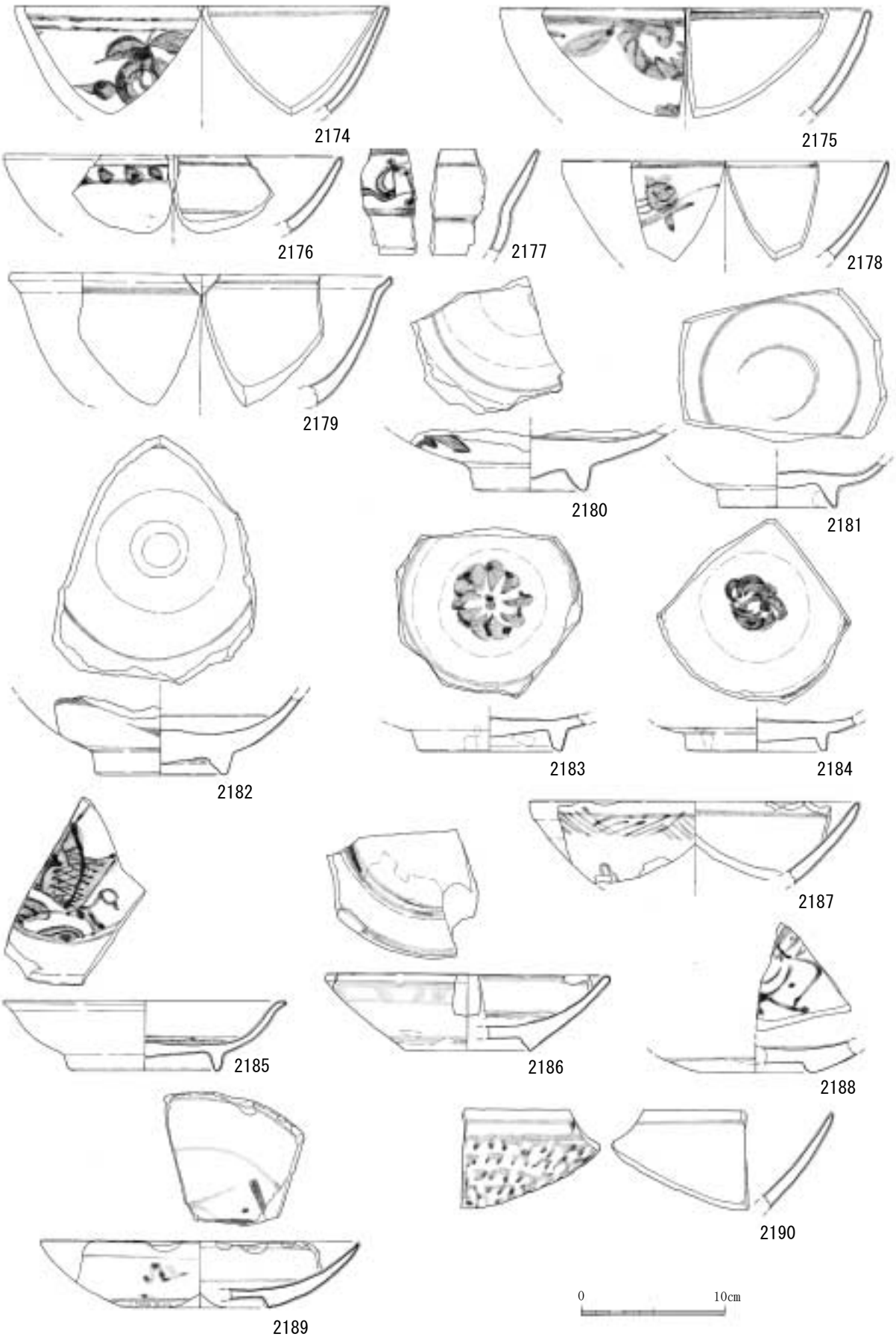
第106図　陶磁器(1)　白磁・青磁



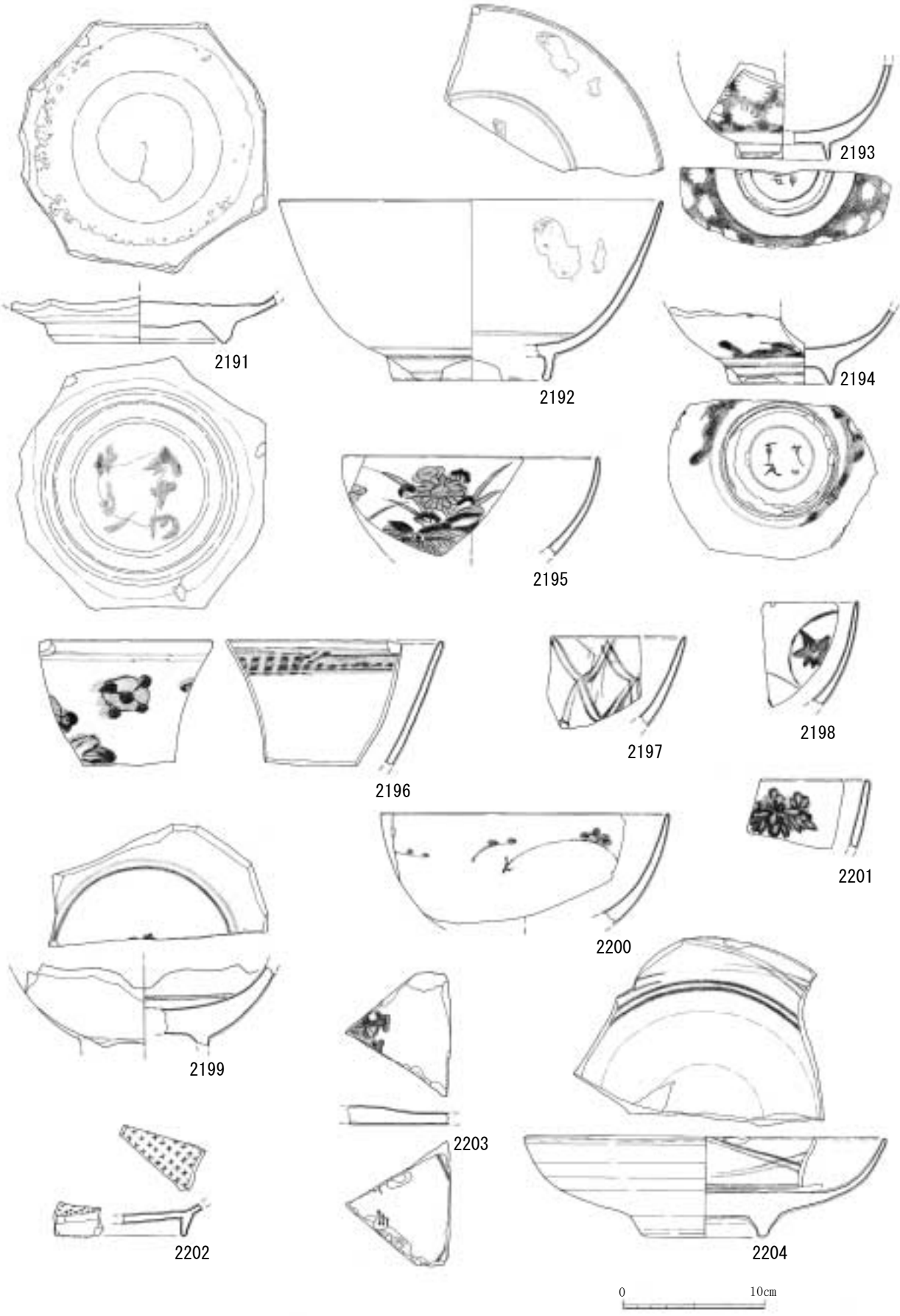
第107図　陶磁器(2)　青磁



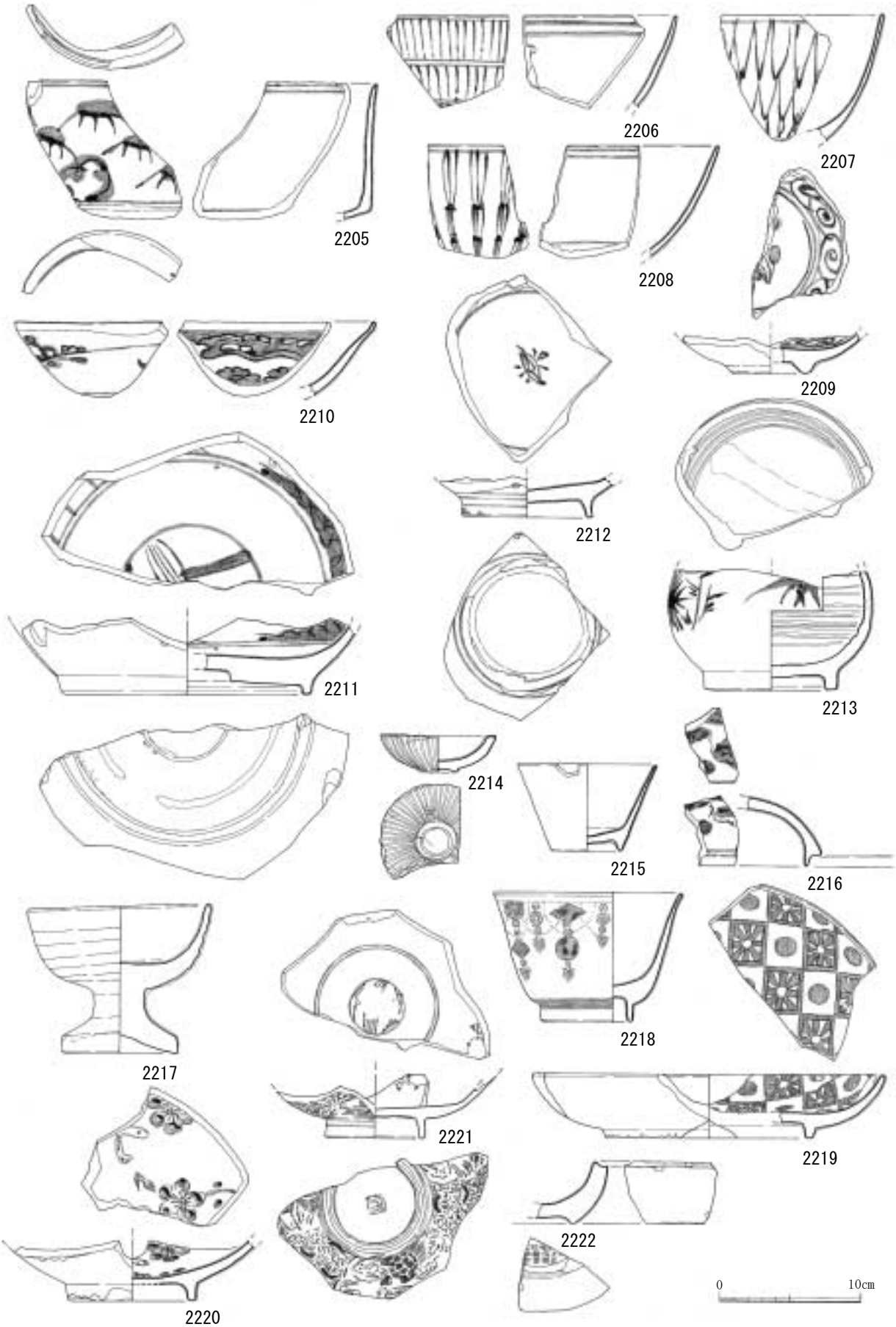
第108図　陶磁器(3)　染付



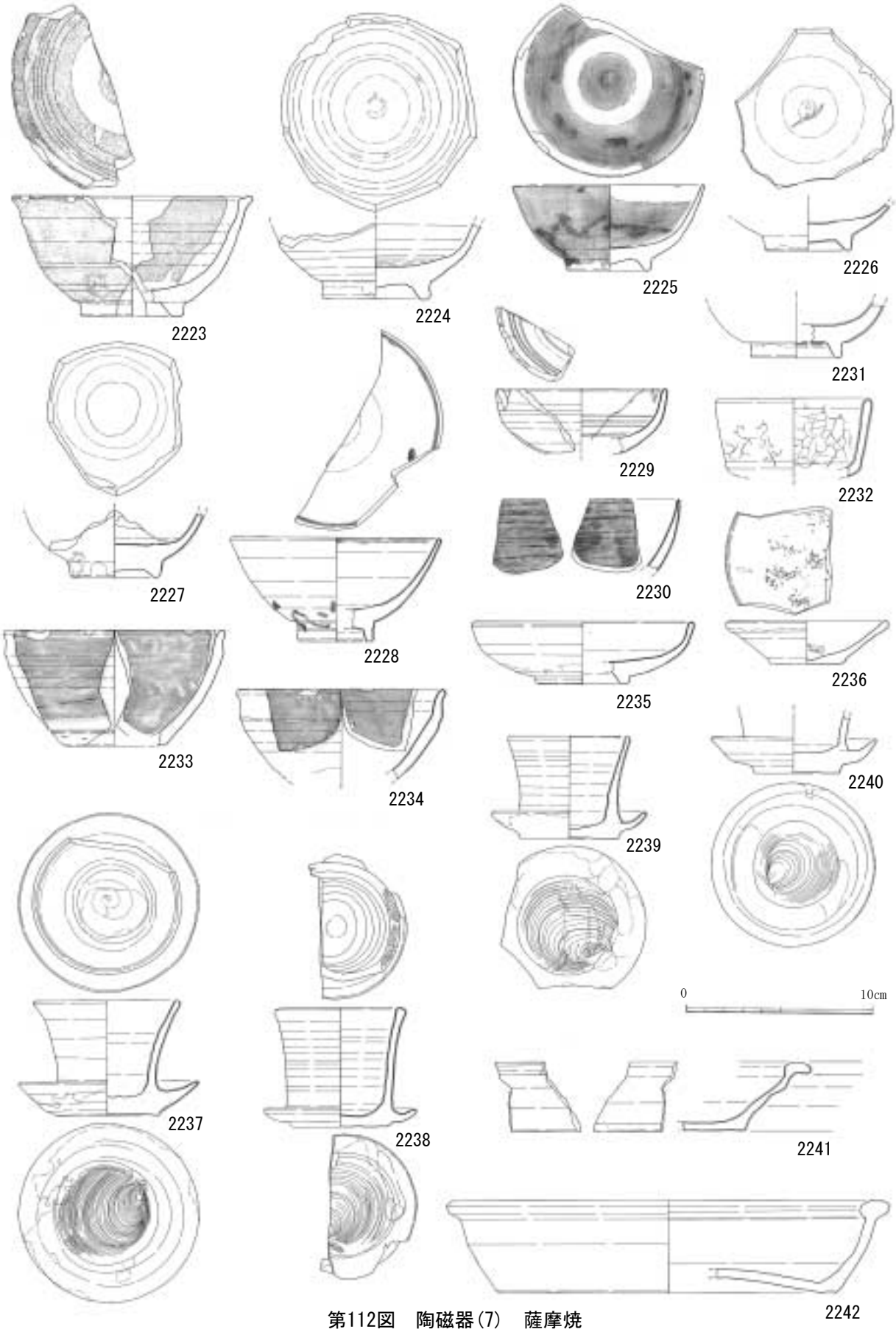
第109図　陶磁器(4)　染付



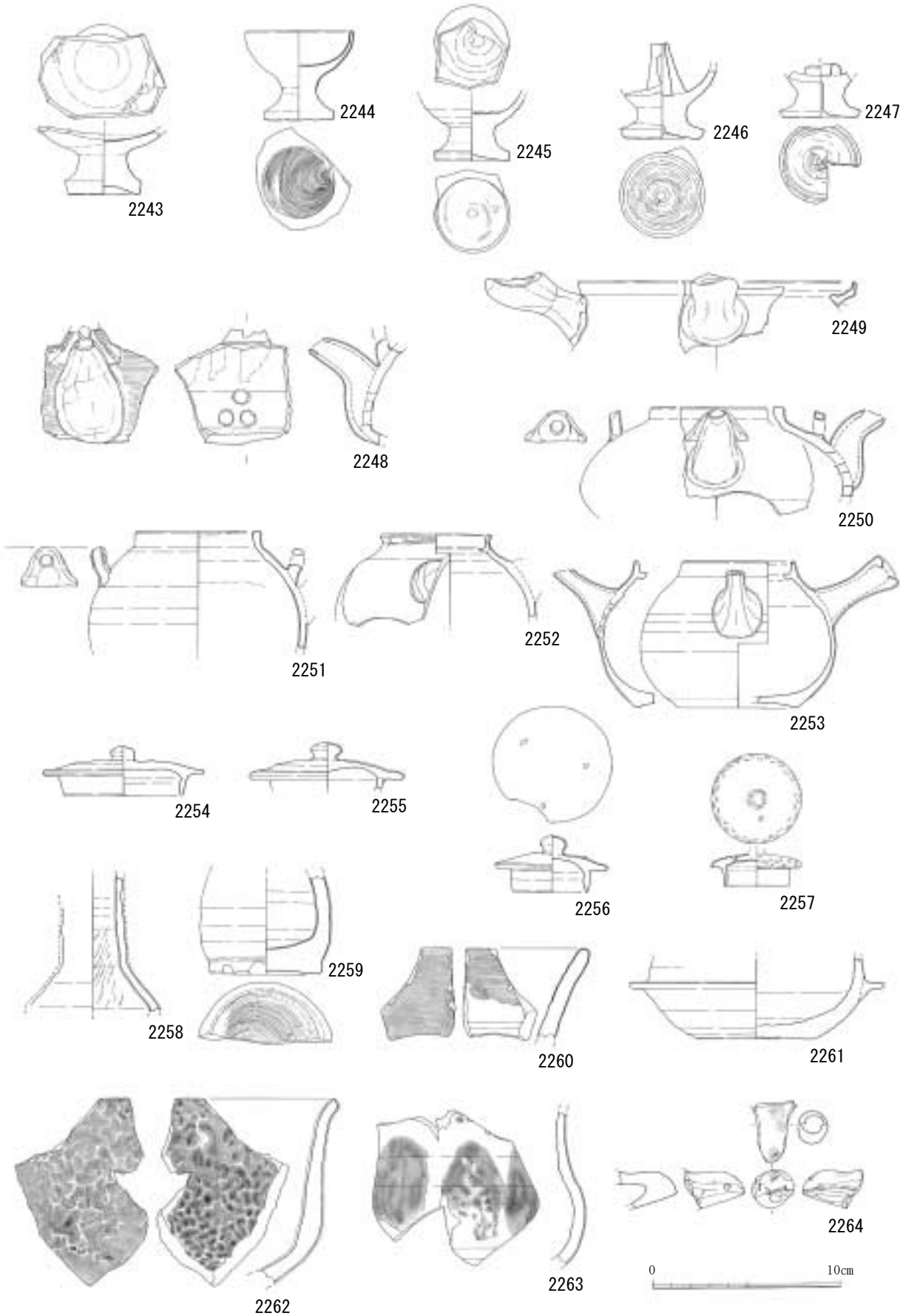
第110図　陶磁器(5)　染付



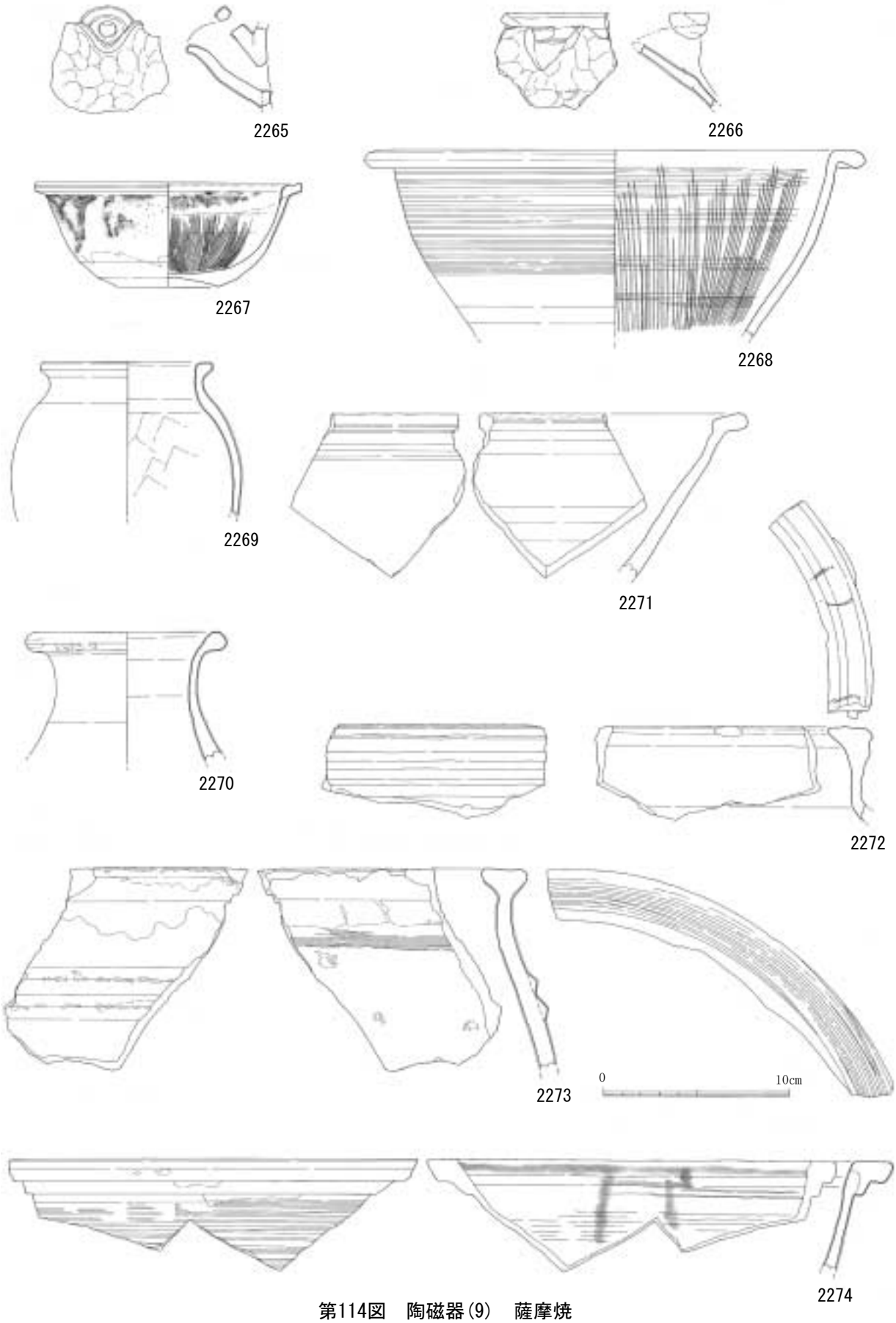
第111図　陶磁器(6)　染付



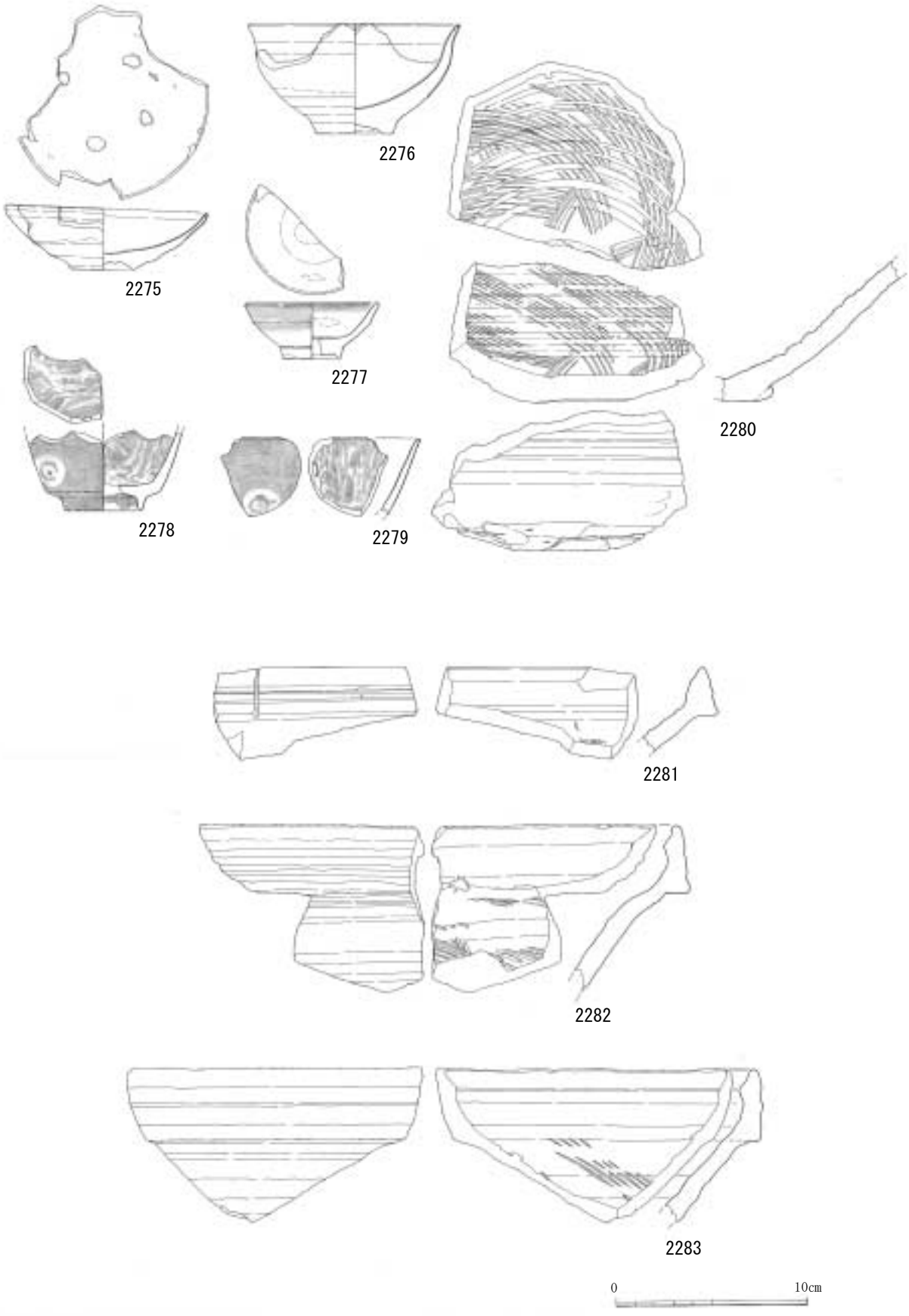
第112図　陶磁器(7)　薩摩焼



第113図　陶磁器(8)　薩摩焼



第114図　陶磁器(9)　薩摩焼



第115図　陶磁器(10)　唐津焼ほか

⑪土錘（第116～118図　2284～2358）

土錘は管状土錘が139点，双孔棒状土錘が26点の計165点出土した。このうち管状土錘を51点，双孔棒状土錘については24点を図化した。

管状土錘については，形状から４タイプに，中心径の大きさから３タイプにそれぞれ細分した。

Ａ～中心部が膨らみ両端が窄まるもの
Ｂ～中心径と両端の径の差が少なくずんぐりしたもの
Ｃ～細長いもの
Ｄ～長径が短く，正方形に近いもの
Ｅ～陶器製のもの
Ｆ～破損しているため分類不能なもの

ａ～中心径が３㎝以上
ｂ～中心径が２㎝以上３㎝未満
ｃ～中心径が２㎝未満

2284～2334は管状土錘で，2284～2311はＢタイプ，2312～2318はＡタイプ，2319～2327はＤタイプ，2328～2332はＣタイプ，2333～2334はＥタイプである。Ｆタイプのものは図化しなかった。両端ともに完全な状態で残っているものはなく，片方または両方の縁が欠けているものが多くみられる。両端は切断しただけのものと平坦に調整したものとがある。器面は指頭による整形だけの雑なものと丁寧に仕上げたものとがある。Ｄ類は丁寧に仕上げたものが多く，用途の違いも考えられる。

2335～2358は双孔棒状土錘である。両端の孔がともに残るものはなく，2356・2357のみが全長を知ることができる。中央部の断面形はほぼ円形に近いが，両端は横に膨らみ扁平になるものが多い。孔を穿つ際に一方向から押さえたために横に潰れた形になっているものと考えられる。

⑫鞴の羽口（第119図　2359～2371）

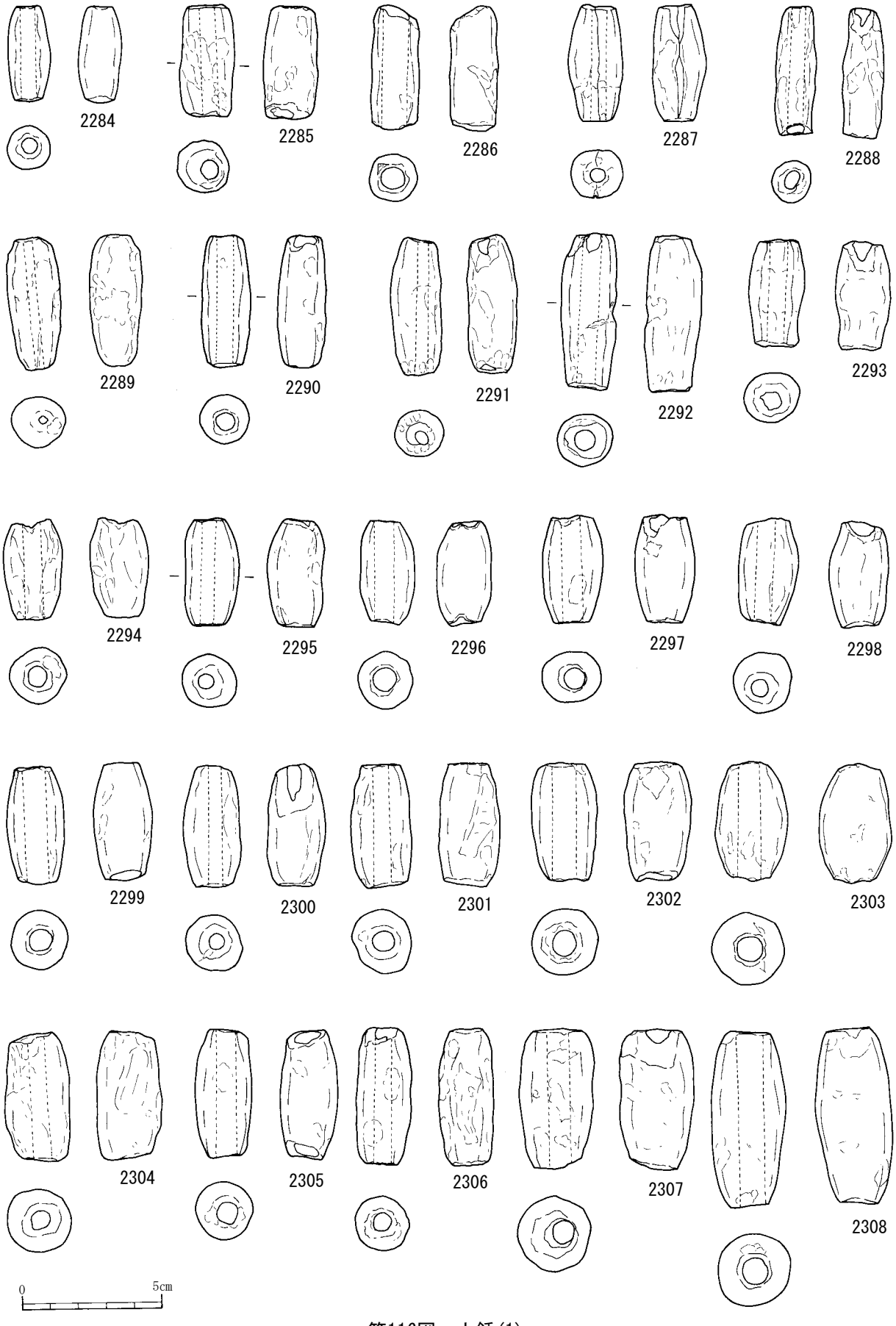
2359～2371は鞴の羽口である。薄い網掛けの部分が黒色化し，濃い網掛けの部分は被熱を受けてガラス質化している、ただし，2369と2370は径がそれぞれ4.5cm，5.2cm でほか（7.4～9.7cm）と比べて小さく，孔径もそれぞれ0.6cm，0.7cm とほか（2.3～3.6cm）と比べて小さい。残存部には黒色化やガラス質化している部分がみられない。以上のことから２点は羽口でない可能性も残る。

⑬円盤形加工品（第120図　2372～2390）

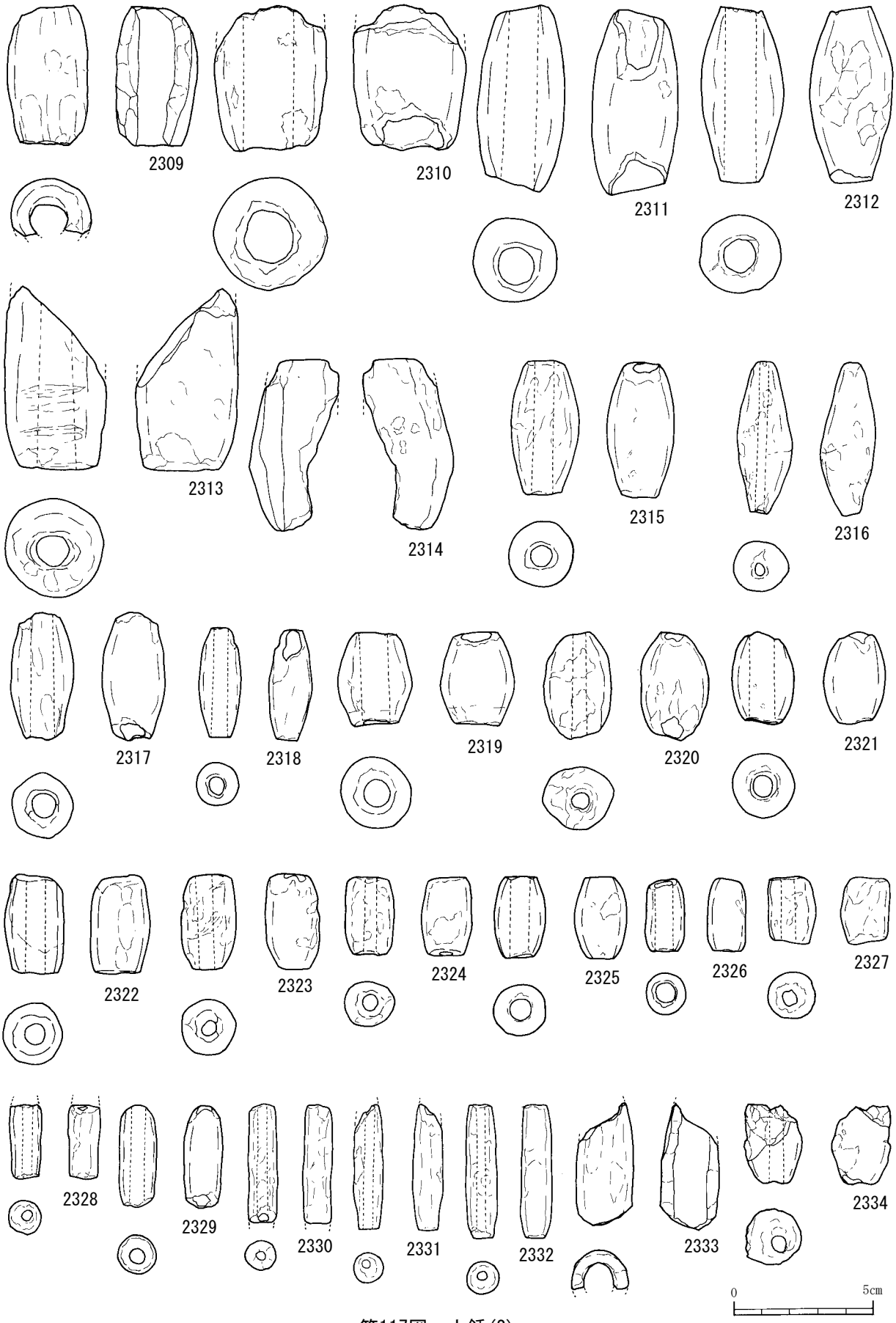
土師器製の加工品が１点，陶器製の加工品が39点出土し，土師器製１点と陶器製18点を図化した。いずれも破片を再利用したもので，縄文時代以来みられるいわゆるメンコと呼ばれるものである。丁寧に磨いたものはなく，全て雑な打ち欠きによるものである。

⑭動物形土製品（第121図　2391～2394）

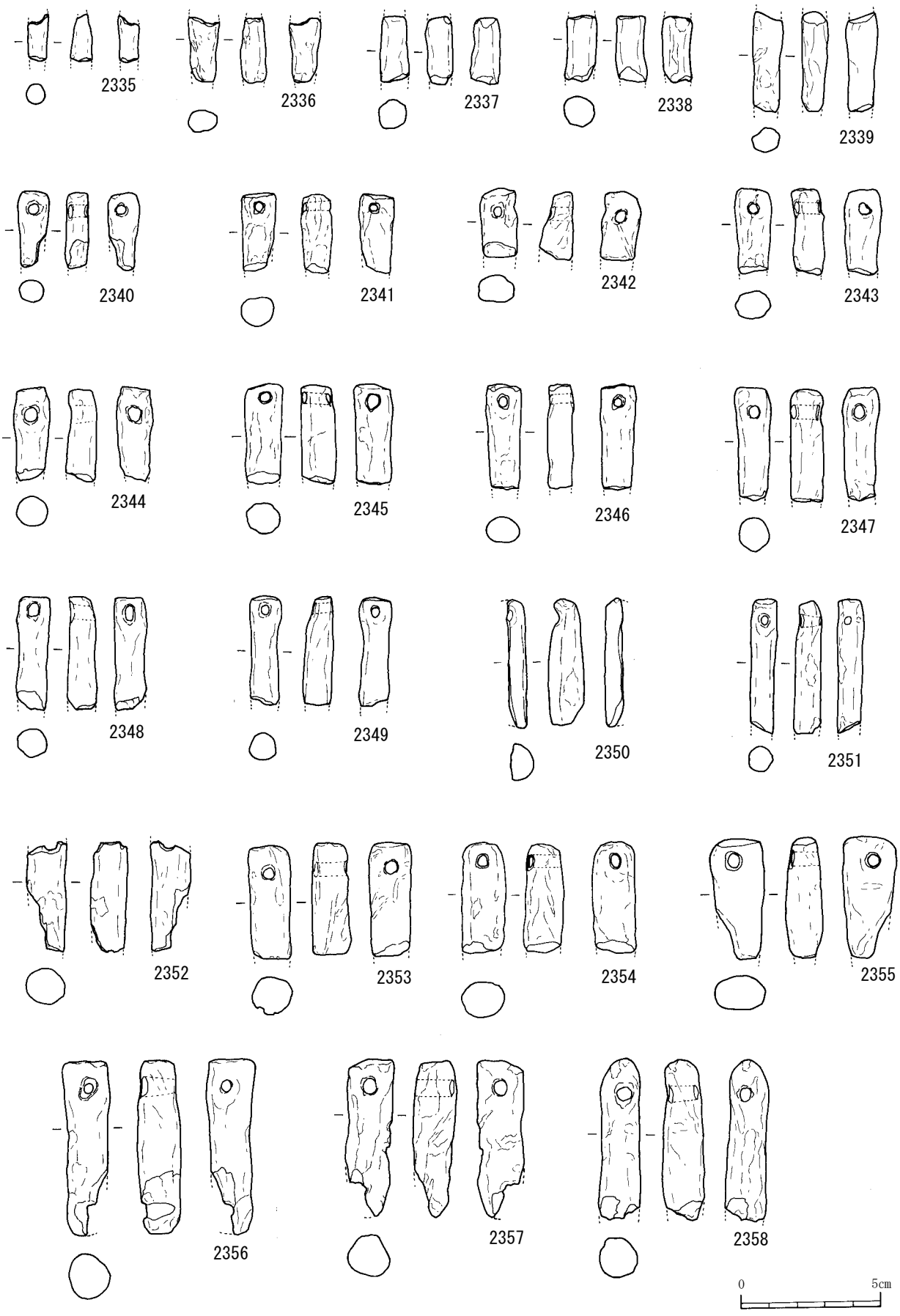
2391～2394は動物形土製品である。2391はほぼ完形で出土している。前後の脚部の基部に，爪跡状の痕跡が残る。右側脚が短いために平面上では安定していない。2392は後脚部の基部に爪跡状の痕跡が残る。右前脚部が欠損している。2393は脚部の全てと顔が欠損している。2391～2393は，腹部の調整は粗いが，ほかの部分は丁寧な調整が施されている。2394は右の脚部全体と左の脚部の先端，顔，尻が欠損している。調整が粗い，胴部が細い，首がほぼ直角に立ち上がるなどの点でほかの３点とは異なる。2391～2393はその形状から判断して「犬」を意識して製作している可能性が高い。2394は欠損部が多いため詳細不明である。


2284
2285
2286
2287
2288
2289
2290
2291
2292
2293
2294
2295
2296
2297
2298
2299
2300
2301
2302
2303
2304
2305
2306
2307
2308
0
5cm

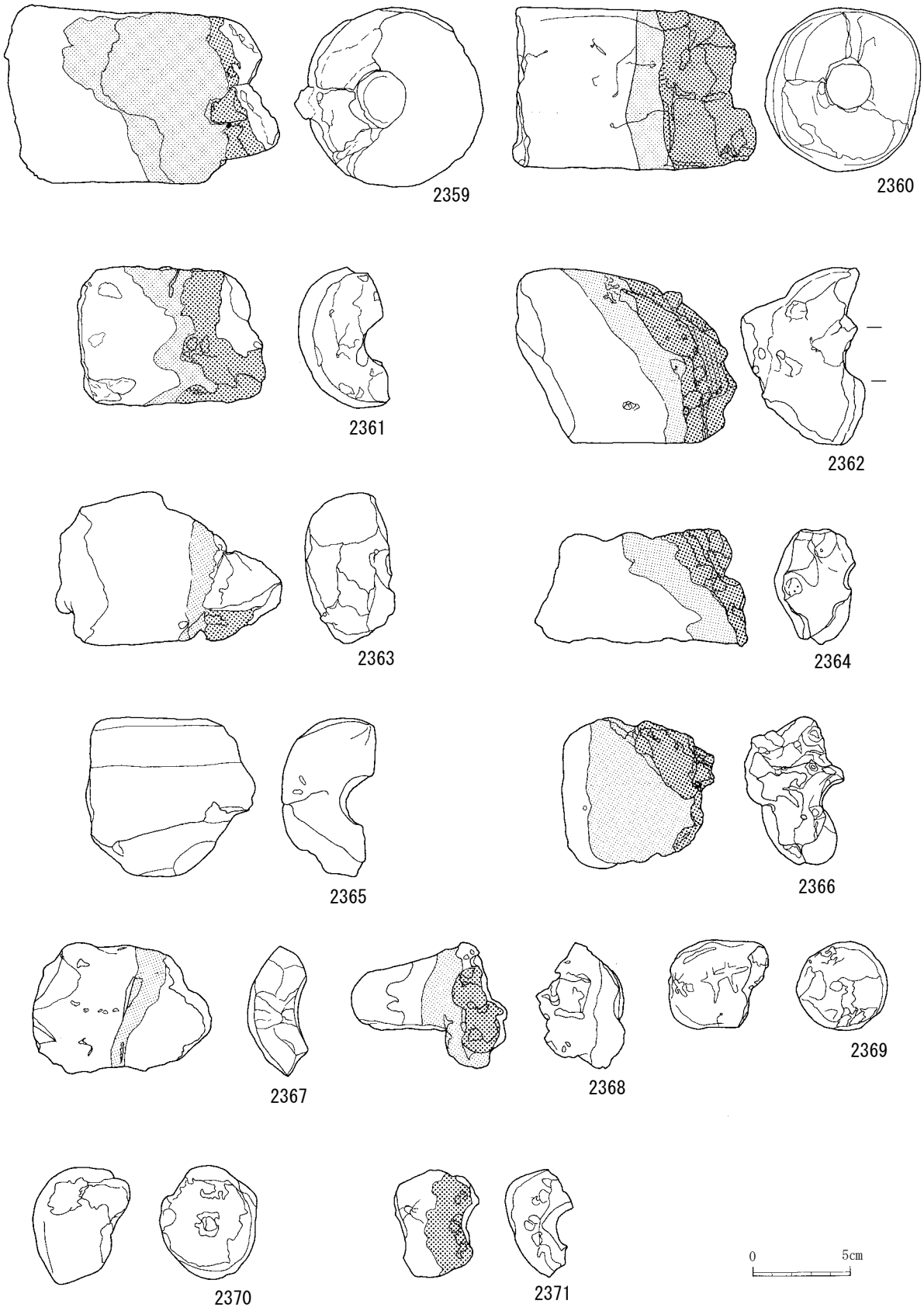
第116図　土錘(1)


2309
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2316
2317
2318
2319
2320
2321
2322
2323
2324
2325
2326
2327
2328
2329
2330
2331
2332
2333
2334
0
5cm

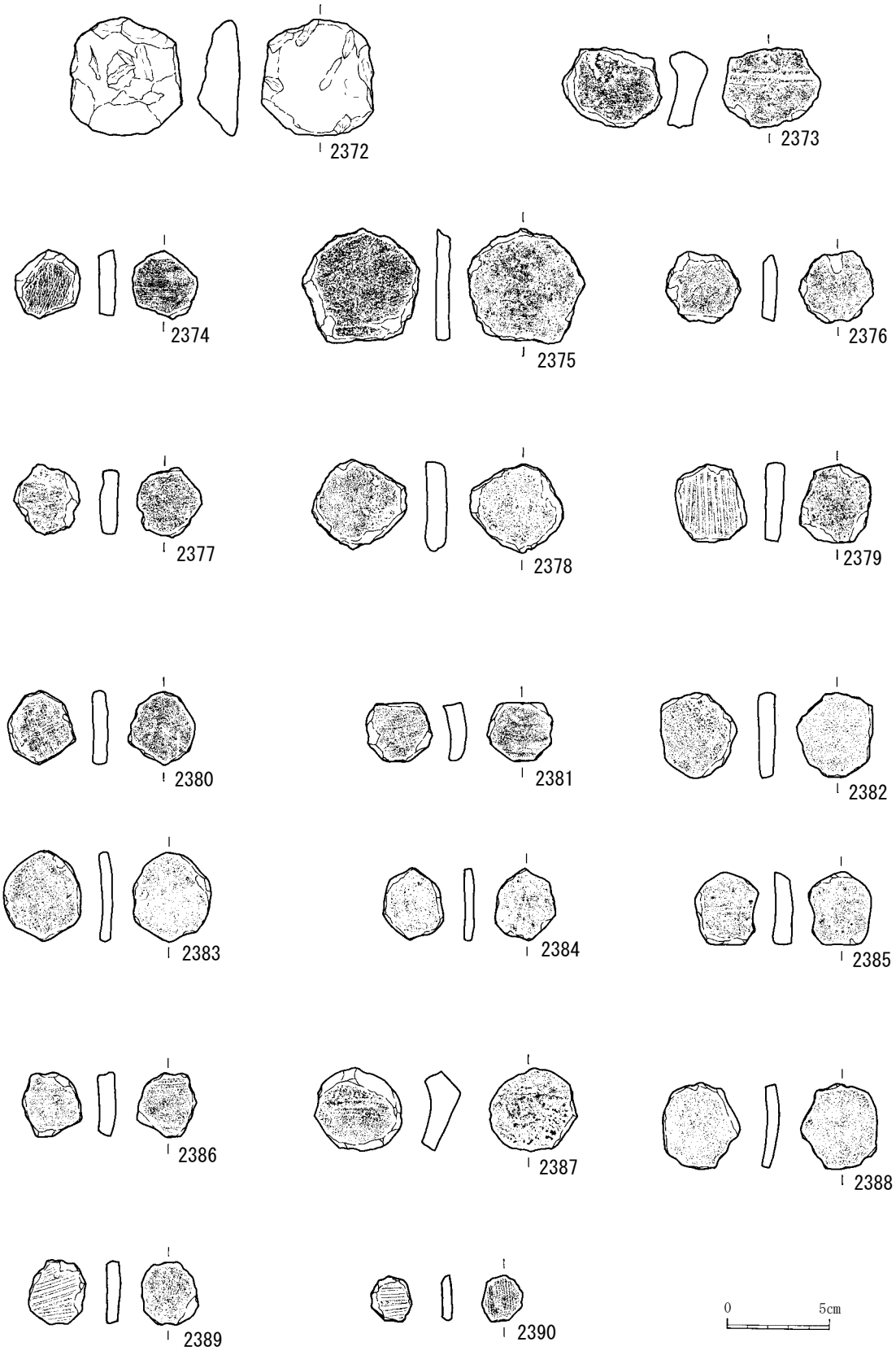
第117図　土錘(2)


2335
2336
2337
2338
2339
2340
2341
2342
2343
2344
2345
2346
2347
2348
2349
2350
2351
2352
2353
2354
2355
2356
2357
2358
0
5cm

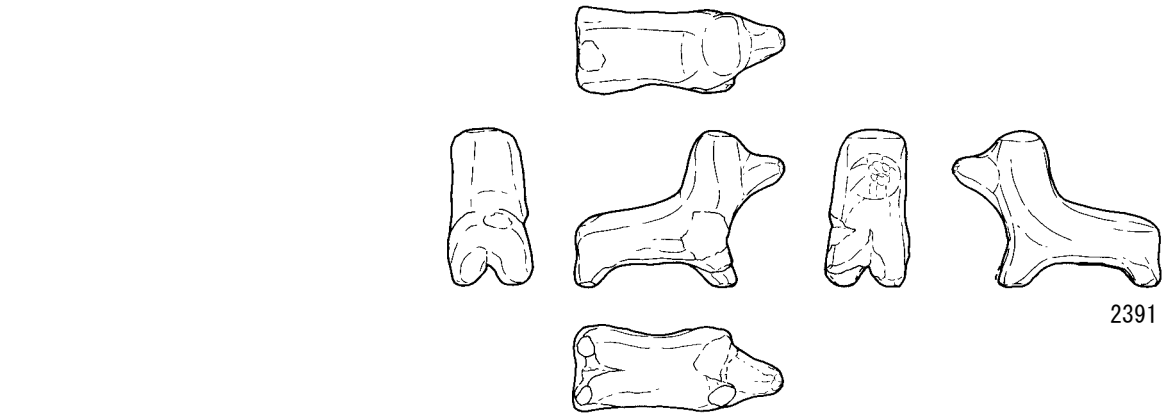
第118図　土錘(3)

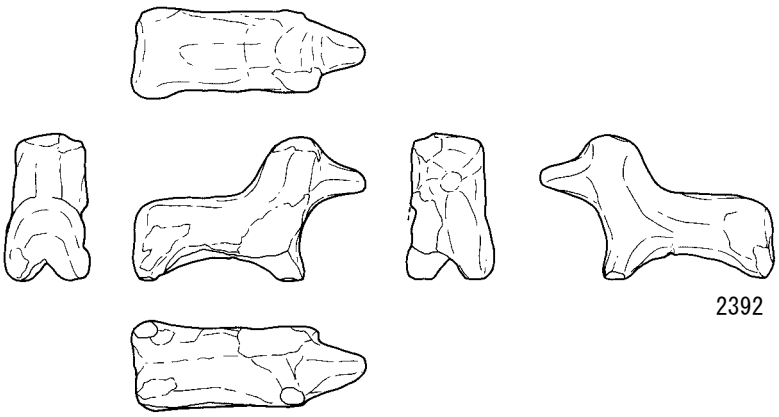

2359
2360
2361
2362
2363
2364
2365
2366
2367
2368
2369
2370
2371
0
5cm

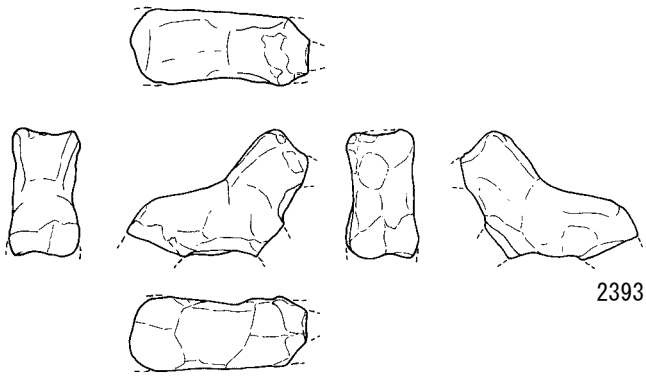
第119図　鞴の羽口

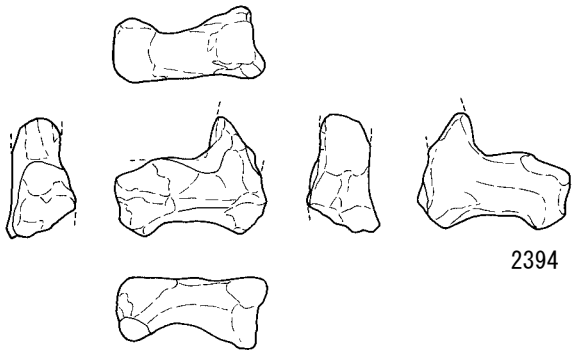


第120図　円盤形加工品









第121図　動物形土製品

⑮石塔（第122図　2395～2399）

五輪塔を構成する石塔と考えられるものが５点出土した。空風輪部３点，水輪部１点，地輪部１点であった。

⑯紡錘車ほか（第123図　2400～2404）

2400は古代の土師器坏の底部である。側面を上下から斜位に削り，形状を整えていることから紡錘車に転用されたものと考えられる。半分以上欠損しているため軸孔は確認できない。径7.5cm，厚さ1.2cm，欠損しているが重量16.39ｇ（復元推定55ｇ）である。

2401は土鈴である。上部に１か所径２～３㎜の孔が貫通している。空洞部内面は巾着しぼり状を呈している。

2402は有溝土錘の可能性があるものである。下部が欠損しているが，残存部では縦横１条ずつの沈線が廻っている。重量54.16ｇである。

2403は古代の土師器椀の底部である。高台と側面を削り，丁寧な調整が施されており，中心に円形の孔が貫通している。紡錘車の紡輪に転用されたものである可能性もある。孔の径が1.6cm と大きいため，別な用途に使用された可能性も残る。径7.5cm，厚さ1.8cm，欠損しているが重量63.21ｇ（復元推定75ｇ以上）を測る。

2404は中世～近世に属する土製品と考えられる。半分ほどが欠損しているが，残存部の形状は中央部がやや盛り上がる。下面には幅７～８㎜の高台状の輪が廻り，キザミが施されている。側面が１か所つまみ出されている。表面全体にガラス質の細かい粉末が付着しており，光を反射し，触れるとヌメリが感じられる。中心に穿孔された痕跡があり，焼成前に開孔されていることから，紡錘車である可能性もある。径4.7cm，厚さ0.7cm，孔径0.6cm，欠損しているが9.02ｇ（復元推定18ｇ）である。

⑰銭貨（第123図　2405～2422）

銭貨は24点出土しているが，そのうちの18点を図化した。2405は下部の「元」の文字のみ判読できるが，ほかの文字については判読不可能な状態であった。2406から2412は洪武通宝（明銭）である。2406は背の右に「一銭」，2407は背の上部に「浙」の文字が判読できる。2408は背の上部に文字があるが，「福」か「豫」ではないかと考えられるが不明確である。2409は錆の付着が著しいため，文字の有無については不明である。

2413から2422は寛永通宝である。寛永通宝は通常以下のように分類されている。

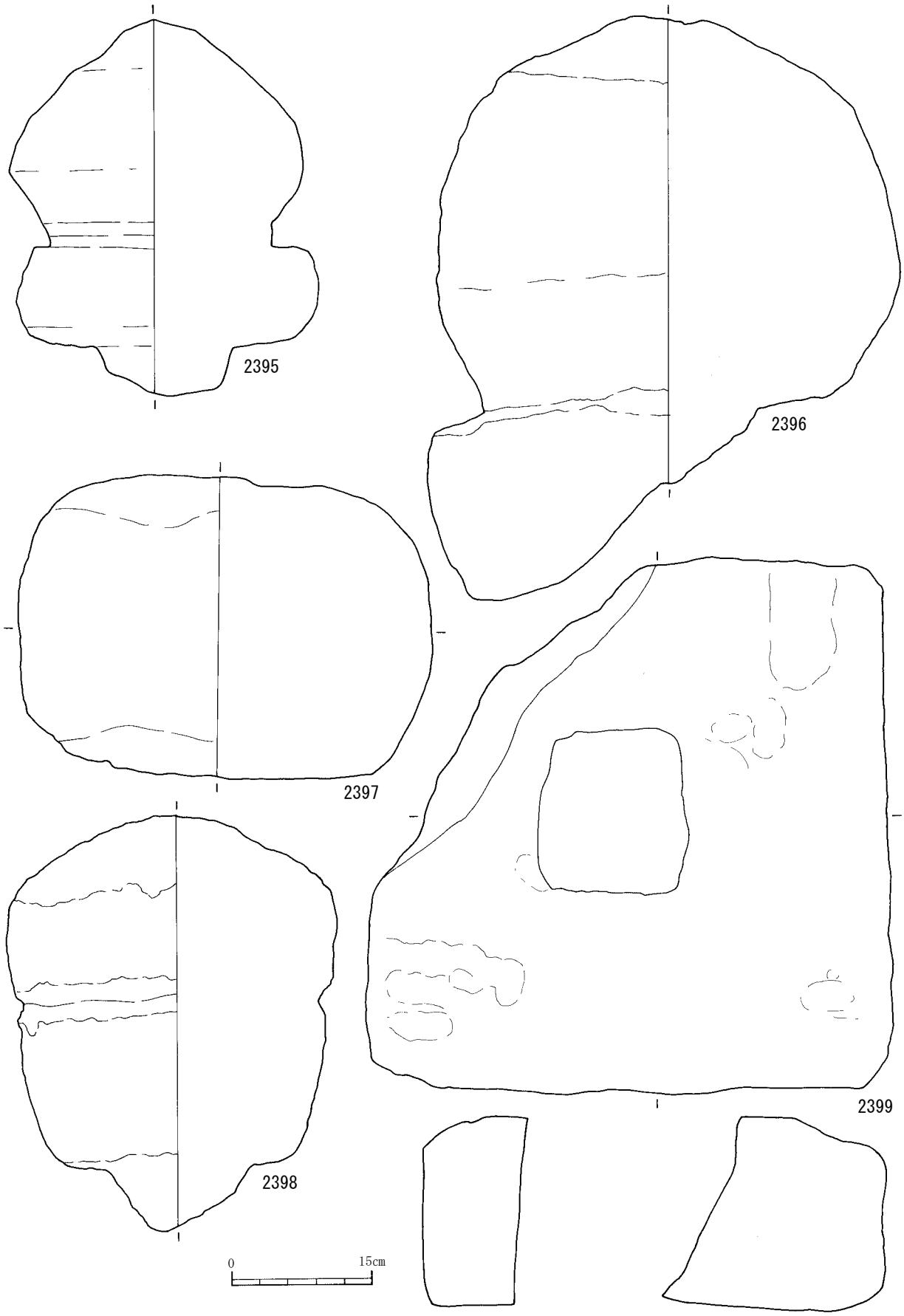
一文銭
- 銅銭
  - ①古寛永〔1636～1659年〕（2417・2418・2421・2422）
  - ②文銭〔新寛永：1668～1683年〕
  - ③上記以外〔新寛永：1697～1747年〕（2413･2414･2416･2419･2420）
- ④鉄銭〔1739年～〕

⑤四文銭〔1768年～〕

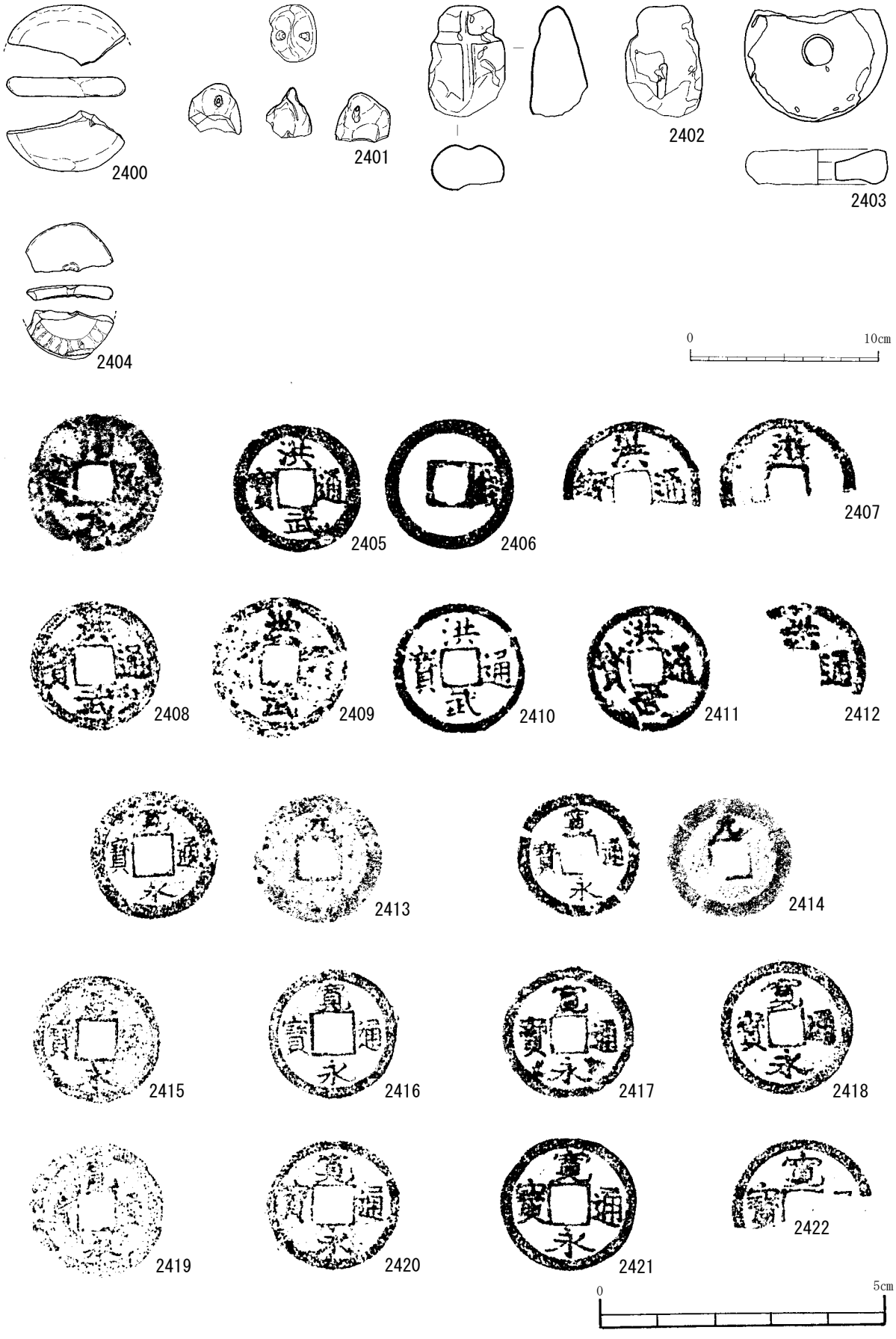
《参考文献　『日本出土銭総覧』1996年版　兵庫埋蔵銭調査会》

「寛」や「寶」の書体から2417・2418・2421・2422は古寛永，2416・2419・2420は新寛永であると考えられる。2413と2414は背の上部に「元」の文字が見られるため，新寛永であることがわかる。

2408・2409は鉄銭で，そのほかの洪武通宝とすべての寛永通宝は銅銭である。識別不可能であっ



第122図　石塔



第123図　紡錘車ほか（上）・銭貨（下）

たため図化しなかった銭貨の中にも鉄銭が４点みられた。

⑱青銅製品・鉄製品ほか（第124，125図　2423～2448）

青銅製品としては，煙管６点，簪状製品１点，そのほか２点が出土した。６点の煙管のうち５点は雁首で１点が吸口である。

煙管は製作された時期によってある程度の形態的変化が認められるという（古泉 1983）。古泉によると雁首と火皿の接合部に「補強帯」が巻かれるもの，あるいは首部の湾曲が弱く直線的になり，火皿の口径が小さくなるという。また，「肩付」の形状が伴うと古くなる。以上の分類基準から，今回出土した煙管の時期を考えると，2425，2426は肩付であるが補強帯はない。比較的古い形式と考えられる。2423は火皿の口径が約1.5㎝と大きく，首部の湾曲形状がより直線的であるため18世紀前半，2424も首部の湾曲形状より17世紀後半～18世紀前半，2427は首部の湾曲形状がより直線的であるため18世紀後半と考えられる。

これらの時期設定はあくまでも形態変化の流れに合わせたもので，古い形態を真似て作った新しい煙管も当然存在しうることを付け加えておきたい。

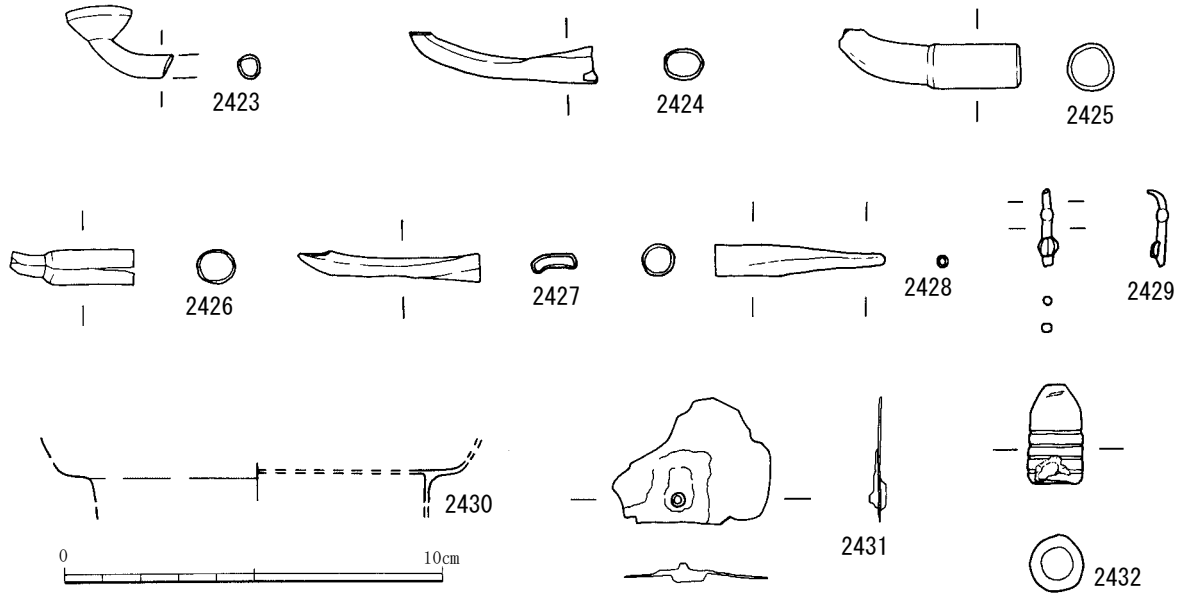
2429は簪の一部と考えられるもので，装飾的な細工が施されている。2430は容器か蓋のような形状を呈しているが用途は不明である。2431は径２㎜の孔が穿たれており，飾金具の一部とも考えられるが詳細不明である。

2432は鉛製の銃弾である。西南戦争時のものと考えられる。

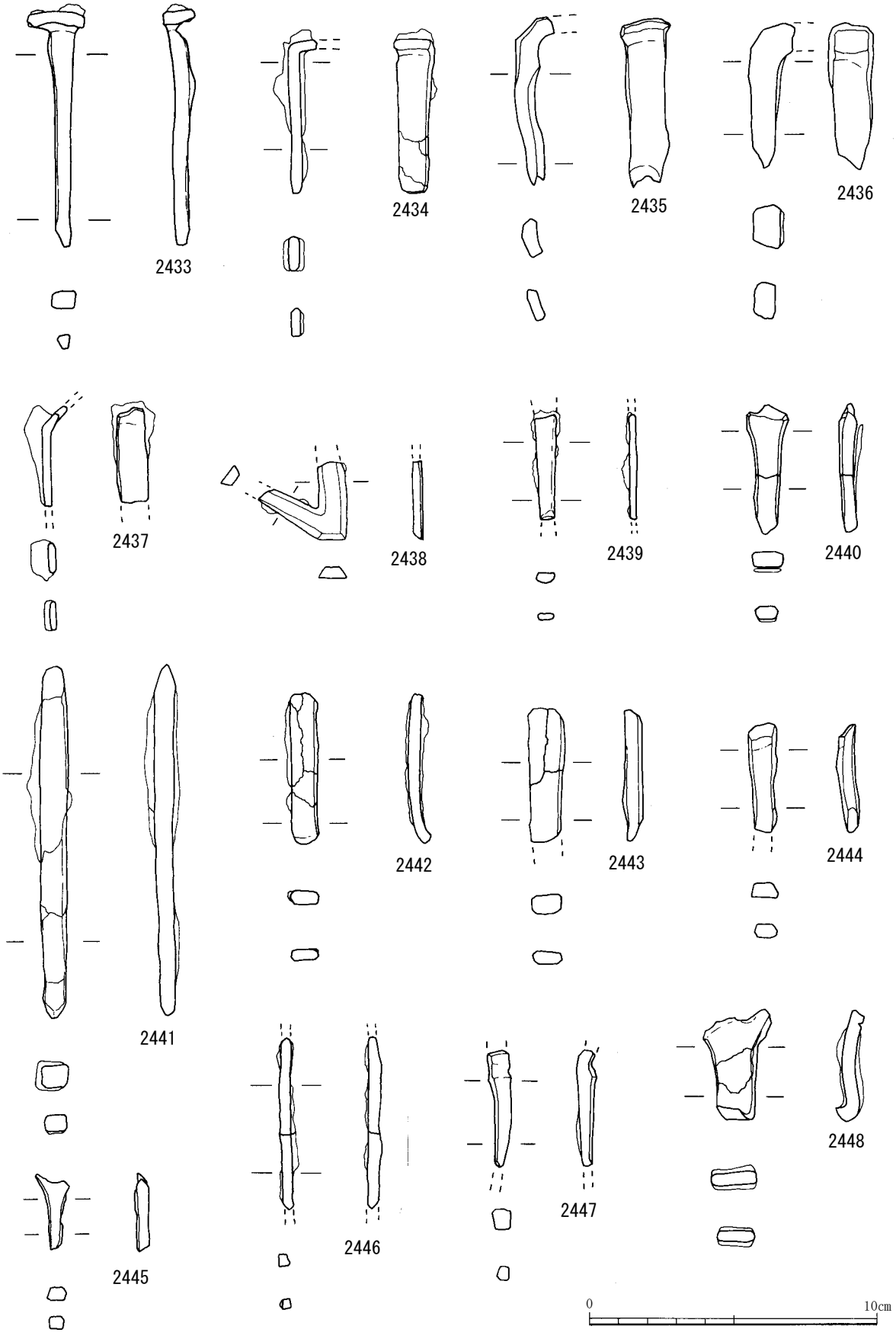
鉄製品は多数出土しているが，図化できたものは16点であった。これらの鉄製品には欠損や錆などが原因で，本来の形状が判明せず，機能が推定できない破片もある。2433，2447は釘である。2447は上下部分が欠損している。2446も棒状の鉄製品であるが，形状から釘の可能性も考えられる。

2434～2436，2437は鎹に似た形状をなすが，いずれも欠損しているため詳細は不明である。2438～2440，2442～2445，2448は板状を呈した鉄製品の破片であると推定できるが，本来の機能については不明である。

《参考文献　古泉　弘　1983　『江戸を掘る』　柏書房》



第124図　青銅製品ほか


2433
2434
2435
2436
2437
2438
2439
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
0
10cm

第125図　鉄製品

５　遺跡の残存状況

今回の発掘調査は，国道のバイパス建設に伴うということで，調査対象区域は細長いものであった。調査の結果，ほぼ対象区域全面で遺物の存在が確認できた。そこから判断した遺跡の残存推定状況が第161図である。

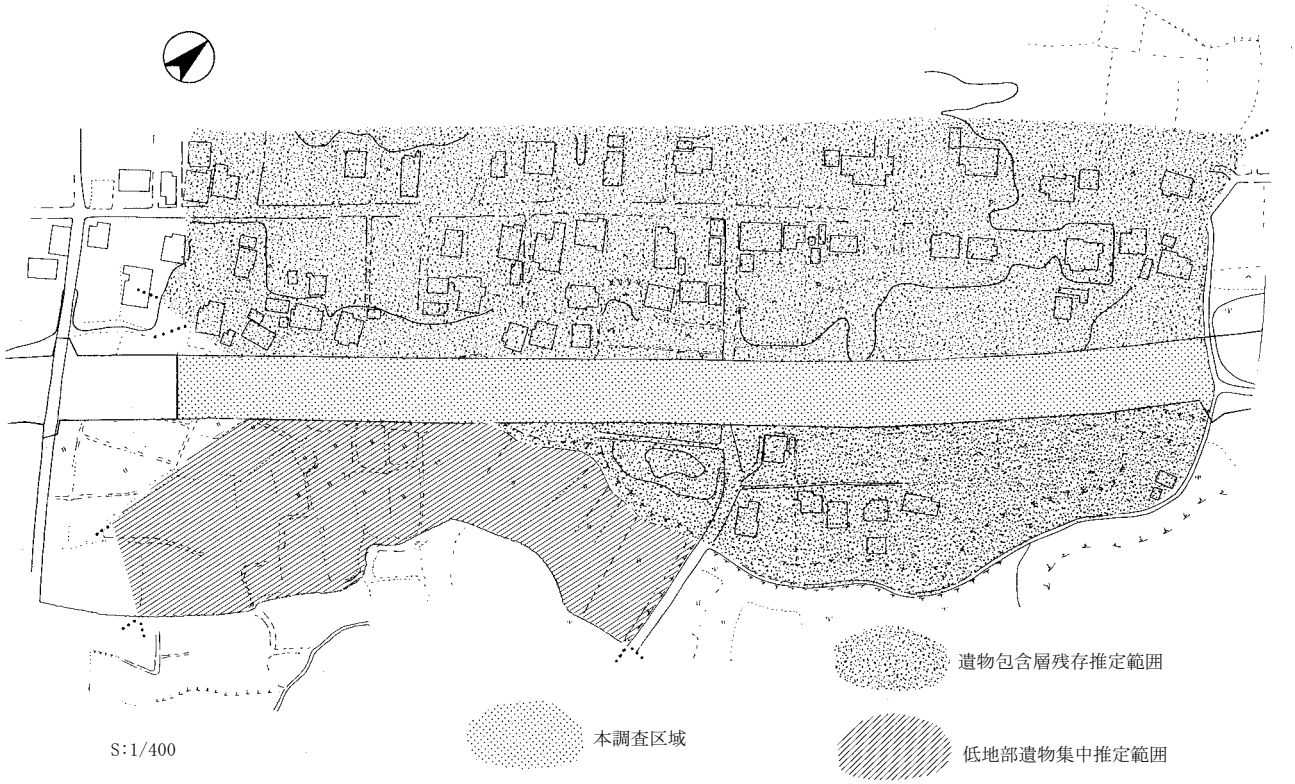
包含層としては縄文時代後期のものを上限とする第Ⅴ層から上位と縄文時代前期を中心とする第Ⅷ層がある。さらに調査区の南西側を中心とした低地部には大量の遺物が出土する区域がある。より上位からの流堆積と考えられるが，資料的価値の高い遺物が多く含まれていることと水汲み場的な石組遺構も検出されていることから，隣接する地域の開発は注意する必要がある。

縄文時代後期の遺物包含層と前期のそれとは約２ｍの高低差があることから，周辺開発に対しては，出土層位の深度も考慮する必要があろう。ちなみに後期包含層は現地表面よりほぼ約１ｍ，前期包含層は約３ｍ掘り下げたレベルで出土する。縄文時代に関しては土器型式別の出土状況を第１分冊の第35～37表に示してあるので参照していただきたい。

全体的な傾向として縄文時代前期から近世にいたるまで，各時代時期の主たる生活域は調査区の北西側（内陸側）に広がっていると考えられる。現在は人家が建て込んでいる地域であるが，遺物包含層の深度を考慮すると，遺跡の多くは残存している可能性が高い。

本遺跡では，大型道路遺構をはじめとする道跡が多く発見された。これらの遺構は遺物を伴わないことが多いことから，周辺への広がりを確認する際は，遺物の有無だけにこだわると遺構を見逃してしまう危険がある。

以上のことから，今回調査した区域の周辺に開発が及ぶ場合，まず広がりを確認する調査が必要であるといえよう。この際，本遺跡の第Ⅷ層段階の存在も忘れてはならない。



第126図　遺跡の残存状況図

凡　例

1　出土区・層位の項目が５桁の場合，低地部出土を示している。　　2　色調についての表現は相対的なもので主観である。
3　胎土の状態について示した用語については，大まかに以下の点を目安として使用している。
　　砂粒多～概ね長さ2㎜程度の粒子を含む。
　　細粒多～概ね長さ１～２㎜程度の粒子を含む。
　　密～概ね１㎜以下の粒子で構成され，緻密である。
4　胎土の項目の「火W」と「火B」はそれぞれ以下のような「火山ガラス」のことを指している。
　　「火W」～無色透明あるいは白色透明の火山ガラス
　　「火B」～黒褐色や紫色をおびた火山ガラス
5　胎土の項目の「他」でみられる金は金雲母，白は白色の粒子，茶は茶色の粒子，灰は灰色の粒子のことを指している

第13表　出土遺物観察表(13)

挿図	番号	種類	時期	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	色調		胎土							焼成	備考	図版
										内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
87	1976	弥生土器	前期末	壺	口縁部	A15	Ⅱ	15727		明黄褐色		砂粒多	○	○				灰	良		49
	1977	〃	〃	甕	〃	A16	Ⅲ	14678	8.876	明黄茶褐色		細粒多			○			白茶	〃		
	1978	〃	〃	〃	〃	A15	Ⅱ	16100		〃		〃	○	○	○			茶	〃		
	1979	〃	〃	〃	〃	A16	Ⅲ	14669		〃		〃	○	○	○			茶	〃		
	1980	〃	〃	〃	〃	A15	Ⅱ	16107		暗茶褐色		〃	○	○	○			茶	〃		
	1981	〃	中期	壺	〃	B22	Ⅰ			淡黄茶褐色		〃	○					金	〃		
	1982	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			淡明茶褐色		〃	○		○				〃		
	1983	〃	〃	甕	底部	A16	Ⅲ	14663		暗黄茶褐	明黄茶褐	砂粒多	○	○					〃		
	1984	〃	後期	〃	口縁部	B22	Ⅰ			暗茶褐色	暗褐色	細粒多		○				茶	〃		49
	1985	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			黒褐色	明茶褐色	〃	○	○					〃		
	1986	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			明黄白色		密				○	○		〃		
	1987	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			明黄白色	暗褐色	〃		○	○	○			〃		
	1988	〃	〃	〃	〃	B	Ⅰ			明黄茶褐色		細粒多			○				〃		49
	1989	〃	〃	〃	〃	C23		15241		黒褐色	暗茶褐色	〃		○	○			白	〃		
	1990	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			暗茶褐色		〃	○	○	○			白	〃		
	1991	〃	〃	壺	〃	B22	Ⅰ			明茶褐色		〃						金	〃		
	1992	〃	〃	〃	底部	A17	Ⅱ	14385		淡黄褐色	明茶褐色	砂粒多		○				茶金	〃		
	1993	〃	〃	甕	口縁部	B22	Ⅰ			明黄白色		〃	○	○	○	○			〃		49
	1994	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			淡黄褐色	明黄白色	〃		○	○	○			〃		
88	1995	成川式土器	古墳初頭	甕	口縁部	B22	Ⅰ			淡褐色		細粒多	○			○	○		〃		
	1996	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			明黄白色		砂粒多	○	○	○				〃		
	1997	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			淡黄褐色	暗褐色	〃	○	○	○				〃		
	1998	〃	〃	〃	〃	B23	撹乱			明黄茶褐色		〃	○	○	○			白	〃		
	1999	〃	〃	〃	〃	B23	撹乱			明黄白色	暗黄白色	細粒多			○				〃		
	2000	〃	〃	壺	〃	A15	Ⅱ	15716	8.915	明黄茶褐色		〃		○					〃		
	2001	〃	〃	〃	胴部	A15	Ⅱ	16073		暗褐色		〃	○	○	○				〃		49
	2002	〃	〃	〃	〃	A15	Ⅱb	5815	8.971	明黄茶褐色		〃	○	○	○	○	○		〃		
	2003	〃	〃	〃	〃	A15	Ⅱ	16081		〃		〃	○			○	○	茶	〃		49
	2004	〃	〃	〃	〃	A14	Ⅱ	7220	8.742	黒褐色	淡黄褐色	〃	○	○	○				〃		
	2005	〃	〃	甕	底部	A16	Ⅲ	14676		明茶褐色		砂粒多	○	○	○	○	○	茶	〃		
	2006	〃	〃	〃	〃	A10	A	17211		〃		細粒多	○	○	○				〃		49
	2007	〃	〃	〃	〃	A16	Ⅲ	16895		〃		〃	○	○					〃		
	2008	〃	〃	〃	〃	B11	Ⅱa	221		明黄茶褐色		砂粒多	○	○	○				〃		49
	2009	〃	〃	〃	〃	B22	Ⅰ			明茶褐色		細粒多	○	○	○	○			〃		
	2010	〃	〃	〃	底部	A15	Ⅱ	14350	8.962	明黄白色		〃			○				〃		
	2011	〃	〃	高坏	脚部	—	—			〃		〃		○	○				〃		
	2012	〃	〃	〃	〃	B3	B	19897		〃		密			○			茶	〃		49
	2013	〃	〃	〃	〃	A17	Ⅱ	14382		明黄茶褐色		細粒多	○	○				茶	〃		

第14表　出土遺物観察表(14)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃	胎土 火W	胎土 火B	胎土 他	焼成	備考	図版
	2018	陶器	壺		B12	−				暗褐色釉		砂粒多								Pit1	
	2019	土製品	土製加工品		A12	−				橙褐色									良	Pit11	
	2022	縄文土器	鉢	口縁部	B5	5105	8.649			淡橙色	淡黄褐色									Pit21	
	2023	〃	〃	胴部	B10	12929	8.376			暗褐色	暗橙色								普	土坑1	
	2024	〃	〃	口縁部	〃	12940	8.295			黄褐色	暗褐色								〃	〃	
	2025	土製品	土製加工品		〃	2936	8.153			暗褐色	褐色									〃	
99	2026	縄文土器	台付土器	脚部	〃	12931	−			淡黄褐色	明橙色									〃	
	2027	須恵器	壺	口縁部	B16	14653	−	11.6		暗赤褐色	淡灰褐色		○							古道	
	2028	青磁		口縁部	〃	14655	−			淡緑色釉										〃	
	2029	白磁	碗	高台部	〃	14654	−			淡緑色釉										〃	
	2030	青磁		口縁部	−	−	−			緑色釉										〃	
	2031	青磁		口縁部	B17	15560	−				雷文									〃	
	3032	備前	擂鉢	口縁部	B16	14646	−			明褐色	暗褐色							白砂粒		〃	
	2035	縄文土器	鉢	口縁部	B21	17806	−			明褐色	黒褐色		○	○						大型古道	
	2036	〃	〃	口縁部	〃	17835	−			橙褐色			○	○						〃	
	2037	〃	〃	口縁部	〃	17832	−			暗褐色			○						良	〃	
	2038	〃	〃	胴部	B22	17826	−			茶褐色	暗褐色									〃	
	2039	〃	〃	底部	〃	17837	−			黄褐色	褐色		○						良	〃	
	2040	成川式土器	甕	口縁部	〃	17478	−			明褐色			○	○						〃	
	2041	〃		胴部	B21	17499	−			明褐色			○	○						〃	
	2042	〃		胴部	〃	17840	−			明褐色				○					良	〃	
100	2043	〃		胴部	〃	17461	−			黒褐色	褐色			○					良	〃	
	2044	〃	甕	口縁部	〃	17830	−			明褐色			○	○						〃	
	2045	須恵器		胴部	B22	17824	−			青褐色									良	〃	
	2046	〃		〃	〃	17481	−			暗白色										〃	
	2047	〃		〃	〃	17820	−			灰褐色	橙褐色								良	〃	
	2048	〃		口縁部	B21	−	−			青褐色	灰褐色									〃	
	2049	土師器	坏	完形	B22	17474	−	12	8.8	橙褐色				○					良	〃	
	2050	〃	〃	底部	B21	17494	−		6	淡褐色				○					良	〃	
	2051	青磁	碗	口縁部	A19	29296	−				蓮弁									〃	
	2052	〃	〃	〃	B21	17842	−				蓮弁									〃	
	2053	〃	〃	〃	〃	17468	−													〃	
	2054	白磁		高台部	B20	17463	−													〃	
	2055	白磁		高台部	〃	17464	−													〃	
	2056	青磁		底部	B22	17817	−													〃	
	2057	〃		〃	B21	17843	−													〃	
101	2058	〃	皿	完形	〃	−	−													〃	
	2059	陶器		底部	〃	−	−		3.8	暗褐色										〃	
	2060	〃		〃	B20	17833	−													〃	
	2061	備前	擂鉢	口縁部	〃	−	−													〃	
	2062	〃	〃	胴部	B21	−	−													〃	
	2063	〃	〃	底部	〃	17816	−													〃	
	2064	〃	〃	〃	〃	17834	−													〃	
	2067	土製品	管状土錘	完形	〃	15396	−													〃	

第15表　出土遺物観察表(15)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考	図版
91	2014	鉄製品		破損	B12	−	14307	8.897	11.1	1.4	0.6	11.68		土坑2	
	2015	石器	礫器	完形	A16	−	17221	−	15.8	4.9	2.8	250	安山岩	溝2	
	2016	〃	石錘	破損	A16	−	17216	−	9.3	9.5	1.5	163	〃	〃	
	2017	〃	擦切石器	〃	C23	−	15250	−	7.3	4.4	0.6	31	砂岩	溝1	
99	2020	〃	軽石製品	〃	B10	−	12930	8.414	3.8	5.2	2.8	20	軽石	土坑1	
	2021	〃	〃	〃	B10	−	13508	8.317	6.0	4.9	1.9	20	〃	〃	
	2033	〃	〃	〃	A16	−	14652	−	11.0	8.9	4.8	130	〃	古道2	
	2034	〃	〃	〃	B16	−	14650	−	6.0	4.8	2.0	30	〃	〃	
	2065	〃	台石	〃	B21	−	17469	−	7.5	9.6	4.0	960	安山岩	大形道路	
101	2066	〃	軽石製品	〃	B20	−	17	−	8.4	9.0	5.6	280	軽石	〃	
	2068	〃	〃	〃	B21	−	−	−	5.6	3.4	2.8	20	〃	〃	

第16表　出土遺物観察表(16)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土 状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他	焼成	備考	図版
102	2069	土師器	坏	底部	A13	Ⅱ	5261	9.13		6.6		浅黄橙	細粒多			○			茶粒	普通	線刻	
	2070	〃	〃	〃	A5・40	A	18916	-		6.6		灰白	〃	○		○			茶粒	〃		
	2071	〃	埦	〃	B20	Ⅱ	15082	8.397		8.6		橙	〃	○		○				〃		
	2072	〃	〃	〃	A12	Ⅱ	1794	9.28		9.2		橙	密		○					〃		
	2073	〃	〃	胴～底	A3・29	B	18232・16823・16829			10.0		鈍黄橙	細粒多	○					茶粒	〃		
	2074	〃	〃	〃	A6・32	A	19172	-		7.2		黄橙	〃			○			茶粒	〃		
	2075	〃	〃	底部	B4	Ⅲ	3030	7.664		8.2		橙	〃	○		○			茶粒	〃		
	2076	〃	〃	〃	A18	Ⅲ	14720	8.688		8.2		浅黄橙	〃	○		○			茶粒	〃		
	2077	〃	〃	〃	A19	Ⅱ	14931	8.667		6.1		黄橙	密			○			茶粒	〃	充実高台	
	2078	〃	坏	〃	A16	Ⅱ	14680	8.817		7.2		橙	細粒多	○		○				〃		
	2079	〃	〃	口～底	A6	A	-	-			3.7	浅黄	〃	○		○				〃		
	2080	〃	坏？	底部	A15	Ⅱb	5358	9.081		6.5		灰白	密			○				〃		
	2081	〃	埦	口～胴	A15	Ⅱb	5401	9.122	18.6			橙	細粒多			○			茶粒	〃		
	2082	〃	皿	口～底	A17	Ⅱ	7163	9.095	9.0	6.4	2.0	橙	〃			○			茶粒	〃	灯明皿	
	2083	〃	〃	底部	B20	Ⅲ	15112	8.457		6.2		橙	〃			○	○		茶粒	〃		
	2084	〃	〃	口～底	B4	Ⅲ	3164	7.004	10.0	4.8	1.5	橙	〃						茶粒	〃	高台付	
	2085	〃	盤	胴～底	B17	Ⅱ	7141	9.303		17.1		橙	〃						茶粒	〃		
	2086	土師質土器	坏	完形	B6・B8	Ⅰ	-	-		4.6	2.4	浅黄橙	密						茶粒	良好		
	2087	〃	〃	口～底	A2	A	18384	-	10.0	7.8	2.5	灰白	細粒多			○				普通		
	2088	〃	〃	胴～底	B4	Ⅲ	6849	7.864		3.6		浅黄橙	密						茶粒	良好		
	2089	〃	火舎	口縁部	B8・1	Ⅱ	4295	6.452				黄橙	細粒多	○					雲母	普通		
	2090	〃	焙烙	柄	B4	Ⅲ	3155	6.784				浅黄橙	〃	○					茶粒	普通		
	2091	〃	〃	〃	B6	Ⅳ	5813	8.949				浅黄	〃						茶粒	普通		

第17表　出土遺物し観察表(17)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他	焼成	備考	図版
103	2092	須恵器	坏蓋	口縁部	B19	Ⅱ	14987	8.442				灰	灰	細粒多							普		
	2093	〃	〃	〃	B6	Ⅲ	6399	8.921				灰	灰	〃							〃		
	2094	〃	高台付坏	完形	B3	A	21020	—	15.1	9.9	5.1	明黄褐	灰	〃							〃		
	2095	〃	〃	〃	B2	—	一般	—	12.0	6.8	4.1	灰	灰	密							〃		
	2096	〃	〃	〃	A3・4	A	16140	—	11.9	7.0	3.8	灰	灰	〃							良		
	2097	〃	皿	〃	A6・4	B	19407	—	12.0	7.9	2.3	灰	灰	細粒多	○						普		
	2098	〃	甕	口～肩	A4・29	A	18551	—				褐灰	褐灰	〃							〃		
	2099	〃	〃	肩部	A4・36	A	17922	—				灰	灰	〃							良		
	2100	〃	〃	胴部	A7・29	A	19701	—				黄橙	赤褐	〃		○				茶粒	不良		
	2101	〃	〃	〃	B7・1	Ⅲ	16798	—				黒褐	黒褐	密							普		
	2102	〃	〃	〃	B14	Ⅱ	16025	—				黄灰	黒褐	細粒多							〃		
	2103	〃	〃	〃	B19	Ⅱ	17406	8.512				暗赤褐	灰白	〃							〃		
	2104	〃	〃	〃	A3・50	A	16588	—				灰	灰黄	〃		○					〃		
	2105	〃	〃	〃	A4・26	Ⅱ	18530	—				灰	灰	〃							〃		
	2106	〃	〃	〃	A18	Ⅱ	—	—				灰白	灰	密							〃		
	2107	〃	〃	〃	B2	—	—	—				黄灰	黄褐	細粒多							〃		
	2108	〃	〃	〃	A4・48	A	18703	—				灰白	黒褐	〃							〃		
	2109	〃	〃	〃	A5・24	B	18872	—				灰	灰	密							〃		
	2110	〃	〃	〃	B3	B	20348	—				灰	灰	細粒多							〃		
	2111	〃	〃	〃	B2	B	20955	—				黄灰	赤褐	〃							〃		
	2112	〃	〃	〃	A2・17	A	19645	—				灰	褐	〃							不良		
	2113	〃	〃	〃	A14	Ⅱ	15754	9.112				灰	鈍赤褐	〃							普		
	2114	〃	〃	〃	A7・17	A	19645	—				灰	暗赤褐	〃							〃		
104	2115	〃	壺	口～肩	A4・29	A	17760	—	11.9			灰	灰	密							良		
	2116	〃	〃	肩部	A16	Ⅱ	14362	8.922				灰	灰	細粒多	○						普		
	2117	〃	〃	〃	A3・50	A	16588	—				灰	鈍褐	〃							〃		
	2118	〃	〃	〃	A5・44	A	18986	—				灰	灰	〃			○				〃		
	2119	〃	〃	胴部	A4・39	A	18626	—				黄灰	褐灰	〃							〃		
	2120	〃	〃	〃	B2	B	20868	—				灰	灰	〃							〃		
	2121	〃	甕	〃	A5・32	A	18917	—				灰	灰	〃							〃	中世	

第18表　出土遺物観察表(18)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 内面	色調 外面	胎土 状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他	焼成	備考	図版
105	2122	土器	羽釜		A4	A	17655	—				灰茶褐	黒茶	細粒多							良		
	2123	〃	〃		A5	A	18839	—				灰褐		〃							〃		
	2124	〃	〃		—	—	—	—				灰茶褐	黒茶										
	2125	〃	〃		A5-39	A	18955	—				灰茶褐											
	2126	〃	〃		A6	A	19412	—				灰褐		密							良		

第19表　出土遺物観察表(19)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
106	2127	白磁	碗	底部	A5	B	18862			4.2												50
	2128	〃	〃	底部	A5-48	B	16566			5												
	2129	〃	〃	口縁部	A3	A	16185					工具削										
	2130	〃	皿	口縁部	A4-46	A	18688		10.5													
	2131	〃	〃	完形	A7	−	−		11.4	6												
	2132	〃	〃	完形	A7-34	A	19566		10.1	6												
	2133	〃	壷	肩部	A6-40	A	20703															
	2134	〃		口縁部	B21	Ⅱ	15177	8.452														
	2135	〃	盤	口縁部	B19	Ⅱ	14857	8.807														
	2136	〃	鉢	口縁部	B7	−	−															
	2137	青磁	花生	口縁部	B23	−	−		7.4													
	2138	〃	碗	口縁部	A7-31	A	19550															
	2139	〃	〃	口縁部	A14	−	−					連弁文										50
	2140	〃	稜花皿	口縁部	B3	A	20464		14.3		波状文											
	2141	〃	皿	口縁部	A5-39	A	18956							○	○							
107	2142	〃	碗	口縁部	A17	Ⅱ	14232	9.002				連弁文										50
	2143	〃	〃	口縁部	B16	Ⅱ	17227	8.898				連弁文										
	2144	〃	〃	口縁部	B5-10	A	19321					連弁文		○	○							50
	2145	〃	〃	口縁部	B12	Ⅱ	15131	8.357				連弁文										
	2146	〃	〃	口縁部	A12	Ⅱ	81	9.06			雷文	雷文										
	2147	〃	〃	口縁部	A16	Ⅱ	14539	9.017				雷文										
	2148	〃	〃	口縁部	A18	Ⅱ	14339	8.952				雷文										50
	2149	〃	〃	口縁部	A4-48	A	18698					雷文										
	2150	〃	〃	口縁部	A3	B	18153				連弁文											
	2151	〃	〃	口縁部	B4	−	−				人物											
	2152	〃	〃	底部	A19	Ⅱ	14979	8.747		5				○	○							
	2153	〃		底部	B20	Ⅱ	15322	8.387		4.5	金			○	○							50
	2154	〃		底部	B12	Ⅱ	109	9.32		5.8	ヘラ描			○	○							
	2155	〃		底部	A7	−	−			5.2	ヘラ描											
	2156	〃	碗	底部	A3	B	18191			4.5	ヘラ描											
	2157	〃		底部	B4	A	21190				ヘラ描											
108	2158	染付	碗	口縁部	B3	B	19903		11.9	−		アラベスク									景徳鎮	50
	2159	〃	〃	口縁部	A3-33	A	16428		13.1	−	斐垣文	牡丹唐草									〃	
	2160	〃	〃	口縁部	A6	A	20595			−		玉取獅子									〃	
	2161	〃	〃	口縁部	B4	A	21176					波状文									〃	
	2162	〃	蓋	口縁部	A10	−	−		8.4			草花文									〃	50
	2163	〃	碗	底部	A19	−	−			3	昆虫文										〃	
	2164	〃	皿	底部	B17	Ⅱ	15526	9.217		3.3	草花文	草花文									〃	50
	2165	〃	碗	底部	A3	B	18129			5.1	草花文										〃	
	2166	〃	〃	底部	B12	−	−			6.5											〃	
	2167	〃	〃	底部	A4	A	17755			4.1											〃	
	2168	〃	盤	底部	A4	A	−				草花文										景徳鎮？	
	2169	〃	皿	底部	A3	B	18106			5.4	草花文	草花文									〃	
	2170	〃	〃	底部	A4	A	−		11.4	5.2	草花文	草花文									〃	50
	2171	〃	〃	底部	A4	A	17677			4.7											〃	

第20表　出土遺物観察表(20)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
108	2172	染付	碗	底部	A18	Ⅱ	14515	9.057		6.1	草花文	渦巻文									〃	
	2173	〃	皿	底部	A3	B	15833			15.2											〃	
109	2174	〃	碗	口縁部	B16	Ⅱ	14131	9.137	13.3			葉様文									漳州窯	
	2175	〃	〃	口縁部	A7	−	−		13.2			葉様文									〃	
	2176	〃	皿	口縁部	B5	−	−		12.1			連点文									〃	
	2177	〃	盤	口縁部	B16	−	−														〃	
	2178	〃	碗	口縁部	B4	−	−		11.6												〃	
	2179	〃	〃	口縁部	A4-35	A	17905		13.5												〃	
	2180	〃	〃	底部	A5	A	19253			3.9											〃	
	2181	〃	〃	底部	A10	A	17131			4											〃	
	2182	〃	〃	底部	A10	A	17184			4.5											〃	
	2183	〃	〃	底部	A6	B	19110			5.1	菊花文										〃	50
	2184	〃	〃	底部	A6-32	A	19173			4.6	菊花文										〃	
	2185	〃	皿	完形	A13	−	−		10	5											〃	
	2186	〃	〃	完形	A5-41	A	18974		10	4.5		連点文									〃	50
	2187	〃	〃	口縁部	A6	−	−		11.2			斐垣文									中国系	
	2188	〃	〃	底部	A11	Ⅳ	10882	8.609		4	人形寿字										〃	
	2189	〃	〃	完形	A5-40	B	18967		10.3	5.3	人形寿字	文字									〃	50
	2190	〃	碗	口縁部	A5	A	19388					小花文									〃	
110	2191	〃		底部	A4-40	A	18639			6.3	墨書										中国系・墨書	50
	2192	〃	碗	底部	B3	A	19828		13.8	5.5											肥前	
	2193	〃	〃	底部	B3	A	20088			3.3		文字									〃	
	2194	〃	〃	底部	A10	−	−			3.5		文字									〃	50
	2195	〃	〃	口縁部	B2	−	−		9.1			菊花文									〃	
	2196	〃	〃	口縁部	B3	A	19902					草花文									〃	
	2197	〃	〃	口縁部	A10	A	17173					二重網目									〃	
	2198	〃	〃	口縁部	A17	Ⅱ	14188	9.142				紅葉文									〃	
	2199	〃	〃	底部	A10	A	17160			4.6											〃	
	2200	〃	〃	口縁部	B17	Ⅱ	15549	9.182	10.4			草花文									〃	
	2201	〃	〃	口縁部	A19	Ⅱ	14943	8.767				草花文									〃	
	2202	〃		底部	B5	−	−				十字文										〃	
	2203	〃	碗	底部	A10	−	−				コンニャク										〃	
	2204	〃	皿	完形	B22	−	−		12.9	4.2												50
111	2205	〃	碗	口縁部	A10	−	−					雪持笹									肥前系	
	2206	〃	〃	口縁部	B4	−	−					格子目文									〃	
	2207	〃	〃	口縁部	B17	−	−					網目文									〃	
	2208	〃	〃	口縁部	B3	−	−					十賊様文									〃	
	2209	〃	皿	完形	A6	−	−			2.6	渦巻文										〃	
	2210	〃	稜花皿	口縁部	B16	−	−				草花文	草花文									〃	
	2211	〃	皿	底部	B6	−	−			9											〃	
	2212	〃	〃	底部	B7	−	−			4.8	昆虫文崩										〃	
	2213	〃		底部	B4	A	21176			4.8											〃	
	2214	〃	紅猪口	完形	B8	−	−		4.2	1.8											〃	
	2215	〃	猪口	完形	A10	−	−		5	2.5											〃	
	2216	〃	蓋	口縁部	B22	−	−					草花文									〃	

第21表　出土遺物観察表(21)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
111	2217	染付	仏飯具	完形	B3	−	−		6.6	4											肥前系	
	2218	〃	猪口	完形	A3	A	15781		6.9	3.1											〃	
	2219	〃	皿	完形	B2	−	−		12.8	7.5	日章旗										〃	
	2220	〃	碗	底部	B17	−	−			4.7	紅梅文										明治以降	
	2221	〃	〃	底部	B4	−	−			3.6		亀									〃	
	2222	〃	容器	底部	B5	−	−														花王石鹸	
112	2223	陶器	碗	完形	B21	Ⅲ	2924	6.613	12.8	5.4											元立院	51
	2224	〃	〃	底部	B3	−	−			5.7											薩摩焼	
	2225	〃	〃	完形	B4	−	−		10.3	4.2											竜門司	51
	2226	〃	〃	底部	B4	−	−			4.5				○	○						〃	
	2227	〃	〃	底部	B3	−	−			4.5				○	○						黒釉	
	2228	〃	〃	完形	B3	−	−		11.2	4				○	○						山元窯	
	2229	〃	〃	口縁部	B11	Ⅱ	203	9.117	9.1												〃	51
	2230	〃	〃	口縁部	B2	−	−														〃	
	2231	〃	〃	底部	B3	−	−			4.7											〃	
	2232	〃	〃	口縁部	B3	−	−		8												蛇蝎釉	
	2233	〃	〃	口縁部	A4	A	18605		11.6	4.8											天目	
	2234	〃	〃	口縁部	B20	Ⅱ	15103	8.712	11												天目	
	2235	〃	〃	完形	B3	A	20018		11.8	4.7											蕎麦釉	
	2236	〃	皿	完形	B4	−	−		8.4	3.9											〃	
	2237	〃	灯明皿台	完形	B3	−	−		7.1	5.5				○	○							51
	2238	〃	〃	完形	B3	−	−		6.2	5				○	○							
	2239	〃	〃	完形	B4	−	−		6.5	5.3				○	○							
	2240	〃	〃	底部	−	−	−			4.6				○	○							
	2241	〃	盤	完形	A4-34	A	17903							○	○							51
	2242	〃	〃	完形	A5	A	19257		21.8	18.1												
113	2243	〃	仏飯具	脚部	A3	−	−			3.8												
	2244	〃	〃	完形	B3	−	−		5.6	3.7												
	2245	〃	〃	脚部	B19	−	−			3.9												
	2246	〃	乗燭	完形	B4	−	−			3.8												51
	2247	〃	〃	脚部	B8	−	−			3.8												
	2248	〃	急須	注口	B3	−	−							○	○							
	2249	〃	〃	取っ手	B4	−	−		14.8												白薩摩	
	2250	〃	〃	口縁部	B4	−	−		7.1					○	○							
	2251	〃	茶家	口縁部	B3	−	−		6.7													
	2252	〃	急須	口縁部	A3	A	15796		5.8												鮫肌	
	2253	〃	〃	完形	B3	−	−		5.9	6.4											〃	51
	2254	〃	蓋	完形	B4	−	−		6.3					○	○	○						
	2255	〃	〃	完形	B3	−	−							○	○	○						
	2256	〃	〃	完形	B3	−	−		3.8					○	○	○						52
	2257	〃	〃	完形	B18	Ⅱ	14742	8.948	3.3													
	2258	〃	瓶	頸部	B3	A	19314															51
	2259	〃	花生	底部	B6	−	−			5.8				○	○							
	2260	〃		口縁部	B5	Ⅲ	2468	8.144														52
	2261	〃	羽釜	底部	B3	−	−			6.2												51

第22表　出土遺物観察表(22)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物No.	標高(m)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土							焼成	備考	図版
											内面	外面	状態	石英	長石	角閃	火W	火B	他			
113	2262	陶器	鉢	口縁部	B3	A	19922							○	○							52
	2263	〃	花生	胴部	B3	−	−														三彩	
	2264	〃	動物		B5	−	−														〃	
114	2265	〃	片口	注口	B3	−	−							○	○							
	2266	〃	〃	注口	B3	−	−							○	○							
	2267	〃	鉢	口縁部	B3	−	−		23.7					○	○							51
	2268	〃	〃	口縁部	B3	−	−		13	5.5				○	○	○						52
	2269	〃	壷	口縁部	B3	−	−		8					○	○							
	2270	〃	〃	口縁部	A4	A	18432		9.4					○	○							
	2271	〃	〃	口縁部	B3	−	−															
	2272	〃	甕	口縁部	A10	−	−							○	○							
	2273	〃	〃	口縁部	B2	−	−							○	○							
	2274	〃	〃	口縁部	B3	−	−							○	○							
115	2275	〃	碗	完形	B3	A	19911		10.6	3.5				○	○						唐津	51
	2276	〃	〃	完形	A6	−	−		11.1	3.9				○	○						〃	52
	2277	〃	〃	底部	A11	−	−			4.1											現川	
	2278	〃	〃	口縁部	A16	−	−														〃	52
	2279	〃	〃	完形	B4	−	−		6.8	2.8												
	2280	〃	鉢	底部	B3	A	20462							○	○						備前	52
	2281	〃	〃	口縁部	A10	A	17105							○	○						〃	
	2282	〃	〃	口縁部	A6	−	−														〃	
	2283	〃	〃	口縁部	B3	A	19876							○	○						〃	52

第23表　出土遺物観察表(23)

挿図	番号	種類	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	孔径cm大	孔径cm小	備考	図版
	2284	土製品	土錘	B−3−B		19948	6.607	3.4	1.5	6.26	0.6	0.6		53
	2285	〃	〃	A−5−47−A		19015	6.799	4.1	1.9	12.34	0.8	0.7		
	2286	〃	〃	B−8	Ⅱ	4282	6.259	4.5	1.8	9.34	1.0	1.0		
	2287	〃	〃	B−8	Ⅰ	—	6.685	4.2	1.8	11.92	0.6	0.6		
	2288	〃	〃	A−6−31−A		19162	6.732	4.6	1.4	6.70	0.7	0.7		
	2289	〃	〃	A−5−44−A		18985	7.029	4.8	1.7	13.36	0.4	0.3		
	2290	〃	〃	A−4−36−A		17921	—	4.8	1.7	11.73	0.8	0.7		53
	2291	〃	〃	B−13	Ⅱb	23	9.14	4.9	1.7	11.75	0.5	0.4		
	2292	〃	〃	A−4−39−A		18630	6.72	5.6	1.9	16.13	0.8	0.7		
	2293	〃	〃	A−7−30−A		19706	6.763	3.9	1.8	11.27	0.7	0.7		
	2294	〃	〃	A−15	Ⅱb	5347	9.257	3.6	2.0	10.53	0.9	0.8		
	2295	〃	〃	A−3−32−A		16412	−	3.9	2.0	13.55	0.6	0.5		53
116	2296	〃	〃	A−3−18−B		16227	6.785	(3.4)	(2.0)	4.57	(1.3)	(1.3)		
	2297	〃	〃	A−5−51−A		19052	6.715	3.9	2.1	14.83	0.8	0.8		
	2298	〃	〃	A−15	Ⅱb	5388	9.232	3.9	2.2	13.56	0.7	0.7		
	2299	〃	〃	A−14	Ⅱa	5296	9.171	4.2	2.0	12.89	1.0	0.9		
	2300	〃	〃	B−5	Ⅳ	2341	8.204	4.4	1.9	15.62	0.7	0.6		
	2301	〃	〃	B−8	Ⅱ	4288	6.262	4.4	2.1	18.19	0.9	0.7		
	2302	〃	〃	B−11	Ⅱb	248	8.999	4.3	2.4	18.97	1.0	1.0		
	2303	〃	〃	B−8	Ⅱ	4328	6.278	4.3	2.5	20.00	1.1	1.0		
	2304	〃	〃	A−5−47−B		19022	6.979	4.6	2.2	18.14	0.9	0.7		
	2305	〃	〃	B−18	Ⅱ	15468	8.857	4.6	2.0	14.95	1.0	0.9		
	2306	〃	〃	A−5−26−A		18888	6.775	4.9	2.0	20.11	0.7	0.7		
	2307	〃	〃	A−6−48−B		19371	6.809	5.0	2.6	31.75	1.0	1.0		
	2308	〃	〃	A−19	Ⅱ	14789	8.773	6.2	2.5	33.11	1.0	1.0		53
	2309	〃	〃	A−7−47−A		19748	6.813	(5.0)	(2.9)	20.62	(1.3)	(1.3)		
	2310	〃	〃	A−16	Ⅱ	14641	8.707	5.2	3.9	52.35	2.1	1.9		
	2311	〃	〃	B−10	Ⅱa	297	9.102	6.6	3.8	64.96	1.6	1.2		
	2312	〃	〃	B−3−B		19961	6.827	6.7	3.1	37.32	1.7	1.5		
	2313	〃	〃	B−21		15396	7.632	6.4	2.9	31.40	1.4	1.3		
	2314	〃	〃	B−21	Ⅱ	15270	8.457	(6.2)	(3.0)	17.59	(1.4)	(1.2)		
	2315	〃	〃	A−18	Ⅱ	14571	8.827	4.9	2.3	19.62	0.8	0.8		
	2316	〃	〃	A−3−39−B		18284	6.742	5.4	1.8	14.58	0.4	0.3		
	2317	〃	〃	A−17	Ⅱ	14265	−	4.6	2.1	16.37	0.9	0.8		
	2318	〃	〃	A−14	Ⅱa	5290	9.105	4.0	1.5	5.67	0.6	0.6		
117	2319	〃	〃	B−7	Ⅱ	4385	6.347	3.3	2.6	17.43	1.1	1.1		53
	2320	〃	〃	A−5−60−A		19088	6.852	3.7	2.4	13.33	0.8	0.6		
	2321	〃	〃	B−15	Ⅱa	5336	9.212	3.3	2.2	11.76	1.0	0.8		
	2322	〃	〃	A−5−48−A		19029	6.745	3.5	2.1	13.50	0.8	0.8	25・26接合，26番号：19294	
	2323	〃	〃	B−19	Ⅱ	14756	8.913	3.4	2.0	12.77	0.8	0.6		
	2324	〃	〃	A−5−22−A		18854	6.805	2.8	1.7	8.01	0.5	0.3		
	2325	〃	〃	A−7−28−A		19689	6.650	3.0	1.7	8.93	0.8	0.8		53
	2326	〃	〃	B−20	Ⅱ	15159	8.317	2.6	1.4	4.02	0.7	0.6		
	2327	〃	〃	B−5	Ⅲ	3253	7.86	2.4	1.7	5.62	0.7	0.5		
	2328	〃	〃	B−18	Ⅱ	15485	9.072	2.7	1.1	3.40	0.5	0.4		
	2329	〃	〃	B−21	Ⅱ	15271	8.332	3.7	1.3	5.00	0.7	0.6		

第24表　出土遺物観察表(24)

挿図	番号	種類	器種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	孔径cm大	孔径cm小	備考	図版
117	2330	土製品	土錘	B−19	Ⅱ	14834	8.872	4.2	1.0	4.77	0.4	0.3		53
	2331	〃	〃	A−13	Ⅱ	5269	9.239	4.5	1.0	4.58	0.4	0.4		
	2332	〃	〃	A−18	Ⅱ	14501	9.007	4.9	1.1	6.27	0.3	0.3		
	2333	〃	〃	B−4	Ⅲ	3019	7.816	(4.4)	(2.0)	8.46	(1.1)	(1.1)		
	2334	〃	〃	A−17	Ⅱ	14255	9.012	3.0	1.9	10.59	0.6	0.6		
118	2335	〃	〃	A−16	Ⅱ	7137	8.943	(1.7)	(0.8)	0.73				
	2336	〃	〃	B−7	Ⅱa	—	−	(2.2)	(1.1)	2.04				
	2337	〃	〃	B−7	Ⅱa	—	−	(2.4)	(1.1)	2.65				
	2338	〃	〃	B−5	Ⅱ	972	8.332	(2.4)	(1.1)	2.43				
	2339	〃	〃	B−18	Ⅱ	14999	8.537	(3.6)	(1.1)	3.04				
	2340	〃	〃	B−11	Ⅱ	1788	9.321	2.7	1.1	2.04				
	2341	〃	〃	A−5−24−A		18864	−	2.9	1.3	3.47				
	2342	〃	〃	A−11	—	—	−	2.5	1.4	3.05				
	2343	〃	〃	A−15	Ⅷ	25737	6.566	3.1	1.3	4.26				
	2344	〃	〃	A−17	Ⅱ	14274	8.997	3.4	1.3	3.94				
	2345	〃	〃	B−12	Ⅳ	2588	9.404	3.6	1.4	7.11				
	2346	〃	〃	A−3−4−A		16141	−	3.8	1.3	5.49				53
	2347	〃	〃	A−19	Ⅱ	14928	8.642	4.1	1.4	5.24				
	2348	〃	〃	A−7	溝	—	−	4.1	1.2	3.93				
	2349	〃	〃	A−13	—	—	−	4.0	1.1	4.00				
	2350	〃	〃	B−8	Ⅱ	4279	6.172	(4.5)	(1.2)	3.13				
	2351	〃	〃	A−18	Ⅱ	14604	8.757	4.9	1.0	3.77				
	2352	〃	〃	A−16	Ⅱ	7095	9.142	(4.0)	(1.5)	6.85				
	2353	〃	〃	B−12	Ⅱb	164	9.33	4.0	1.5	8.83				
	2354	〃	〃		—	—	−	4.0	1.6	8.41				
	2355	〃	〃	A−10−A		17337	−	4.4	1.9	9.44				53
	2356	〃	〃	A−13	Ⅱa	7	9.018	6.3	1.7	11.19				
	2357	〃	〃	B−17	Ⅱ	15522	9.162	5.7	1.7	10.07				
	2358	〃	〃	A−16	Ⅱ	14356	8.937	5.8	1.6	11.06				

第25表　出土遺物観察表(25)

挿図	番号	種類	出土区	層	遺物No.	標高(m)	径(cm)	孔径(cm)	色調	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
119	2359	鞴・羽口	A2	A	20922	−	9.6	2.9	鈍褐	砂粒多		○	○		○		茶粒	普通		
	2360	〃	−	B	−	−	8.1	2.3	鈍黄褐	細粒多		○				○	茶粒	〃		
	2361	〃	B3	B	20071	−	7.4	2.5	黄灰	〃					○	○	茶粒	〃		
	2362	〃	A5・33	B	18921	−	8.6	3.2	浅黄	砂粒多		○	○		○			〃		
	2363	〃	B4	A	21211	−	9.2	2.4	浅黄	〃		○			○	○		〃		
	2364	〃	A3・3	B	1810	−	7.5	−	浅黄	〃		○				○		〃		
	2365	〃	A4・5	A	17618	−	9.5	3.2	淡黄	細粒多		○		○	○		茶粒	〃		
	2366	〃	B3・3	A	16645	−	9.7	2.4	黄橙	砂粒多		○			○			〃		
	2367	〃	B4	Ⅲ	5628	7.89	8.0	3.6	鈍黄橙	〃			○	○		○	茶粒	〃		
	2368	〃	A7・16	A	19637	−	7.8	2.8	灰白	細粒多		○			○		茶粒	〃		
	2369	〃	A2	B	15870	−	4.5	0.6	橙	〃					○		茶粒	〃		
	2370	〃	B4・15	A	18075	−	5.2	0.7	褐	〃		○	○					不良		
	2371	〃	A3・14	B	16782	−	−	−	褐灰	砂粒多		○					混入物多	〃		

第26表　出土遺物観察表(26)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	縁磨	文様	型式名	備　考	図版
	2372	土製品	土器加工品	底部	A-21	—	—	—	5.6	5.3	1.9	45.1	×	×	土師器		
	2373	陶器製品	陶器加工品	底部	A-3	A	16306	—	4.8	3.8	1.7	32.2	×	×	陶器		39
	2374	〃	〃	胴部	A-5	A	19088	—	3.2	3.1	0.9	10.6	×	○	〃	擂鉢	
	2375	〃	〃	胴部	A-10	A	17144	—	5.6	5.6	0.6	28.7	×	×	〃		
	2376	〃	〃	胴部	A-10	A	17132	—	3.4	3.0	1.0	12.1	×	×	〃		39
	2377	〃	〃	胴部	A-16	Ⅱ	—	—	3.5	3.4	0.7	12.6	×	×	〃		
	2378	〃	〃	胴部	B-18	Ⅱ	—	—	4.1	4.0	1.0	23.9	△	×	〃		
	2379	〃	〃	胴部	B-8	表	—	—	4.0	3.4	0.8	15.9	×	○	〃	擂鉢	
	2380	〃	〃	胴部	B-10	表	—	—	3.6	3.3	0.6	9.6	×	×	〃		
120	2381	〃	〃	胴部	B-17	表	—	—	3.2	2.9	0.8	8.5	×	×	〃		
	2382	〃	〃	胴部	—	—	—	—	4.2	3.7	0.8	17.4	×	×	〃		39
	2383	〃	〃	胴部	—	—	—	—	4.3	3.8	0.5	12.3	×	×	〃		
	2384	〃	〃	胴部	—	—	—	—	3.5	3.0	0.5	6.7	×	×	〃		
	2385	〃	〃	胴部	—	—	—	—	4.0	3.0	0.9	16.0	×	×	〃		
	2386	〃	〃	胴部	—	—	—	—	3.2	2.9	0.9	9.8	×	×	〃		
	2387	〃	〃	底部	—	—	—	—	4.1	4.1	1.4	26.5	×	×	〃		39
	2388	〃	〃	胴部	—	—	—	—	4.2	3.7	0.5	12.5	×	×	〃		
	2389	〃	〃	胴部	—	—	—	—	3.1	2.7	0.6	8.7	×	○	〃	擂鉢	
	2390	〃	〃	胴部	—	—	—	—	2.2	2.0	0.5	3.2	×	○	〃	擂鉢	

第27表　出土遺物観察表(27)

挿図	番号	種類	出土区	層	遺物No.	標高(m)	色調	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備　考	図版
	2391	土犬	-	-	-	-	灰白	細粒多						○	茶粒	普通		
121	2392	〃	B3	Ⅲ	3204	6.716	橙	〃			○				茶粒	〃		
	2393	〃	A17	Ⅱ	14165	9.092	浅黄橙	〃							茶粒	〃		
	2394	〃	B19	表採	-	-	暗灰	〃			○			○	茶粒	〃		

第28表　出土遺物観察表(28)

挿図	番号	種類	器種	部位	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備考	図版
	2395	石器	石塔		B3	A	20113	-	20	16.5	11.6	1800	凝灰岩		
	2396	〃	〃		B3	A	20093	-	31.5	25.4	14	8800	〃		
122	2397	〃	〃		B3	A	20382	-	16	22.2	22	9100	〃		
	2398	〃	〃		A6	A	20570	-	22.2	17.7	15.5	5400	〃		
	2399	〃	〃		B5	Ⅲ	13286	-	28.6	28.2	10.2	4500	〃		

第29表　出土遺物観察表(29)

挿図	番号	種類	出土区	層	遺物No.	最大径(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	(推定)	色調	胎土 状態	石英	長石	角閃	輝石	火W	火B	他	焼成	備考	図版
	2400	紡錘車	B6	Ⅰ下	-	7.5	1.2	-	16.39	(55)	橙	細粒多							茶粒	普通	土製	
	2401	土鈴	B6	Ⅱ	661	-	-	-	-	-	鈍橙	〃							茶粒	〃		
123	2402	有溝土錘	A21	Ⅱ	15264	-	-	-	54.16	-	浅黄橙	砂粒多		○	○				茶粒	〃		
	2403	不明	4T	Ⅱ	12	7.5	1.8	1.6	63.21	(75)	橙	細粒多					○			〃	土製	
	2404	不明	B23	-	-	4.6	0.7	0.6	9.02	(18)	橙	〃					○			〃	土製	

第30表　出土遺物観察表(30)

挿図	番号	種類	器　種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	孔径(cm)	径(cm)	重さ(g)	備考	図版
123	2405	青銅製品	銭貨	B－4	Ⅲ	3085	7.298	0.6	2.5	1.77	寛永通宝	
	2406	〃	〃	B－4	Ⅲ	6825	7.962	0.6	2.4	3.39	寛永通宝	
	2407	〃	〃	B－19	Ⅱ	15042	8.442	0.7	2.5	1.43	寛永通宝	
	2408	〃	〃	A－19	Ⅱ	―	－	0.7	2.4	2.03	寛永通宝	
	2409	〃	〃	B－8	Ⅱ	4350	6.173	0.7	2.5	3.10	寛永通宝	
	2410	〃	〃	B－10	Ⅰ	―	－	0.7	2.4	2.22	寛永通宝	
	2411	〃	〃	B－5	―	―	－	0.6	2.4	1.22	寛永通宝	
	2412	〃	〃	B－5	Ⅳ	3455	8.108	0.7	2.3	0.87	寛永通宝	
	2413	〃	〃	B－10	Ⅳ	―	－	0.7	2.3	2.37	寛永通宝	
	2414	〃	〃	A－10	A	―	－	0.7	2.3	1.14	洪武通宝	
	2415	〃	〃	B－12	Ⅰ	172	9.313	0.7	2.3	2.24	洪武通宝	
	2416	〃	〃	B－20	Ⅱ	15355	8.167	0.7	2.3	2.17	洪武通宝	
	2417	〃	〃	B－12	Ⅱa	141	9.354	0.7	2.4	1.92	洪武通宝	
	2418	〃	〃	B－3	A	19895	－	0.6	2.5	2.96	洪武通宝	
	2419	〃	〃	B－3	B	19930	－	0.7	2.5	2.45	洪武通宝	
	2420	〃	〃	B－3	B	19844	－	0.7	2.5	2.78	洪武通宝	
	2421	〃	〃	―	―	―	－	0.7	2.5	2.14	洪武通宝	
	2422	〃	〃	A－13	Ⅱ	5273	8.97	0.7	2.5	2.13	不明	

第31表　出土遺物観察表(31)

挿図	番号	種類	器　種	出土区	層	遺物番号	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	備　　考	図版
124	2423	青銅製品		B17	Ⅱ	－	－	2.9	0.7	2.69		
	2424	〃	煙管	B9	Ⅳ	－	－	5	1	5.39		
	2425	〃	〃	B19	Ⅱ	－	－	4.8	1.1	12.59		
	2426	〃	〃	B17	－	－	－	3.3	1	4.77		
	2427	〃	〃	B5	Ⅱ	－	－	4.8	0.7	7.41		
	2428	〃	〃	A10	A	－	－	4.5	0.9	3.15		
	2429	〃		B17	Ⅱ	－	－	3	0.3	0.57		
	2430	〃		A17	Ⅱ	－	－	11	1.2	6.86		
	2431	〃		－	－	－	－	3.2	4.2	4.8		
	2432	鉛製品	銃弾	－	－	－	－	2.6	1.5	32.28		
125	2433	鉄製品	釘	A16	Ⅱ	14630	－	8.2	2	14.68		
	2434	〃	〃	A18	Ⅱ	14584	－	5.7	1.3	11.66		
	2435	〃	〃	B17	Ⅱ	15546	－	5.7	1.5	21.22		
	2436	〃	〃	A18	Ⅱ	14727	－	5.1	1.7	17.36		
	2437	〃	〃	B18	Ⅱ	15505	－	3.4	1.6	5.99		
	2438	〃		B6	Ⅱ	843	－		1	5.17		
	2439	〃		B19	Ⅱ	14992	－	3.8	1.1	1.69		
	2440	〃		B17	Ⅱ	－	－	4.5	1.5	7.32		
	2441	〃		A18	Ⅱ	14860	－	12.2	1.2	31.07		
	2442	〃		A18	Ⅱ	14710	－	5.2	0.8	6.82		
	2443	〃		B10	Ⅱ	365	－	4.6	1.1	8.43		
	2444	〃		B19	Ⅱ	14769	－	3.8	0.9	5.16		
	2445	〃		B17	Ⅱ	－	－	2.7	0.4	1.93		
	2446	〃		A19	Ⅱ	15046	－	5.9	0.5	3.47		
	2447	〃		A17	Ⅱ	14408	－	4.1	0.5	3.27		
	2448	〃		B20	Ⅱ	15319	－	3.8	1.4	10.92		